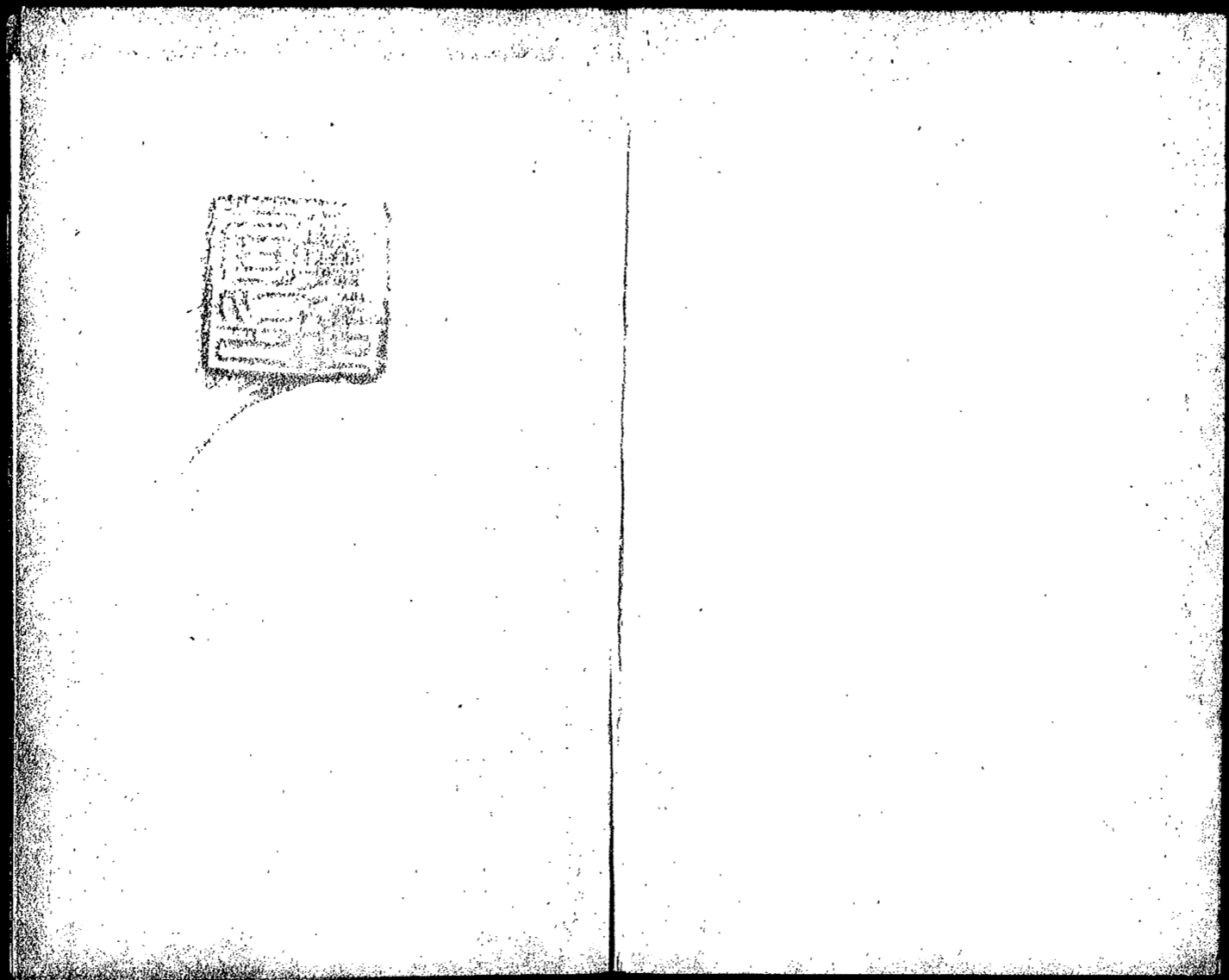


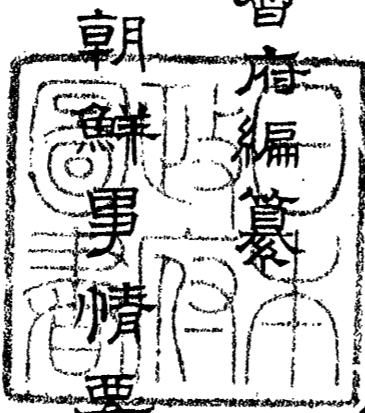
庫 文 閣 内			
函	一 冊	一 九 八 六 二 號	和
架			類

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10



352.21
6

352
1986
6



最近

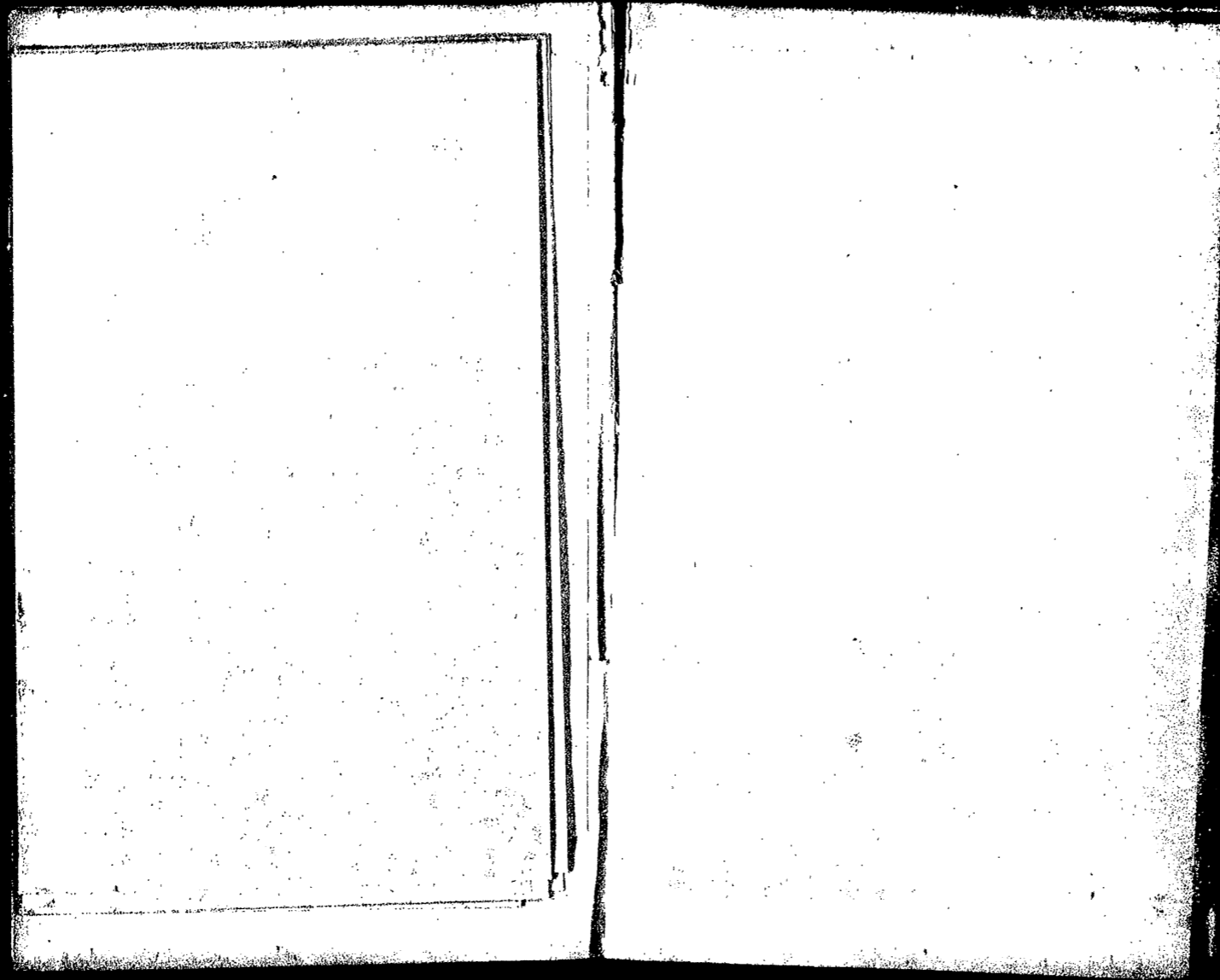
朝鮮

男情

要覽

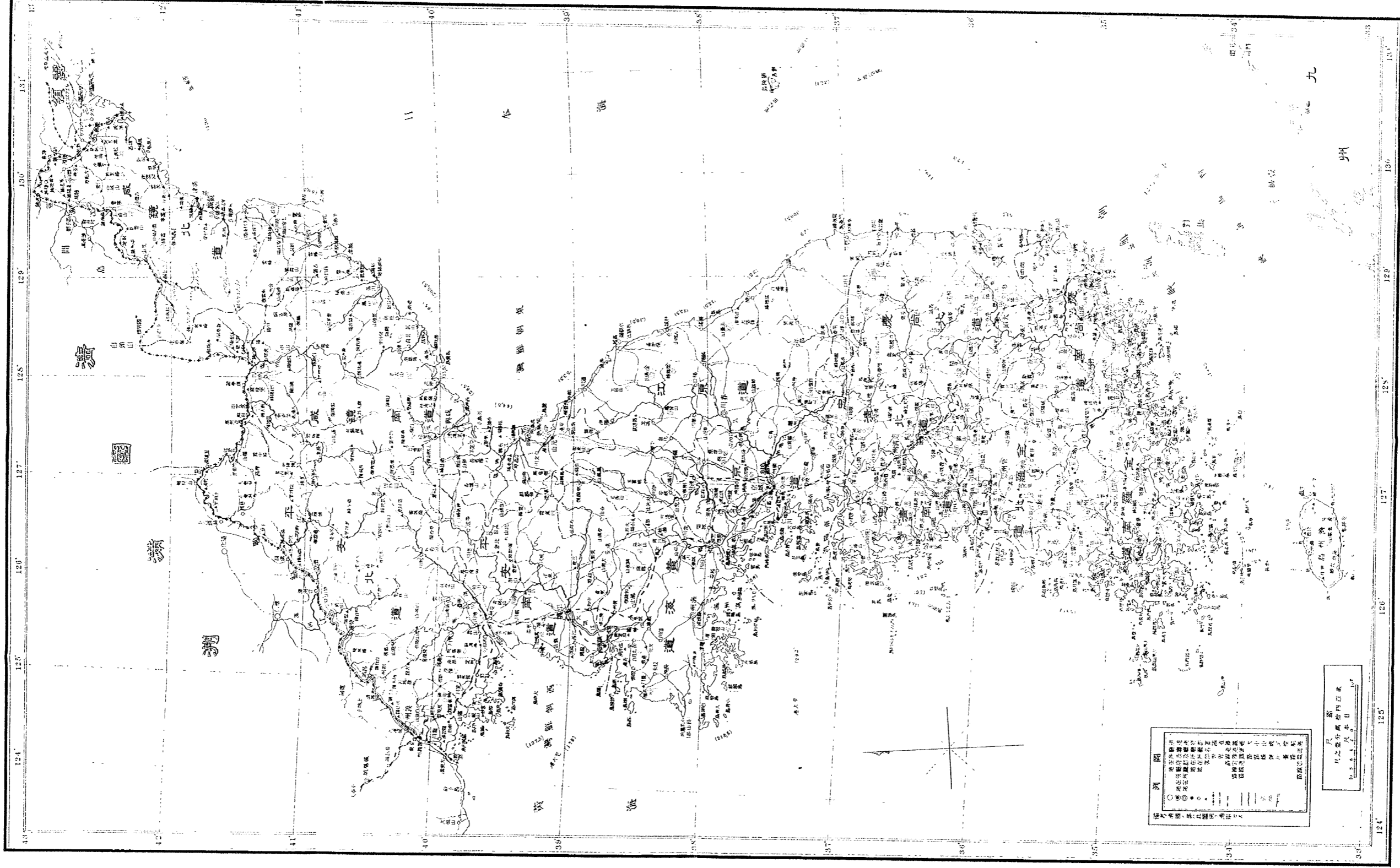
朝鮮總督府編纂

和一九八六二號



1 : 3 2 5 1 2 3 4 5 6 7 8 9 5

朝鮮地圖



大正二年 朝鮮總督府

裏面白紙

1 : 25



第五版

最近朝鮮事情要覽

凡 例

- 一 本書ハ第四版最近朝鮮事情要覽ヲ改訂シタルモノナリ
- 二 本書ハ最近朝鮮ニ於ケル施設經營ノ一斑及内地人發展ノ狀況其ノ他朝鮮ノ事情ヲ記述シ概ネ統計表ヲ附シ以テ概括的觀察ノ便ニ供セムコトヲ期セリ
- 三 各種産業ノ狀況内地人ノ教育機關等ニ就テハ比較的詳述セリ蓋シ移住者ノ便宜ヲ期シタレハナリ
- 四 本書ハ明治四十五年大正元年又ハ明治四十四年度ノ事項ヲ基礎トシ之

ヲ記述ス其ノ調査未タ全カラサルモノハ前年若ハ最近ノ調査ニ據リタリ

大正二年一月

朝鮮總督府

最近朝鮮事情要覽目錄

第一章 韓國併合顛末 一

第二章 地誌 二四

- 一 地形及地勢 一四
- 二 氣候 一五
- 三 人口 二二
- 四 重要ナル市街地 三三

第三章 地方行政 三六

- 第一節 道、府、郡 三六
- 第二節 面 三七
- 第三節 公共團體 三八

一 居留民團	六八
二 學校組合	六四
三 水利組合	六七
第四節 地方設	七〇
第五節 臨時恩賜金	七七
第六節 濟生院	八一
第七節 不動產證明	八六
第四章 財政及經濟	九〇
第一節 財政	九〇
一 歲計	九〇
二 特別會計	九七
三 繼續費	九八
四 國債	九九
五 租稅	一〇一

六 朝鮮經營費	一九
第二節 貨幣	二三
第三節 金融	三四
一 金融機關	三四
二 朝鮮銀行	三六
三 內地人設立銀行	三〇
四 朝鮮人設立普通銀行	三三
五 內鮮人設立普通銀行	三三
六 農工銀行	三三
七 手形交換所	三四
八 地方金融組合	三六
第五章 農業	三九
一 土地	三九

二 農業者	二四九
三 農産物	二五八
四 勸農機關	二七八
第六章 拓殖事業	二八三
第七章 鑛業	二九三
第八章 水産業	三〇五
一 漁場	三〇八
二 朝鮮人ノ水産業	三一三
三 内地人ノ水産業	三一三
四 製鹽業	三一三
第九章 林業	三二九
一 森林	三三五

二 植林事業	三三九
三 部分林	三四一
四 營林廠	三四三
五 朝鮮ノ木材	三四八
第十章 商業	三五二
一 貿易	三五二
二 朝鮮人ノ商業	三七三
三 内地人ノ商業	三八二
四 會社	三八四
五 税關	三八九
六 度量衡	三九〇
第十一章 工業	三九三
一 朝鮮人ノ工業	三九三

二 内地人之工業	三三七
三 官營工業	三三四
四 總督府中央試驗所	三三八
五 地方工業傳習所	三四〇
六 工業所有權ノ保護	三四一
七 工業獎勵ノ施設一斑	三四二
第十二章 土地調査	三五二
第十三章 宗教	三五八
第十四章 教育	三五八
一 内地人之教育	三六五
二 朝鮮人之教育	三六五
三 留學生	三七四
第十五章 衛生	三八三

六

一 警察機關	三九五
二 檢査事務	三九四
三 藥品取締	三九八
四 飲食物取締	三九八
五 屠場	三九九
六 傳染病	四〇二
七 水道	四一〇
第十六章 裁判及監獄	四二二
一 裁判制度	四二二
二 適用法規	四一五
三 監獄	四一六
第十七章 警察	四二四
一 警備機關ノ配置	四二四

七

八

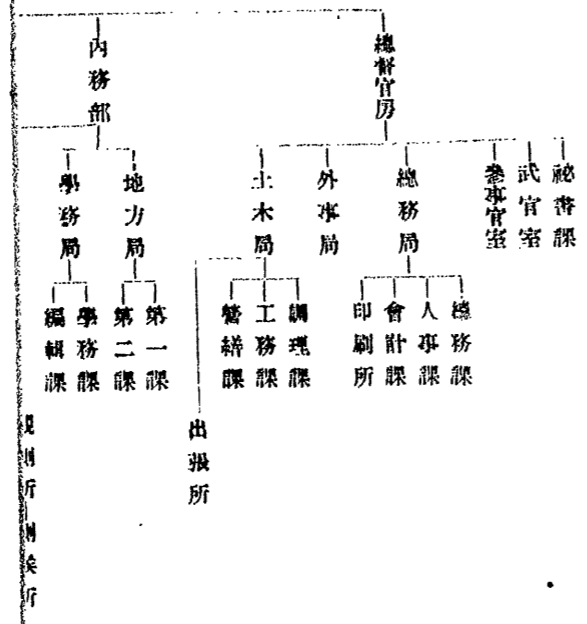
二 海上警備	四三五
三 警察官ノ養成	四三七
四 富藏類似其ノ他取締	四三七
五 引火質物貯藏所取締	四三八
六 信用皆知業取締	四三八
七 狩獵取締	四三八
八 銃砲火藥取締	四三九
九 古物附取締	四三九
十 質屋取締	四三九
十一 遺失物ニ關スル件	四三九
十二 寄付金募集取締	四三九
十三 消防	四三六
十四 犯罪狀況	四三七
十五 犯罪即決ニ關スル概況	四三八

十六 民事訴訟調停ノ概況	四三八
十七 警察犯處罰規則改正及實施後ノ狀況	四三九
十八 執達吏事務取扱概況	四四〇

第十八章 通信

第十九章 交通

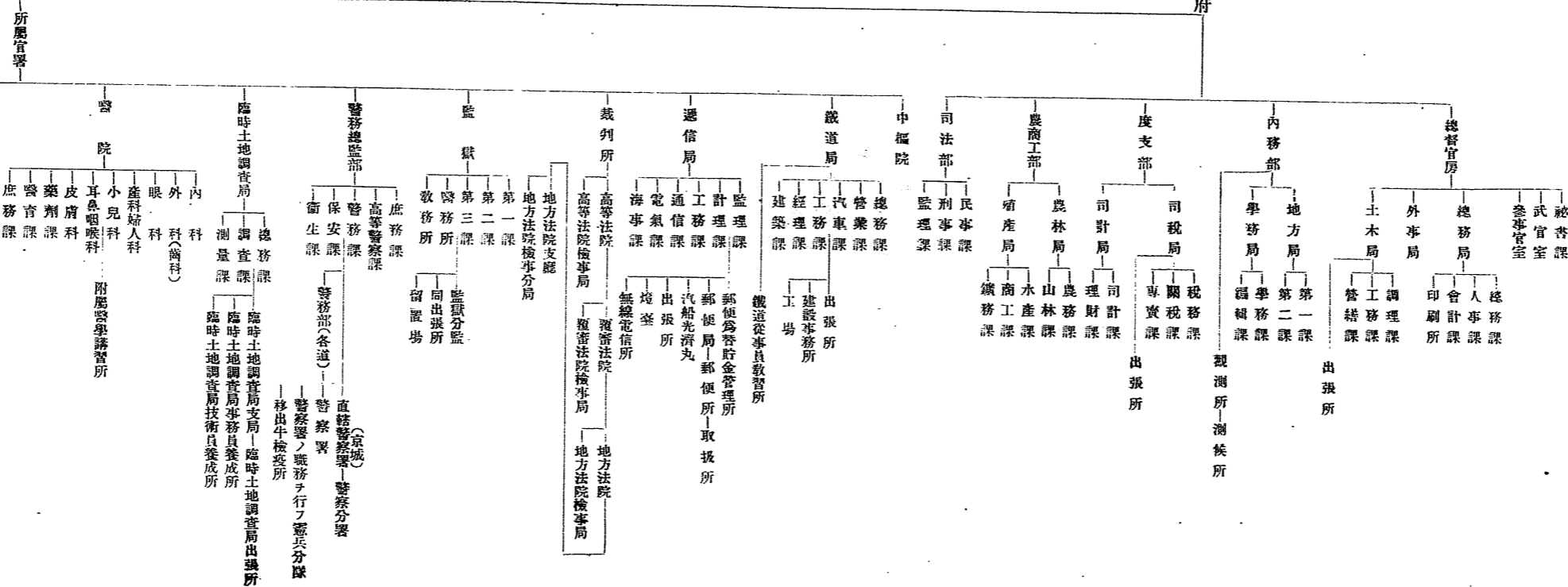
一 道路	四五二
二 鐵道	四五七
三 關釜聯絡概況	四六八
四 海運	四七〇
五 航路概況	四八三
六 江運	四八五



朝鮮總督府及所屬官署分課一覽

大正二年三月一日現在

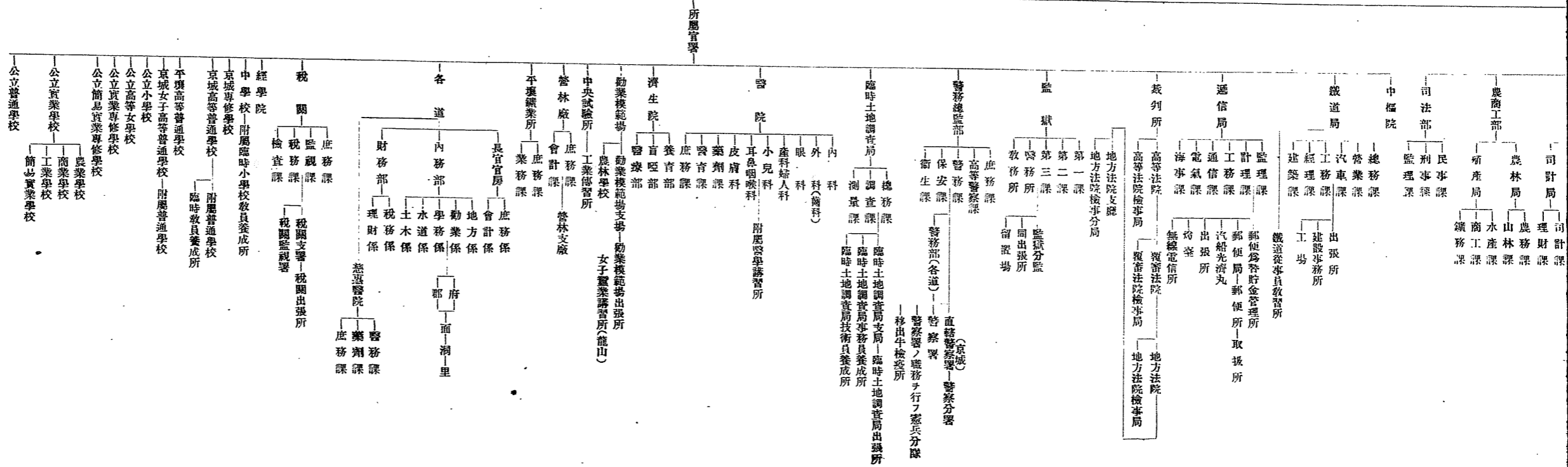
朝鮮總督府



所屬官署

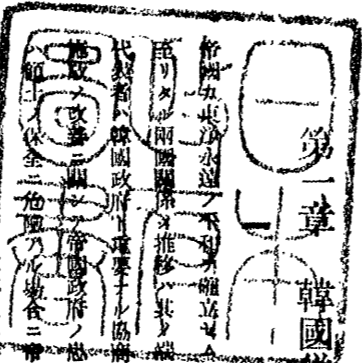
朝鮮總督府及所屬官署分課一覽

大正二年三月一日現在



裏面白紙

第一章 韓國併合願末



併合願末の目的は、朝鮮半島の統一と、我が國の保護制度を維持し、遂に之を併合スルノ已ムヲ得サルニ在リ。其ノ目的は、日露開戦ノ際ニ發シタルモノニシテ、明治三十七年二月在京城ノ代表者ハ、韓國政府ト交渉シテ、遂に日韓議定書ヲ締結シテ了シテ、兩國ノ關係ヲ一新シ、韓國政府ハ、我が國ノ保護制度ニ依リテ存スルコトヲ容ルルコト、第三國ノ侵害者ハ内亂ニ依リ、韓國皇室ノ安寧或ハ危殆ニ陥ルルコトヲ豫メ、韓國政府ハ、臨機ノ措置ヲ取り、韓國政府ハ之ニ對シテ十分ノ便宜ヲ與フルコトヲ、並ニ韓國政府ト交渉シ、必要ノ地點ヲ收用シ得ルコトヲ約シ、同年八月二十二日、日韓兩國政府代表者ハ、更ニ一ノ協約ニ調印シ、財政外交兩顧問ノ簡聘並ニ韓國政府方外國トノ條約締結其ノ他重要ナル外交案件即チ外國人ニ對スル特權讓與者ハ、契約等ノ處理ニ關シテ豫メ帝國政府ト協議スヘキコトヲ協定シ、茲ニ東洋禍亂ノ主要根源タル韓國外交權ヲ我ニ收受スルノ端ヲ啓クト共ニ顧問制度ヲ

第一章 韓國併合願末

併合願末の目的は、朝鮮半島の統一と、我が國の保護制度を維持し、遂に之を併合スルノ已ムヲ得サルニ在リ。其ノ目的は、日露開戦ノ際ニ發シタルモノニシテ、明治三十七年二月在京城ノ代表者ハ、韓國政府ト交渉シテ、遂に日韓議定書ヲ締結シテ了シテ、兩國ノ關係ヲ一新シ、韓國政府ハ、我が國ノ保護制度ニ依リテ存スルコトヲ容ルルコト、第三國ノ侵害者ハ内亂ニ依リ、韓國皇室ノ安寧或ハ危殆ニ陥ルルコトヲ豫メ、韓國政府ハ、臨機ノ措置ヲ取り、韓國政府ハ之ニ對シテ十分ノ便宜ヲ與フルコトヲ、並ニ韓國政府ト交渉シ、必要ノ地點ヲ收用シ得ルコトヲ約シ、同年八月二十二日、日韓兩國政府代表者ハ、更ニ一ノ協約ニ調印シ、財政外交兩顧問ノ簡聘並ニ韓國政府方外國トノ條約締結其ノ他重要ナル外交案件即チ外國人ニ對スル特權讓與者ハ、契約等ノ處理ニ關シテ豫メ帝國政府ト協議スヘキコトヲ協定シ、茲ニ東洋禍亂ノ主要根源タル韓國外交權ヲ我ニ收受スルノ端ヲ啓クト共ニ顧問制度ヲ

開始シテ韓國保護指導ノ施設ニ一歩ヲ進メ以テ兩國ノ關係ヲ一層明確緊密ナラシメタリ
明治三十八年八月十二日調印セラレタル日英同盟約款及同年九月日露兩國間ニ締結セラレタル「ポ
ーツマス」條約第二條ニ於テ英露兩國政府ハ均シク帝國カ韓國ニ於テ政事上軍事上及經濟上ノ專權
ナル利益ヲ有スルヲ以テ帝國方正當且必要ト認ムル指導監督及保護ノ措置ヲ韓國ニ於テ執ルノ權利
ヲ承認スル旨ヲ宣明シタルニ由リ日露兩國ノ關係ハ日露戰爭終結ト前後シテ大進歩ヲ來タシ韓國ニ
對スル帝國ノ地位益鞏固且明確ヲ加フルニ至レリ帝國政府ハ乃チ此ノ新關係ニ基キ韓國ニ對スル保
護指導ヲ完クシテ益兩國ヲ結合スル利益共通ノ主義ヲ鞏固ナラシムルノ目的ヲ以テ同年十一月十七
日所謂日露協約ヲ締結シテ外交權ヲ收受シ統監駐劄ノ事ヲ定メ茲ニ韓國保護政治ノ基礎ヲ確立セ
リ是ニ於テ帝國政府ハ在韓國公使館及領事館ヲ撤廢シテ統監府及理事廳ヲ置キ翌明治三十九年二月
一日ヲ以テ各其ノ事務ヲ開始セシメタリ統監府既ニ設置セラレ韓國ノ外交ハ舉クテ帝國政府ノ監理
ニ歸シ之ヲ内ニシテハ施政ノ改善漸ク其ノ緒ニ就クト雖一朝ニシテ數百年ノ積弊ヲ一洗シ保護ノ實
ヲ舉ムコト固ヨリ容易ニアラス加フルニ維新更始ノ際ニ當リ上下ノ人心動モスレハ其ノ嚮フ所ヲ誤

リ各般ノ妨礙百出セリ偶明治四十年夏ニ至リ海牙密使事件ノ起ルアリ統監ハ日露兩國ノ關係ヲ一層
密濶セシムルノ必要ヲ認メ七月二十四日更ニ韓國政府ノ代表者ト一ノ協約ヲ訂立シ(一)韓國政府ハ
施政改善ニ關シ統監ノ指導ヲ受クルコト(二)法令制定及重要ナル行政上ノ處分ニ付豫メ統監ノ承認
ヲ受クヘキコト(三)司法事務ト普通行政事務トノ區別ヲ爲スコト(四)高等官吏ノ任免ニ統監ノ同意
ヲ要スルコト(五)統監ノ推薦ニ依リ日本人ヲ韓國政府ニ任用スルコト(六)統監ノ同意ナクシテ外國
人ヲ僱用セサルコト(七)財政顧問ノ僱用ヲ廢止スヘキコトヲ約シ以テ一層我カ保護權行使ノ範圍ヲ
擴張シ從來間接指導ノ地位ヲ保ツニ過キザリシ内地人官吏ヲシテ直接施政改善ノ衝ニ當ラシメ韓國
政務機關全般ニ互ル官制改革ヲ斷行シ宮府ノ別ヲ明ニシ司法制度ヲ獨立ヲ企圖シ中央地方各般行政
ノ刷新ニ努メタリ

韓國財政ノ狀況ハ司法制度ノ整備ヲ爲ス能ハサルノミナラス文明的法典ト適宜ナル司法官トハ一朝
ニシテ之ヲ得ヘカザルヲ以テ明治四十二年七月ニ至リ韓國ノ司法及監獄事務ヲ我カ政府ニ委託セ
シムルノ件ヲ約シ同年十一月韓國法部、各裁判所及監獄ヲ廢止シテ統監府司法廳、裁判所及監獄ヲ

設置シ以テ韓國ニ在留スル帝國臣民並韓國臣民ノ生命財產ヲ均一ニ保護スルヲ基礎ヲ立テタリ帝國政府ハ斯クノ如クニシテ著者韓國施政改善ノ效果ヲ完ウセムコトヲ企圖シタリト雖當時ノ復讐ナル統治制度ヲ以テシテハ未タ以テ的確ニ韓國民衆ノ幸福ヲ増進シ公共ノ安寧秩序ヲ保持スルニ足ラス暴徒軍賊諸方ニ出沒シ民ヲ毒害スルモノ全ク其ノ跡ヲ絶ツニ至ラス又不退ノ徒ハ民衆ヲ使喚煽動シ徵稅ニ從事スル日本人官吏ニ對シテ特ニ嫌忌ノ念ヲ懷キ徵稅ハ之ヲ日本ニ奪去スルモノノ如ク觀解シ甚シキハ是等官吏ニ對シテ危害ヲ加ヘムトシ遂ニハ同年十月二十六日前統監伊藤公爵ヲ哈爾濱ニ於テ暗殺シ首相李完用ニ兇害ヲ加フル者アルニ至レリ爾來韓國ノ事應日ニ益非ニシテ全然同國ヲ帝國ニ併合スルニ非サレハ全國統治ノ責任ヲ明ニシ有終ノ效果ヲ舉グル能ハサルヘキノ形勢ヲ呈シ併合ノ議漸ク是ヨリ萌セリト雖未タ之ヲ遂行スルノ機運ニ到著セサリキ斯クテ帝國政府ハ明治四十三年六月二十四日韓國ノ警察事務ヲ帝國ニ委託セシメ七月一日ヨリ統監府警察官署官制ヲ實施シ警務機關ヲ統一シテ韓國治安ノ維持ヲ確實ニセムコトヲ期セリ

四

二

明治四十三年五月統監子爵曾根荒助病ヲ以テ職ヲ退キ陸軍大臣子爵寺內正毅統監ニ兼任セラレ七月二十三日赴任ス當時ノ形勢ハ併合ノ一日モ忽ニスヘカラサルモノアルヲ認メ乃チ韓國政府ノ當局者ト會見シテ帝國政府ノ所信ヲ披瀝シ且帝國一方ノ意思ニ基ク宣言的併合ヨリモ當時ノ韓國統治者トノ間ニ意思ヲ疏通シ條約ヲ締結シ韓國皇帝自ラ進ミテ統治權ヲ 天皇陛下ニ讓渡セラルルヲ適當ト信シ之ヲ提言シタルニ韓國當局者モ亦其ノ相互永遠ノ福利ヲ増進スル所以ナルヲ確認シ兩國政府ノ意見茲ニ一致シ八月二十一日統監ハ併合條約案ヲ帝國政府ニ打電シテ御親斷ヲ仰キ韓國皇帝モ亦能ク時勢ヲ洞觀セラレ併合ノ兩國永遠ノ幸福ヲ増進スヘキモノナル事ヲ認メラレ直ニ裁可ヲ與ヘラレタルヲ以テ同月二十二日寺內統監ハ韓國總理大臣李完用トノ間ニ併合條約ヲ締結シ之ト同時ニ帝國政府ハ列國ニ通牒スルニ韓國併合ノ事ヲ以テシ同月二十九日詔書ノ煥發ト共ニ併合條約ヲ公布セリ併合條約ハ前文及八箇條文ヨリ成リ先ツ前文ニ於テ日韓兩國皇帝陛下ハ兩國間ノ特殊ニシテ親密ナル關係ヲ順ヒ相互ノ幸福ヲ増進シ東洋ノ平和ヲ永久ニ確保スルノ目的ヲ達セムカ爲ニハ韓國ヲ日本帝國ニ併合スルニ如カサルコトヲ確信スル旨ヲ宣明シ(一)韓國皇帝ハ韓國一切ノ統治權ヲ完全且永

第一章 韓國併合願末

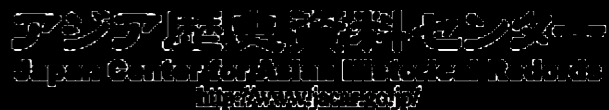
五

久ニ天皇陛下ニ讓與スルコト(二)天皇陛下ハ此ノ讓與ヲ受諾シ且全然韓國ヲ帝國ニ併合スルコトヲ承諾シ給フコト(三)韓國皇帝太皇帝皇太子及其ノ后妃及後裔ヲシテ各其ノ地位ニ應ジ相當ナル尊稱威嚴及名譽ヲ享有セシメ且之ヲ保持スルニ十分ナル歳費ヲ供給スヘキコト(四)右以外ノ韓國皇族及其ノ後裔ニ對シ各相當ノ名譽及待遇ヲ享有セシメ且之ヲ維持スルニ必要ナル資金ヲ供與スルコト(五)勤功アル韓人ニシテ特ニ表彰ヲ爲スヲ適當ナリト認メタル者ニ對シ榮衛ヲ授ケ且金庫ヲ與フヘキコト(六)帝國政府ハ前記併合ノ結果トシテ全然韓國ノ施設ヲ擔任シ同地ニ施行スル法規ヲ遵守スル韓人ノ身體及財産ニ對シ十分ナル保護ヲ與ヘ且其ノ福利ノ増進ヲ圖ルコト(七)誠意忠實ニ新制度ヲ豫重スル韓人ニシテ相當ノ資格アル者ヲ事情ノ辭ス限リ韓國ニ於ケル帝國官吏ニ登用スルコト(八)本條約ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行スルコトヲ約定セリ同日韓國皇帝ハ舊韓國臣民ニ對シ勸諭ヲ發シ韓國ハ積弱疲弊挽回ノ施措ヲ以テ茲ニ韓國ノ統治權ヲ從前ヨリ親信依仰シタル隣國大日本皇帝陛下ニ讓與シ外東洋ノ平和ヲ鞏固ニシ内八域ノ民生ヲ保全セムトス大小臣民安シテ日本帝國ノ文明新政ニ服從シ幸福ヲ享受スヘキ旨ヲ諭シタリ斯ノ如ク兩國ノ樂志互ニ相融和シ何等騷擾ヲ見ル

コトナクシテ併合ノ事成リ面積一萬四千二百三十三方里ノ領土ハ新ニ附加セラレ韓國ヲ改メテ朝鮮ト稱シ朝鮮總督ヲ置キ天皇ニ直轄シ委任ノ範圍内ニ於テ陸海軍ヲ統率シ諸般ノ政務ヲ統轄セシメラル茲ニ於テ寺内統監ハ朝鮮總督ニ任セララルト同時ニ各地理事官ニ訓令ヲ發シテ經營指導宣シキヲ得施政ノ效果ヲ舉クルニ遺漏ナカラシメンコトヲ期シタルト同時ニ別ニ朝鮮上下ノ民衆ニ對シテ諭告ヲ發シ施政ノ綱領ヲ示シテ曰ク

親聖文武天皇陛下ノ大命ヲ奉シ本官今ヤ朝鮮統轄ノ任ニ膺ルニ際シ茲ニ施政ノ綱領ヲ示シテ朝鮮上下ノ民衆ニ諭告ス

夫レ疆域相接シ休戚相倚リ民情亦昆弟ノ誼アルモノ相合シテ一體ヲ成スハ自然ノ理必至ノ勢ナリ是ヲ以テ大日本國天皇陛下ハ朝鮮ノ安寧ヲ確實ニ保障シ東洋ノ平和ヲ永遠ニ維持スルノ緊切ナルヲ念ヒ前韓國元首ノ希冀ニ應ジ其ノ統治權ノ讓與ヲ受諾シ給ヒタリ自今前韓國ノ皇帝陛下ハ昌德宮李王殿下ト稱セラレ皇太子ハ王世子トナリテ後嗣長ヘニ相繼承シ萬世無窮タルヘク太皇帝陛下ハ德壽宮李太王殿下ト稱セラレ皇族ノ禮遇ヲ賜ハリ其ノ秩俸ノ豐厚ナル皇位ニ在スノ時下異ル



コトナカルヘシ朝鮮民衆ハ盡ク帝國ノ臣民ト爲リ 天皇陛下撫育ノ化ヲ被リ長ヘニ深仁厚徳ノ
惠澤ニ浴スヘシ殊ニ忠順ニ新政ヲ翼賛スル賢良ハ其ノ效勞ニ準シ榮爵ヲ授ケラレ恩金ヲ賜リ又其
ノ材能ニ應ジ帝國ノ官吏トシテ或ハ中樞院議員ノ班ニ列セラレ或ハ中央若ハ地方官廳ノ職員ニ登
用セラレヘシ又班族衛生ノ耆老ニシテ恭謙能ク庶民ノ師表タル者ニハ尙書ノ恩典ヲ與ヘラレ孝子
節婦孺黨ノ模範タル者ニハ褒賞ヲ賜リ以テ其ノ德行ヲ表彰セラレヘシ曩ニ地方官吏ノ職ニ在リ國
稅賦進ノ行爲アリタル者ハ其ノ責任ヲ解除シ特ニ其ノ未勤金ヲ完納ヲ免セラレヘシ又從前法律ニ
違反シタル者ニシテ其ノ犯罪ノ性質特ニ惡諒スヘキ者ニ對シテハ一律ニ大赦ノ特典ヲ與ヘラレハ
如令地方ノ民衆積弊ノ餘孽ヲ受ケ或ハ業ヲ失ヒ産ヲ傾ケ又甚シキハ流離離散ニ瀕スル者アリ依テ
先ツ民力ノ休養ヲ圖ルノ急務ナルヲ認メ隆熙ニ年度以前ノ地稅ニシテ今尙未納ニ係ルモノハ之ヲ
免除シ隆熙三年以前ノ貸付ニ係ル社穀ハ其ノ還納ヲ特免セシメ且本年秋季ニ徵收スヘキ地稅ハ特
ニ其ノ五分ノ一ヲ輕減シ更ニ國幣約一千七百萬圓ヲ支出シ之ヲ十三道三百二十有餘ノ府郡ニ配與

シ以テ士民ノ授産教育ノ補助並凶歉ノ救濟ニ充テシムヘシ是皆斯ノ更始一新ノ時ニ方リ萬機悉
ノ聖旨ヲ昭ニスル所以ナリ然リト雖國政ノ利澤ヲ蒙ル者其ノ分ニ應ジテ國費ヲ負擔スルハ天下ノ
通則ニシテ古今東西皆然ラサルハ莫シ故ニ克ク道般救恤ノ本旨ヲ體シ或ハ恩ニ徇レテ泰公ノ心ヲ
失ハサランコトヲ期スヘシ

凡ソ政ノ要ハ生命財産ノ安固ヲ圖ルヨリ急ナルハ莫シ蓋シ殖産ノ方興業ノ途之ニ次テ振作スルヲ
得ヘケレハナリ從來不逞ノ徒頑迷ノ輩遐邇ニ出沒シ或ハ人ヲ殺シ財ヲ掠メ或ハ非謀ヲ企テ騷擾ヲ
爲ス者アリ是ヲ以テ帝國ノ軍隊ハ各道ノ要所ニ駐屯シテ時變ニ備ヘ憲兵警官ハ善ク郡鄙ニ互リテ
專ラ治安ノ事ニ從ヒ又各地ニ法廷ヲ開キテ公平無私ノ審判ヲ下スニ努ム是固ヨリ奸宄ヲ懲罰シ邪
曲ヲ交際セムカ爲ナリト雖華竟國內全般ノ安寧秩序ヲ維持シ各人ヲシテ其ノ堵ニ安シテ業ヲ營ミ
産ヲ治メシメムトスルニ外ナラス

今朝鮮ノ地勢ヲ通觀スルニ其ノ南土ハ肥沃ニシテ農桑ニ適シ其ノ北地ハ樵木礦物ニ富ミ内河外海
亦魚介多シ遺利餘澤ノ獲收スヘキモノ鮮少ナリトセス其ノ開發ノ方法宜シキヲ得ハ産業ノ振作期

シテ待ツヘシ而シテ産業ノ發達ハ主トシテ運輸機關ノ完全ニ俟タサルヘカラス是事ヲ創メ業ヲ起
スノ階梯ナレハナリ今道路ヲ十三道ノ各地ニ開キ鐵道ヲ京城元山間及三南地方ニ新設シ漸ク以テ
全土ニ及ホサハトス斯クノ如クニシテ大成ヲ將來ニ期スルト共ニ其ノ開鑿敷設ノ工程ニ於テ業民
ニ生業ヲ興ヘ其ノ窮乏ヲ拯フノ一助タルヘキヲ疑ハス朝鮮古來ノ流弊ハ奸惡弄權唯利ヲ以テ相爭
フニ在リ是ヲ以テ一黨勢ヲ得レハ忽チ他派ヲ裁ハムトシ一派力ヲ占ムレハ輒チ他黨ヲ介サムトシ
頗爾排擠其ノ窮極スル所ヲ知ラス終ニ産ヲ破リ家ヲ亡ホス者夥シトモ是尺書アリテ寸益ナシ爾
後黨ヲ樹テ社ヲ結ヒ徒ニ輕舉妄動ヲ事トスルカ如キコトアルヘカラス但シ政令治ク下ニ及ハス民
意助モスレハ上ニ達セシテ上懸下怨ノ弊ヲ釀スハ古今其ノ例ニ乏シカラス依テ中樞院ノ規模ヲ
擴張シ老成ノ賢良ヲ網羅シテ其ノ議官ニ列シ重要ナル政務ノ諮詢ニ應セシメ又各道及各府郡ニハ
參議官又ハ參事ノ職ヲ設ケ能士俊材ヲ登用シテ之ニ充テ其ノ言議ヲ徵シ其ノ獻策ニ聽キ以テ政令
ト民情ト相抵併スル所ナカラシムコトヲ期ス

凡ソ人生ノ憂患ハ疾病ヨリ酷シキハ莫シ從來朝鮮ノ醫術ハ未タ幼稚ノ域ヲ脱セシテ以テ病苦ヲ
救ヒ天壽ヲ全リセシムルニ足ラス是最も痛嘆スヘキ所ナリ曩ニ京城ニ中央醫院ヲ開キ又全州清州
及咸興ニ慈惠醫院ヲ設ケテ以來衆庶ノ其ノ恩波ヲ蒙ル者極メテ多シト雖未タ全土ニ普及セサルヲ
遺憾トシ既ニ令ヲ發シテ更ニ各道ニ慈惠醫院ヲ増設セシメ名醫ヲ置キ良藥ヲ備ヘ汎ク起死回生ノ
仁術ヲ施サシメムトス

願フニ人文ノ發達ハ後進ノ教育ニ依タサルヘカラス而シテ教育ノ要ハ智ヲ進メ徳ヲ磨キ以テ修身
齊家ニ資スルニ在リ然ルニ諸生助モスレハ勞ヲ厭ヒ逸ニ就キ徒ニ空理ヲ談シテ放漫ニ流レ終ニ無
爲徒食ノ遊民タル者往々ニシテ之レ有リ自今宜シク其ノ弊ヲ矯メ華ヲ去リ實ニ就キ懶惰ノ陋習ヲ
一洗シテ勤儉ノ美風ヲ涵養スルコトニ努ムヘシ

情教ノ自由ハ文明列國ノ均シク認ムル所ナリ各人其ノ崇拜スル教旨ニ倚リ以テ安心立命ノ地ヲ求
メムトスルハ固ヨリ其ノ所ナリト雖宗派ノ異助ヲ以テ漫ニ紛爭ヲ試ミ又ハ名ヲ信教ニ藉リテ明ニ
政事ヲ議シ若ハ異圖ヲ企テムトスルカ如キハ即チ良俗ヲ荼毒シ安寧ヲ妨害スルモノナルヲ以テ當
ニ法ヲ案シテ處斷セサルヘカラス然レトモ儒佛諸教ト著書教トチ間ハス其ノ本旨ハ畢竟人生世態

ノ改善ニ在ルカ故ニ固ヨリ施政ノ目的ト背馳セサルノ事ナラス却テ之ヲ裨補スヘキモノタルヲ疑ハス之ヲ以テ各種ノ宗教ヲ待ツニ適モ親疎ノ念ヲ捨マサルハ勿論其ノ有教傳導ニ對シテハ適當ナル保體便宜ヲ與フルニ吝ナラサルヘシ

本官令 聖旨ヲ持シテ此ノ地ニ花ムヤ一ニ治下生民ノ安寧幸福ヲ増進セムト欲スルノ外他念アルナシ是レ茲ニ醇醇トシテ其ノ適從スヘキ所ヲ諭示スル所以ナリ尙漫ニ妄想ヲ逞クシ致テ施設ヲ妨碍スル者アラハ斷シテ假借スル所ナカルヘシ若シ夫レ忠誠勇ヲ持シ謹慎法ヲ守ルノ實士順民ニ至ラズテハ必ス皇化ノ惠澤ニ霑ヒ其ノ子孫亦永ク恩波ニ浴スヘシ爾等恪テ新政ノ宏願ヲ奉體シテ苟モ違フ所アル勿レ

明治四十三年八月二十九日

統監 子爵 寺内正毅

三

斯クテ併合ノ事成リ前韓國皇帝ヲ高宗宮李王ト稱シ皇太子ヲ王世子トシ太皇帝ヲ德壽宮李太王ト稱シ又李王ノ懿親李廕及李熙ヲ以テ公トシ並待ツニ皇族ノ禮ヲ以テシ子孫ヲシテ其ノ榮錫ヲ世襲シ永

ク寵光ヲ享クシメ且李王ニ對シ其ノ皇位ニ在リシ時ト同一ノ儀禮ヲ與ヘラルル勳カアル朝鮮人ニシテ特ニ表彰ヲ爲スニ適當ナリト認メタル者ニ對シテハ榮爵ヲ授ケラルヘキコトヲ定メ十月七日朝鮮貴族令ニ依リテ貴族ニ列セラレタル者七十六名ニ及ヘリ而カモ聖恩ノ優渥ナル更ニ赤子ヲ體恤スルノ意ヲ昭示シ給ヒ舊刑諸般ノ罪因申情狀ノ惻隱スヘキモノニ對シテハ特ニ大赦ヲ行ヒ且積年ノ逋租及當年ノ租稅ハ之ヲ減免シ給ヘリ囚人ニシテ此ノ恩澤ニ浴シタルモノ一千七百十一人ニ及ヘリ又貴族及功勞者並其ノ遺族、勳任委任判任ノ官吏タリシ者ニシテ恩賜金ノ下賜ニ與リタル者三千六百四十五人又班族儒生ノ耆老ニシテ恭謙能ク庶民ノ師表タル者ニハ尙齒ノ恩典ヲ與ヘラレ其ノ悲ニ沿ヒシモノ一萬二千三百餘人又孝子節婦孀黨ノ模範タル者ニハ褒賞ヲ賜ハリ鯨寡孤獨ノ憐愍スヘキ者ニ對シテハ賜金ヲ惠マセラレ其ノ恩典ニ浴シタル者孝子節婦三千二百九人鯨寡孤獨七萬九百二人ニ達セリ而シテ更ニ一千七百萬圓ノ國帑ヲ支出シテ之ヲ府郡ニ配與シ以テ士民ノ授産教育ノ補助並凶歉救濟ノ基金ニ充テシメラレタリ

第一章 韓國併合顛末



第二章 地誌

一 地形及地勢

朝鮮ハ亞細亞ノ東南ニ斗出セル一大半島ニシテ地形南北ニ長ク東西ニ短シ南北最長キ處ハ百九十里ニ達シ最短キ處モ百五十里ヲ下ラス東西最狭キ處ハ僅カニ四十餘里最廣キ處ニテモ七十里ヲ越エス東經百二十四度十三分ヨリ百三十五度五十四分ニ至リ北緯三十三度十二分ヨリ四十三度二分ニ至リ面積約一萬四千二百三十三方里ヲ有ス東ハ日本海ニ面シ西ハ黄海ニ臨ミ北ハ長白山脈鴨綠江及豆滿江ノ一部ヲ以テ滿洲及露領沿海州ニ連リ南ハ朝鮮海ニ瀕ス日本海ト朝鮮海トノ間ニ對馬島アリ以テ對馬及朝鮮ノ二海峽ヲナス對馬海峽ハ一ニ東水道ト稱シ朝鮮海峽ハ一ニ西水道ト稱セラレ

朝鮮ノ海岸ハ東方ト南方及西方トチ比較スルニ著シキ差違アリ東海岸ハ出入極メテ少ナク岬灣島嶼甚ク稀ニシテ從テ真港ニ乏シク僅ニ元山城津津津等アルニ過キス然ルニ南及西ノ海岸ハ長汀曲浦相連リ恰モ嶺ノ齒ノ如ク大小ノ島嶼星羅棋布シテ幾多ノ内海浦灣ヲ形成スルヲ以テ釜山木浦蔚山仁川

鎮南浦等ノ港灣ヲ始メトシ諸地頗ル多シ

嶺ヲ朝鮮ノ地勢ヲ見ルニ北境ニハ長白山脈蜿蜒トシテ東方ヨリ西南ニ延ヒ平安咸鏡兩道ノ境ヲ劃シテ江原道ニ入り東海岸線ニ平行シテ南方ニ駛走シ以テ半島ノ脊梁骨ヲナス此ノ如ク大山脈東方ニ偏在スルヲ以テ山脈以東ノ地ハ斜面急峻ニシテ殆ント平野ト稱スヘキモノナク從ツテ江河ノ大ナルモノナシ之ニ反シ山脈以西ハ比較的緩ナル斜面ヲナシ平野處處ニ少ナカラス鴨綠江大同江漢江錦江洛東江等其ノ間ニ發流シテ舟楫ノ便灌溉ノ利アリ地味極シテ豐饒ナリ

二 氣候

氣溫 氣溫ハ年平均釜山地方ハ攝氏十三度餘ニシテ漸次北方ニ向フニ從ツテ遞減シ京仁地方及元山地方ハ十度餘又龍岩浦地方及城津附近ハ八度内外ニシテ北鮮内陸ハ五度乃至四度ナリ之ヲ本土ニ比較スレハ南岸ハ福井地方ニ中部ハ信濃地方ニ比スヘク北鮮ノ沿海地方ハ函館地方ニ其ノ内陸高原ハ恰モ北海道内陸ト相似タリ而シテ年中最暖ナルハ八月最寒ナルハ二月ニシテ其ノ差南部ハ二十三度度中部ハ二十七度北部ハ三十二度内外ナリ本土ニ於テハ中部ノ沿岸地方ハ其ノ差概本二十一二度

内陸ハ二十四五度北海道内陸ハ三十度弱ナルニ比スレハ寒暑ノ差稍大ナルヲ見ル今測候所ノ観測ニ依リ其ノ創立以來ノ氣温ノ高低極ヲ擧ケレハ左ノ如シ(一)ヲ附セルハ氷點以下ノ温度ヲ示ス)

地名	高 極		低 極	
	度	年	度	年
木浦	三四・一	三十九年七月	一二・五	四十三年一月
大邱	三七・八	四十一年八月	一四・五	四十一年一月
京城	三五・六	四十二年八月	二一・五	四十四年一月
元山	三八・二	三十七年六月	一九・二	三十九年二月
咸津	三五・五	四十二年七月	二三・八	四十四年一月
釜山	三三・六	三十九年七月	一一・九	四十三年一月
仁川	三四・六	四十年八月	一八・七	四十三年一月
平壤	三五・五	四十年七月	二六・七	四十四年一月
龍岩浦	三三・六	四十一年六月	二六・三	三十九年二月

即チ暖極ハ四岸及南岸ハ三十四度内外其ノ他ニ在リテハ三十五度乃至三十八度ニ達ス斯ノ如キ暑氣ハ本土ニ在リテハ到處ニ遭遇スル所ナルモ寒氣ニ於テハ零下十五度ニ達スル事アルハ美濃地方乃至福島山形地方同二十度以下ニ下ルハ北海道ノ各地ニシテ更ニ零下三十度以下ニ降ルハ北海道内陸ノ十勝上川地方ニ間々起ルノミ故ニ寒氣ニ於テハ本土ノ各地ニ比シ稍甚シキヲ見ル氣温晝夜ノ差モ亦稍著シク中部以南ノ沿岸ハ八度内外ニシテ中部ノ内陸ハ十三度餘北部ノ内陸高原ニ於テハ十七度ニ達スル地方アリ

風 余半島ヲ通シテ季節風ノ勢力卓越スルヲ以テ主風ノ方向ハ季節ニ由リ略ホ一定セリ即チ十月ヨリ三月迄ハ北乃至北西風ニシテ五月ヨリ八月マテハ一般ニ南西乃至南東風ナリ兩季節風ノ交代期ナル四月及九月前後ハ風向既ニシテ一定セス又四岸及南岸ハ北西風ヲ受ケルカ故ニ冬季ハ風力殊ニ強ク之ニ反シ東岸ハ半島ノ脊梁タル日本海沿岸山脈ニ遮キラルルニ由リ概シテ弱シテ冬季大陸方面ニ高氣壓ノ發生セル時ニ際シ適々日本海方面ニ低氣壓ノ通過スルモノアルトキハ強烈ナル北乃至北西風ヲ起スト共ニ氣温頓ニ下リ甚シキハ前日トノ差十度以上ニ達スル事アリ然レトモ高壓



部ノ衰頹スルト共ニ風力減シ寒氣亦退クヲ以テ冬季ニ於テハ寒暖ノ日交錯スルヲ常トス俚俗ニ三寒
四温ノ語アルハ蓋シ之ヲ謂フナリ

雨霽 雨霽ノ年量ハ半島ノ大部分ハ八百乃至千粒ニシテ南岸ハ之ヨリモ多ク釜山地方ハ千四百粒ニ
達ス又東岸元山附近ニモ亦多ク千五百粒ニ達ス蓋シ此ノ地方ハ半島ニ於テ最多雨地方ナリ而シテ北
部内陸高原地方ニ在リテハ六百粒内外ニ過キス之ヲ本土ニ比スレハ南岸地方ハ略ホ瀕戸内地方ニ比
スヘク元山地方ヲ除ク中部以南ハ信濃及兩毛地方ト相似タリ朝鮮中部ト前記兩地方トハ既ニ氣温ニ
於テ酷似シ雨量モ亦能ク相似タルニ見ルモ近年震業ノ半島ニ適スルヲ鳴道モラルル所以ノモノ決シ
テ偶然ニアラサルヲ知ルヘシ而シテ北部寡雨ノ地方ハ本土ニ於テハ之ニ比スヘキ地方ナシ然レトモ
半島ニ於テハ季節ニ由ル降雨ノ差異著シク十月ヨリ三月ニ至ル乾燥期ニ際シテハ其ノ量極メテ少ク
此ノ六箇月間ノ合計ハ降雨期一箇月ノ量ニモ充タス之ニ反シ六月ヨリ八月ニ至ル間ニ年量ノ大部分
ヲ降下スルヲ常トス故ニ北部地方ト雖降雨期ノ量ヲ以テ比較スルトキハ北海道地方ニ較テ讓ラサル
ヲ見ル斯ク冬季ノ量寡ナルヲ以テ北部ニ於テモ積雪ハ甚タ少ク雨天日數ハ概シテ百日内外ニシテ

南岸及元山地方ハ百三十日内外ニ達ス降雨期ニ於テハ月ノ三分ノ一以上ヲ算スル事アルモ概シテ降
雨ノ時間短ク本土ニ於ケルカ如ク霖雨數日ニ互ルカ如キハ甚タ稀ナリ
蒸發 斯ノ如ク雨量少ク空氣乾燥シテ且日照多キヲ以テ蒸發量ハ甚タ多シ年量ハ北部ハ千粒餘西岸
ハ千四百粒餘南岸ノ釜山地方ハ千五百粒餘ナリ本土ニ於テ蒸發量ノ多キ瀕戸内地方ト雖半島ノ蒸發
寡ナル地方ト相匹敵スルノミ西岸地方ニ於テ天日製鹽業ノ著著效ヲ奏シツアル洵ニ以アリト
云フヘシ而シテ東岸ノ西岸ニ比シテ蒸發ノ少キハ前述ノ如ク同地方ノ風力弱キモ其ノ一源因ナラン
霧 朝鮮近海ノ濃霧ハ日露戰役以來世人ノ注意スル所トナリシカ濃霧ハ半島ノ全岸ニ於テ四月ヨリ
八月ニ至ル間ニ屢起リ殊ニ七八月ニ最頻繁ナリ濃霧ノ一度襲來スルトキハ冥濛トシテ所謂咫尺辨
セサル程ニシテ其ノ甚タシキモノハ三晝夜ニ涉リテ衰退セサル事アリ之カ爲メニ船舶ノ航行ヲ妨ケ
ラルル事尠カラズ

從來半島ノ事情ニシテ内地人ニ誤傳セラレタルモノ尠カラズ氣候ノ如キモ其ノ一ニシテ朝鮮全土ヲ
以テ寒暑共ニ酷烈ナリトナシ又ハ雨量寡少ニシテ農耕ニ適セストナスカ如キ訛ヲナス者固々アリ然

レトモ從來ノ實測ハ全ク然ラサルヲ示スノミナラス却テ本土ノ或地方ニ比スレハ居住ニ適順ニシテ且農桑ニモ佳實ナルハ近來ノ實績ニ微シ明白ナリ況ンヤ暴風ノ如キ本土ニ比シ極メテ少ク稍強烈ナルモノハ年ニ一二回ニ過キス又本土ノ如ク震災ノ怖ルヘキモノナク實ニ天幸ト稱スヘキナリ

氣温及雨雪量

地名	氣		温		雨	
	平均	最高	最低	平均	最多	
木登	一一・九	一七・二	九・八	一〇四・八	二〇〇・一	
大仁	一一・五	一七・三	九・九	一〇七・二	二一八・五	
仁川	一一・六	一八・五	七・六	一一九・六	二二八・二	
山環	一〇・五	一四・六	七・〇	一一九・六	二二八・二	
浦山	一〇・六	一四・六	五・八	八八・四	一五二・五	
元	九・〇	一四・四	四・二	九三・六	一五三・五	
平	九・〇	一四・四	四・二	九三・六	一五三・五	
不	九・〇	一四・四	四・二	九三・六	一五三・五	
元	九・〇	一四・四	四・二	九三・六	一五三・五	

本表ハ各所創立以來明治四十四年末迄ノ統計ニシテ氣温ハ攝氏雨雪ハ糶ヲ以テ示ス

天氣日數

地名	天氣日數						
	雨	電	雷	霧	霜	快晴	曇
木登	一一・七	一一・四	一一・〇	一一・三	四・九	五・〇	一一・八
大仁	一一・六	一一・〇	一一・〇	一一・一	五・〇	五・六	一一・四
仁川	一一・〇	一一・〇	一一・〇	一一・二	五・〇	七・五	一一・七
山環	一一・〇	一一・〇	一一・〇	一一・二	五・〇	八・三	一一・三
浦山	一一・〇	一一・〇	一一・〇	一一・二	五・〇	八・六	一一・三
元	一一・〇	一一・〇	一一・〇	一一・二	五・〇	八・六	一一・三
平	一一・〇	一一・〇	一一・〇	一一・二	五・〇	八・六	一一・三
不	一一・〇	一一・〇	一一・〇	一一・二	五・〇	八・六	一一・三
元	一一・〇	一一・〇	一一・〇	一一・二	五・〇	八・六	一一・三

本表ハ各所創立以來明治四十四年末迄ノ統計ニシテ雨天ハ一日中ノ降水量十分ノ一程以上アリタル日快晴ハ曇量十分ノ二以下曇天ハ同十分ノ八以上暴風ハ風速度一秒間十米以上アリタル日トス

霜雪ノ季節

地名	結霜		融霜		初雪		終雪	
	平均月日	最早年月日	平均月日	最遲年月日	平均月日	最早年月日	平均月日	最遲年月日
木釜大	一一・二二	一一・二二	四・二二	三・二二	一一・二二	一一・二二	一一・二二	一一・二二
仁大	一一・二二	一一・二二	四・二二	三・二二	一一・二二	一一・二二	一一・二二	一一・二二
京平	一一・二二	一一・二二	四・二二	三・二二	一一・二二	一一・二二	一一・二二	一一・二二
元平	一一・二二	一一・二二	四・二二	三・二二	一一・二二	一一・二二	一一・二二	一一・二二
龍元	一一・二二	一一・二二	四・二二	三・二二	一一・二二	一一・二二	一一・二二	一一・二二
城龍	一一・二二	一一・二二	四・二二	三・二二	一一・二二	一一・二二	一一・二二	一一・二二
浦山	一一・二二	一一・二二	四・二二	三・二二	一一・二二	一一・二二	一一・二二	一一・二二
津浦	一一・二二	一一・二二	四・二二	三・二二	一一・二二	一一・二二	一一・二二	一一・二二
岩	一一・二二	一一・二二	四・二二	三・二二	一一・二二	一一・二二	一一・二二	一一・二二

本表ハ各所創立以來明治四十四年末迄ノ統計ヲ示ス

江河結解氷ノ季節

地名	結氷		解氷	
	平均月日	最早年月日	平均月日	最遲年月日
鴨綠	一一・二二	一一・二二	四・二二	三・二二
大江	一一・二二	一一・二二	四・二二	三・二二
大津	一一・二二	一一・二二	四・二二	三・二二
漢江	一一・二二	一一・二二	四・二二	三・二二

本表中鴨綠江ハ明治三十八年以降大同江ハ同三十四年以降漢江ハ同四十年以降各同四十四年ニ至ル統計ヲ示ス

三人 口

明治四十五年六月末日ノ調査ニ據レハ現在内地人口ハ各道ヲ通シテ六萬七千三百四十四戸人口二十三萬一千九百二十六人朝鮮人口數二百八十五萬五千四百二十五戸人口一千四百二十七萬二千三百六十三人外國人口數三千四百五十三戸人口一萬六千八百八十二人ナリ左ニ各道別表ヲ掲ク

第二章 地誌

朝鮮内戸口

明治四十五年六月末日現在

道別	戸數			人口		
	内地人	朝鮮人	外國人	内地人	朝鮮人	外國人
京畿道	1,000,000	1,000,000	100,000	2,000,000	1,000,000	100,000
忠清北道	1,200,000	1,200,000	100,000	2,400,000	1,200,000	100,000
忠清南道	1,100,000	1,100,000	100,000	2,200,000	1,100,000	100,000
全羅北道	800,000	800,000	100,000	1,600,000	800,000	100,000
全羅南道	700,000	700,000	100,000	1,400,000	700,000	100,000
慶尙北道	600,000	600,000	100,000	1,200,000	600,000	100,000
慶尙南道	500,000	500,000	100,000	1,000,000	500,000	100,000
平安北道	400,000	400,000	100,000	800,000	400,000	100,000
平安南道	300,000	300,000	100,000	600,000	300,000	100,000
江原道	200,000	200,000	100,000	400,000	200,000	100,000
咸鏡北道	100,000	100,000	100,000	200,000	100,000	100,000
咸鏡南道	100,000	100,000	100,000	200,000	100,000	100,000
總計	10,000,000	10,000,000	1,000,000	20,000,000	10,000,000	1,000,000

甲 内地人

(イ) 現住内地人戸口表

明治四十五年六月末日現在

地方	戸數	人口	
		男	女
京畿道	1,906,000	3,571,777	3,138,811
忠清北道	1,241,000	2,078,811	1,708,811
忠清南道	3,550,000	6,375,000	5,339,000
全羅北道	3,674,000	6,829,000	5,505,000
全羅南道	4,274,000	8,472,000	6,460,000
慶尙北道	4,148,000	7,310,000	6,060,000
總計	20,000,000	37,000,000	31,000,000

第二章 地誌

年次	戸数	男	女	平均一戸 二付人口	付女 百二
同 同 同 同 同	同 同 同 同 同	同 同 同 同 同	同 同 同 同 同	同 同 同 同 同	同 同 同 同 同

(11) 現住内地人戸口累年比較

地方	男	女	計
慶尚南道	一五、四三五	一五、八八一	三一、二五六
黄海南道	一、八八一	一、九九九	三、八一〇
平安南道	四、六五二	四、八三二	九、四八四
平安北道	二、四七五	二、九七八	五、四六三
江原道	一、三三四	一、四〇〇	二、七三四
咸鏡南道	二、八七八	二、七〇六	五、五八四
咸鏡北道	二、七四二	二、七〇三	五、四四五
總計	六七、三四四	六七、〇一七	一三三、三六一

地方	男	女	計
同 同	同 同	同 同	同 同

(12) 現住内地人本籍別

明治四十五年六月末日現在

地方	男		女		計
	男	女	男	女	
東京府	五、七三三	三、三三六	七、〇五九	八、九九九	一、六二五
京都府	一、九三六	一、五六一	三、四九七	八、九三三	一、五七六
大阪府	三、七四二	三、四三六	七、一六七	七、三三七	一、二七五
神奈川縣	一、〇五二	一、〇三三	二、〇七四	六、六二二	一、二四一
兵庫縣	三、三三八	二、八八三	六、二二二	六、六二二	一、一四一
長崎縣	九、四〇五	八、六八五	一八、〇九〇	二、〇二二	一、八七五
新潟縣	一、四二六	一、〇六九	二、四九五	二、四五三	三、四八三
埼玉縣	六、五五	四、八八	一、四四三	一、五二七	二、七八九

第二章 地誌

二七

地方	戶數	男	女	計口
京城道	三〇二,八一二	七七一,八六八	七二〇,〇七八	一,四九一,九四六
忠清北道	一三〇,七一一	三三三,一一八	二九九,二二二	六三二,三四〇
忠清南道	一九九,六一〇	五〇一,一五二	四七〇,〇七八	九八〇,二三〇
全羅北道	二〇七,五〇六	五二七,三八五	四五八,七五三	九八六,一三八
全羅南道	三三四,九九二	八五六,九三五	七八九,九二八	一,六四六,八六三
慶尚北道	三三四,〇三九	九〇〇,二八七	八二五,九一五	一,七二六,二〇二
慶尚南道	三〇〇,三九六	七二二,六五三	七〇九,三三〇	一,四三二,〇三三
黃海道	二二六,〇七九	五四九,四二四	五〇五,九三二	一,〇五五,三五六
平安南道	一九三,四九七	四八二,八四八	四五一,五五〇	九三四,三九八
平安北道	一八七,九二四	五三九,一八九	四八三,八二五	一,〇二三,〇一四
江原道	一七二,七六〇	四六九,七四〇	四一九,九六九	八八九,七〇九
咸鏡南道	一七九,〇五二	五一九,八五七	四七六,五五七	九九六,四一四

二九

乙 朝鮮人

朝鮮人戶口表

明治四十五年六月末日現在

地方	戶數	男	女	計口
山梨縣	六七五	一,二七〇	八四九九	一,五六一〇
滋賀縣	一,六七八	二,八二二	二,三二五	五,一四七
岐阜縣	一,五二七	二,六四六	二,六五二	五,二九八
長野縣	一,三三六	二,二四八	二,一九九	四,四四七
宮城縣	一,二一六	二,〇九八	一,九七九	四,〇七七
福島縣	一,二五九	二,〇八八	一,九七四	四,〇六二
茨城縣	一,一六六	一,九七九	一,八四二	三,八二一
山形縣	一,〇八一	一,五三〇	一,四九一	三,〇二一
秋田縣	一,〇八一	一,五三〇	一,四九一	三,〇二一
石川縣	一,〇八一	一,五三〇	一,四九一	三,〇二一
富山縣	一,〇八一	一,五三〇	一,四九一	三,〇二一
島根縣	一,〇八一	一,五三〇	一,四九一	三,〇二一
岡山縣	一,〇八一	一,五三〇	一,四九一	三,〇二一
廣島縣	一,〇八一	一,五三〇	一,四九一	三,〇二一
德島縣	一,〇八一	一,五三〇	一,四九一	三,〇二一
香川縣	一,〇八一	一,五三〇	一,四九一	三,〇二一
愛媛縣	一,〇八一	一,五三〇	一,四九一	三,〇二一
高知縣	一,〇八一	一,五三〇	一,四九一	三,〇二一
福岡縣	一,〇八一	一,五三〇	一,四九一	三,〇二一
大分縣	一,〇八一	一,五三〇	一,四九一	三,〇二一
佐賀縣	一,〇八一	一,五三〇	一,四九一	三,〇二一
熊本縣	一,〇八一	一,五三〇	一,四九一	三,〇二一
鹿兒島縣	一,〇八一	一,五三〇	一,四九一	三,〇二一
沖繩縣	一,〇八一	一,五三〇	一,四九一	三,〇二一
北海	一,〇八一	一,五三〇	一,四九一	三,〇二一
合計	一,〇八一	一,五三〇	一,四九一	三,〇二一

二八

第二章 地誌

支 家本 計	國籍 種別	總計	成北	成南	江原	平北	平南	黃海	慶南
		人 口數	人 口數	人 口數	人 口數	人 口數	人 口數	人 口數	人 口數
一、 九、 六、 七、 九、 七	農業	一、 五、 〇、 三、 〇	一、 〇、 〇、 〇	一、 〇、 〇、 〇	一、 〇、 〇、 〇	一、 〇、 〇、 〇	一、 〇、 〇、 〇	一、 〇、 〇、 〇	一、 〇、 〇、 〇
	林業	一、 〇、 〇、 〇	一、 〇、 〇、 〇	一、 〇、 〇、 〇	一、 〇、 〇、 〇	一、 〇、 〇、 〇	一、 〇、 〇、 〇	一、 〇、 〇、 〇	一、 〇、 〇、 〇
一、 四、 四、 六	漁業	一、 〇、 〇、 〇	一、 〇、 〇、 〇	一、 〇、 〇、 〇	一、 〇、 〇、 〇	一、 〇、 〇、 〇	一、 〇、 〇、 〇	一、 〇、 〇、 〇	一、 〇、 〇、 〇
	牧畜	一、 〇、 〇、 〇	一、 〇、 〇、 〇	一、 〇、 〇、 〇	一、 〇、 〇、 〇	一、 〇、 〇、 〇	一、 〇、 〇、 〇	一、 〇、 〇、 〇	一、 〇、 〇、 〇
一、 四、 六、 六	工業	一、 〇、 〇、 〇	一、 〇、 〇、 〇	一、 〇、 〇、 〇	一、 〇、 〇、 〇	一、 〇、 〇、 〇	一、 〇、 〇、 〇	一、 〇、 〇、 〇	一、 〇、 〇、 〇
	商業	一、 〇、 〇、 〇	一、 〇、 〇、 〇	一、 〇、 〇、 〇	一、 〇、 〇、 〇	一、 〇、 〇、 〇	一、 〇、 〇、 〇	一、 〇、 〇、 〇	一、 〇、 〇、 〇
六、 五、 〇、 一、 七	交通業及 自公	六、 五、 〇、 一、 七	六、 五、 〇、 一、 七	六、 五、 〇、 一、 七	六、 五、 〇、 一、 七	六、 五、 〇、 一、 七	六、 五、 〇、 一、 七	六、 五、 〇、 一、 七	六、 五、 〇、 一、 七
	自由業及 其業者	一、 七、 五、 九	一、 七、 五、 九	一、 七、 五、 九	一、 七、 五、 九	一、 七、 五、 九	一、 七、 五、 九	一、 七、 五、 九	一、 七、 五、 九
四、 二、 九、 四、 二	其他	四、 二、 九、 四、 二	四、 二、 九、 四、 二	四、 二、 九、 四、 二	四、 二、 九、 四、 二	四、 二、 九、 四、 二	四、 二、 九、 四、 二	四、 二、 九、 四、 二	四、 二、 九、 四、 二
	無職業者	四、 二、 九、 四、 二	四、 二、 九、 四、 二	四、 二、 九、 四、 二	四、 二、 九、 四、 二	四、 二、 九、 四、 二	四、 二、 九、 四、 二	四、 二、 九、 四、 二	四、 二、 九、 四、 二
六、 七、 三、 六	合計	六、 七、 三、 六	六、 七、 三、 六	六、 七、 三、 六	六、 七、 三、 六	六、 七、 三、 六	六、 七、 三、 六	六、 七、 三、 六	六、 七、 三、 六
	合計	六、 七、 三、 六	六、 七、 三、 六	六、 七、 三、 六	六、 七、 三、 六	六、 七、 三、 六	六、 七、 三、 六	六、 七、 三、 六	六、 七、 三、 六

(口) 現任外國人職業別

明治四十五年六月末日現在

慶北	全南	全北	忠南	忠北	京畿	地方
支	英	米	佛	露	獨	土
白	伊	濠	希	丁	瑞	葡
合	計	合	計	合	計	合

(イ) 現任外國人戶口表

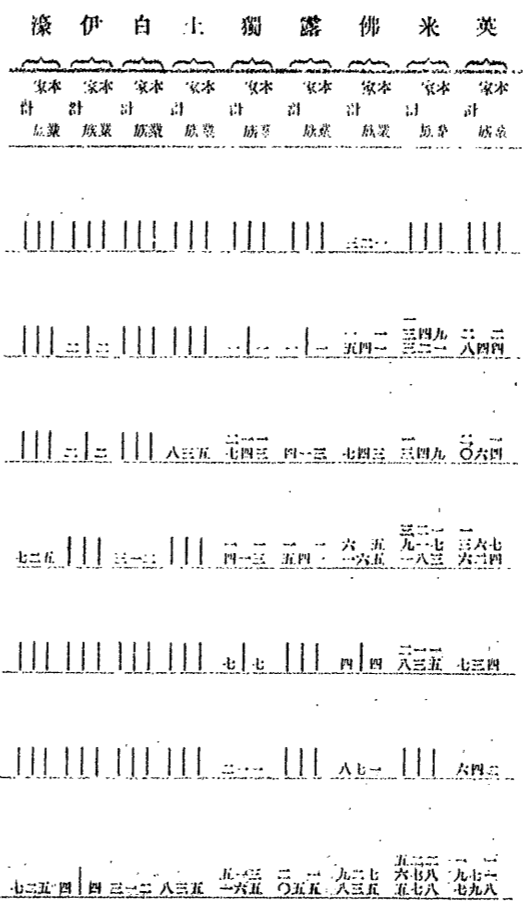
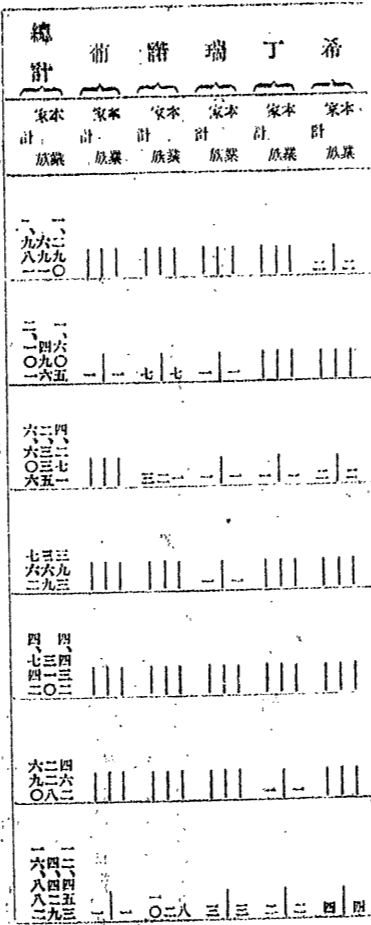
明治四十五年六月末日現在

丙 外國人

總計	成北	成南	江原	平北	平南	黃海	慶南
二、八、五、四、二、五	七、六、〇、四、一	二、三、三、三、〇、四	七、四、五、六、七、六、〇	六、八、一、五、六、〇、三	一、四、二、七、二、三、六、三	四、四、七、八、八、〇	三、〇

朝鮮ハ曾テ建國以來二千年ノ歴史ヲ有スル舊邦ナリシモ所謂都府ト稱スヘキモノハ京城、平壤、開城、水原等ニシテ就中京城、平壤ヲ除キ他ハ殆ト廢頽ニ歸シタリ然ルニ日清日露兩戰役ヲ經テ日本

四 重要ナル市街地



人ノ移住頓ニ増加シ仁川釜山ヲ始メ其ノ他ノ開港場ハ整然タル市街地トシテ京釜京仁兩鐵道ヲ開通
以來沿線各地ニ漸次發展ノ步武ヲ進ムルニ至レリ明治三十九年統監府開設セリ居留民限法實施
ラルルニ及ヒ京城、仁川、釜山、平壤、鎮南浦、蔚山、木浦、馬山、元山、大邱、新義州ノ各地ニ
居留民團ノ設置ヲ見ルニ至レリ京城仁川平壤釜山木浦等ニハ水道ノ設置アリ鎮南浦ハ四十二年ヨリ
四箇年計畫ニテ目下經營中ナリ

主ナル集團地ヲ舉クレハ京釜鐵道沿線ニ於テハ京城、龍山、永登浦、仁川、水原、平澤、成歡、烏
致院、江景、大田、永同、金泉、大邱、密陽、三浪津、馬山、釜山ニシテ京義鐵道沿線ニ於テハ汶
山、開城、新幕、沙里院、黃州、中和、平壤、鎮南浦、安州、宣川、新義州、龍岩浦トナシ
沿岸ニ於テハ蔚山、木浦、元山、咸津、清津等トス
今主ナル集團地ニ於クル内地人ノ戶口ヲ朝鮮人等ト對照シテ掲グルハ左ノ如シ

考	備	道 北 鏡 成		道 南 鏡 成		道 原 江		道 北 安 平		道 南 安 平		道 海 黄		道 南 尚 慶		道 北 尚 慶		道			
		計		計		計		計		計		計		計		計		計		計	
		郡	市	郡	市	郡	市	郡	市	郡	市	郡	市	郡	市	郡	市	郡	市	郡	市
	本表中之印章附シタルハ龍山ノ戸口ヲ示シテ外書アラズ	合	計	合	計	合	計	合	計	合	計	合	計	合	計	合	計	合	計	合	計
		合	計	合	計	合	計	合	計	合	計	合	計	合	計	合	計	合	計	合	計
		合	計	合	計	合	計	合	計	合	計	合	計	合	計	合	計	合	計	合	計

裏面白紙

一京城 李朝五百年ノ都府ナリ漢城又ハ漢陽ト稱ス人口約二十五萬ケ有スル朝鮮第一ノ大都會ナリ地形ノ上ヨリ之ヲ觀レハ宛然京都ニ似タリ四圍山岳ヲ以テ繞ラシ、東方ニハ踏駝山峙チ四方ニハ仁王山屹立シ北方ニハ三角山重疊シ東南方ニハ木覓山(南山)蟠踞シテ自然ノ城廓ヲ爲シ西南ノ一隅僅ニ開通セリ漢江其ノ東南ヲ流レ山河襟帶實ニ形勝ノ地ナリ

京城ニハ朝鮮總督府及多數ノ所屬官署アリ總督府ハ南山ノ中腹ニ在リテ市ヲ俯瞰ス京城ニ於ケル日鮮人ハ殆ト相雜居セルノ觀アルモ内地人ノ多クハ南山山麓ニ帶ノ市街及東大門、四大門、南大門ノ附近ニ密集シ商業ヲ營ム者多シ

内地人ノ宗教ニ就テハ東西本願寺別院、日蓮宗、淨土宗、曹洞宗、眞言宗等各派ノ寺院アリ布教ニ從事ス基督教モ明治三十七年五月日本英以教會ノ設立セラレシヲ始メトシ日本基督教會、組合教會、聖公會等教會ヲ設ケ内地人ノ傳道ニ從事セリ尙朝鮮人ノ宗教ニ關シテハ第十三章宗教ノ部ニ讓ル

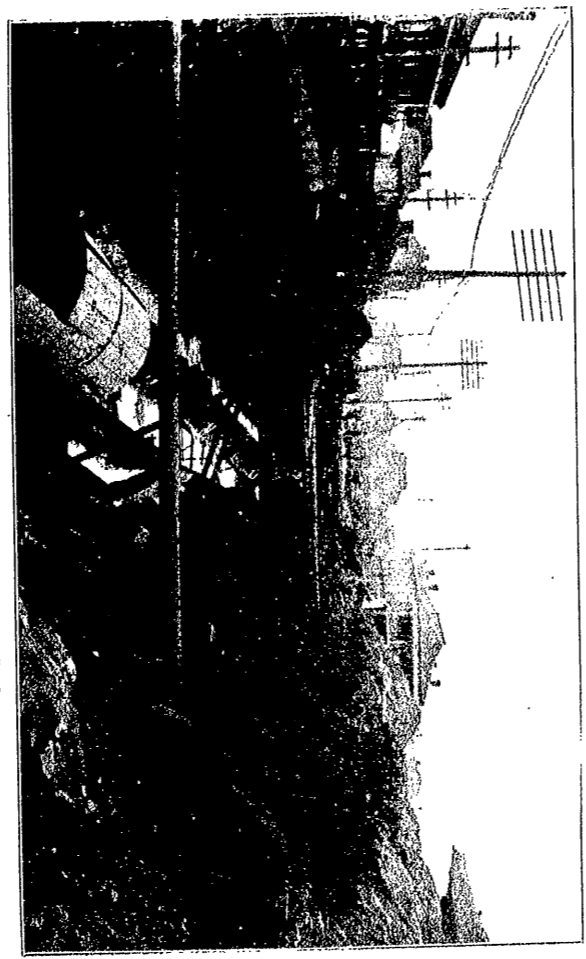
南大門市場ハ日鮮人間ノ日用品商賣ヲ以テ有名ナリ内地人ノ商業繁榮セル地ヲ本町通(俗ニ泥岬街ト稱ス)ト爲ス

電車ハ東大門外清涼里ヨリ鐘路及西大門ヲ經麻浦ニ達シ一ハ鐘路ヨリ南大門ニ延ビ龍山新舊兩市街ニ達シ一ハ故金町通ヲ經テ光熙門ニ達シ交通ノ便ヲ助ケルコト大ナリ亦電信、電話、電燈、瓦斯ノ設備モ今々完成ノ域ニ達セリ只遺憾ナルハ道路ノ狹隘ニシテ市街ノ秩序概シテ整然タラス殊ニ本町通ノ如キ肩摩袂擊ノ状態ヲ呈スルニ在リ因テ本府ニ於テハ夙ニ市區改正ヲ爲スノ計畫アリ大正元年十一月總督府告示第七十八號ヲ以テ其ノ改修豫定計畫ヲ發表セリ

京城ニハ南山公園、總務宮、昌德宮、景福宮、關帝廟、パコタ公園、博物館、動物園等ノ遊覽地アリ京城ヨリ各道廳所在地ニ到ル距離ヲ示セハ左ノ如シ

京城各道廳所在地間里程

地名	鐵道	陸路	水路	合計
公州(忠清南道)	八〇八	六二八		三九〇三
清州(忠清北道)	八〇八	四三〇		三七〇五
光州(全羅南道)	一〇三九	五五〇五		九七二



京城市區改正工事ノ狀況

全州(全羅北道)	一〇三・九	二三・二五	五三・〇	六六・〇五
晉州(慶尙南道)	二六八・八	八・二二	一四三・二三	一四三・二三
大邱(慶尙北道)	一九六・七	一	八〇・〇八	八〇・〇八
海州(黃海道)	五四・一	二二・一三	四三・一四	四三・一四
春川(江原道)	一六四・〇	二二・〇〇	二二・〇〇	二二・〇〇
平壤(平安南道)	三一・七	四・三〇	六七・〇一	六七・〇一
義州(平安北道)	一	六四・二四	一三二・一六	一三二・一六
咸興(咸鏡南道)	一	六〇・一九	八四・三五	八四・三五
鏡城(咸鏡北道)	一	二四・〇七	一七四・〇二	一七四・〇二

二龍山 京城ヲ距ル里餘、漢江ニ臨ム形勝ノ地ニシテ京龍ノ間ハ電車汽車ノ往來頻繁ナリ從來龍山浦下稱シ漢江ノ舟楫ノ便アリ物貨輻輳ス明治四十三年七月龍山居留民團ハ京城居留民團ト合併セラレ而シテ駐劄軍司令部、師團司令部、鐵道局等ノ所在地ナルニ因リ頓ニ繁榮ヲ來セリ京釜、京義兩鐵道線ノ分岐點ニシテ又京元線ノ基點タリ

近時内地人續續移住シ慶賑ニ向フ目下内地人一萬餘小學校アリ一千餘ノ兒童ヲ收容ス金福機關トシ

ヲ八百三十及十八銀行ノ出張所アリ

三永登浦 漢江ノ沿岸ニ在ル一小驛ニ過キスト雖始興郡廳ノ所在地ニシテ且京釜、京仁線ノ分岐點タルヲ以テ漸次發展ノ途ニ在リ郵便局、監獄署、尋常小學校等ノ設備アリ、附近ヨリ農産物、糠瓦等ヲ産出ス

四仁川 京畿道西端ニ突出セル小半島ニ在リ月尾島、小月尾島、沙島等面前ニ横ハリテ内港ヲ圍ミ八尾島通ニ外廓ヲ畫キテ外港ヲ爲ス内港ハ水淺クシテ巨船ヲ入ルルヲ得ス殊ニ潮水ノ干満甚シクシテ大潮時ニハ其差三十二尺ニ及フ而モ平安、黄海、京畿、忠清各道ノ貨物ヲ吞吐シ内地各港及滿洲要港トノ定期航海アルヲ以テ貿易ハ朝鮮ニ於ケル第一位ヲ占ム

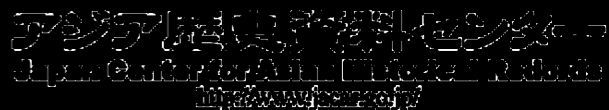
内地人ノ居住スル者一萬千四百七十四人ニ達シ府廳、地方法院支廳、居留民團、小學校、女學校、病院等ノ設備アリ電燈、電話、水道等ノ設備亦完備セリ
仁川ヨリ諸要港ニ至ル航程ヲ擧ケレハ

至鎮南浦	二二七	至長崎	四五九	至芝罘	二七二
同群山	一一二	同神戶	二六一	同大沽	五三五

同木浦	二七〇	同大阪	三八一	同牛莊	四三八
同釜山	四三二	同濱州	〇八九	同上	四九三
同下關	五〇〇	同大連	二八七	同浦鹽	一〇五〇

五水原 京城ヲ距ル南二十五哩ニ在リ京釜線ニ沿フ一部府ナリ水原城ハ往時正宗大王ノ築ク所ニシテ三方繞スニ山ヲ以テシ壁ヲ以テ之ヲ抱ク今ヤ殆ト廢積ニ歸セリト雖蒼龍、八達、華四等ノ遺跡アリ四方一帶ノ地ハ空漠タル平野ニシテ鬱蒼タル八達山ノ西西湖ノ池ヘルアリテ風光雅ナリ此ノ地ニ朝鮮總督府勸業模範場アリ農産物ノ標本ヲ陳列シ種苗家畜ヲ培養シ一般希望者ノ觀覽ヲ許ス其ノ他地方法院支廳、慈惠醫院、警察署、農林學校種苗圃等アリ目下居住セル内地人七百七十六人アリ

六平澤、成歡、烏致院 共ニ京釜線ニ沿ヒタル一小驛ニ過キサルモ將來農業發展ノ地トシテ曠目セラル平澤附近ハ平野ニシテ米、大豆ノ産出多シ雁、鴨、七面鳥、鵝、雉子等鳥類ニ富ミ獵客ノ遊ブモノ多シ成歡ハ日清戰爭ノ古戰場ニシテ平澤ト共ニ農産地トシテ將來有望ノ地ナリ同地ニハ小學校



憲兵分遣所アリ

島致院ハ忠清南道及全羅北道ニ通スル要地ニ在リ附近ノ農産物ノ輻輳スル所ニシテ近時漸次發展ノ途ニ在リ内地人ノ居住セル者約六百人ニ上ル此地ニハ古來有名ノ市場アリ又燕岐郡廳、小學校、憲兵分遣所アリ

七 大田 京釜線ニ於ケル都會ノ一ニシテ湖南線ノ分岐點ナリ物貨ノ集散スルコト大邸ニ亞ク懷徳郡廳、守備隊、地方法院支廳、警察署、郵便局、小學校、興業會社等ノ設アリ

八 濟州、公州、江景 濟州ハ忠清北道廳ノ所在地ナリ地方法院支廳、警察署、守備隊アリ近時内地人ノ移住スル者千三百餘人ニ達ス

公州ハ忠清南道廳所在地ニシテ三方山ヲ以テ蔽ハレ錦江其ノ北ヲ流ル京釜線ノ英江驛ニ下車シ輕舟ニ乗シ河ヲ下レハ僅ニ四時間ニシテ達スルヲ得ヘシ地味豊饒ニシテ農産ニ適シ内地人ノ居留者約千四百餘人ニ及フ地方法院、警察署、小學校等アリ

江景ハ忠清南道恩津郡廳ノ所在地ニシテ現ニ湖南線ノ要驛タリ錦江ニ臨ミ舟楫ノ便アリ群山下ハ水



京 全 川 仁

陸共ニ交通至便ナルヲ以テ貨物集散シ古ヨリ朝鮮三大市場ノ一トシテ數ヘラル内地人ノ居住スル者約千五百人有名ナル農産地ナリ

九大邱 慶尙北道ノ大都會ニシテ京釜線中大驛ノ一ナリ嘗テ府城ノアリシ所ナルモ市區改正ト共ニ之ヲ撤去シ今ヤ大ニ舊觀ヲ改メタリ市街ヲ距ル十餘町ニシテ達城公園アリ山頂平坦眺望ニ當ム洛東江近ク流レテ舟楫ノ便アリ以テ釜山ニ連スルヲ得ヘシ

大邱一帯ノ地ハ空漠タル平野ニシテ土壤肥沃農産ニ適ス米、大豆、果樹、棉花、煙草等ヲ其ノ主要ナルモノトス而シテ大邱ハ釜山、京城ノ要路ニ當リ慶尙、全羅、忠清、江原諸道ヲ控ヘ且洛東江水運ノ便アルヲ以テ商業發昌ナリ又此ノ地ハ古來有名ノ市ニアリ一ハ四門ノ市ト云ヒ他ハ東門ノ市ト云フ前者ハ陰曆二、七ノ兩日ニ開カレ後者ハ四、九ノ兩日ニ開カル市日ニハ附近ヨリ數千ノ鮮人相集合シ雜沓ヲ極ム尙二市ノ外ニ令市アリ舊韓國政府時代ニハ毎年命令ヲ以テ春秋二季ニ五十日間ヲ限リテ開設セシム故ニ此ノ名アリ各道各郡ノ商賈引キモ切レス看者列ヲナシ眞ニ盛觀ナリ内地人ノ數約六千三百餘ヲ算シ道廳、府廳、覆審法院、地方法院、守備隊、警察署、居留民團、學校、郵便

十密陽、三浪津 密陽ハ慶尙南道ニ在ル小都會ニシテ三方ニ山ヲ負ヒ南方ノ一面遠ク平野ニ達リ、
川濬下シテ其ノ間ヲ縫ヒ楸川ヨリ密陽ニ至ル沿岸ノ地風光明耀ノ所少ナカラス、澗川ノ清流能ク結
ヲ産ス近時農産地トシテ漸次開發セラレ内地人ノ移住スルモノ多シ三浪津ハ密陽ノ南洛東江ノ東北
ニ在リ馬山鐵道線ノ岐ルル所ニシテ穀物、果實、野菜ノ産地トシテ知ラル

十一馬山 三浪津驛ヨリ鐵路一時間ヲ出テスシテ馬山ニ達スヘシ馬山ハ慶尙南道ノ南端ニ位シ東ニ
丘陵ヲ負ヒ巨濟島ヲ外廓トシテ鎮海灣其ノ前方ニ横ハル海路僅ニ四十裡ニシテ釜山港ニ達スルヲ得
開港トシテノ馬山ハ明治四十三年ヲ限リ閉鎖セラレタル釜山稅關長ノ特許ヲ受ケ又ハ朝鮮開港ニ
於テ稅關ノ手續ヲ了シタル帝國船舶ハ特ニ出入スルコトヲ許サル内地人ノ居住スル者新舊馬山ヲ合
シテ五千七百餘人ニ及フ府廳、地方法院支廳、居留民團、小學校、病院、警察署、銀行等アリ

十二鎮海 鎮海灣軍港ノ所在地ナリ灣ハ馬山半島ト固城半島トノ間ニアリテ巨濟島其ノ南ニ横ハリ
灣内廣闊水深クシテ優ニ幾多ノ巨艦ヲ碇泊セシムルニ足ル新市街ハ馬山府龜山面縣洞ニアリテ山

ヲ負ヒ水ニ臨ミ頗ル形勝ノ地ナリ月日ヲ逐フテ増加シ今ヤ内地人戸數千八百八十九、人口四千九百
六十一ヲ算スルニ至ル若シ其レ鐵道ノ馬山ニ通シテ東釜山ト相呼應スルニ至ラハ其ノ繁榮更ニ見ル
ヘキモノアラシ

十三釜山 朝鮮ノ南端ニ在ル良港ニシテ一衣帶水ヲ隔テテ對馬ヲ迎ヘ本土ト相對ス東南ハ海水深ク
灣入シテ一大港灣ヲ形リ絶影島、冬柏島港口ニ横ハリ天然ノ助壁ヲナシ港内水深クシテ大船巨舶ヲ
泊スヘシ、市街ハ龍頭山ヲ中心トシテ東西ニ擴ガリ尙北草梁、釜山鎮ニ到ル釜山ハ早クヨリ内地ト
交通アリタル所ナルヲ以テ内地人ノ移住セルモノ多ク殆ト内地市街ヲ見ル感アリ現今關釜ノ間ニハ
毎日一回乃至二回ノ定期航海アリテ鐵道院其ノ任ニ當リ内地朝鮮間ノ聯絡ヲ保チ僅ニ二十時間ヲ出テ
スシテ渡航シ得ヘシ、又釜山ヨリ内地要港朝鮮滿洲諸港及露領浦鹽ニ至ルノ航路アリ

釜山ノ貿易ハ年々歲歲増加シ其ノ貿易高ハ朝鮮諸港中第二位ヲ占ム其ノ輸出品ノ主ナルモノハ米、
大豆、海草、魚類、生牛、牛皮、牛骨、砂金等ニシテ輸入品ノ主ナルモノハ木綿、金巾、石油、食
鹽、酒、煙草、醬油、燐寸、紡織糸、砂糖其ノ他雜貨類ニシテ其ノ輸出先ハ内地、清國、浦鹽新德

新嘉坡等ニシテ其ノ輸入地ハ日、清、米、英、露、獨、佛等ナリトス
 宏壯ナル釜山停車場新ニ成リ築港ノ設備著者進行シ關釜聯絡ノ施設完成シ府廳、地方法院、郵便
 電信局、各種學校、居留民團等アリ内地人ノ移住スル者逐年増加シ人口二萬五千二百有餘ニ上リ
 釜山ヨリ諸要港ニ至ル航程ヲ舉ケレハ

至	下	關	濱	崎	浦	山	山	群
一 二 二	七 一 三	一 六 二	二 一 〇	三 三 九	三 五 七	同	同	同
神	仁	鎮	各	同	同	同	同	同
川	南	東	港	同	同	同	同	同
戸	浦	東	各	同	同	同	同	同
同	同	同	港	同	同	同	同	同
三	四	五	五	六	六	四	四	四
六	三	〇	〇	二	二	二	二	二
同	同	同	同	同	同	同	同	同
大	浦	大	芝	上	元	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同
三	六	六	七	五	五	三	三	三
八	四	四	五	四	四	一	一	一
六	八	八	〇	〇	〇	八	八	八

十四木浦 全羅南道ノ四南端ニ在ル其港ニシテ附近奇巖島嶼ニ富ミ風光佳ナリ港内水深ク大船巨舶
 ナ泊スルニ足ル市街ハ論達山ノ麓ニ在リテ小都會ヲ爲シ沿海各地及内地諸要港トノ間ニ定期航路ア
 リ商業繁榮ナリ榮山江海ニ至ル沿岸一帯ノ地ハ沃野ニシテ農産物ニ富ミ又棉花栽培ヲ以テ名アリ、



釜山港陸路設備ノ狀

内地人ノ居住スル者四千九百人ニ及フ府廳、地方法院支廳、居留民團、學校、警察署、郵便局等アリ
十五群山 木浦ト共ニ南鮮ニ於ケル貿易港ニシテ錦江ノ江口ニアリ、錦江ハ舟楫ノ便アリテ上流公
州、江景ニ達スルコトヲ得ヘク全州道路ノ開通アリテ交通ノ便多キヲ以テ附近一帯ノ沃野ヨリ巨額
ノ農産物此ノ地ニ輻輳ス木浦仁川及内地トノ定期航路アリ又湖南鐵道ノ支線既ニ開通シ京城トノ往
復至便トナレルヲ以テ益發展ノ途ニ在リ目下内地人ノ居住スル者四千四百人ニ及ヒ府廳、地方法院
支廳、警察署、稅關支署、居留民團、學校等アリ
十六開城 高麗朝四百七十年間ノ首都ニシテ一ニ松都ト稱ス、京城ノ北十六里ノ處ニ位セル京義線
ニ於ケル著名驛ノ一ナリ今ヤ著名ノ古城廢蹟ニ歸シ見ルヘキモノナシト雖高麗時代ノ陵廟城外ノ堞
壁古城ヲ覆フ鬱蒼タル老樹等ハ徐ニ往時ヲ偲ハシムルモノアリ朝鮮ノ一名勝地タルヲ失ハス
開城ハ高麗燒ノ名産地トシテ知ラルルモ既ニ其ノ製法ノ傳ハラサヤ久シ往時高麗朝時代ノ遺器殘
陶ヲ見ルニ過キス近時傳ハルモノノ多クハ墳墓ヲ發掘シテ得タルモノニシテ頗ル高價ナリ又開城ハ
人畜ノ産地トシテ知ラルル其ノ產出高ハ毎年二萬斤内外價格約百萬圓ニ達ス其ノ他米穀、野菜、果物、

大豆等ヲ産ス内地人ノ居住スル者一千二百六十五人アリ地方法院支廳、警察署、學校、銀行、郵便局、田稅局出張所等アリ

四六

十七新幕、沙里院 新幕、沙里院共ニ黃海道ニ在リ京義線ノ完成ニ伴ヒ發展シタル新開地ニシテ、新幕ハ耕炭、米穀、大豆等ヲ産出シ新溪地方ノ産出茲ニ集リ内地商人ノ入り込ム者少ナカラス學校、警察署、郵便局等アリ内地人五百八十有餘人アリ沙里院附近一帶ノ地ハ空漠タル沃野ニシテ米穀、大豆等ノ産出頗ル多シ鳳山郡廳、東拓出張所、銀行、學校、郵便局等アリ

十八黃州、兼二浦 黃州ハ京義線ニ沿フ一驛ニ過キスト雖多數ノ朝鮮人軒轅ヲ列ヘ市場頗ル盛ナリ穀物、鐵礦ノ産出アリテ近時邦人ノ移住スル者多シ此地ヨリ鐵路分岐シ半時ニシテ兼二浦ニ達スルヲ得、兼二浦ハ鎮南浦ノ東十里ノ所ニ在ル一河港ニシテ航行ノ利アルヲ以テ曾テハ鎮南浦トノ間ニ一日數回汽船ノ航行アリ近海ニ於ケル捕魚ハ多ク茲ニ集マリシカ平南線ノ開通ニ因リ平壤鎮南浦間ノ交通便トナリシヲ以テ今ヤ晝日ノ便益ヲ有セサルニ至レリ黃州ニハ郡廳、學校、警察署、郵便局興業會社等アリ

十九平壤 平壤ハ朝鮮ノ舊都ニシテ箕子及高句麗ノ據リシ處ナリ東南大同江ニ臨ミ北方大城山ヲ負ヒ頗ル要害ノ地タリ此ノ地ハ南京城ヘ五十里、北義州ヘ五十三里、東元山ヘ五十二里、西鎮南浦ヘ十里ニシテ京城以北樞要ノ地點トス京義鐵道完成シ大同江舟楫ノ便アルニ加フルニ平南線ノ開通ニ因リ鎮南浦港トノ交通開クタルヲ以テ今ヤ北鮮ニ於ケル物貨輻輳ノ中心トナレリ殊ニ附近一帶ハ遠ク空漠タル平野ニ連ナリ、加フルニ土壤豐沃ニシテ穀物ヲ産出シ平壤米ハ其ノ品質ノ良ヲ以テ名アリ然レトモ此ノ地ハ比較的寒暑ノ差甚シキヲ以テ從來内地人ノ移住スル者少カリシカ日露戰爭以來頗ニ其ノ移住ヲ増加セリ

平壤在留内地人月口表

年次	月	數	人	口
明治四十五年六月末		二,一〇一		七,三四五
同 四十四年末		一,九五五		六,九六二

第二章 地誌

四七

明治四十三年末
同 四十二年末
同 四十一年末

一、九七七
二、〇八九
一、八二三

六、四四三
七、四三三
六、八四九

斯ノ如ク内地人年々増加シ急激ノ膨脹ニ由リ四方ニテ街衢ヲ爲スニ至レリ主要ナル産物ハ米、大豆、牛皮等ニシテ近時平壤無烟炭ノ聲價亦漸ク世人ニ認メラル道廳、旅團司令部、府廳、宿衛法院、地方法院、平壤礦業所、居留民團、學校、病院、警察署、郵便局、銀行、旅館其ノ他電燈、電話、水道等ノ公共的施設完備セリ牡丹臺ハ形勝ノ地トシテ有名ナリ二十嶺南浦、平壤ヲ距ル四十六里、大同江ノ江口ニ在ル貿易港ナリ、黄海、平安兩道ノ山岳相擁シテ天然ノ防波堤ヲ作り港内水深ク十五乃至二十尋ナ有シ幅員一里ニ互リ波靜ニシテ恰モ湖水ノ如シ大同江舟楫ノ利アルニ加フルニ平南間ノ鐵道開通シタルヲ以テ貨物澹滞ノ虞ナキニ至レリ周圍遶ラズニ山ヲ以テシ飛渡島ハ港ノ東方ニ在ル形勝ノ地ナリ嶺南浦ヨリ仁川、下關ヲ經由シテ阪神ニ至ルモノト仁川、群山、木浦、釜山ヲ經由シテ達スルモノトノ二航路アリ又清國安東縣及大連其ノ他諸

要港ニ到ルノ航路アリ此ノ地ヨリ各港ニ至ル距離ヲ擧ケレハ左ノ如シ

至仁川	二二七	至下關	五五六	至長崎	五一六
同 群山	三二四	同 神戶	七九五	同 安東縣	一七二
同 釜山	五四〇	同 大阪	八一五	同 大連	一八〇
同 釜山	五八〇	同 橫濱	一、二四五	同 旅順	二二〇
同 釜山	四〇〇	同 芝罘	二〇二	同 元山	八〇二
同 釜山	六五〇	同 上海	六九〇	同 鹽山	一、一〇六

此ノ地日清戰爭前ニ在リテハ月數僅ニ三三ナ有スル一流村ニ過キサリシカ日清及日露ノ兩戰役ニ因リ内地人ノ移住スル者著シク増加シ忽チニシテ一重要港ト爲ルニ至レリ加フルニ平壤ノ咽喉ニ當リ黄海平安兩道ノ貨物ヲ吞吐スル要路ナルヲ以テ他日樂港ノ完成スルニ至ラハ一層ノ盛況ヲ見ルヘシ

嶺南浦在留内地人累年戶口表



年次	戸数	人口
明治四十五年六月末	一、三二四	四、六三九
同四十四年六月末	一、二〇四	四、二七三
同四十三年六月末	九九七	三、六九八
同四十二年六月末	八八八	三、一九七
同四十一年六月末	七八〇	二、八一六

五〇

府廳、地方法院支廳、居留民團、警察署、郵便局、學校等アリ

二十一新義州 鴨綠江ノ南岸ニ在ル一部府ニシテ東方ハ丘陵ヲ以テ遼ラシ四方ハ一帯ノ平野ニ連リ鴨綠江ヲ隔テ遼ニ瀋陽安東縣ニ對ス鴨綠江ハ幅員十餘町湖氷ノ干満甚シク其ノ差十三呎ニ及フト雖能ク巨船ヲ容ルヘク舟楫ノ便江上數十里ニ及フヲ以テ貨物ノ集散頗繁ナリ殊ニ京義線ノ完成セルヲ以テ朝鮮内陸トノ交通便利トナリ京城ニ到ルニハ三百十一哩、十三時間ニシテ遼スヘク釜山ニハ五百八十五哩、一晝夜ニシテ遼スヘシ今ヤ鴨綠江橋梁落成シ滿鮮ヲ連絡シ安奉線ニ由リテ直ニ

哈爾濱ニ達シ更ニ四比利亞線ニ由リテ歐洲ニ到ルヘシ實ニ東亞ヨリ西歐ニ至ルノ旅程ハ最安全ニシテ最短縮セラルルニ至レリ

新義州ハ北鮮ノ極端ニ在ルヲ以テ寒氣甚シク酷寒ノ際ハ零下二十六度ニ及フコトアリ鴨綠江積氷ノ期ハ毎年十一月ヨリ翌年三月ニ及フ江畔一帯ノ平野ハ沃饒ニシテ耕作ニ適ス近時内地人ノ移住スル者多ク農作、牧畜ノ業ニ従事スル者少カラス

新義州在留内地人累年戸口表

年次	戸数	人口
明治四十五年六月末	六九二	二、三九九
同四十四年六月末	六二六	二、三三〇
同四十三年六月末	六八二	二、二〇〇
同四十二年六月末	六二五	一、九七六
同四十一年六月末	五一五	一、五三五

五一

府廳、警察署、郵便局、營林廠、居留民團、學校等アリ

二十二元山 元山ハ日本海ニ面セル北鮮唯一ノ貿易港ニシテ葛麻牛島ハ虎島ト相擁シテ水與灣ヲ成シ灣内ニハ十數餘ノ島嶼散在シ日本海北部ノ寒流ヲ受ケルコト少ク港内氷結ヲ見ルコト稀ナリ灣内潮流緩慢ニシテ水深ク大船巨舶ヲ容ルヘク市街ハ望徳山ノ麓ニ在リ元來朝鮮東海岸ハ其港灣ニ乏シキ方故ニ地形上日本海沿岸ニ於ケル貨物並露領ヨリスル貨物ハ此ノ地ニ輻輳ス數年ノ後東京線開通セハ日本海沿岸ニ於ケル貨物及露領ヨリスル貨物ハ釜山、仁川ヲ經由セスシテ直ニ京城及朝鮮内地ニ輸入セラレ又内陸ノ貨物ハ直ニ元山ニ出テ各處ニ集散セラルルニ至ルヘシ元山ヨリ要所ニ至ル距離ヲ示セハ左ノ如シ

至京	城	至清	至浦
二七四	二七四	二〇五	三三〇
同釜山	三一八	同下	三八八
同城津	一二四	同長崎	四〇六

元山ヨリ各處ニ通スル道路ハ頗ル不完全ナルヲ以テ貨物ノ集散甚タ緩慢ナリ從テ物價ノ昂騰ヲ免レ

ス又元山近海ハ魚類ニ富ムト雖販路頗ル不利ナルヲ以テ漁業ニ從事スル者少シ東京鐵道ノ完成ハ目下ノ急務ナリトス

元山在留内地人累年戸口表

年次	戸	數	人	口
明治四十五年六月末		一、三九五		五、九三三
同四十四年末		一、三七二		五、五六四
同四十三年末		一、一七九		四、六二九
同四十二年末		一、一四三		四、四二八
同四十一年末		一、〇二五		三、七八〇

府廳、地方法院支廳、警察署、郵便局、居留民團、學校、病院、銀行等アリ

二十三城津 元山ノ北方百二十四里ノ所ニ在ル咸鏡道沿岸ノ小港ニシテ浦鹽斯德ハ近ク百九十六里ノ所ニ在リ咸鏡道一帯ノ貨物並ニ輻輳ス輸出品ノ主ナルモノハ大豆、生牛、銅等ニシテ輸入品ニ在

第二章 地誌

リテハ金市、木綿、紡績、シロチンカ等其ノ主ナルモノナリ目下内地人ノ在住スル者六百九十二人アリ

二十四港津 北鮮ニ於ケル要港ノ一ニシテ浦鹽斯德ニ近ク咸鏡北道ノ北方ニ於ケル開港場ナリ北鮮一帯ノ貨物農産物ノ集散地ナルト聞鳴、鏡城(道廳所在地)、羅南ニ出入ノ咽喉ニ當レルカ故ニ近來急ニ繁榮チ加ヘ城津ヲ凌クニ至レリ内地人ノ移住スル者千七百餘人ナリ

清津在留内地人累年戸口表

年次	月	數	人	口
明治四十五年六月末		四七四		一、七二七
同 四十四年六月末		六三五		二、〇七四
同 四十四年三月末		四七五		一、七〇〇
同 四十二年三月末		四八三		一、七二二
同 四十一年三月末		三八九		一、二四六

二十五鐵原 鐵原ハ江原道ノ西北部ニシテ京城ヲ距ルコト東北約二十一里餘ノ處ニ在リ京元鐵道沿

線ノ小郡邑ナリ京元線ハ未ダ完成ニ至ラズト雖此ノ地ハ其ノ竣成部分ノ終點ニシテ京釜鐵道山驛ヲ距ル六十哩餘毎日二回汽車ノ發着アリ將來全通ノ際ハ京元線ノ中間驛トシテ便利今日ニ倍進シ隨テ百貨集散主要驛ノ一ニ第スルニ至ルヘシ内地人ノ移住スル者三百九十七人ナリ

第三章 地方行政

第一節 道、府、郡

朝鮮ハ之ヲ分テ京畿道、忠清北道、忠清南道、全羅北道、全羅南道、慶尙北道、慶尙南道、黃海道、平安南道、平安北道、江原道、咸鏡南道、咸鏡北道ノ十三道、京城、釜山、馬山、群山、木浦、大邱、仁川、平壤、鎮南浦、義州、元山、清津ノ十二府及三百七十七郡ト爲ス、道ニ道長官、府ニ府尹、郡ニ郡守ヲ置キ各區劃内ニ於ケル行政事務ヲ掌ラシム

道、府郡ハ行政區劃トシテハ内地ノ府縣、郡ニ該當シ其ノ機關ノ組織及職務權限等亦大ニ相似タル所アレトモ其ノ著シク相異レル點ヲ舉クレハ警察事務ハ道長官ノ所管外ニシテ此ノ事務ノ爲各道ニ警務部長ヲ置ケルコト、國稅ニ關スル事務ハ道長官ノ所管ニシテ之ガ爲道ニ財務部長ヲ置ケルコト又府郡ニテハ土地家屋證明事務(内地ノ不動産登記事務)及民事裁判ノ結果ニ依ル強制執行事務(内地ノ執達吏ノ事務)ノ一部ヲ取扱ヘルコト是ナリ

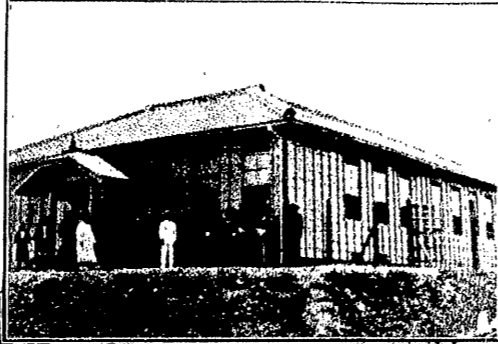


忠清北道廳



平安南道廳

京鐵道龍仁郡廳



京鐵道高陽郡廳



京鐵道京城府龍山面事務所



第二節 面

各府郡ノ下ニ面ヲ置ク其ノ數四千三百四十一トス

而ハ朝鮮ニ於ケル最下級ノ行政區劃タルノ點ニ於テハ内地ノ市町村ニ匹敵スレトモ市町村ノ如キ自治團體ニハ非ス

面ニハ面長公錢領收員、面書罷、洞里長等ヲ置ケリ面長ハ道長官之ヲ任命シ公錢領收員ハ概シテ面長ノ推薦ニ依リ府尹又ハ郡守之ヲ任命シ面書罷及洞里長ハ面長之ヲ任命スルノ例多數ナルモ中ニハ府尹又ハ郡守ニ於テ任命スルモノアリ

面長ハ面事務ヲ統轄シ公錢領收員ハ關稅地方費ノ徵收及面經費ノ出納ヲ掌リ面書罷ハ面長ノ事務ヲ補助シ洞里長ハ洞里(内地ノ市町村ノ區ニ類ス)ニ關スル事務ニ付面長ヲ補助ス

面吏員手當及事務執行ニ要スル費用ハ面ノ負擔ニシテ其ノ支出並負擔ノ方法ハ道長官ノ認可ヲ得テ府尹又ハ郡守之ヲ定ムルモノトス各地方ノ實況ニ依レハ面經費ノ財源ハ財產收入、國稅地方費徵收ニ關スル交付金其ノ他ノ雜收入ニ依リ仍不足アルトキハ面費ヲ賦課スルノ方法ナルモ實際諸收入ノ

ミナ以テ支辨シ得ルモノナク概ホ若干ノ賦課ヲ爲シツツアリ其ノ賦課目ハ月數割、家屋割及結數割
(地稅附加稅)等ナリ

第三節 公共團體

一 居留民團

始メテ居留民團ヲ設立シタルハ明治三十九年八月ニシテ京城、仁川、釜山、鎮南浦、平壤、群山、
木浦ニ在ルモノ即チ是ナリ同年九月馬山、元山相亞テ之ヲ設置シ同年十一月大邱ニモ亦之ヲ設置セ
リ其ノ後明治四十一年二月新義州ニ於テ之ヲ設置シ以テ現在ニ到レリ
民團ノ區域ハ市街地ノ全部並市街地附近ヲ包含シ零、六方里乃至六方里ニ至レリ
(イ) 居留民團ノ事業

從來居留民團ノ經營セル事業ノ主要ナルモノヲ舉ケレハ各民團ノ小學校、京城、仁川、釜山ノ高
等女學校、仁川釜山商業專修學校、京城、仁川、鎮南浦、群山、大邱ノ幼稚園、釜山、元山ノ病院、

釜山、木浦ノ上水道、平壤、群山、木浦、元山ノ屠場、各民團ノ治水交通ニ關スル土木、群山以
外ノ消防組、各民團ノ墓地及火葬場等ニシテ就中小學校ノ施設ハ殆ト完備セリ

本年度ニ於ケル施設事業ノ主ナルモノハ釜山ノ丘草掘鑿及海面埋立、群山ノ水道敷設、新義州ノ
防堤築造、馬山ノ市區改正、仁川、鎮南浦、平壤、木浦及大邱ノ學校增築等ナリトス而シテ之
ニ要スル經費ハ多額ニシテ通常歲入ヲ以テ支辨スルハ到底民力ノ堪フル所ニアラサルカ故ニ其ノ
大部分ハ起債及國庫補助ニ依レリ今左ニ大正元年度歲入出豫算ノ概要ヲ掲記スヘシ

明治四十五年度居留民團歲入出豫算

歲入ノ部

科	目	京城	仁川	釜山	馬山	鎮南浦	平壤	群山	木浦	元山	大邱	新義州	計
經常	戶別稅	一,五七〇,〇〇〇	一,八六四,〇〇〇	三,三三三,〇〇〇	九二二,〇〇〇	三,三三三,〇〇〇	一,九一三,〇〇〇	九三三,〇〇〇	五〇九,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,三三三,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇
營業	稅	四六九,〇〇〇	三三三,〇〇〇	三三三,〇〇〇	六八三,〇〇〇	三三三,〇〇〇	一,三三三,〇〇〇	九〇三,〇〇〇	八三三,〇〇〇	六六九,〇〇〇	五六九,〇〇〇	二六六,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇

第三章 地方行政

二千六十九圓ノ巨額ニ達シタルモ大正十九年度ヲ期シ全部辦濟ノ豫定ナリ

六四

二 學校組合

學校組合ハ居留民團區域以外ノ地ニ集團セル内地人ニ於テ組織スル公共團體ニシテ専ラ教育事業ヲ經營シ土地ノ狀況ニ由リ附帶事業トシテ衛生事務ヲ處理スルヲ以テ目的トス
内地人ノ渡鮮スル者漸次多キヲ加ヘ殊ニ從來ノ日本人會(一定ノ地内ニ於ケル公共事務處理ノ目モ)ハ概ネ學校組合ニ變更シタル結果明治四十四年九月末ニ於テハ組合數百三十一ニ過キサリシニ大正元年九月末日ニ達テハ百八十ヲ算スルニ至レリ今各道別ニ組合數戶數人口生徒數ヲ調査シ併セテ財政ノ概況ヲ左表ニ示スヘシ

學校組合各道別調

明治四十五年四月末現在

道名	組合數	戶數	人口	生徒數	負債合計額
京畿	一三	一四二八	五一三三	六一六	三
					一九六四
					一
					二三五



忠 清 南 大 田 學 校 組 合 役 場



場 役 合 組 校 學 田 大 運 南 藩 忠

合計	成北	成南	江原	平北	平南	黄海	慶南	慶北	全南	全北	忠南	忠北
一六五	六	七	七	二	五	二	三	三	一	一	一	一
二〇八六二	二〇九	八九五	五四九	一〇一六	三三七	二二八	五四八二	二二八	一七〇九	一三〇三	一七五二	八二六
七二九三	七六〇八	二七九四	一七〇四	二九四三	一〇八〇	三五九〇	二〇一九五	二〇三三	四六〇九	五六一七	一〇六二五	二六五五
七二七二	五五〇	二五七	一〇八	二七四	一一六	四一九	二〇三三	二〇三三	五一六	五七七	一〇〇五	二九九
七八一	四	三	三	九	三	六	三三	六	一	一	一	三
一六三三九二	一三二二四	三〇五	四、五〇二	二八五四	一八八〇	九、九四六	二七、六七六	三三七七	六三三五	二二七	六三三五	三二一
一七	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二一、八〇一	二〇〇〇	九〇〇	九〇〇	九〇〇	九〇〇	九〇〇	四、九六六	七〇〇	六〇〇	一、〇〇〇	二〇〇	二〇〇

(備考) 本表基本財産申主ナルモノハ校舍及校舍敷地竝其ノ他ノ土地ニシテ負債總額申約八割
ハ學校設備ニ要セシモノ附餘ノ二割ハ居場設備費其ノ他ニ要セシモノナリ

學校組合歳入出豫算

数字右側ハ四十四年度
数字左側ハ大正元年度

道名	組合歳入		組合歳出		組合歳計
	大正元年度	四十四年度	大正元年度	四十四年度	
京畿	1,000,000	1,200,000	800,000	900,000	200,000
忠北	500,000	600,000	400,000	500,000	100,000
忠南	400,000	500,000	300,000	400,000	100,000
全北	300,000	400,000	200,000	300,000	100,000
全南	200,000	300,000	100,000	200,000	100,000
慶北	100,000	200,000	50,000	100,000	50,000
慶南	100,000	200,000	50,000	100,000	50,000
黄海	50,000	100,000	20,000	50,000	30,000
合計	2,500,000	3,000,000	1,800,000	2,300,000	700,000

道名	組合歳入		組合歳出		組合歳計
	大正元年度	四十四年度	大正元年度	四十四年度	
平南	1,000,000	1,200,000	800,000	900,000	200,000
平北	500,000	600,000	400,000	500,000	100,000
江原	400,000	500,000	300,000	400,000	100,000
咸南	300,000	400,000	200,000	300,000	100,000
咸北	200,000	300,000	100,000	200,000	100,000
合計	2,500,000	3,000,000	1,800,000	2,300,000	700,000

水利組合

(備考) 本表中其ノ他收入ハ主トシテ居場收入並投票料收入ナリトス

水利組合ハ明治三十九年三月度支部令第三號水利組合條例ニ依リ設立スル所ニシテ其ノ目的土地ノ灌漑開拓保護ニ在リ組合ノ最早早ク設立セラレタル全州平野ニシテ天然ノ地形ハ大ニ之カ發展ヲ促シ組合ノ事業亦見ル可キモノアリ左ニ現在ノ組合概況ヲ表示ス尙近來農事ノ改良發達ニ伴ヒ水利

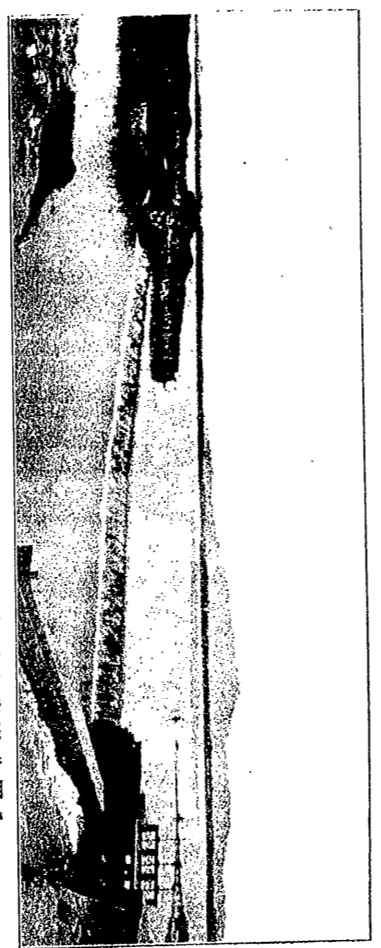
第三章 地方行政



事業ヲ經營スル者漸次各地ニ勃興ノ兆アリ
 水利組合一覽

大正元年十月末現在

組合名	事務所所在地	規約認可年月日	起債認可額	組合區域	目的
沃溝四部	全羅北道 蔚山府	明治二十二年三月八日	三三九五〇〇	全羅北道蔚山府米面内ニテ米面七町歩	一、貯水池及灌溉水路ノ改善及灌溉水路ノ築造補修及種管ノ築造補修及種管ノ築造補修 二、貯水池及水路ノ築造補修 三、其ノ他水利ニ必要ナル施設
臨益	全羅北道 蔚山府	明治二十二年三月八日	三三九五〇〇	全羅北道蔚山府米面内ニテ米面二里一町歩	一、貯水池及水路ノ築造補修 二、其ノ他水利ニ必要ナル施設
密陽	慶尚南道 密陽府	明治二十三年三月廿五日	二〇〇〇〇〇	慶尚南道密陽府米面内ニテ米面三町歩	一、貯水池及水路ノ築造補修 二、其ノ他水利ニ必要ナル施設
陽	密陽府内 密陽谷洞	明治二十三年三月廿五日	一〇〇〇〇〇	密陽府内密陽谷洞ニテ米面三町歩	一、貯水池及水路ノ築造補修 二、其ノ他水利ニ必要ナル施設



全羅北道益都水産組合築堤流池第一門

部 南 益 臨	益 全	山 連
山 全 郡 羅 裡 北 益 道 益 益	山 全 郡 羅 大 北 揚 道 村 益	山 忠 郡 清 馬 南 九 道 坪 連
同 明 治 治 三 三 十 十 三 三 年 年 三 三 月 月 三 三 日 日	同 明 治 治 三 三 十 十 三 三 年 年 三 三 月 月 三 三 日 日	同 明 治 治 三 三 十 十 三 三 年 年 三 三 月 月 三 三 日 日
一 二 五 五 〇 〇 〇 〇	一 二 五 五 〇 〇 〇 〇	五 五 三 三 五 五 〇 〇
全 益 羅 山 北 郡 道 南 臨 二 益 里 南 四 二 里 十 四 三 里 八 里 二 千 三 百 八 十 四 町 步	全 益 羅 山 北 郡 道 南 臨 二 益 里 南 四 二 里 十 四 三 里 八 里 二 千 三 百 八 十 四 町 步	忠 益 清 山 南 郡 道 大 連 人 一 一 里 一 一 里 七 七 二 二 町 町
一、萬頃江上流分水 二、新設防潮堤及樋管 三、築造修補水利ニ必 要ナル施設	一、紅四面驛走項ノ 水路ヲ改修シ其ノ 區域内ノ灌溉水路 ヲ完成スルコト 二、前項ノ外之ニ隨 件セル必要ナル施 設ヲ爲スコト	一、水利ヲ圖ル爲疎 鑿開拓植林ヲ爲ス 二、水害ヲ豫防スル 爲砂防築堤ヲ爲ス 三、其ノ他水利ニ必 要ナル施設

臨	全羅北道	明治四十二年四月五日	全羅北道臨陂郡南四里一里三二里四	一、水路ノ掘鑿及溜
沃	全羅北道	同 同 同 同 同 同	東一四八里、群山府	二、開門新設及防潮
	群山府	同 同 同 同 同 同	八里、長而十里、風	三、堤ノ修築
			定而九里、北面九里、	三、其ノ他水利ニ必
			三千三百町步	要ナル施設

七〇

第四節 地方費

地方費ハ曾テ韓國政府時代隆熙三年(明治四十二年)地方費法ニ基キ各道ヲシテ之ヲ設定シ賦課金ノ賦課ヲ認メ其ノ收入、雜收入及國庫補助金等ヲ財源トシ其ノ地方ノ公共事業ヲ施設經營セシムルヲ以テ目的トス由來朝鮮ニ於テハ地方開發上施設スヘキ事業甚多ク而モ之ヲ舉テ政府ノ施設ニ俟タム

トスルハ國家財政ノ許ササル所ナリ仍テ新政策實施後ニ於テモ地方費法ノ繼續施行ヲ認メタルノミナラス寧ロ將來一層之方擴張ヲ期スルノ切要ヲ感シ且漸次此ノ理想ヲ實現セムコトヲ期セリ

地方費賦課金ノ種類ハ地稅附加稅、屠場(畜)稅、市場稅(咸鏡北道ニ限リ賦課セス)土地家屋所有權取得稅、抵當權取得稅(京畿道京畿府)等ナリ而シテ其ノ事業ハ土木、勸業、教育、衛生ニ關スル施設ヲ主トス從前ニ在リテハ賦課金ノ收入確實ナラス往々其ノ實收豫定ト齟齬ヲ來スヲ以テ財政上事業ノ伸張ヲ阻ルコト困難ナリシモ近來地方發展ニ伴ヒ財源モ漸次確實トナリ大正元年度賦課金豫算ノ如キ前年度ニ比シテ十數萬圓ノ増收ヲ算スルニ至リ加フルニ國庫補助モ漸次多額ヲ交付セリ且從來政府經營ニ係ル林業苗圃、種苗場、實業學校ノ如キ之ヲ地方費ニ移シ特ニ補助金ヲ交付シテ經營セシムルニ至リタルヲ以テ地方費事業ハ近來著シク擴張セラレ其ノ施設亦見ルヘキモノアルニ至レリ

今大正元年度地方費收入出豫算及地方費賦課金課目及課率ヲ表示スレハ左ノ如シ

大正元年度地方費豫算

歲入

第三章 地方行政

七一

道名	附加税(%)	地租	市場税	課税	金	計	前年度	補庫	其他	計
京畿道	1.5	1,200,000	1,500,000	1,000,000	1,000,000	4,700,000	4,500,000	1,500,000	1,000,000	7,000,000
忠清北道	1.5	1,000,000	1,200,000	800,000	800,000	3,800,000	3,500,000	1,200,000	800,000	6,300,000
忠清南道	1.5	1,100,000	1,300,000	900,000	900,000	4,200,000	4,000,000	1,300,000	900,000	7,400,000
全羅北道	1.5	900,000	1,100,000	700,000	700,000	3,400,000	3,200,000	1,100,000	700,000	6,400,000
全羅南道	1.5	1,000,000	1,200,000	800,000	800,000	3,800,000	3,600,000	1,200,000	800,000	7,000,000
慶尙北道	1.5	1,100,000	1,300,000	900,000	900,000	4,200,000	4,000,000	1,300,000	900,000	7,400,000
慶尙南道	1.5	1,000,000	1,200,000	800,000	800,000	3,800,000	3,600,000	1,200,000	800,000	7,000,000
平安北道	1.5	900,000	1,100,000	700,000	700,000	3,400,000	3,200,000	1,100,000	700,000	6,400,000
平安南道	1.5	1,000,000	1,200,000	800,000	800,000	3,800,000	3,600,000	1,200,000	800,000	7,000,000
江原道	1.5	1,100,000	1,300,000	900,000	900,000	4,200,000	4,000,000	1,300,000	900,000	7,400,000
咸鏡北道	1.5	900,000	1,100,000	700,000	700,000	3,400,000	3,200,000	1,100,000	700,000	6,400,000
咸鏡南道	1.5	1,000,000	1,200,000	800,000	800,000	3,800,000	3,600,000	1,200,000	800,000	7,000,000
合計		12,000,000	14,000,000	10,000,000	10,000,000	46,000,000	44,000,000	15,000,000	10,000,000	69,000,000

前年度豫算額	前年度シ増(△減)	大正元年度豫算收入歩合
101,100,000	△10,000,000	100
111,100,000	△10,000,000	100
121,100,000	△10,000,000	100
131,100,000	△10,000,000	100
141,100,000	△10,000,000	100
151,100,000	△10,000,000	100
161,100,000	△10,000,000	100
171,100,000	△10,000,000	100
181,100,000	△10,000,000	100
191,100,000	△10,000,000	100
201,100,000	△10,000,000	100

備考
 一 表中「其他」トアルハ雜收入、寄附金、財産收入、借習生委託料收入ナリ
 一 國庫補助金ノ増加ハ主トシテ種苗補助金(五萬七千三百九十四圓)及林業苗圃補助金(七萬四百四十圓)ヲ新ニ加ヘタルト堤堰及沃ノ復舊補助金及教育補助金ニ於テ増加シタルニ因レリ

道名	土木費	衛生及病院費	救恤又慈善費	勸業費	教育費	補助及獎勵費	其他	計
京畿道	1,200,000	1,500,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	7,700,000
忠清北道	1,100,000	1,400,000	900,000	900,000	900,000	900,000	900,000	7,500,000
忠清南道	1,200,000	1,500,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	7,700,000
全羅北道	1,000,000	1,300,000	800,000	800,000	800,000	800,000	800,000	7,500,000
全羅南道	1,100,000	1,400,000	900,000	900,000	900,000	900,000	900,000	7,500,000
慶尙北道	1,200,000	1,500,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	7,700,000
慶尙南道	1,100,000	1,400,000	900,000	900,000	900,000	900,000	900,000	7,500,000
平安北道	1,000,000	1,300,000	800,000	800,000	800,000	800,000	800,000	7,500,000
平安南道	1,100,000	1,400,000	900,000	900,000	900,000	900,000	900,000	7,500,000
江原道	1,200,000	1,500,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	7,700,000
咸鏡北道	1,000,000	1,300,000	800,000	800,000	800,000	800,000	800,000	7,500,000
咸鏡南道	1,100,000	1,400,000	900,000	900,000	900,000	900,000	900,000	7,500,000
合計	12,000,000	14,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	66,000,000

第三章 地方行政

第三章 地方行政

道名	課目	加地稅附	市	場	稅	屠場(畜稅)	土地家屋所 有權取得稅	土地家屋ノ價 格千分ノ四	抵當 取得稅
京畿府	京城		一等地月稅 二五〇	一等地月稅 二五〇	四等地月稅 一〇〇	二 四 五 十			
其 他 府			二等地月稅 一七五	二等地月稅 一七五	四等地月稅 一〇〇	二 四 五 十			
忠 北 道			三等地月稅 一〇〇	三等地月稅 一〇〇	四等地月稅 一〇〇	二 四 五 十			
全 北 道			四等地月稅 七五	四等地月稅 七五	四等地月稅 一〇〇	二 四 五 十			
全 南 道			五等地月稅 五〇	五等地月稅 五〇	四等地月稅 一〇〇	二 四 五 十			
慶 南 道									
慶 北 道									
黃 海 道									
平 安 道									
江 原 道									
咸 鏡 南 道									
咸 鏡 北 道									
合 計									
前年度豫算額									
前年度比									
増(△)減(○)									
大正元年豫算									
算出歩合									

七五

地方賦課金課目及課率

道名	課目	加地稅附	市	場	稅	屠場(畜稅)	土地家屋所 有權取得稅	土地家屋ノ價 格千分ノ四	抵當 取得稅
忠清南道			一等地月稅 二五〇	一等地月稅 二五〇	四等地月稅 一〇〇	二 四 五 十			
全羅北道			二等地月稅 一七五	二等地月稅 一七五	四等地月稅 一〇〇	二 四 五 十			
全羅南道			三等地月稅 一〇〇	三等地月稅 一〇〇	四等地月稅 一〇〇	二 四 五 十			
慶尙北道			四等地月稅 七五	四等地月稅 七五	四等地月稅 一〇〇	二 四 五 十			
慶尙南道			五等地月稅 五〇	五等地月稅 五〇	四等地月稅 一〇〇	二 四 五 十			
黃海道									
平安北道									
平安南道									
江原道									
咸鏡南道									
咸鏡北道									
合計									
前年度豫算額									
前年度比									
増(△)減(○)									
大正元年豫算									
算出歩合									

備考 表中「其他」卜アルハ地方費取扱費、財産管理費、雜支出、豫備費トス

七四

江原	平南	平北	威南	威北
本税	分	十	百	
四十五	四十五	四十五	四十五	四十五
四十五	四十五	四十五	四十五	四十五
四十五	四十五	四十五	四十五	四十五
四十五	四十五	四十五	四十五	四十五
四十五	四十五	四十五	四十五	四十五

七六

備考 京城府ハ屠畜税トシ其他ハ屠場税トス
地方費賦課金負擔表

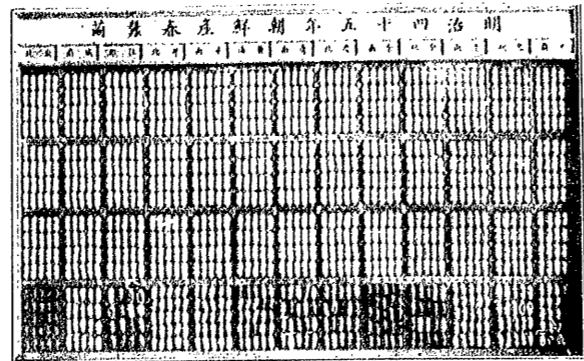
道名	賦課金	戸數	平均月二付	平均一人二付
京畿道	一〇二、一三九	二九六、五四〇	四一、六一〇六	〇七二
忠清南道	四一、五九七	一三三、六七三	五八、〇七八九	〇七三
忠清北道	八一、〇四二	一九五、七六五	八九、五五四六	〇九〇
全羅北道	六三、四四〇	二〇五、七九九	九六、二五八一	〇六六

道名	賦課金	戸數	平均月二付	平均一人二付
全羅南道	七三、〇一八	三三九、七五四	一五八、〇八九一	〇四六
慶尙南道	一一、二二二	三三三、八六三	一六二、四五六九	〇六九
慶尙北道	七、七五〇	二九七、一〇三	九四、一六五一	〇五四
黃海道	六三、〇〇〇	二二二、一〇三	九九、〇八八八	〇六四
平安南道	六〇、六五七	一八七、三九一	八九、二五六八	〇六八
平安北道	四一、〇〇〇	一八二、一四〇	九七、九六〇二	〇四二
江原道	一七、五四二	一六六、七三三	八三、〇七四	〇二二
咸鏡南道	三三、六〇〇	一七六、四七一	九一、三五一	〇三六
咸鏡北道	一〇、六二〇	七四、七八一	四二、七六四三	〇二五
合計	七七六、六三七	二、七九三、一〇五	一三三、五三九二二八	〇五七

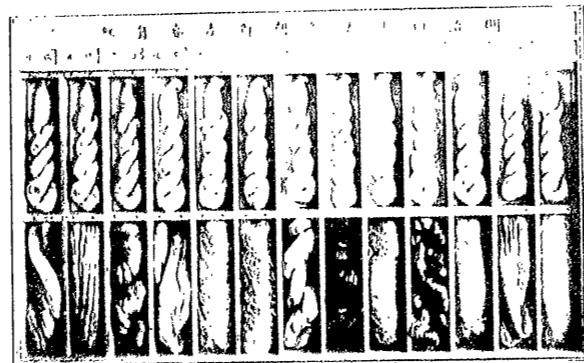
第五節 臨時恩賜金

韓國併合ノ成ルヤ民力ノ休養ト共ニ惠恤撫育ノ聖旨ヲ昭ニスル爲國幣一千七百三十九萬八千四十四支
出シ之ヲ各府郡ニ配付シ以テ士民ノ授産教育及凶歉ノ救済ニ充テシメタリ
臨時恩賜金事業ノ附置ハ二三ノ道ニ在リテハ明治四十三年度ニ於テ既ニ之ヲ認可テ受ケルニ至リタ
第三章 行政整理





明治四十五年朝鮮春裝圖



明治四十五年朝鮮春裝圖

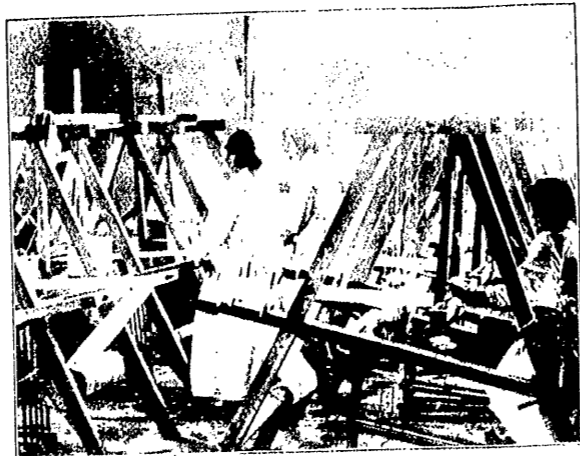
種別	箇所	職員	生徒
養蠶傳習所	五八	一一二	一五〇一

ルモノアルモ其ノ他ノ各道ニ在リテハ孰レモ明治四十四年度ニ入りテ之ヲ認可セラル而シテ各道ニ於テハ其ノ計畫認可セラルルヤ直ニ實施ニ著手シタルヲ以テ明治四十四年度ニハ全部之カ實施ヲ見ルニ至レリ

本事業ハ未タ創始ニ屬スト雖之カ經營ニ就テハ當局ノ最モ力ヲ致セル所ナルヲ以テ就中授産及教育事業ノ如キハ其ノ施設著著歩ヲ進メ其ノ成績亦見ルニ足ルモノアルニ至レリ今是等事業ノ概況ヲ舉クレハ左ノ如シ

授産事業ニ在リテハ士民ニ産業ヲ授クルト共ニ兼テ地方産業ノ改良發展ヲ促カサムヲ圖リ其ノ施設事項ノ如キモ各地方ノ情況ニ應ジ之カ選定ニ盡テ用非シム故ニ各道ニ於ケル事業ノ種類ハ一様ナラサルモ之ヲ概括シ其ノ施設ノ一斑ヲ示セハ左ノ如シ

大正元年十二月末日現在



景光ノ所習傳業機賜恩郡州忠道北清忠



景光ノ織染所習傳業機産授賜恩郡東安道北尚慶

依り新ニ公立普通學校ヲ設クルニ至リシモノ二百三十六校ニ達セリ
 凶歉救濟事業ニ在リテハ主トシテ種穀、農具、食糧給與ノ方法ヲ立テ又地方ニ依リ醫藥、家屋料及
 被服貸與ノ方法ヲ設クルモノアリ而シテ明治四十四年度ニ於テハ二三ノ道ニ於テ水災ニ因リ食糧及
 種穀ノ給與ヲ行ヒタルモ其ノ他ノ各道ニ於テハ凶歉ニ際會セス救濟ノ實行ヲ要セザリシ

臨時恩賜金配與額及利子額 (圓)

道名	臨時恩賜金配與額	一年度分利子額	利子配當額	事業費別
京畿道	二、六三七、〇〇〇	一三、一八五、〇〇〇	七九、一一〇	三九五、五五五
忠清北道	七、九四〇、〇〇〇	三九、七〇〇	二二、八二〇	一一、九一〇
忠清南道	一、四八九、〇〇〇	七四、四七〇	四四、六七〇	二二、三三五
全羅北道	一、三二二、〇〇〇	六五、六〇〇	三九、三六〇	一九、六八〇
全羅南道	一、六九四、〇〇〇	八四、七〇〇	五〇、八二〇	二五、四一〇
慶尙北道	二、〇三三、〇〇〇	一〇〇、六五〇	六〇、三九〇	三〇、一九五
慶尙南道	一、六〇六、〇〇〇	八〇、三〇〇	四八、一八〇	二四、〇九〇
合 計	一七、三九八、〇〇〇	八六九、九〇〇	五二一、九四〇	二六〇、九七〇

道名	臨時恩賜金配與額	一年度分利子額	利子配當額	事業費別
黃海道	一、〇九四、〇〇〇	五四、七〇〇	三二、八二〇	一六、四一〇
平安北道	一、〇四六、〇〇〇	五二、三〇〇	三二、三八〇	一五、六九〇
平安南道	一、一四九、〇〇〇	五七、四七〇	三三、四七〇	一七、二三五
江原道	一、二二五、〇〇〇	五六、二五〇	三三、七五〇	一六、八七五
咸鏡南道	八八三、〇〇〇	四四、二五〇	二六、四九〇	一三、二四五
咸鏡北道	五五六、〇〇〇	二七、八〇〇	一六、六八〇	八、三四〇
合 計	一七、三九八、〇〇〇	八六九、九〇〇	五二一、九四〇	二六〇、九七〇

第六節 濟生院

明治四十四年六月總督府令第七十七號ヲ以テ濟生院ヲ設立セラレ孤兒盲啞者ノ教育及癩癩其他病者
 ノ救療ヲ行フコトナリ六月二十一日下賜セラレタル臨時恩賜金五十萬圓及國債報償金ノ殘餘ヲ基
 本財産トシ其ノ財産ヨリ生スル收入、國庫補助金及李王家其ノ他ノ寄附金ヲ以テ其ノ經費ニ充ツル
 コトト爲セリ翌年明治四十四年八月ニ至リ更ラニ貧民救療資金トシテ二百八十萬五千八百圓ヲ下賜
 セラレタルヲ以テ濟生院ニ於テ有スル資金ハ合計三百四十六萬八千九百五十九圓ニ至レリ濟生院ニ



養育部盲啞部癩癩部ヲ置キ養育部ハ四十四年九月癩癩部ハ四十五年二月開始セルモ盲啞部ハ敷地建
 物等ノ關係上事業開始ニ至ラス從來朝鮮ニ於テハ孤兒不具者等ノ救済ニ關スル施設少ナク僞外國宗
 教家カ布教上經營セルモノアリト雖朝鮮人ノ經營ニ係ルモノハ京城孤兒院アリシノミ而カモ基礎薄
 弱救養經營亦頗ル拙劣ニシテ院員全員ノ六割強ハ濕疹疥癬トヲホム等ノ傳染性疾患ニ冒サレ而カ
 モ經費ノ關係上救済ノ途ヲ斷スル能ハス經營頗ル困難ニシテ到底維持ノ見込ナキニ至リシカ濟生院
 ノ設立ニ際シ當時ノ孤兒院長前吉澤ハ收容孤兒全部ノ保護救養ト共ニ器具機械ノ寄附ヲ請願セルヲ
 以テ其ノ願意ヲ容レ之ヲ本院ニ收容シ爾來醫藥其ノ他隔離豫防湯浴療法等諸種ノ方法ヲ以テ漸次衛
 生狀態ヲ改善セリ

明治四十五年四月ニ至リ朝鮮總督府濟生院官制ト共ニ朝鮮醫院及濟生院特別會計法發布セララルヤ
 濟生院(明治四十四年府令)ハ事業經營ノ方針ヲ變シ自ラ事業ヲ經營セサルコトトシ單ニ財產資金ヲ
 有スルニ止メ其ノ財產ヨリ生スル收入ハ之ヲ前記特別會計ニ寄附シテ孤兒、盲啞者ノ救養癩癩者ノ
 救療ハ舉テ之ヲ朝鮮總督府濟生院ニ委スルコトナレリ



(京城在)部育養院生濟府督總鮮朝



況狀ノ業授徒生ルケ於ニ部育養院生濟府督總鮮朝

朝鮮總督府濟生院ハ前記ノ事業ヲ繼承シ養育部ヲ京城市内四部李判洞ニ醫療部ヲ總督府醫院構内ニ
 置き假リニ事業ヲ開始セルモ敷地建物共ニ狹隘ニシテ豫定ノ事業ヲ遂行スルコト能ハサルニ由リ養
 育部ノ改修醫療部ノ新營ヲ計畫シ養育部ハ北部壯洞元寶祿宮ノ一部ニ修築ヲ加ヘ移轉ヲ了シ醫療部
 ハ總督府醫院接續地ニ新營略落成ニ近ク大正二年一月全部竣工ノ豫定ナリ盲啞部ハ從來ノ養育部建
 物ニ修築ヲ加ヘ之ヲ充用スルノ方針ヲ以テ目下計畫中ニ屬セリ養育部現今ノ廳舎ハ事務室教室作業
 室隔離舎衛生室炊事室浴室院兒宿舍及官舎附屬舎等ヲ併セ五百七十一坪六合敷地一萬五百十四坪ヲ
 有シ優ニ二百名ヲ收容スルヲ得新築中ノ醫療部ハ溫突式ニシテ狂噪室、軍症室、通常患者室、看護人
 室、診察室、溫浴療法室及浴室其ノ他附屬室等ヨリ成リ五十名ヲ收容スルコトヲ得現ニ收容中ノ孤
 兒及精神病患者ハ左表ノ如シ

養育部院兒表

月	別	入	院	退	計	月未現在				
四	月	八〇	自治退院	扶養者發見	逃	走	死	亡	計	月未現在
										七九

第三章 地方行政

醫療部患者表(精神病)

月	別	新	入	退	延	院	全	治	輕	快	死	亡	事	故	計
五	月	〇	八	二	九	九	一	一	一	一	一	一	一	一	三
四	月	〇	八	二	九	九	一	一	一	一	一	一	一	一	三
計	二	〇	八	二	九	九	一	一	一	一	一	一	一	一	三

月	別	新	入	退	延	院	全	治	輕	快	死	亡	事	故	計
十	月	一	六	二	八	八	一	一	一	一	一	一	一	一	三
九	月	一	六	二	八	八	一	一	一	一	一	一	一	一	三
八	月	一	六	二	八	八	一	一	一	一	一	一	一	一	三
七	月	一	六	二	八	八	一	一	一	一	一	一	一	一	三
六	月	一	六	二	八	八	一	一	一	一	一	一	一	一	三
計	二	一	六	二	八	八	一	一	一	一	一	一	一	一	三

現在收容セル孤兒ハ男子ニ比シ女子ノ數著シク少シ蓋シ朝鮮ニ於テ女子ハ之ヲ下婢トシテ使役スルカ或ハ他ニ雇附セシムルノ便多キ爲扶養ヲ望ム者男子ニ比シ多キニ因ル

概シテ朝鮮人ハ遊惰ニ流レ労働ヲ賤ミ勤勉ノ風ナク徒ラニ外容ヲ飾ルノ惡習アリ殊ニ孤兒ハ特有トモ稱スヘキ僻心ノ強度ナル者多ク教育ノ難事タルコト素ヨリ尋常子弟ノ比ニ非ラス故ニ専ラ精神教育ニ重キヲ置キ勤勉力行ノ美風ヲ涵養スルニ努メ普通教育ト共ニ諸種ノ作業ヲ課シ以テ自活ノ途ヲ得ルノ階梯ト爲セリ

第三章 地方行政

第七節 不動産證明

朝鮮ニ於ケル不動産所有權ノ移轉又ハ典當權ノ設定ハ古來文記又ハ文券ト稱スル私署證書ノ引渡ニ由リ之ヲ行ヒ是等ノ私署證書以外ニ其ノ權利ヲ證スルモノナカリシカ時勢ノ進轉ニ伴ヒ永ク此ノ方法ヲ以テ權利ヲ確保スル能ハサルニ至リ遂ニ明治三十九年舊韓國政府ハ土地建物證明規則ヲ發布シ亞テ明治四十一年土地建物所有權證明規則ヲ發布セリ是等ノ規則ニ依レハ不動産ノ所有權ノ移轉保存又ハ典當權ノ設定ニ就テハ其ノ不動産所在地ヲ管轄スル府尹、郡守ヲシテ其ノ書面ノ末尾ニ證明ヲ爲サシメ以テ證明ヲ受ケタル書面ハ完全ナル證據力ヲ附シタルモノナレトモ是等ハ何レモ當事者ノ雙方又ハ一方カ朝鮮人ナル場合ノミニ適用セララルモノナルヲ以テ不便尠カラス仍テ舊統監府ハ別ニ府令ヲ以テ土地建物證明規則及土地建物所有權證明規則ヲ發布シ當事者ノ雙方カ韓國人ニ非ル場合ノ證明及其ノ一方カ韓國人ニシテ府尹、郡守ノ證明ヲ受ケタルモノノ查證ニ關スル事項ヲ規定シ共ニ理事官ニ於テ其ノ證明又ハ查證ヲ爲スコトトセシカ明治四十三年十月朝鮮總督府官制實施ト共ニ理事官ハ廢止セラレ爾來證明事務ハ總テ府尹、郡守ニ於テ之ヲ處理スルコトトナリ證明事務

ニ關スル職守ハ統一セラルルニ至レリ然レ共舊韓國證明規則從來ノ通其ノ效力ヲ存續スルヲ以テ其ノ證明申請當事者ノ如何ニ依リ其ノ證明令規ノ適用ヲ異ニスルノ不便アルノミナラス是等ノ令規ハ數年前ノ實施ニ係リ主トシテ當時ノ民情ニ適應セシムルノ目的ヲ以テ制定セラレタルカ故ニ不動産ノ賣買、贈與、交換、典當、保存行爲等較簡單ナル場合ニ就テノ證明ヲ爲スコトヲ得セシムルニ過キス又證明ノ手續モ極メテ簡單ナル方法ニ依ラシメタルノ結果其ノ效力モ證明ヲ受ケタル證書ニ證據力ヲ附與スルニ過キサリシナリ而モ爾來内地人トノ接觸頻繁ナルニ隨ヒ經濟事情ノ變遷ト權利觀念ノ發達トナ來シ各般ノ權利關係漸次複雑ナルニ至レルヲ以テ其ノ證明事項ノ如キ保存行爲ノ外權利ノ移轉ニ付テハ單ニ賣買、贈與、交換ヲ爲シタル場合ニ限局スルカ如キハ其ノ權利關係ヲ確保スル上ニ於テ關クル所アルノミナラス其ノ證明ノ效力モ單ニ當事者間ニ於ケル其ノ行爲ノ存在ヲ確保スルニ過キスシテ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルノ力ヲ有スルモノトナスノ必要ヲ切實ニ感スルニ至レリ

明治四十五年四月一日ヨリ實施セラレタル朝鮮不動産證明令ニ於テハ其ノ證明ヲ以テ第三者ニ對抗

第三章 地方行政

スルノ要件トナシ同時ニ舊證明規則ニ依リ受ケタル證明ニ就テモ亦對抗力ヲ有セシムルコトトシ以テ舊令ニ依ル權利確保ノ上ニ於ケル一大欠缺ヲ補ヒ又新ニ所有權及典當權ノ處分ノ制限ヲ證明事項トナシ以テ不動産ニ對スル權利ノ執行ニ便ナラシメ又證明事務ノ滯滞ヲ避ケムカ爲舊令ニ於テ證明申請ノ要件タリシ洞里長ノ認證ヲ廢シテ直ニ證明ノ申請ヲ爲スヲ得セシメ未證明ノ不動産ニ就テハ總テ保存證明ヲ爲シタル後ニ非サレハ他ノ證明ヲ爲スヲ得サラシメタリ而シテ保存證明ニ就テハ官公署ノ證書ヲ添付スルニ於テハ直チニ證明ヲ與フルコトトシ舊令ニ於テ保存證明ノ要件タリシ一定ノ公告期間ヲ廢シ又一般ノ證明ニ關シテハ總テ權利ノ内容ニ付調査ヲ爲サス其ノ申請ノ規定ニ適合スルニ於テハ直ニ之ニ證明ヲ與フルコトトシ以テ敏活處理ノ方法ヲ講シ延イテ證明當事者ノ利便ヲモ圖ルニ努メ而モ證明官吏ノ決定又ハ處分ヲ不當トスル者ニ對シテハ抗告ノ途ヲ啓キ以テ不當處分ノ救濟ヲ圖レリ

證明令規實施後ノ傾向ヲ見ルニ漸次之方法令ノ周知ト共ニ年月ヲ逐ヒ申請件數ノ増加ヲ來セリト雖從來其ノ證明ヲ以テ第三者ニ對抗スルノ要件ト爲ササリシカ爲事實ニ於テハ其ノ證明ノ申請ヲ爲サ

サルモノ尠少ト爲ササリシカ如シ將來證明ヲ以テ對抗力ノ要件ト爲シタルノ結果其ノ申請事件ノ激増ヲ見ルト共ニ不動産ニ關スル權利ノ安固ヲ期スルヲ得ヘシ



第四章 財政及經濟

第一節 財政

一 歲計

從來韓國政府ニ於テハ豫算ノ編成ナカリシカ明治三十八年初メテ之ヲ編成シ爾來累年豫算ノ制定ヲ見タリシカ明治四十三年八月韓國併合ノ結果帝國政府ハ同年勅令第三百二十六號ニ依リ八月二十九日ヨリ舊韓國政府八月二十八日ニ於ケル豫算殘額ヲ製用施行シ更ニ同年勅令第四百六號ヲ以テ朝鮮總督府特別會計ニ關スル件發布同十一月一日ヨリ之ヲ施行シ見タリ

今明治四十年以降舊韓國政府歲入歳出及明治四十三年度以降朝鮮總督府特別會計歲入歳出ヲ表示スレハ左ノ如シ

舊韓國政府歲入歳出累年比較 (四)

年 度	歲 入		歲 出	
	經 常	臨 時	經 常	臨 時
明治四十年	九,九六三,三三三	六,四三三,四八八	一〇,一五三,三三六	七,一〇六,五五九
同四十一年	一〇,四〇〇,四七七	九,八三三,八八九	一〇,七四七,四九四	八,六七七,五三三
同四十二年	一〇,一七六,九三三	一〇,〇九〇,九〇八	一〇,三三六,〇一一	一〇,〇六六,六六六
同四十三年	九,〇〇〇,三三三	四,五三三,四四九	八,五三三,三三〇	四,六三三,三三三

備考 四十二年前ハ豫算額四十三年ハ現計(八月二十八日迄ヲ示ス)

朝鮮總督府特別會計歲入歳出 (四)

年 度	歲 入		歲 出	
	經 常	臨 時	經 常	臨 時
大正元年度	七,八〇〇,〇〇〇	三,三三三,三三三	一,五三三,三三三	一,三〇〇,〇〇〇
同四十四年度	二,〇〇〇,〇〇〇	一〇,五〇〇,〇〇〇	九,九七二,五三六	八,三三三,三三三
同四十五年度	二,〇〇〇,〇〇〇	一〇,五〇〇,〇〇〇	九,九七二,五三六	八,三三三,三三三
同四十六年度	二,〇〇〇,〇〇〇	一〇,五〇〇,〇〇〇	九,九七二,五三六	八,三三三,三三三
同四十七年度	二,〇〇〇,〇〇〇	一〇,五〇〇,〇〇〇	九,九七二,五三六	八,三三三,三三三

備考 四十三年度前ハ現計四十四年度、大正元年度ハ豫算額ヲ示ス
 朝鮮總督府特別會計歳入歳出科目別 (圓)

部	科	大正元年度		明治四十四年度		明治四十三年(十月一日以降)	
		歳入	歳出	歳入	歳出	歳入	歳出
經常部	租稅	11,347,536	10,871,517	9,061,766	9,061,766	3,441,270	3,441,270
	紙收	744,595	695,259	1,063,961	1,063,961	4,240,166	4,240,166
	官業及官有財產收入	1,077,882	1,096,203	3,329,649	3,329,649	7,611,111	7,611,111
臨時部	公債募集金	28,733,333	24,067,583	24,067,583	24,067,583	2,610,356	2,610,356
	前年度借入金	11,596,540	11,334,199	11,334,199	11,334,199	4,995,753	4,995,753
	臨時會計特別會計金殘餘繰入金	3,350,000	3,350,000	3,350,000	3,350,000	2,885,000	2,885,000
合計		53,709,677	49,679,199	49,679,199	49,679,199	21,187,330	21,187,330

部	科	大正元年度		明治四十四年度		明治四十三年(十月一日以降)	
		歳入	歳出	歳入	歳出	歳入	歳出
經常部	總督府費	11,500,000	11,500,000	7,500,000	7,500,000	1,370,000	1,370,000
	警察費	3,093,863	2,804,654	2,370,374	2,370,374	1,074,795	1,074,795
	地方學務費	3,610,244	2,512,831	1,074,795	1,074,795	1,943,727	1,943,727
	諸稅務	3,040,556	2,859,355	1,964,979	1,964,979	1,074,795	1,074,795
	勸業	4,229,288	4,333,443	1,074,795	1,074,795	1,074,795	1,074,795
	平地墾業	2,791,663	2,726,722	1,074,795	1,074,795	1,074,795	1,074,795
	中墾業	5,691,279	6,038,088	4,333,443	4,333,443	1,074,795	1,074,795
	中央墾業	2,044,899	2,064,168	1,074,795	1,074,795	1,074,795	1,074,795
	鐵道	848,427	745,884	1,074,795	1,074,795	1,074,795	1,074,795
	修繕費	114,501	2,844,953	1,074,795	1,074,795	1,074,795	1,074,795
臨時部		6,227,338	5,277,867	1,074,795	1,074,795	1,074,795	1,074,795
合計		53,709,677	49,679,199	49,679,199	49,679,199	21,187,330	21,187,330



臨時	補助	臨時	臨時	臨時	臨時	臨時	臨時	臨時	臨時	臨時	臨時	臨時	臨時	臨時	臨時	臨時	臨時	臨時	臨時	臨時
臨時	補助	臨時	臨時	臨時	臨時	臨時	臨時	臨時	臨時	臨時	臨時	臨時	臨時	臨時	臨時	臨時	臨時	臨時	臨時	臨時
時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時
時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時
費	費	費	費	費	費	費	費	費	費	費	費	費	費	費	費	費	費	費	費	費

九五

臨時	臨時	臨時	臨時	臨時	臨時	臨時	臨時	臨時	臨時	臨時	臨時	臨時	臨時	臨時	臨時	臨時	臨時	臨時	臨時	臨時	臨時
臨時	補助	臨時	臨時	臨時	臨時	臨時	臨時	臨時	臨時	臨時	臨時	臨時	臨時	臨時	臨時	臨時	臨時	臨時	臨時	臨時	臨時
費	費	費	費	費	費	費	費	費	費	費	費	費	費	費	費	費	費	費	費	費	費

九四

第四章 財政及經濟

部	明治四十三年度		明治四十四年度		大正元年度
	歳入	歳出	歳入	歳出	
臨時外國行諸費					
臨時建築及宿舍新設備費					
平壤鐵業所第二次擴張費					
發電水力調査費					
産業業諸費					
印刷局新築及設備費					
水道工費					
地方土木費補助					
醫院設備費					
諸支府費					
元道現衛府					
水道買収費					
其他費					
計	二二、六九九、七一九	二〇、八五〇、三四五	四八、七四一、七八三	一七、八一五、六五四	二七三、七六五
總計	五二、四四二、三〇九	四八、七四一、七八三	八三、四三三、七一九	二〇、八四七	九六

備考 明治四十三年度一般會計所屬韓國通信事業ニ要スル經費並韓國鐵道及韓國森林ノ各特別會計ハ明治四十三年ニ限り從前ノ豫算ヲ繼承使用セルモノナリ
 △印ハ豫算金額算中ヨリ他費目ヘ補充支辨セシ金額ニシテ内書ナリ
 總督府醫院及慈惠醫院ハ別ニ特別會計ヲ立ツルコト爲レリ

二 特別會計

明治四十三年度朝鮮總督府平壤鐵業所特別會計ハ舊韓國政府平壤鐵業所特別會計ノ計算ヲ繼承シタルモノ同四十四年度ニ於テ朝鮮總督府特別會計ニ編入セラレ朝鮮鐵道用品資金及朝鮮森林ノ兩特別會計ハ明治四十三年度ヨリ施行セラレタリト雖概ホ各從前ノ韓國鐵道用品資金及韓國森林特別會計ヲ繼承シタルモノナリ左ニ明治四十三年度以降各特別會計歳入歳出ヲ掲ケ

各特別會計歳入歳出(圓)

別	明治四十三年度	明治四十四年度	大正元年度
慈惠醫院	歳入 118,211	歳入 100,104	歳入 三三、六六一
	歳出 100,104	歳出 三三、六六一	歳出 同

第四章 財政及經濟

導學賜金公債	四十二年六月	二六、八五五	五分	二六、六七五、四二二
特別會計一時借入金	四十四年三月	三、〇四、六七七	五分	二九、二五五、三三五
事業費借入金	四十四年九月	三、〇〇、〇〇〇	五分五厘	四四、一二六、四五三
同	四十五年二月	三、〇〇、〇〇〇	六分	三六、七四一、四四一
同	同	四、〇〇、〇〇〇	六分	一五、四九八、〇三一
同	同	二、〇〇、〇〇〇	六分	
同	大正元年八月	三、六五五、四三三	六分	
總計				

前表所掲以前ニ於ケル各年末現在高ヲ示セハ左ノ如シ
 明治四十四年 二三、六七五、四二二
 同 四十二年 二九、二五五、三三五
 同 四十二年 四四、一二六、四五三
 同 四十一年 三六、七四一、四四一
 同 十年 一五、四九八、〇三一

100

五 租 稅

國稅ハ地稅、月稅、家屋稅、酒稅、煙草稅、關稅、噸稅、鹽稅、釀稅、漁業稅、船稅、人蓋稅及雜稅ノ十三種トス今各稅ノ概念ヲ舉ケレハ左ノ如シ
 一 地稅 地稅ノ課稅標準ヲ結ト稱ス結トハ土地ノ肥瘠ニ應シ量定シタル各等級別ノ面積ニシテ其ノ量定法ハ測地尺(内地曲尺三尺三寸)一萬平方尺ノ面積ノ土地ニ對シ一等地ト認メシモノハ之ヲ一結(百貫)トシ二等地ハ八十五貫ト以下順次十五貫ヲ遞減シ六等地二十五貫ニ至リテ止ム故ニ其ノ面積ヨリ謂ヘハ等級ノ下ルニ從ヒ遞加シ六等地ノ一結ハ一等地ノ四結ト同様ノ面積ヲ有スルコトナルナリ今各等地ノ面積ヲ示セハ左ノ如シ

- 一 等地 三、〇二五・〇
- 二 等地 三、五五八・八
- 三 等地 四、三二一・四
- 四 等地 五、四九九・九

第四章 財政及經濟

101

五等 地
六等 地

七、五六二・五
一、一〇〇・〇

一結ノ面積ハ前記ノ如クナリト雖古來測量ノ方法精密ナラス又制度ノ弛廢ニ依リ變更増減シタルモ
ノアリテ右ニ符合セザルモノ多シ
稅率ハ結價ト稱シ從前ハ元(五十錢)ヲ以テ定メアリシカ葉鑛流通地方ト白銅貨流通地方ト其ノ率ヲ
異ニシタルカ故ニ際際二年(明治四十一年)六月法律第十號ニテ之ヲ改正シ一結ニ付八圓以下二十錢
迄ノ十三等ト爲シ各地方同一ニ施行シ以テ現今ニ及ヘリ
地稅ハ土地所有者ヨリ徵收ス但シ地方ノ習慣又ハ契約ニ依リ小作人其ノ他土地使用者ヨリ納稅スヘ
キ場合ニ於テハ先少其ノ使用者ヨリ徵收シ使用者滯納シタル場合ニ於テハ土地所有者ヨリ徵收スル
事トス

今明治四十五年一月一日現在結價別結數及稅額ヲ掲ケ前三年ニ比較スレハ左ノ如シ

未 定 數	未 定 價	結 價				計	稅 額
		町	田	畑	宅		
		八〇〇〇	三八九、九六〇	一八六、四八七	二五〇、七八	二、六五二	四、八三三、四三五
		六六〇〇	六六、九八八	六〇、六三八	四八、二七	九一	八、七四、八〇六
		五三〇〇	三〇〇〇〇	二二、六〇九	二、〇〇七	一、三二、五四六	二、九八、四〇三
		四、二〇〇	六、六五八	二、七〇二七	一、二六六	八、九	一、四七、一七五
		四、〇〇〇	三、三三七〇	六、八、三八	二、四九三	九、五五〇六	三、八二、〇三五
		三、七〇〇	五、八七	一、八、七、八四	一、一九一	八、五七〇	三、一七、一〇
		三、三〇〇	二、四一三	一、八、七、三三	一、〇八五	七、二九四	二、一、九四
		三、〇〇〇	一九六	三、四、六六	二、四	四、一、四七	一、〇、七八三
		二、六〇〇	七、九八	六、九、五九	一、五	六、九、七四	一、四、六四六
		二、三〇〇	三、五	三、六、八、二八	七、八〇	三、九、八七五	五、一、八三七
		一、〇〇〇	九六	一、五、〇、九六	一、一九	一、五、六四〇	一、五、六四〇
		〇、五〇〇	七	二、八、三、八	三、五八	一、四、二、九一	七、一、四、五
		〇、二〇〇	七	三、一、六、八	一、八二	三、三、五八	七、一、四、五
				二、六、二	一、四	二、九〇	六、七、一
							五、〇、六
							一、三、三、三

第四章 財政及經濟

一〇三

合 計	五二二、二六	四七〇、〇一九	三九、九三四	七、九〇四	一、〇三八、九七四	六、七五二、三三三
明治四十四年	五、六〇三、八	四、七四六、五〇	三、一三一、五	五、七三二、一〇七	七、七三六	六、六六八、一八六
増	△ 八〇八、七	四、六三一	八、六〇九	二、一七三	一、一三三、七	八、四一、二六
明治四十三年	四、九〇、五〇九	五、〇四、四〇〇	一、六二、五八	五、一三八	一、〇一六、三〇七	六、六一五、二五三
増	△ 三〇、六一六	△ 三、四三、八一一	三、三六、六五	二、七六六	二、二六六、六	一、三七、〇五九
明治四十二年	四、七三、二〇七	五、一〇、九六九	?	六、三三六	九、八九、五六四	六、四三、四八三
増	△ 減	四、八九、一八	四、〇、九五〇	一、五一一	四、九四〇、九	三、一七、八二九

一〇四

備考

- 一 結算ハ結、税額ハ圖以下切捨タルヲ以テ合計ト符合セス
- 二 明治四十三年、四十二年分ハ七月一日現在トス

更ニ明治四十五年一月一日現在ニ於ケル番及田一反歩平均地税額ヲ内地ニ比較スレハ左ノ如クニシ
 朝鮮ノ番ハ内地ノ一割九分ニ田ハ三割九分ニ當レリ

區 分	番 (田)	田 (畑)	平 均
内 地	・三三二	・一七六	・二四五
鮮 地	・一六六、五	・四四一	・一、一〇三
増	△ 減	△ 減	△ 減
	・三三三	・二六五	・八五八

二月税 戸税ハ自己ノ家屋ニ居住スルト否トチ間ハス一月ヲ構へ獨立ノ生計ヲ爲ス者ニ對シ一月ニ付一箇年金三十錢ヲ賦課ス

戸税ノ納期左ノ如シ
 其ノ年四月 十分ノ五
 同 九月 十分ノ五

戸税ハ家屋税法ヲ施行スル市街地以外ノ地域ニ居住スル者ニ賦課ス
 三家屋税 家屋税ハ隆熙三年法律第二號ニ依リ市街地ニ在ル家屋所有者ニ對シ毎年四月ノ現在ニ依リ一構毎ニ左ノ等級、課税標準及税率ニ依リ毎年之ヲ賦課ス

第四章 財政及經濟

等級	課税標準及税率
一等	三十間以上 乙甲種 金八圓 種 金五圓
二等	十間以上 乙甲種 金二圓 種 金一圓三十錢
三等	四間以上 乙甲種 金八十錢 種 金五十錢
四等	四間未満 乙甲種 金四十錢 種 金三十錢

甲種トハ石造、煉瓦造又ハ瓦葺ノ家屋ヲ謂ヒ乙種トハ甲種ニ屬セサル家屋ヲ謂フ
間サ以テ計算シ雖キ構造ノ家屋ハ方六尺サ一間トシテ計算ス
家屋税法ヲ施行スル市街地ハ大正元年十月朝鮮總督府令第二十三號ヲ以テ指定セラル
家屋税ノ納期ハ左ノ如シ

第一期	五月三十一日限	税額二分ノ一
第二期	十一月三十日限	税額二分ノ一

四酒税 酒税ハ隆熙三年二月法律第三號酒税法ニ依リ之ヲ賦課ス酒税法ニ於テ酒類ト稱スルハ左ノ三類トス

- 第一類 醸成酒
清酒、藥酒、白酒、濁酒、過夏酒其ノ他醸造製成シタル酒類
 - 第二類 蒸餾酒
燒酒其ノ他蒸餾製成シタル酒類
 - 第三類 混成酒
醸成酒又ハ蒸餾酒ニ他物ヲ混和製成シタル酒類其ノ他醸成酒又ハ蒸餾酒ニアラサル酒類含有飲料
- 酒類ヲ製造セムトスル者ハ製造場一箇所毎ニ免許申請書ヲ所轄府郡ニ提出シテ免許ヲ受クルモノトス
- 酒税ハ酒類製造者ヨリ製造場一箇所毎ニ造石高ニ應シ左ノ區分ニ從ヒ之ヲ徵收ス
- 第四章 財政及經濟



第一類 醸成酒

五石迄	金一圓
十石迄	金二圓
二十石迄	金四圓
五十石迄	金十圓
百石迄	金二十圓

百石ヲ超過シタルモノハ五十石ヲ増ス毎ニ金十圓ヲ加フ

第二類 蒸餾酒

一石迄	金一圓
二石迄	金二圓
五石迄	金五圓
十石迄	金十圓

二十石迄	金二十圓
五十石迄	金五十圓

五十石ヲ超過シタルモノハ三十石ヲ増ス毎ニ金三十圓ヲ加フ

第三類 混成酒

二石迄	金六圓
五石迄	金十五圓
十石迄	金三十圓
二十石迄	金六十圓
五十石迄	金百五十圓

五十石ヲ超過シタルモノハ三十石ヲ増ス毎ニ金九十圓ヲ加フ
酒税ハ左ノ二期ニ之ヲ徴收ス

第一期

五月税額二分ノ一

第四章 財政及經濟

第二期

十一月稅額二分ノ一

五煙草稅 煙草稅ハ陸曆三年二月法律第四號煙草稅法ニ依リ之ヲ賦課ス

煙草ヲ耕作シ又ハ煙草販賣ヲ營ムトスル者ハ免許申請書ヲ所轄府郡ニ提出シテ免許ヲ受クルモノトス

煙草稅ヲ分テ煙草耕作稅及煙草販賣稅ノ二種トス

煙草耕作稅ハ左ノ種別ニ從ヒ煙草耕作者ヨリ之ヲ徵收ス

第一種耕作

植付根數九百以下ノモノ

一箇年金五十錢

第二種耕作

同 九百ヲ超過スルモノ

同 金二圓

煙草販賣稅ハ左ノ種別ニ從ヒ煙草販賣者ヨリ之ヲ徵收ス

第一種販賣

卸賣業者

一箇年金十圓

第二種販賣

小賣業者

同 金二圓

煙草稅ハ左ノ時期ニ之ヲ徵收ス

一 煙草耕作稅

十一月

一 煙草販賣稅

一月

六關稅 關稅ハ輸入貨物又ハ輸出貨物ノ價格ニ從ヒ之ヲ課ス

關稅ヲ大別シテ輸入稅及輸出稅ノ二トス輸入稅ノ稅率ハ貨物ノ種類ニ依リ最高二割以下一割五分、一割、八分、七分五厘及五分ノ區別アリ輸出稅ノ稅率ハ總テ五分トス

七噸稅 噸稅ハ外國貿易ノ爲外國ニ往來スル船舶開港ニ入港シタルトキ之ヲ課ス

其ノ稅率ハ登簿噸數一噸又ハ噸葦十石ニ付二十五錢トス但シ噸稅納付ノ日ヨリ四月間ハ何レノ開港

ニ於テモ之ヲ納付スルヲ要セス

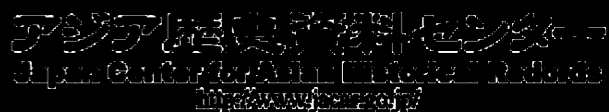
八鹽稅 鹽稅ハ光武十年十一月勅令第六九號鹽稅規程ニ依リ之ヲ賦課ス

鹽ノ製造ヲ爲サムトスル者ハ免許申請書ヲ所轄府郡ヲ經由シテ朝鮮總督ニ提出シ其ノ免許ヲ受クル

モノトス

鹽稅ハ鹽製造者ニ對シ製造斤數百斤ニ付金六錢ノ稅率ヲ以テ賦課ス但シ百斤未滿ノ端數ハ百斤トシ

第四章 財政及經濟



テ計算ス

鹽稅ハ左ノ四期ニ徵收ス

第一期 四月中

但シ一月ヨリ三月ニ至ル間ノ製造斤數ニ對スル分

第二期 七月中

但シ四月ヨリ六月ニ至ル間ノ製造斤數ニ對スル分

第三期 十月中

但シ七月ヨリ九月ニ至ル間ノ製造斤數ニ對スル分

第四期 翌年一月中

但シ十月ヨリ十二月ニ至ル間ノ製造斤數ニ對スル分

九續稅 續稅トハ續區稅、續產稅及砂金採取稅ノ三者ヲ總稱シタルモノナリ

續區稅及續產稅ハ光武十年六月法律第三號續業法ニ依リ之ヲ賦課シ砂金採取稅ハ同年七月法律第四

號砂採取法ニ依リ之ヲ賦課ス

續區稅ハ續區一千坪毎ニ一箇年金五十錢ヲ課ス但シ一千坪未滿ハ一千坪トシテ計算ス續業許可後滿

一箇年間ノ續區稅ハ定率ノ半額トス

續產稅ハ續產物價格ノ百分ノ一トス

砂金採取稅ハ採取區一千坪若ハ河床延長一町毎ニ一箇年金一圓ヲ賦課ス但シ一千坪未滿ハ一千坪、

一町未滿ハ一町トシテ計算ス

十漁業稅 漁業稅ハ明治四十五年二月制令第一號漁業稅令ニ依リ之ヲ賦課ス

漁業稅ハ漁業者ニ對シ漁業ノ種類ニ從ヒ左ノ課稅標準及稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

一、一定ノ水面ヲ區劃シテ魚類ノ養殖ヲ爲ス漁業

區劃水面千坪迄毎ニ

二、免許ニ依ル漁業ニシテ前號ニ該當セザルモノ

其ノ漁場ニ於ケル一年ノ採捕物見積價格千圓以上ノモノニ在リテハ百圓迄毎ニ

第四章 財政及經濟

一一四

年額二圓

年額一圓五十錢

年額一圓

四十圓

年額五百圓

年額二百圓

年額百圓

年額二十圓

- 同上五百圓以上千圓未満ノモノニ在リテハ百圓迄毎ニ
- 同上五百圓未満ノモノニ在リテハ百圓迄毎ニ
- 三、捕鯨業
 - 捕獲ノ鯨一頭毎ニ
- 四、「トロール」漁業
 - 螺旋推進器ヲ備フル漁船(補助機關トシテ備フルモノヲ除ク)一隻毎ニ
 - 補助機關トシテ螺旋推進器ヲ備フル漁船一隻毎ニ
 - 其ノ他ノ漁船一隻毎ニ
- 五、潜水器ヲ使用スル漁業
 - 潜水器一臺毎ニ
- 六、鯨族以外ノ海獸獵業

年額十圓

- 七、風力、潮流又ハ螺旋推進器ニ依リ漁船ヲ運航セシメ獲網ヲ引曳シテ爲ス漁業(「トロール」漁業ヲ除ク)
 - 螺旋推進器ヲ備フル漁船(補助機關トシテ備フルモノヲ除ク)一隻毎ニ
 - 補助機關トシテ螺旋推進器ヲ備フル漁船一隻毎ニ
 - 其ノ他ノ漁船ニシテ肩幅十尺以上ノモノ一隻毎ニ
 - 同上肩幅七尺以上十尺未満ノモノ一隻毎ニ
 - 同上肩幅七尺未満ノモノ一隻毎ニ

年額六十圓

年額四十圓

年額三十圓

年額十圓

年額五圓

- 八、海濱ニ於テ場所ヲ一定セス漁網ヲ曳揚ケ若ハ曳寄セテ爲ス漁業又ハ河湖ニ於テ漁網ヲ曳揚ケ若ハ曳寄セテ爲ス漁業
 - 浮子繩ノ長百五十尋以上ノ曳網類ヲ用ルモノニ在リテハ網一統毎ニ
 - 年額十二圓
 - 浮子繩ノ長百五十尋未満ノ曳網類ヲ用ルモノニ在リテハ網一統毎ニ
 - 年額四圓

一一五

第四章 財政及經濟

網地滑網ヲ用ルモノニ在リテハ網一統毎ニ

九、漁船ヲ以テ囊網ヲ張置シ又ハ繰寄セテ爲ス漁業

肩幅四尺以上ノ漁船一隻毎ニ

肩幅四尺未満ノ漁船一隻毎ニ

十、捲網類ヲ用キテ爲ス漁業網一統毎ニ

十一、漁網ヲ張下シ又ハ流下シ網目ニ魚類ヲ刺サシメ又ハ纏ハシメテ爲ス漁業

螺旋推進器ヲ備フル漁船一隻毎ニ

其ノ他ノ漁船ニシテ總噸數二十噸以上ノモノ一隻毎ニ

其ノ他ノ漁船一隻毎ニ

十二、前各號ニ該當モサル漁業

一、漁船ニ三人以上乗組ミ漁網ヲ用キテ爲ス漁業ハ漁船一隻毎ニ

一、漁船ニ三人以上乗組ミ延繩其ノ他釣具ヲ用キテ爲ス漁業ハ漁船一隻毎ニ

一一六

年額十圓

年額五圓

年額二圓

年額十五圓

年額百圓

年額三十圓

年額六圓

年額四圓

其ノ他漁船ヲ用キル漁業ハ漁船一隻毎ニ

漁船ヲ用キサル漁業ハ漁業者一人毎ニ

免許漁業者ハ未タ何人モ漁業ヲ爲シタルコトナキ漁場ニ於テ漁業ヲ爲ストキハ朝鮮總督ニ申請シテ

三年以内ノ期間ヲ限り稅額ノ減免ヲ受クルコトヲ得

漁業稅ハ所定ノ納付書ニ收入印紙ヲ貼用シテ所轄府郡ニ納付スルモノトス但シ漁業者ニ於テ便宜ト

スルトキハ現金ヲ以テ納付スルコトヲ得

漁業稅ハ左ノ時期ニ之ヲ徵收ス

一、第三項第五號乃至第十二號ノ漁業ハ許可狀又ハ鑑札ノ有効期間全部ノ稅額ヲ許可ヲ與フルト

キ又ハ鑑札ヲ交付スルトキ

二、第三項第一號、第二號及第四號ノ漁業ハ初年度分ノ稅額ヲ免許又ハ許可ヲ與フルトキ

三、前號ノ漁業ノ二年以後ニ於ケル漁業稅ハ其ノ年度ノ四月

年額三圓

年額一圓

年額五十錢

第四章 財政及經濟



四、第三項第三號ノ漁業ノ漁業税ハ毎年二月

十一船税 船税ハ隆熙四年三月法律第一號船税法ニ依リ之ヲ賦課ス

船舶所有者ハ總噸數二十噸以上又ハ積石數二百石以上ノ船舶ニ就テハ船舶原簿ニ登錄ヲ受ケ又右以外ノ船舶ハ所轄府郡ニ申請シテ船鑑札ノ交付ヲ受クルモノトス但シ總噸數五噸又ハ積石數五十石未満ノ帆船ハ船鑑札ノ交付ヲ受クルニ及ハス

端舟其ノ他權權ノミチ以テ運轉シ又ハ主トシテ權權ヲ以テ運轉スル舟若ハ推進器ヲ有セサル淺瀬船及航行ノ用ニ供セサル船舶ハ總テ前項ノ登錄又ハ船鑑札ノ交付ヲ受クルニ及ハス

船税ハ船舶所有者ヨリ左ノ區別ニ從ヒ毎年十月之ヲ徵收ス
一、總噸數十噸又ハ積石數百石以上ノ船舶一噸又ハ十石迄毎ニ 金四錢
二、總噸數十噸又ハ積石數百石未満ノ船舶 金四十錢

十二人蔘税 人蔘税ハ隆熙二年七月法律第一五號人蔘税法ニ依リ之ヲ賦課ス
人蔘税法ハ紅蔘專賣法ニ指定セル人蔘特別耕作區域(宣鏡道開城、長湍、豐德ノ三郡及黃海道金川、

兎山、平山、瑞興、鳳山ノ五郡)ヲ除キタル以外ノ地方ニ於テ人蔘ヲ耕作スル者ニ施行ス
人蔘税ハ人蔘耕作者ヨリ毎年收穫スヘキ蔘圃一間ニ對シ金十錢ノ割合ヲ以テ徵收ス
人蔘税ノ納期ハ毎年十一月末日トス
十三雜税 雜税ハ鴨綠江及豆滿江沿岸ニ於テ輸出入ノ貨物ニ對シ賦課スル沿江税及貨物税ノ二種トス

六 朝鮮經營費

明治四十年以來最近數年間ニ帝國政府カ朝鮮經營ノ爲ニ支出シタル經費ハ左ノ如シ

所 管	明治四十年度	明治四十一年度	明治四十二年度	明治四十三年度	明治四十四年度	大正元年度
陸軍部	11,500,000	11,500,000	11,500,000	11,500,000	11,500,000	11,500,000
海軍部	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
陸軍監	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
海軍監	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
統監府司法及監獄費	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000

第四章 財政及經濟

通 信 官 署	合 計	臨時			陸 軍 部	海 軍 部	統 監 府	統 監 府 及 監 獄 費	通 信 官 署	合 計	特 別 會 社 林 業 計	鐵 道 其 他 計
		部	部	部								
1,256,100	1,256,100	1,256,100										
2,035,500	2,035,500	2,035,500										
1,195,500	1,195,500	1,195,500										
6,235,000	6,235,000	6,235,000										
6,010,000	6,010,000	6,010,000										
5,710,000	5,710,000	5,710,000										
5,610,000	5,610,000	5,610,000										
5,410,000	5,410,000	5,410,000										
5,210,000	5,210,000	5,210,000										
5,010,000	5,010,000	5,010,000										
4,810,000	4,810,000	4,810,000										
4,610,000	4,610,000	4,610,000										
4,410,000	4,410,000	4,410,000										
4,210,000	4,210,000	4,210,000										
4,010,000	4,010,000	4,010,000										
3,810,000	3,810,000	3,810,000										
3,610,000	3,610,000	3,610,000										
3,410,000	3,410,000	3,410,000										
3,210,000	3,210,000	3,210,000										
3,010,000	3,010,000	3,010,000										
2,810,000	2,810,000	2,810,000										
2,610,000	2,610,000	2,610,000										
2,410,000	2,410,000	2,410,000										
2,210,000	2,210,000	2,210,000										
2,010,000	2,010,000	2,010,000										
1,810,000	1,810,000	1,810,000										
1,610,000	1,610,000	1,610,000										
1,410,000	1,410,000	1,410,000										
1,210,000	1,210,000	1,210,000										
1,010,000	1,010,000	1,010,000										
810,000	810,000	810,000										
610,000	610,000	610,000										
410,000	410,000	410,000										
210,000	210,000	210,000										
100,000	100,000	100,000										
0	0	0										

合 計	指 數
3,528,000	100
7,511,500	213
2,107,500	59
6,235,000	177
3,528,000	100
7,511,500	213
2,107,500	59
6,235,000	177
3,528,000	100
7,511,500	213
2,107,500	59
6,235,000	177

本表中明治四十年度乃至四十二年度ハ決算、四十三年度ハ現計、四十四年度及大正元年度ハ豫算額ニ依ル

通信官署經費ハ歳出ニ對シ歳入不足額ヲ計上シ四十三年度ハ歳入超過額ヲ便宜上臨時部經費ヨリ控除シタリ但シ印紙收入ハ之ヲ調査セズ又×印ヲ付シタルハ舊韓國政府立替金ヲ示シ内書トス

本表ノ費目ヲ軍事費及行政費其ノ他ニ區分シタルモノ並其ノ百分比ヲ示セハ次ノ如シ

費 目	明治四十年度	明治四十一年度	明治四十二年度	明治四十三年度	明治四十四年度	大正元年度
總額	1,071,111	1,561,710	1,076,620	1,012,500	1,070,000	1,130,170
軍事費	1,071,111	1,561,710	1,076,620	1,012,500	1,070,000	1,130,170
行政費其ノ他	0	0	0	0	0	0

第四章 財政及經濟



百分比例	軍 事 費	49.2%
	行政費其ノ他	50.8%

第二節 貨 幣

朝鮮ノ幣制ハ從來幾多ノ變遷ヲ重ネタリシカ明治三十八年ニ至リ貨幣ノ根本的整理ニ著手シ先少幣制ヲ改正シ其ノ品位量目ヲ帝國貨幣ト同一トナシ新貨幣ヲ發行シテ其ノ流通普及ニ努メ且第一銀行券ノ流通ヲ公認シ舊白銅貨及葉錢ノ回收ニ努メタリ而シテ舊白銅貨ハ四十二年十二月限り全ク其ノ通用ヲ禁止シ葉錢ハ漸次引上ノ結果其ノ流通額大ニ減少シ新貨幣モ亦到ル處圓滿ニ流通スルニ至レリ而シテ四十二年八月日韓併合ノ結果朝鮮ノ通貨ハ帝國貨幣ヲ以テ統一スルノ方針ヲ採リ爾後舊韓國貨幣ハ一切鑄造ヲ停止シ從來發行シタル分ハ漸次帝國貨幣ト交換シテ引上グルコトトセリ今明治四十一年以降毎年未貨幣流通額ヲ掲ケレハ左表ノ如シ

明治三十八年以降貨幣流通額 (圓) 各年十二月末日

年 次	硬 貨	兌 換 券	舊白銅貨 葉 錢	各 通 貨 合 計	指 數
明 治 四 十 一 年	3,313,333	9,313,000	1,701,000	14,327,333	100
同 四 十 二 年	4,513,333	11,313,000	2,701,000	18,527,333	130
同 四 十 三 年	5,513,333	13,313,000	3,701,000	22,527,333	157
同 四 十 四 年	6,513,333	15,313,000	4,701,000	26,527,333	185
大 正 元 年 十 月 末	7,513,333	17,313,000	5,701,000	30,527,333	213

兌換券發行高 (圓) 各年十二月末日

年 次	十 四 券	五 圓 券	一 圓 券	五 十 錢 券	二 十 錢 券	十 錢 券	合 計	指 數
明 治 四 十 一 年	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	6,000,000	100
同 四 十 二 年	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	6,000,000	100
同 四 十 三 年	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	6,000,000	100
同 四 十 四 年	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	6,000,000	100
大 正 元 年 十 一 月	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	6,000,000	100



第三節 金融

一 金融機關

從來朝鮮ニハ金融機關ノ設備見ルヘキモノナカリシカ明治三十六年二月第一銀行ノ支店ヲ京城ニ開設スルヤ舊韓國政府ハ之ニ委託スルニ中央金庫事務取扱ヲ以テシ銀行券ノ發行ヲ公認シ日本政府モ亦特ニ勅令ヲ以テ同行ニ於テ銀行券ノ發行ヲ認メ以テ同行ヲシテ中央銀行ノ任務ヲ遂行セシメシカハ明治四十年中ニ至リ同行ハ元山、大邱ヲ初メトシ地方十三箇所ニ支店及出張所ヲ有スルニ至レリ是ヨリ前キ牛島内陸ノ發展ニ伴ヒ十八銀行及第五十八銀行等支店ヲ開設セリ明治三十九年三月舊韓國政府ハ銀行條例ヲ發布シ又漢城、天一ノ兩銀行ニ資金ヲ貸與シ其ノ業務ヲ革新セシメ亞テ亦韓一銀行ヲ設立セラレ韓國併合後日鮮人ノ經濟關係益々密接ト爲ルニ從ヒ明治四十五年日鮮人合同ノ下ニ鮮南商業、龜浦ノ二銀行設立ヲ見ルニ至リ財界漸ク順潮ニ向ヒ金融年ヲ遂フテ好況ヲ呈セリ

明治三十九年三月農工銀行條例發布セラレ農工業ノ開發及一般金融調和ノ目的ヲ以テ政府ハ各地ニ

農工銀行ノ設立ヲ獎勵シ政府借入ノ起業資金中其ノ一部ヲ擧クテ之ニ補助ヲ與フルコトトセリ、漢湖農工銀行ハ此ノ主旨ニ基キテ設立セラレタルモノノ嚆矢トス次テ各道樞要ノ地ニ農工銀行本支店ノ設立ヲ見ルニ至レリ

明治四十二年十月、韓國銀行ハ中央銀行トシテ設立セラレ從來第一銀行京城支店ニ於テ取扱ハレタル金庫事務、銀行券發行等ハ韓國銀行ニ引繼カレタリ尙併合後同行ハ朝鮮銀行ト改稱セリ

在朝鮮各種銀行一斑

大正元年九月末日現在

名 稱	支店及出張所數	資本金及支店元金	設 立 者	開 業 年 月
朝鮮銀行	一三	一〇〇〇〇〇〇〇	内地人	四十二年十月二十九日
第一銀行	二	一八〇〇〇〇〇		十一年五月四日
十八銀行	八	一二五〇〇〇〇		二十三年一月一日
百三十銀行	五	七〇〇〇〇〇〇		二十五年七月二十日
周防銀行	一	七〇〇〇〇〇		四十一年八月十七日
密陽銀行	一	五〇〇〇〇〇		四十一年三月一日

第四章 財政及經濟

七 星 銀 行	六 五 〇 〇 〇	朝 鮮 地 人	大 正 元 年 八 月 一 日
漢 湖 農 工 銀 行	四 〇 〇 〇 〇	朝 鮮 人	三 十 九 年 六 月 二 日
慶 尚 農 工 銀 行	二 〇 〇 〇 〇	同	同
平 安 農 工 銀 行	二 〇 〇 〇 〇	同	同
全 州 農 工 銀 行	一 〇 〇 〇 〇	同	同
光 州 農 工 銀 行	一 〇 〇 〇 〇	同	同
咸 鏡 農 工 銀 行	二 〇 〇 〇 〇	同	同
漢 城 銀 行	三 〇 〇 〇 〇	同	同
朝 鮮 商 業 銀 行	五 七 五 〇 〇	同	同
韓 一 銀 行	五 〇 〇 〇 〇	同	同
鮮 南 銀 行	三 〇 〇 〇 〇	同	同
總 浦 銀 行	五 〇 〇 〇 〇	同	同
合 計	七 三 二 〇 〇 〇 〇 〇	同	同

朝鮮銀行

朝鮮ニ於ケル國庫金ノ出納、銀行券ノ發行、其ノ他中央銀行ノ業務ハ從來株式會社第一銀行京城總支店ヲシテ之ヲ取扱ハシメタルカ財政ノ膨脹、經濟ノ發展ニ伴ヒ金融ノ中樞タル中央銀行設置ノ必要ヲ認メ明治四十二年十月設置セラレタル韓國銀行ハ第一銀行ヨリ中央銀行トシテノ業務ヲ繼承シ同年十一月ヨリ業務ヲ開始セリ而シテ併合後朝鮮銀行法ノ發布ト共ニ同行ハ朝鮮銀行ト改稱セリ朝鮮銀行ハ資本金ヲ一千萬圓トシ中央銀行トシテ國庫金ノ出納、銀行券ノ發行ヲ爲スノ外

- 一 爲替手形其ノ他商業手形ノ割引
- 二 平常取引スル諸會社銀行又ハ商人ノ爲手形代金ノ取立
- 三 爲替及荷爲替
- 四 確實ナル擔保附貸付
- 五 諸預リ金及當座貸越勘定
- 六 金銀貨實金屬及諸證券ノ保護預リ
- 七 地金銀ノ賣買及貨幣ノ交換

八尙政府ノ認可ヲ受クルトキハ公共團體ニ對シ無擔保貸付ヲ爲スコトヲ得、營業ノ都合ニヨリテハ國債證券、地方債券其ノ他確實ナル有價證券ヲ買入ルルコトヲ得ルモノトス

朝鮮銀行ハ京城ニ本店ヲ有シ支店ヲ大阪、仁川、平壤、大邱及元山ノ五箇所ニ設ケ出張所ヲ鎮南浦、群山、木浦、馬山、釜山、城津、羅南、新義州及安東縣ノ九箇所ニ有セリ

朝鮮銀行一覽

大正元年九月末現在

(イ) 總況

公稱資本金	拂込資本金	貸立金	政府貸下金	預金	貸付金	銀行高券	支店出張所數
10,000,000	7,700,000	4,500,000	1,110,000	10,750,000	10,750,000	5,850,000	1

(ロ) 預金 (圓)

公金預金	定期預金	當座預金	特別當座預金	預金手形	別段預金	通知預金	計
4,110,000	1,250,000	3,330,000	1,250,000	7,340,000	1,990,000	1,990,000	10,800,000

(ハ) 貸借 (圓)

貸借別	政府勸定	創立	日本銀行	定期貸	當座貸	越利手形	約束手形	借爲替	計
借入金	1,000,000	10,000	5,000,000	1,000,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	8,110,000	
貸出金	4,500,000	10,000	1,000,000	1,000,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	10,800,000	

(ニ) 利率

預金	利率	貸出	利率
當座預金	日歩 七厘	定期	日歩 二厘
特別當座預金	日歩 一錢	越利	日歩 二厘
定期預金	年利 四分五厘	同	日歩 二厘
諸預金	日歩 一錢	同	日歩 二厘

第四章 財政及經濟

三 内地人設立銀行

朝鮮ニ於ケル内地人ノ設立ニ係ル銀行ハ第一銀行、十八銀行、百三十銀行、周防銀行、密陽銀行及七星銀行ニシテ密陽及七星ノ二銀行ハ朝鮮ニ本店ヲ有スルモ他ハ日本ニ本店ヲ有シ朝鮮ニ於ケルモノハ孰モ其ノ支店若ハ出張所ナリ元來是等ノ銀行ハ在留内地人ノ金融ヲ計ル爲ニ設置セラレタルモノナレトモ今ヤ朝鮮人、清國人中ニモ取引ヲナセルモノ尠カラズ

内地人設立銀行一覽 (圓) (△ハ借)

大正元年九月末現在

銀行名	公稱資本金	預	金貸	出金	所有物	借入金	遊	金
第一銀行	1,010,000	1,000,000	45,000	5,000	1,060,000	45,000	5,000	1,110,000
十八銀行	500,000	1,150,000	26,000	1,000	1,676,000	1,000	1,000	1,677,000
百三十銀行	500,000	500,000	1,000,000	1,000	1,002,000	1,000	1,000	1,003,000
周防銀行	1,250,000	1,000,000	1,000,000	1,000	3,250,000	1,000	1,000	3,251,000
密陽銀行	50,000	50,000	1,000	1,000	51,000	1,000	1,000	52,000
計	2,310,000	3,700,000	2,052,000	3,000	8,115,000	3,000	3,000	8,118,000

銀行名	公稱資本金	預	金貸	出金	所有物	借入金	遊	金
七星銀行	500,000	500,000	100,000	100,000	1,100,000	100,000	100,000	1,300,000
計	500,000	500,000	100,000	100,000	1,100,000	100,000	100,000	1,300,000

四 朝鮮人設立普通銀行

朝鮮ニ於ケル普通銀行ハ天一、漢城及韓一ノ三銀行ニシテ孰モ京城ニ本店ヲ有セリ而シテ天一銀行ハ併合後朝鮮商業銀行ト改稱セリ

朝鮮人設立普通銀行一覽 (圓)

大正元年九月末現在

銀行名	公稱資本金	拂込資本金	政府貸下金	積立金及前	預	貸出金
朝鮮商業銀行	5,750,000	2,875,000	451,669	268,381	805,871	899,641
漢城銀行	3,000,000	750,000	900	24,725	2,000,891	593,271
天一銀行	5,000,000	2,500,000	1	108,996	614,984	922,199
計	13,750,000	6,125,000	551,670	402,102	2,421,746	2,415,111

第四章 財政及經濟

五 内鮮人設立普通銀行

從來朝鮮ニ於ケル銀行ノ設立ハ朝鮮人若ハ内地人ニ過キカリシモ前述スル如ク日韓併合後ハ日鮮人ノ經濟關係接近セシテ茲ニ日鮮人合同ノ下ニ銀行ノ設立ヲ見ルニ至レリ

銀行名	公稱資本金	拂込資本金	預金	貸出金	設立年月日
株式會社 鮮南商業銀行	三〇〇,〇〇〇	七五,〇〇〇	一四二,六五五	四九,七八二	大正元年八月十六日
同 龜浦銀行	五〇〇,〇〇〇	一一五,〇〇〇	六四,七三三	四二,三三〇	同 九月五日
計	八〇〇,〇〇〇	二〇〇,〇〇〇	二〇七,三三八	九二,〇〇二	

六 農工銀行

舊韓國政府ハ明治三十九年三月農工銀行條例ヲ發布シ翌月ヨリ之ヲ設立ニ著手シ或ハ政府ニ於テ株式ヲ引受ケ或ハ無利子貸下金ヲ爲シ全國各道所在地ニ一箇所宛ノ本店ヲ設置セシカ後經濟交通上ニ繼ミル所アリ更ニ之カ併合ヲ行ヒ現今全國ヲ通シ本店六箇所(京城、平壤、大邱、全州、光州及元

山)ヲ有シ支店、出張所三十六箇所ヲ樞要ノ地ニ設置セリ
各農工銀行ノ業務ノ要項ハ

- 一 年賦又ハ定期償還ノ方法ニ依リ不動産擔保貸付ヲ爲スコト
 - 二 法令ヲ以テ組織セラレタル公共團體ニ對シ無擔保ニテ前項ノ貸付ヲ爲スコト
 - 三 二十人以上ノ農業者又ハ工業者連帶責任ニテ借用ヲ申出タルトキハ其ノ信用確實ナルモノニ限リ五箇年以内ニ於テ定期償還ノ方法ニ依リ無擔保貸付ヲ爲スコト
- ニシテ前項ノ貸付ハ開墾、排水、灌漑及土地、土質ノ改良、殖林事業等農工業ノ爲ニ使用スルモノナルコトヲ目的トス尙商業手形割引並爲替預金普通銀行業務ヲ兼營スルモノアリ

農工銀行一覽 (圓)

大正元年九月末現在

銀行名	所在地	公稱資本	稱拂資本	込積立金	前預金	金貸出	農工債券	發行高	貸下金	支店數
漢湖農工銀行	京城	1,000,000	500,000	12,257,139	1,267,139	3,399,968	675,000	825,000	九	
京城農工銀行	京城	1,000,000	500,000	12,257,139	1,267,139	3,399,968	675,000	825,000	九	

銀行	支店	明治四十三年	明治四十四年	大正元年
不安銀行	平安南道	1,000,000	1,000,000	1,000,000
慶尚北道	慶尚北道	1,000,000	1,000,000	1,000,000
慶尚南道	慶尚南道	1,000,000	1,000,000	1,000,000
全羅北道	全羅北道	1,000,000	1,000,000	1,000,000
全羅南道	全羅南道	1,000,000	1,000,000	1,000,000
光州	光州	1,000,000	1,000,000	1,000,000
光州	光州	1,000,000	1,000,000	1,000,000
咸鏡南道	咸鏡南道	1,000,000	1,000,000	1,000,000
咸鏡北道	咸鏡北道	1,000,000	1,000,000	1,000,000
元山府	元山府	1,000,000	1,000,000	1,000,000
合計		10,000,000	10,000,000	10,000,000

七 手形交換所

概近朝鮮財界發展ノ結果商業取引漸次頻繁ヲ加ヘ手形殊ニ小切手ノ授受盛ナルニ伴ヒ銀行間ニ於テ手形交換及不渡手形ニ對スル制裁ノ必要ヲ感スルコト切ナルニ至リタルヲ以テ京城ニ於テ明治四十三年七月一日手形交換所ヲ設立シ京城各銀行ヲ其ノ組合銀行トシ組合銀行間ノ手形小切手ノ交換ヲ開始シタルニ成績頗ル良好ニシテ逐月交換高ノ劇増ヲ見ルニ至レリ次テ仁川ニ於テハ明治四十四年

一月四日釜山ニ於テハ同年四月一日孰レモ手形交換所ヲ設立シテ交換事務ヲ開始シタリ今各交換所業務開始後ヨリ大正元年十二月ニ至ル交換高ヲ表示スレハ左ノ如シ

手形交換所手形交換高 (圓)

交換所	明治四十三年		明治四十四年		大正元年	
	枚	交換金額	枚	交換金額	枚	交換金額
京城手形交換所	5,922,264	2,000,000,000	1,270,500	2,000,000,000	3,270,500	2,000,000,000
釜山手形交換所	1,000,000	1,000,000,000	1,000,000	1,000,000,000	1,000,000	1,000,000,000
仁川手形交換所	1,000,000	1,000,000,000	1,000,000	1,000,000,000	1,000,000	1,000,000,000
小切手	1,000,000	1,000,000,000	1,000,000	1,000,000,000	1,000,000	1,000,000,000
透金爲替手形	1,000,000	1,000,000,000	1,000,000	1,000,000,000	1,000,000	1,000,000,000
約束手形	1,000,000	1,000,000,000	1,000,000	1,000,000,000	1,000,000	1,000,000,000
仕拂命令及出給命令	1,000,000	1,000,000,000	1,000,000	1,000,000,000	1,000,000	1,000,000,000
總計	10,000,000	10,000,000,000	10,000,000	10,000,000,000	10,000,000	10,000,000,000

郵便爲替	八〇四	三二七	三二七	三二七	三二七
公債	一	九六九	四六九	四六九	四六九
債券	一	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇
同利札	一	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇
計	五九四六	二〇四九八	二〇四九八	二〇四九八	二〇四九八

八 地方金融組合

地方金融組合ハ、地方小農民間ノ金融ヲ緩和シ農業發達ヲ企圖スルノ趣旨ヨリ出テシモノニシテ朝鮮ノ如キ積年ノ稅政ノ下ニ困憊セル細民ヲシテ生計ノ餘裕ヲ得セシメ地方産力ノ増進ヲ圖ルハ經濟發展上、最急ノ事業ナルヲ以テ舊韓國政府ハ明治四十年五月地方金融組合規則ヲ制定シ次テ各地ニ金融組合ヲ設置セシメ各組合ニ對シテ基本金一萬圓ヲ下付シ理事ヲ推薦シ二三組合兼務ノ農業技手ヲ置キ模範農事ヲ獎勵セリ各組合ハ一郡又ハ二三郡ヲ以テ其ノ區域ト爲シ其ノ區域内ノ農民ヲ以テ組合員トシ、組合員ニハ一人金五十圓ヲ限度トシテ(一)農工業資金ヲ貸付シ(二)生産物ノ委託販賣及必需品ノ共同購入ヲ取扱ヒ(三)貨物集散ノ地ニ在ル組合ハ倉庫ヲ建造シ米穀ヲ擔保トシテ貸付ヲ

行ヘリ現今組合總數既ニ百六十箇所ニ達セリ

大正元年九月調

地方金融組合營業總況

地方	基本金	組合數	組合員數	組合員	貸付金
京畿道	一七〇、〇〇〇	一七	三三	四、九一七	一三二、三七九
忠清南道	一四〇、〇〇〇	一四	三八	五、六二一	一三六、九〇一
忠清北道	九〇、〇〇〇	九	一六	三、一七九	八五、五五五
全羅南道	一七〇、〇〇〇	一七	二八	七、三三三	一八七、九九三
全羅北道	一三〇、〇〇〇	一三	二七	五、五三〇	一三五、一五五
慶尚南道	一五〇、〇〇〇	一五	二八	五、六二一	一三〇、〇八五
慶尚北道	一八〇、〇〇〇	一八	四一	六、九六七	一六〇、四四二
黃海道	一三〇、〇〇〇	一三	一七	四、八〇〇	一三三、三三三
平安南道	一三〇、〇〇〇	一三	二〇	七、二六九	七八、六二七
平安北道	一四〇、〇〇〇	一四	一八	三、九五〇	九六、一七八
江原道	一三〇、〇〇〇	一三	一九	三、六七一	一〇〇、九六七

第四章 財政及經濟

同	同	同	明治	成鏡	成鏡	成鏡
四十一年	四十二年	四十二年	四十四年	北道	南道	計
四八〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	一三〇、〇〇〇	一六九、〇〇〇	一一〇、〇〇〇	一三八
四八	一〇〇	一三〇	二八五	二八五	八	三、七四三
一六〇	二六六	三〇九	四六、五五一	六、四七七	一、九五九	八、九二五
一六、九九三	二六、二三八	四〇、七一六	四〇、七一一	一、四九二	四、八七六	一、四九二
二〇、八七八	四七〇、二八一	七七四、三二九	一、〇五五、五四四	一、四九二、四一四	四、八七六	一、四九二、四一四

第五章 農業

一 土地

朝鮮半島ノ地ハ一見秃山兀兀タルモ沃野饒田到ル處農業ニ適セサルハナシ殊ニ南部地方ハ氣候温暖ニシテ農産物ノ發育最モ佳良ニ中部ニ於テハ冬季ハ稍寒氣強シト雖麥類ノ如キ冬作物ノ腐敗スル恐ナク且四月以降ハ氣温上ルカ故ニ生育ニ宜シク空氣ハ乾燥セルヲ以テ收穫物ノ品質良好ナリ夏作物ノ水稻ノ如キハ氣候ノ關係ヨリセハ其ノ生育良好ナルヘキモ用水ノ完備セサルヲ以テ插秧意ノ如ククラス或ハ旱害ヲ被ルコトアルモ灌溉耕作ニ留意スルアラハ好果ヲ擧グルコト必セリ今明治四十四年十二月末日現在耕地面積ヲ掲ケルハ左ノ如シ

道	耕地	細面	積計(町)
京畿道	一三四、五九四五	一二三、五九六五	二五七、一九一〇
忠清北道	四八、三一四一	四二、六三五二	九〇、九四九二
第五章 農業			一三九

道	未墾地	山林原野	干	合
忠清南道	125,721.8	51,448.1	177,169.9	
全羅北道	108,248.5	31,370.4	139,618.9	
全羅南道	125,911.0	21,650.3	147,561.3	
慶尙北道	115,738.2	87,174.9	202,913.1	
慶尙南道	91,348.0	51,988.5	143,336.5	
黃海道	80,818.2	22,689.7	103,507.9	
平安南道	41,390.0	23,438.9	64,828.9	
平安北道	47,711.2	30,493.9	78,205.1	
江原道	37,794.4	22,967.2	60,761.6	
咸鏡南道	31,597.1	19,775.1	51,372.2	
咸鏡北道	37,097.7	14,754.0	51,851.7	
總計	992,896.7	273,426.9	1,266,323.6	
明治四十三年	840,988.3	1,558,853.7	2,399,842.0	
同四十二年	781,097.1	1,521,177.3	2,302,274.4	

備考 休閑地及燒田ハ四十四年以降課税地目トシテハ全部畑地ニ編入セラレタリ

然リ而シテ朝鮮ニ於ケル未墾地ハ近年多數内國人ノ移住スルニ隨ヒ漸次開拓セララルニ至レリト雖
 尙到ル處ニ散在セリ各道反別左ノ如シ

未墾地分布表

地方	河邊未墾地	山林原野	干	合
京畿道	55,196.4	40,040.0	37,142.2	132,378.6
忠清北道	49,927.7	10,395.5	15,322.2	75,645.4
忠清南道	31,722.4	19,857.7	63,635.5	115,215.6
全羅北道	16,400.0	51,627.7	73,876.6	141,904.3
全羅南道	8,948.8	97,251.1	146,450.0	252,650.0
慶尙北道	37,387.7	46,311.0	83,697.7	167,396.4
慶尙南道	33,841.1	77,585.5	116,471.1	227,897.7
黃海道	27,921.0	77,585.5	116,471.1	221,977.6
平安南道	42,811.8	39,852.2	118,351.1	201,015.1
平安北道	15,952.2	12,477.7	41,111.0	69,540.9
總計	428,811.8	504,451.1	836,977.7	1,770,240.6

第五章 農業

一四二

江原道	一〇、七四九	四一、四七〇	五二、四八九
咸鏡南道	二七、〇六三	五八、七三九	八五、八〇二
咸鏡北道	一七、八七四	一〇五、七六六	一二三、六四〇
合計	三三、〇七九	六四六、八五三	一、一八五、一二一

一四二

一 前記ノ未墾地カ從來開拓セラレサリシ所以ノモトハ主トシテ旱水害アリシニ因ルモノハ朝鮮ノ人口疎薄ナルト農民ノ資力及知識ノ程度之ニ伴ハサルト開拓者ニ對スル所有權保護ノ途備ハラサリシニ基因ス仍テ明治四十年國有未墾地利用法ヲ發布シ左記ノ趣旨ヲ以テ之カ利用ヲ獎勵セリ

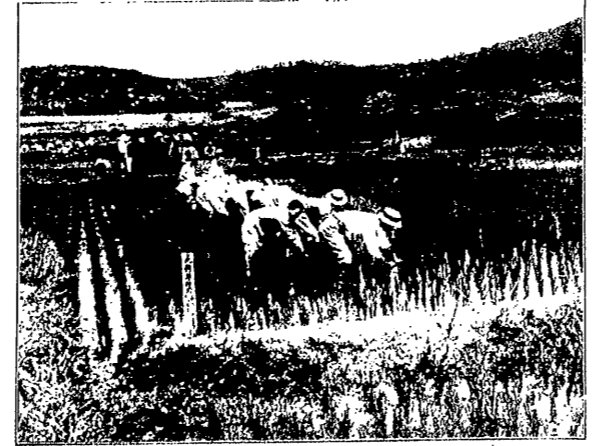
イ 貸付期間ヲ十年トシ開墾牧畜植樹ニ就テハ特別ノ事由アルモノノ外事業成功後付與スルコトトシ其ノ他ノ利用ニ付テハ拂下ク

ロ 貸付料ハ一町歩年額五十錢トシ特別ノ事由アル者ニ對シテハ之ヲ減免ス

ハ 事業成功後付與又ハ拂下タル土地ノ稅率ハ其ノ土地所在ノ道ニ於ケル最下級ニ屬スル土地ノ負擔ノ三分ノ一トス



朝鮮在來ノ農事狀況



京畿道農實習員田除草ノ光景

一 未墾地中ニハ一地區ニシテ百町歩以上ノ大面積アルモノ少カラス此等ノ設計調査ハ相當ノ費用ト技術ヲ要シ一般出願人ニ對シ精確ナル調査ヲ望ムヘカラサルノミナラス豫メ官廳ニ於テ之ヲ調査シ確實ナル利用方法ヲ示スハ獎勵上將々處理上其ノ效果少カラサルヲ以テ明治四十四年度ヨリ之カ調査ヲ開始セリ

國有未墾地貸付表

道別	種別		件數	面積	件數	面積	件數	面積	件數	面積	件數	面積	件數	面積	計	件數	面積
	原野	荒蕪地															
京畿道	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
忠清北道	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
忠清南道	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
全羅北道	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4

第五章 農業

一四三

第五章 農業 大麥

選定地	價購入時	價支出	差引	引	引
京畿道 振威附近	二五・三三三	六四・〇〇〇	一九・〇三三	二・六三三	二・九一
忠清北道 清州附近	二七・六六六	六六・〇〇〇	一八・二九三	二・〇五〇	一・八三
忠清南道 公州附近	二五・三三三	五三・三三三	二八・〇〇〇	八・二〇〇	一・五四
全羅北道 金堤附近	二〇・〇〇〇	四六・六六六	九三・七三三	七・五六九	一・六三
全羅南道 南平附近	四〇・〇〇〇	六三・〇〇〇	八・四八〇	二・三三〇	一・八〇
慶尙北道 清道附近	二五・六六七	六五・三三三	一〇・〇〇〇	二・六六七	一・九四
慶尙南道 金海附近	四三・三三三	七三・三三三	一三・五五三	九・七六四	一・三三
黃海道 黃州附近	一九・〇〇〇	二一・六六七	九二・〇〇〇	二・九七三	一・三三
平安南道 鎭南浦附近	四〇・〇〇〇	四六・六六七	一〇・四四四	五・九一六	一・三三
平安北道 定州附近	三三・七〇〇	四三・三三三	七・九〇〇	八・二四〇	一・九〇
江原道 高城附近	二九・三三三	二五・六六七	八・二二二	五・二二二	二・〇三
咸鏡南道 元山附近	二〇・四一六	二五・六六七	九・二五〇	四・四一三	二・〇三

一四五

内地人經營田畑一段歩ニ對スル收支表

明治四十四年

合計	咸鏡北道	咸鏡南道	江原道	平安北道	平安南道	黃海道	慶尙北道	慶尙南道	全羅北道	全羅南道
二二・三	二二・三	二二・三	二二・三	二二・三	二二・三	二二・三	二二・三	二二・三	二二・三	二二・三
二九・六	二九・六	二九・六	二九・六	二九・六	二九・六	二九・六	二九・六	二九・六	二九・六	二九・六
一九・六	一九・六	一九・六	一九・六	一九・六	一九・六	一九・六	一九・六	一九・六	一九・六	一九・六
六四・三	六四・三	六四・三	六四・三	六四・三	六四・三	六四・三	六四・三	六四・三	六四・三	六四・三
三〇・五	三〇・五	三〇・五	三〇・五	三〇・五	三〇・五	三〇・五	三〇・五	三〇・五	三〇・五	三〇・五
三・七	三・七	三・七	三・七	三・七	三・七	三・七	三・七	三・七	三・七	三・七
二・五	二・五	二・五	二・五	二・五	二・五	二・五	二・五	二・五	二・五	二・五
二・八	二・八	二・八	二・八	二・八	二・八	二・八	二・八	二・八	二・八	二・八
八・〇	八・〇	八・〇	八・〇	八・〇	八・〇	八・〇	八・〇	八・〇	八・〇	八・〇
六・九	六・九	六・九	六・九	六・九	六・九	六・九	六・九	六・九	六・九	六・九
二・二	二・二	二・二	二・二	二・二	二・二	二・二	二・二	二・二	二・二	二・二
一・九	一・九	一・九	一・九	一・九	一・九	一・九	一・九	一・九	一・九	一・九

一四四

選定地	價購入	時價	支出	收入	益差	金引	購入價格引	時價引
京畿道 水原附近	一五〇〇〇	一六〇〇〇	六二九七	八五九〇	二二九三	一五三	一四三	一四三
忠清北道 文義附近	二二五〇〇	二〇〇〇〇	五〇〇〇	一〇五〇〇	五五〇〇	四〇〇	二七五	二七五
忠清南道 公州附近	八三三〇〇	二〇〇〇〇	五六二〇	八〇〇〇	二三八〇	二八六	一一九	一一九
全羅北道 金州附近	二二六六七	二五〇〇〇	八六一七	二二三〇	三六八三	二七六	一一三	一一三
全羅南道 木浦附近	二〇〇〇〇	二二六六六	七六五三	八四四五	七九七	〇八〇	〇八三	〇八三
慶尚北道 大邱附近	二二三三三	二五〇〇〇	六〇〇五	一〇八六三	四八五八	二二八	一一〇	一一〇
慶尚南道 固城附近	九九〇〇〇	一六〇〇〇	五二八七	七二二〇	一八三三	一八五	一〇七	一〇七
平安南道 鎭南浦附近	二一六七〇	二二六七〇	五三一〇	七六三〇	二三三〇	一〇七	一〇三	一〇三
平安北道 定州附近	一七五〇〇	二六七〇〇	六七三〇	一〇〇〇〇	三二八〇	一八七	一〇三	一〇三
江原道 高城附近	一〇〇〇〇	八〇〇〇	五一一〇	八二七〇	二九〇〇	二九〇	三六三	三六三

一四六

小麥

選定地	價購入	時價	支出	收入	益差	金引	購入價格引	時價引
京畿道 水原附近	一五〇〇〇	一六〇〇〇	六三三五	九〇八三	二七五八	一八四	一六〇	一六〇
忠清北道 大田附近	一三六七〇	二八六七〇	五九三〇	九六〇〇	三六七〇	二六七	一一八	一一八
忠清南道 光州附近	一〇六六六	一三六六六	七八五二	九三〇〇	一四四八	一〇六	一〇六	一〇六
全羅北道 慶尙南道 晉州附近	四六六六七	七五〇〇〇	九四〇〇	一五〇〇〇	五七〇〇	一一二	〇七六	〇七六
平安南道 定州附近	一四〇〇〇	二二七〇〇	五〇六〇	一〇九〇〇	五八〇〇	四二四	二六七	二六七
江原道 高城附近	一〇〇〇〇	八〇〇〇	五三〇〇	一〇〇〇〇	四七〇〇	四七〇	五〇九	五〇九

大豆

選定地	價購入	時價	支出	收入	益差	金引	購入價格引	時價引
京畿道 水原附近	一五〇〇〇	一六〇〇〇	六五三八	九一六〇	二六二二	一七五	一六四	一六四
忠清北道 忠州附近	六六六六六	三六〇〇〇	二二七七	四八〇〇	二五二三	三七八	〇七〇	〇七〇
忠清南道 公州附近	八三三〇〇	二〇〇〇〇	三九〇〇	五五〇〇	一六〇〇	一九〇	〇八〇	〇八〇
全羅北道 井邑附近	八〇〇〇〇	一四六六七	三九二〇	五〇六七	一六四七	二〇六	一一二	一一二
全羅南道 羅州附近	一一六六六	一四〇〇〇	四九六〇	六三三三	一三七三	一一八	〇九八	〇九八

第五章 農業

一四七

慶尚北道	大邱附近	二二・三三三	二五・五〇〇	四・四五四	六・四三三	一九・八一	〇・九三
慶尚南道	晉州附近	三〇・〇〇〇	三五・〇〇〇	四・三六〇	七・五〇〇	三・一四〇	〇・九〇
黃海道	黃州附近	八・一六七	九・三三三	六・一六三	六・七〇〇	五・五三七	〇・六五
平安北道	平壤附近	二二・六六六	二二・三三三	三・三八六	五・一三七	一・七五二	〇・七五
平安南道	定州附近	一四・〇〇〇	二・七〇〇	三・三二〇	五・二五〇	一・九三〇	〇・四六
江原道	高城附近	一〇・〇〇〇	八・〇〇〇	四・三三〇	六・〇〇〇	一・六五〇	〇・九〇
咸鏡南道	元山附近	一五・八三三	一九・六六八	二・九二六	七・一八七	四・二六一	二・〇六

田畑一反歩平均價格

明治四十四年

京畿道	上	四・三三八	二・八五五	二・六三三	一・八八八	二・二〇〇
忠清南道	中	一〇・七〇〇	七・七五〇	四・一〇〇	三・六三三	一・四〇七
忠清北道	下	一〇・三三三	五・六〇〇	三・四三三	三・三三七	二・二六
全羅南道	上	五・九〇〇	三・九〇〇	二・五八八	二・二二九	一・一三五
全羅北道	中	六・〇八八	三・九八八	二・七六六	二・〇〇〇	一・三三五

慶尚北道	上	一一・三三〇	七・八五〇	五・〇〇〇	四・九〇〇	三・七九〇	二・四〇〇
慶尚南道	中	七・六三三	五・三三八	三・一三三	六・八四四	四・六七七	三・一六
黃海道	下	二・八〇〇	二・三三〇	一・四〇〇	一・五八八	七・八	三・八
平安南道	上	六・五〇〇	五・〇〇〇	三・一三三	五・三三三	三・六八八	一・六七七
平安北道	中	六・五〇〇	四・五〇〇	二・〇〇〇	三・三六七	二・二七	一・六七七
江原道	下	三・三三〇	二・五〇〇	二・〇〇〇	一・〇〇〇	八・〇	六・〇
咸鏡南道	上	五・九〇〇	二・七〇〇	二・〇〇〇	二・四〇〇	一・八〇〇	一・〇九
咸鏡北道	中	二・九三三	二・〇三三	一・三三八	三・六三九	二・〇〇〇	一・〇九

二 農業者

朝鮮ニ於ケル耕地ノ大部分ハ大地主(王族、閥族、兩班)ノ所有ニ係レリ而シテ鮮人ノ多クハ農事ヲ業トシ他人ノ田畑ヲ耕作シ一生小作ニテ甘ムスル者比比トシテ皆然リ而シテ大地主ノ多クハ都會ニ住居シ悠悠自適田邑ニハ代理人ヲ置テ小作地ヲ整理シ小作人ヲ監督セシム小作ニハ三種ノ法アリ
 (一)地主土地ヲ貸與シ小作人ハ自ラ地租及種子ヲ出シテ耕作シ收穫ノ三分ノ一ヲ地主ニ納ムルモノ
 (二)地主地租及種子ヲ負擔シ其ノ收穫ヲ折半スルモノ
 (三)毎年豐凶ニ拘ラス小作料ノ一定セル

中ノトアリ、而シテ一般ニ行ハルルハ(一)ノ三分ノ一法及(二)ノ折中法ニシテ(三)ノ定額法ハ至テ
 稀ナリ、而シテ小作ヲ約スルニハ成文ノ契約アルニハ非ス年限ノ定アルニモアラス唯口約ヲ以テ之
 ナ定ムルノミ又小作人ハ地主ニ對シテ意納ヲ爲スコト稀ナリ當ニ朝鮮人地主ニ對シテノミナラス内
 地人地主ニ對シテモ從來舊約ニ違ヒシ事ナク寧ロ安シテ長ク小作人タラントトテ添フモノノ如シ
 故ニ内地人ノ農業經營者ハ意外ニ便利ヲ感シツツアリト云フ

農業者數一覽

明治四十四年十二月末調

道	内地人		朝鮮人		清國人		其ノ他ノ外國人	
	戶數	人口	戶數	人口	戶數	人口	戶數	人口
京畿道	五四九	一四三三	二〇〇四八	九八八四三五	一三六	三三三		
忠清北道	六四	二七四	一四二七一	五二二六〇二				
忠清南道	一九二	六二五	一六九三三	七六五三八九	一八	四九		
全羅北道	三九一	一三二七	一七四二四〇	八三二一六六	一〇	二二		
全羅南道	三五六	一三三七	二八六〇一七	一三三三七、二二	三	七		

道	内地人		朝鮮人		清國人		其ノ他ノ外國人	
	戶數	人口	戶數	人口	戶數	人口	戶數	人口
慶尚北道	三三八	一、一六一	二九九五〇三	一、三七〇、七七	五	一五		
慶尚南道	七六六	二、六三〇	二、五四一、二八	一、八二、八六四	二	五		
黃海道	八六	二七六	一、八八、六九〇	七四、二二五	一六	三五		
平安南道	九六	二五五	一、五五〇四二	七〇、二七七	七三	三三二		
平安北道	一八	四二	一、六二〇九九	七七、九四四	二	四〇		
江原道	一九	六〇	一、五、九二二	六九、二九四	一	四		
咸鏡南道	三三	一八六	一、三七、三三二	七〇、四二二	二四	六三		
咸鏡北道	三三	一〇二	六四、五一四	三五、五〇六	二	二		
總計	二、九六〇	九、四〇九	二、三三六、九三七	一、〇三、九九三	三二	九〇六		

朝鮮農業ノ有窮ナルニ鑑ミ内地人ノ之ヲ經營スル者頗ル増加シ各道共盛況ヲ呈スルニ至レリ今四十
 四年末ニ於ケル狀況ヲ調査スルニ經營者三千八百三十九人、投資額二千二百四十七萬二千九百八十
 三圓、所有地面積田五萬八千四百四町歩、加三萬五千三百三十六町七反歩、山林原野其ノ他ヲ合シ

第五章 農業

テ合計十二萬六千五百四十九反少ニシテ投資額一萬圓以上ノ經營者百六十七人ノ多數ヲ算スルニ至レリ而シテ是等農業經營者ノ營業種別並其ノ經營方法ヲ見ルニ營農種別ハ普通農業果樹蔬菜ノ栽培、桑園、造林等ニシテ經營方法ハ投資額一萬圓以上ノ經營者ハ大部分小作經營ナリトス

左ニ各道別内地人農事經營表ヲ掲グ

内地人農事經營表 明治四十四年十二月末日現在

地方	經營者數	投資額	地所				計
			田	山林	原野	其他	
京畿道	1,891	1,246,844	1,246,844	0	0	0	1,246,844
忠清北道	511	1,354,800	1,354,800	0	0	0	1,354,800
忠清南道	511	1,354,800	1,354,800	0	0	0	1,354,800
全羅北道	511	1,354,800	1,354,800	0	0	0	1,354,800
全羅南道	511	1,354,800	1,354,800	0	0	0	1,354,800
慶尙北道	511	1,354,800	1,354,800	0	0	0	1,354,800
慶尙南道	511	1,354,800	1,354,800	0	0	0	1,354,800
總計	10,649	12,654,944	12,654,944	0	0	0	12,654,944

地方	經營者數	投資額	地所				計
			田	山林	原野	其他	
黃海道	31	1,545,500	1,545,500	0	0	0	1,545,500
平安南道	51	1,354,800	1,354,800	0	0	0	1,354,800
平安北道	51	1,354,800	1,354,800	0	0	0	1,354,800
江原道	51	1,354,800	1,354,800	0	0	0	1,354,800
咸鏡南道	51	1,354,800	1,354,800	0	0	0	1,354,800
咸鏡北道	51	1,354,800	1,354,800	0	0	0	1,354,800
總計	266	8,363,500	8,363,500	0	0	0	8,363,500

備考 本表ハ投資ノ多寡ニ關セス内地人農事經營者ニ付調査シタルモノナリ。

一萬圓以上ノ投資セル内地人農事經營表 明治四十四年十二月末日現在

地方	經營者數	投資額	地所				計
			田	山林	原野	其他	
京畿道	1,891	1,246,844	1,246,844	0	0	0	1,246,844
忠清北道	511	1,354,800	1,354,800	0	0	0	1,354,800
忠清南道	511	1,354,800	1,354,800	0	0	0	1,354,800
總計	3,913	3,956,444	3,956,444	0	0	0	3,956,444



道	全羅北道	全羅南道	慶尙北道	慶尙南道	黃海道	平安南道	平安北道	江原道	咸鏡北道	咸鏡南道	總計
男	1,210,000	1,210,000	1,210,000	1,210,000	1,210,000	1,210,000	1,210,000	1,210,000	1,210,000	1,210,000	12,100,000
女	605,000	605,000	605,000	605,000	605,000	605,000	605,000	605,000	605,000	605,000	6,050,000
日	1,815,000	1,815,000	1,815,000	1,815,000	1,815,000	1,815,000	1,815,000	1,815,000	1,815,000	1,815,000	18,150,000
男	907,500	907,500	907,500	907,500	907,500	907,500	907,500	907,500	907,500	907,500	9,075,000
女	453,750	453,750	453,750	453,750	453,750	453,750	453,750	453,750	453,750	453,750	4,537,500
總計	3,630,000	3,630,000	3,630,000	3,630,000	3,630,000	3,630,000	3,630,000	3,630,000	3,630,000	3,630,000	36,300,000

朝鮮人農作夫雇賃表
 朝鮮人農作夫雇賃方法ハ雇主ニ於テ衣食其ノ他ヲ負擔シ一定ノ給料ヲ與フル者アリ又給料ヲ定メヌ
 衣食ヲ給シ時時金錢ヲ與ヘ數年ノ後勸勞ニ應ジ金錢又ハ土地ヲ與フル者アリ日雇ハ雇主ニ於テ食料
 ナ負擔シ一定ノ賃錢ヲ給スルヲ普通トス而シテ賃錢ハ農作物ノ播種期收穫期等ニ於テ多少ノ不同アリ
 下雖左ニ各道ニ於テ標準トナルヘキ年雇及日雇農作夫賃錢ヲ掲ク

朝鮮人農作夫賃銀表 明治四十四年 (×ハ賄付)

地方	年雇		日雇	
	男	女	男	女
京城道	4,800	3,600	0.30	0.28
忠清北道	2,500	1,000	0.30	0.30
忠清南道	2,000	1,000	0.30	0.30
全羅北道	3,000	1,500	0.30	0.30
全羅南道	2,500	1,500	0.30	0.30
慶尙北道	3,000	1,500	0.30	0.30
慶尙南道	2,500	1,500	0.30	0.30
黃海道	2,000	1,000	0.30	0.30
平安南道	2,000	1,000	0.30	0.30
平安北道	2,000	1,000	0.30	0.30
江原道	2,000	1,000	0.30	0.30
咸鏡北道	2,000	1,000	0.30	0.30
咸鏡南道	2,000	1,000	0.30	0.30

第五章 農業 一五五

朝鮮人ハ耕地面積ノ廣狹ヲ呼稱スルニ單ニ作物收穫高或ハ耕働ノ功程又ハ播種量等ニ依リ結、耕、落ノ名稱ヲ用フ即一結ト云フハ收稅上ノ便宜ニ由ル名稱ニシテ普通民間ニ於テハ一斗落、一日耕等ヲ以テ面積ヲ現ハス單位トシ一斗落トハ概一斗ヲ播下スヘキ地積ヲ云ヒ一日耕トハ一頭ノ牛ト一人ノ壯丁トニ依リテ一日ニ耕得ラルヘキ地積ヲ云フ從テ一日耕ト云ヒ一斗落ト云フモ場所ニ於テ異ナリ人ニ由リテ差アルカ故ニ一様ナラズト雖一斗落ハ通常百二十坪乃至百五十坪ニシテ牛一日ノ耕程ハ普通三反歩内外ナリ而シテ耕牛一頭朝鮮人一人ニ付耕牛ノ飼料及人夫ノ食料ヲ加算スレハ其ノ賃錢ハ一日六十錢乃至一圓ナリトス

三 農産物

一 米 朝鮮農産物中第一ニ位スル重要品ニシテ朝鮮人カ日常ノ糧食トシテ消費スル高ハ莫大ナリト雖而カモ尙輸出スル高亦甚多シ慶尙、全羅ノ如キ南鮮ノ地產出最多ク黃海、忠清、京畿ノ如キ中部ノ地之ニ次キ北鮮ハ頗ル少シ明治四十四年度ニ於ケル輸出高ハ五十九萬一千八百八十一石ニシテ其ノ價額四百二十八萬三千七百七十二圓ニ及ヘリ

二 大豆 各道到ル所其ノ栽培ヲ見サルナク明治四十四年度ニ於ケル輸出高六十七萬八千四百九石其ノ價額四百三十六萬一千八百三十七圓ニシテ米ト共ニ輸移出品中ノ重要品ナリ

三 麥 大麥、小麥ヲ主トシ燕麥之ニ次キ裸麥ハ甚々少シ大麥ニハ、春麥、秋麥アリテ京城以北ハ春麥多ク以南ハ秋麥多シ、小麥ハ秋麥トス燕麥ハ春麥多ク山間狹隘ノ地ニ栽培スル者多シ

米、麥、大豆産額表

明治四十四年

道	作付段別(町)		收穫高(石)		一段步收穫高(石)	
	米	大豆	米	大豆	米	大豆
京畿道	1,500,000	1,000,000	1,500,000	1,000,000	0.70	0.70
忠清北道	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	0.90	0.70
忠清南道	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1.00	0.70
全羅北道	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1.00	0.70
全羅南道	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1.00	0.70
慶尙北道	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1.00	0.70
慶尙南道	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1.00	0.70



同 明 治 四 十 三 年	八〇、八五五	四〇、一〇〇	三〇、五五五	八、二二〇	二、八〇〇	一、〇〇〇	〇、〇〇〇
同 明 治 四 十 二 年	七二、九〇〇	三〇、〇〇〇	二八、〇〇〇	八、二二〇	二、八〇〇	一、〇〇〇	〇、〇〇〇
總 計	一五三、七五五	七〇、一〇〇	五八、五五五	一六、四四〇	五、六〇〇	二、〇〇〇	〇、〇〇〇
廣 海 道	六、九〇〇	三、〇〇〇	三、九〇〇	五、二〇〇	一、八〇〇	〇、八〇〇	〇、〇〇〇
平 安 道	四、八〇〇	二、〇〇〇	二、八〇〇	三、七〇〇	一、二〇〇	〇、七〇〇	〇、〇〇〇
江 原 道	四、八〇〇	二、〇〇〇	二、八〇〇	三、七〇〇	一、二〇〇	〇、七〇〇	〇、〇〇〇
成 鏡 南 道	一、〇〇〇	五〇〇	五〇〇	一、〇〇〇	五〇〇	二〇〇	〇、〇〇〇
成 鏡 北 道	一、〇〇〇	五〇〇	五〇〇	一、〇〇〇	五〇〇	二〇〇	〇、〇〇〇

四棉花 棉ハ江原道ノ東海岸及成鏡兩道ヲ除クノ外各地殆ト之ヲ栽培セサルナキモ就申全羅南北道及慶尙南北道ハ其ノ主産地ニシテ忠清南北兩道之ニ次ク棉質纖維長クシテ彈力ニ富ミ各稱ノ用途ニ適セヨ從來朝鮮人ハ衣料ニ供スヘキ木綿ヲ製スルニ自ラ棉種ヲ蒔キ自ラ紡績シ自ラ製織シテ需用ニ供スル慣習ナリシモ近來日本ヨリ精練ナル紡績絲ノ移入セラルルヤ棉花ノ紡績漸ク減少セシト同時

ニ明治三十五年朝鮮産棉花ヲ内地ニ移出スルノ途開ケ販路擴張セラレテ漸次好況ヲ示スニ至レリ然レトモ其ノ品質優良ナラサルヲ以テ明治三十九年政府保護ノ下ニ收量糶綿歩合共ニ多ク纖維ノ細長ニシテ紡績原料ニ好適スル米國種陸地棉ノ栽培ヲ獎勵セシニ成績良好ナルヲ以テ年々其ノ栽培反別ヲ増加セリ明治三十九年ニ於テハ陸地棉作付反別四十五町歩其ノ栽培者僅ニ三百餘名ヲ出テザリシニ明治四十五年ニ至リ約六千五百町歩其ノ栽培者實ニ八萬餘人ノ多キニ達セリ勸業模範場木浦支場ニ於ケル陸地棉及在來棉ノ比較試驗成績ニ依ルトキハ朝鮮在來棉一反歩收獲高ハ百六十六斤ニシテ陸地棉ハ二百六十六斤ナリ之レ陸地棉在來棉ノ共ニ優良ナルモノノ比較ナルヲ以テ兩棉優劣ノ如何ヲ窺フニ足ルヘシ明治四十四年ニ於ケル作付反別收獲高及輸移出額ハ左表ノ如ク是等輸移出額ノ内其ノ在來棉ト陸地棉トノ數量ハ明白ニ區別スルコト能ハサルモ年々輸移出ノ綿中陸地棉歩合ノ増加セルハ疑フヘキニアラス

明治四十四年棉作付反別收獲高及輸移出額



在 來 地 棉 作付反別 收穫高 一段歩收穫高 輸移出額

陸地	四、五、五、四、三、一、九、五、〇、五、九	七、〇、一、七	二、五、二、三、〇、九
陸地	二、六、八、三、六	四、三、七、九、二、八	一、六、三、一、九

五煙草 朝鮮ニ於ケル特殊農産物中最も重要ナル物ニシテ全道到ル所其ノ栽培ヲ見サルハナク京畿道龍仁、廣州、陽智、長淵、平安南道成川、陽德、江原道寧越、旌善、平昌、忠清北道清州、忠州、清安、槐山、報恩、懷仁、全羅北道高山、珍山、錦山、全州、任實、鎮安、茂朱、慶尙南道河東、居昌、黃海道谷山、新溪ノ各郡ハ孰レモ主産地ニ屬シ殊ニ龍仁、廣州、成川、寧越ノ煙草ハ古來銘葉ヲ以テ稱セラル煙草ニ關スル調査ハ明治三十九年以來之ヲ繼續シ四十四年ニ至リテ大體ノ調査ヲ完了セリ又明治四十三年以降前記ノ主産地ニ專門ノ技術官吏ヲ派遣シ耕作ノ改良、産地ノ發展ヲ奨勵シ其ノ成績見ルヘキモノアリ其ノ他慶尙北道大邱、忠清南道大田及忠清北道忠州ニ司稅局出張所ヲ設置シテ煙草ニ關スル事務ヲ掌ラシメ居レリ其ノ大邱及大田ニ於ケル出張所ハ主トシテ各種煙草ノ試作並調理上ノ試験ヲ經營シ尙該事業ノ成績ハ毎年之ヲ刊行シテ當業者ニ頒布セリ而シテ忠

州出張所ニ於テハ專ラ黃色葉煙草ノ耕作ヲ爲セルカ明治四十五年度ノ事業トシテ出張所ニ於テ模範耕作地ヲ設置シ民間ニ供給スヘキ煙草苗ノ育生種子種及施肥等ニ關スル簡易ナル試驗ヲ直營スル傍忠州郡南北邊面ノ耕作者二百七十餘名ニ耕作ノ囑託ヲ爲シ苗及肥料ヲ無代ニテ之ニ交付シ以テ出張所指導ノ下ニ之ヲ耕作ニ從事セシメタリ其ノ耕作總反別ハ十四丁九反ニシテ此ノ生産額三千七百五十貫目ニ達セリ而シテ該産葉ハ耕作者ニ相當ノ代價ヲ交付シテ之ヲ出張所ニ納付セシメ乾燥室ニ於テ火力乾燥ヲ行ヘリ抑此ノ種葉煙草ハ兩切紙卷煙草ノ主要原料ニシテ兩切煙草ハ朝鮮人ノ嗜好ニ適スト雖目下其ノ原料ノ全部ハ外國又ハ内地ヨリ輸入セラルルモノナルヲ以テ自然製品ノ高價ナルヲ免レサル實狀ナルモ今後朝鮮ニ於テ前記ノ如ク指導誘掖ノ結果之ヲ多量ニ生産スルニ至ラハ自ラ低廉ナル製品ヲ供給スルニ至ルヘシ左ニ朝鮮全道ニ於ケル朝鮮種煙草ノ明治四十四年度産額ヲ示スヘシ

道 名 耕作ハ數 耕作反別 收穫量日 同上價格 耕作反別收穫量日 耕作反別價格

京畿道	二、一、八、〇、〇	一、三、三、三、四	二、七、七、〇、四	二、三、八、八、五、三	六、〇、三	二、一	五、〇、〇
-----	-----------	-----------	-----------	-------------	-------	-----	-------

第五章 農業 一六一

忠清北道	一五七五五	二二六七三	四七六一三三	二三八〇六六	一四一三	二二	五〇〇
忠清南道	一〇六八二	四五〇一五	九〇一〇〇	五四〇六〇	四〇七	二〇	六〇〇
全羅北道	一〇五四七	七一九八	一四三九六〇	八六三七六	六二五	二〇	六〇〇
全羅南道	三六二八四	一八一四三	三二六五五六	一六三二七八	五〇〇	一八	五〇〇
慶尙北道	四一五二〇	九五五九九	一九一、一八〇	九五、五九〇	二〇九	二〇	五〇〇
慶尙南道	四五〇二〇	七二、三五	一四四、五〇〇	一〇一、二五〇	一一八	二〇	七〇〇
黃海道	三六二八九	二〇五五八	四一、一六〇	二〇五、五八〇	五二〇	二〇	五〇〇
平安北道	二四七、一〇	三六、二七三	六五二、八九六	二六、一五八	一四二	一八	四〇〇
平安南道	五七、三四〇	一六五、二〇	三三〇、四〇〇	一六五、二〇〇	二二七	二〇	五〇〇
江原道	二一七、七九	三三、二一六	五七九、八八八	三三、一九五五	一四二	一八	四〇〇
咸鏡南道	二九〇九一	二、六六四、四	六三九、四五六	三、一九七二八	九〇五	二四	五〇〇
咸鏡北道	一四、五五九	一、〇五五、五	二一〇、九〇〇	一〇五、四五〇	七〇六	二四	五〇〇
世	三六五、三七六	二二、五二八、一	四、四七四、八三三	二、一六六、四四四	六〇四	一九	四八四

一六二

而シテ近來内地人ノ内地種烟草ヲ栽培スル者漸ク多キヲ加ヘ慶尙北道大邱、東村、慶尙南道密陽、三浪津、靈山、馬山等ノ各地ニ互リ五百七十餘町歩ノ耕作ヲ見ルニ至レリ之ヲ昨明治十四年ニ比ス

レハ五割八分餘ノ増加トス其ノ産額左ノ如シ

地方別	耕作戸數	耕作反別	收穫量目	同上價格	耕作反別	收穫量目	同上價格
慶尙北道大邱府	九〇	一一五〇	三三、三五〇	六三、三六五	一一七、二二	二九	一九〇〇
慶尙北道東村	五〇	四七〇	一四、五七〇	二七、六八三	九四〇〇	三一	一九〇〇
慶尙北道仁同	三三	二二〇	六、六〇〇	一一、八八〇	七三二〇	三〇	一八〇〇
慶尙北道倭館	四	一六〇	四、九六〇	八、九二八	四〇〇〇	三二	一八〇〇
慶尙北道河陽	一八	三三〇	一一、五五〇	二〇、七九〇	一九四一二	三三	一八〇〇
慶尙北道清道	一八	二〇〇	六、〇〇〇	一一、四〇〇	一、一〇六	三〇	一八〇〇
慶尙南道密陽	二〇	一三〇〇	四、一六〇	七四、八八〇	一〇〇〇〇	三三	一八〇〇
慶尙南道三浪津	三二	三〇〇	九、三〇〇	一六、七四〇	九、六二二	三一	一八〇〇
慶尙南道靈山	一七	二〇〇	六、〇〇〇	一〇、二〇〇	一一、七一八	三〇	一七〇〇
其他	九六	一四四〇	四三、二〇〇	七三、四四〇	一、五〇三	三〇	一七〇〇
合計	四五七	五七九〇	一七七一、三三〇	三、一九三〇、六	一、二六、二二	三二	一八〇〇

第五章 農業

一六三

六人 人蓋ハ朝鮮到ル所多少産セサルナシト雖古來高麗薯ト稱シ世ニ珍重セラルルハ京畿道開城附近ニ産スル物ニ限レリ故ニ此ノ地方ハ古クヨリ人蓋栽培盛ニ行ハレ從テ耕作法モ亦大ニ進歩セリ其ノ栽培ノ最モ盛ナリシハ明治三十五年ノ頃ニシテ官私蓋ヲ併セテ十萬斤以上ノ收穫ヲ得シコトアリ然ルニ十數年前ヨリ人蓋ニ赤病ト稱スル病蔓延シ漸ク蓋葉衰頽ノ徵ヲ顯ハシ來リシモ官民共ニ之ヲ放任シ敢テ救済ノ道ヲ講セザリシヲ以テ病害益勢ヲ逞クシ左表ノ如ク年々遂テ産額減少シ斯業ハ遂ニ荒廢ニ歸セムトスルニ至レリ(本表開ト稱スルハ蓋圃地積ノ單位ニシテ長約六尺幅約三尺通路ヲ併セテ約一坪ノ地積ヲ指ス)

年 度	收 穫 間 數	收 納 水 蓋 斤	紅 蓋 製 造 高
明治三十五年	二二〇、二二七	一三八、一三九	四七、一九五
同 三十六年	一五三、四八一	一〇〇、六〇四	二六、七四六
同 三十七年	三一八、四九八	一九六、六〇〇	六七、〇〇〇
同 三十八年	一一〇、七四三	四六、八二二	一五、九〇五

年 度	收 穫 間 數	收 納 水 蓋 斤	紅 蓋 製 造 高
同 三十九年	五五、二七二	四三、一一九	一四、六五〇
同 四十年	七五、二三四	三五、六八六	一一、八四五
同 四十一年	四〇、三三二	一三、二四一	四、一七三
同 四十二年	二二、五一四	七、九〇三	二、三九四
同 四十三年	七、三五六	二、七七一	八九四
同 四十四年	一四、三四五	七、七一九	二、二九六
大 正 元 年	五六、四六四	一八、八〇五	五、八八六

是ニ於テ明治四十一年蓋政事務ヲ度支部所管ニ移シ尋テ紅蓋專賣法ヲ施行シテ以來當局者ハ蓋政ノ改善ヲ圖ルト與ニ極力蓋病ノ防遏ニ努メ一面諸種ノ獎勵法、資金融通ノ道ヲ講スル等萎靡セル蓋業ノ興復ヲ圖リシ結果遂ニ其ノ功ヲ奏シ近年俄ニ斯業ノ勃興ヲ見レニ至レリ然レトモ人蓋ハ一般作物ト異リ播種ヨリ六七年ノ星霜ヲ經ルニ非サレハ收穫スルヲ得サルカ故ニ當年獎勵ノ結果ハ漸ク大正二年以後ニ收メ得ヘシ令同年以降ニ於ケル人蓋ノ生産額及收入ヲ豫測スレハ實ニ左表ノ如クニシテ再々往時ノ盛況ヲ見ルヘク由テ以テ國庫ニ貢獻スルノ多大ナルヲ知ルヘシ

年 度	收穫間數	收納斤數	紅 薯 製 造 高 額
大 正 二 年	九一、〇〇〇	三六、四〇〇	一一、九五〇
同 三 年	二一〇、〇〇〇	八四、〇〇〇	二六、八八〇
同 四 年	二四〇、〇〇〇	九六、〇〇〇	三〇、〇〇〇
			二四、六〇〇

人薯ハ其ノ製法ニ依リ紅薯、白薯ノ二種ニ區別ス紅薯ハ水薯(生薯)ヲ蒸シテ日光及火熱ニ依リ乾燥セシメテ製シ白薯ハ單ニ日光ニ乾カシテ製ス前者ハ價貴ク後者ハ廉ニシテ兩者共ニ形體ノ大ナルヲ尙フ而シテ紅薯ハ專ラ支那ニ輸出スルモノニシテ同國ニ於テハ古來上下共ニ人薯ヲ愛用シ萬能ノ藥トシテ用ホルノ外贈答用トシテ宮家大官ノ間ニ贈重セリ日本、米國等又人薯ヲ産スレトモ朝鮮等ハ品質形體共ニ他ニ比類ナシト激賞セラル

支那ニ於テ消費スル各國産人薯ノ數量價格約左ノ如シ但シ高麗薯ノ數量少キハ生産ノ少キニ因ルモノニシテ其ノ需要ハ三萬斤ヲ下ラサルヘシ



人 薯 收 納 ノ 景 光



人 薯 結 實 ノ 状 況

產地	通稱	數量	平均一斤ノ小賣價格
米	國花	八〇,〇〇〇斤	二〇圓内外
日	東洋	一四〇,〇〇〇斤	五圓内外
朝鮮	高麗	二〇〇,〇〇〇斤	一五〇圓内外
滿洲	關東	一六〇,〇〇〇斤	八圓内外

七家畜

(イ)牛 農耕ニ使用セラレ運搬用ヲ兼ネ肉用トシテ需用極メテ大ニ稀ニ乳牛ニ用ユ到ル所使用セ
 ラレサルナシ體格偉大體質強健ニシテ而カモ性質溫順ナルヲ以テ十歳ノ兒童モ能ク之ヲ牧御シ
 得ヘシ其ノ價廉ニシテ且使役及肉用ニ適スルヲ以テ内地ニ移出シ露領浦鹽斯德及濟南ニ輸出セ
 ラルルモノ多シ四十四年ニ於ケル生牛及牛皮ノ輸移出額ハ百七十七萬圓ニ上レリ、牛一頭ノ價
 約三十七圓内外ナリ先年咸鏡北道ノ北邊ニハ牛疫發生セシモ近來絶テナシ

(ロ)馬 對州馬ノ如ク體軀矮小ナレトモ比較的力強ク能ク險路峻阪ノ跋涉ニ耐ユ主トシテ運搬ニ

使用セラレ又兼用供セラルルモ耕耘ニ用ヒラルルコトナシ性質順直ニシテ御シ易ク途上小童ノ二三ノ駄馬ヲ連牽シテ行クヲ見ル一頭ノ價約三四十圓ナリ

(一) 騾 乘鞍兩用ニ供セラルルモ其ノ數少ク一頭ノ價二十圓内外ナリ

(二) 豚 普ク飼養セラレ牛ト同シク到ル處見サルハナシ其ノ生産半ニ次ク體軀矮小晚熟種ニシテ品種優異ナラス多クハ冬時ノ食用ニ供ス鮮人ハ剥皮スルコトナク熱湯ヲ注キ毛ヲ去リテ食ス一頭ノ價三圓五十錢内外ナリ

(ホ) 山羊 黒色小軀ニシテ其ノ生産少シ皮ハ防寒ニ用キ肉ハ食用ニ供スルトモ乳ヲ取ルモノナシ朝鮮人ハ羊肉ヲ以テ最上ノ美食ト爲ス一頭ノ價二圓乃至三圓ナリ

(ハ) 家禽 鶏多數ヲ占メ鶩及鶖ハ其ノ數甚々少シ、鶏ハ農家ニシテ之ヲ飼養セサルナク内地ノ地鶏ニ酷似スト雖稍小形ニシテ一層野生的ナリ卵小ニシテ卵産ナラス一羽二十五錢乃至三十五錢ニシテ卵十箇十錢ヨリ十七八錢ナリ近年改良鶏ノ飼養漸次盛大トナレリ

(ト) 犬 數ノ多キコト遠ニ内地ニ超エ其ノ體軀日本在來種ニ酷似スルトモ氣勢ナシ主トシテ夏期

ニ於テ略ニ上ス爲飼養セラル一頭ノ價二圓乃至三圓ナリ

家畜數

明治四十四年十二月末日

道	牛	馬	騾	豚	山羊
京畿道	三三〇七	一〇九二	一〇	六三〇	一〇
忠清北道	三三〇七	一〇九二	一〇	六三〇	一〇
忠清南道	三三〇七	一〇九二	一〇	六三〇	一〇
全羅北道	三三〇七	一〇九二	一〇	六三〇	一〇
全羅南道	三三〇七	一〇九二	一〇	六三〇	一〇
慶尙北道	三三〇七	一〇九二	一〇	六三〇	一〇
慶尙南道	三三〇七	一〇九二	一〇	六三〇	一〇
平安北道	三三〇七	一〇九二	一〇	六三〇	一〇
平安南道	三三〇七	一〇九二	一〇	六三〇	一〇
江原道	三三〇七	一〇九二	一〇	六三〇	一〇
計	三三〇七	一〇九二	一〇	六三〇	一〇

第五章 農業



果ヲ集メテ都會ニ販出ス一斗一圓内外ナリ

一七二

- (ロ) 京畿道、忠清北道ニ多ク産出シ味佳ナリ之ヲ支那産ニ比スレバ形小ナルモ日本産ヨリハ適ニ大ナリ生食又ハ乾果トシテ糖料ニ用ユ朝鮮ハ砂糖少キカ故ニ扱テ用ユルコト少カラス
- (ハ) 柿 概ネ澁柿ニシテ鹽湯ニテ澁ヲ抜キ或ハ吟ニ投シテ熟柿トシ或ハ剥皮シテ乾果トス各地ヨリ京城仁川ニ移出スルモノ少カラス京畿道忠清南道等産出多シ
- (ニ) 桃 毛桃ハ水蜜桃ニ類シ味稍佳ナレトモ毛無桃ハ從來ノ日本桃ニ類シ品質劣レリ京城南大門外交坊、四大門外弘濟院等ハ桃林相連リ陽春滿開ノ期ニ際シテハ松柏ト相競ヒ春色都門ヲ賑ハスモノアリ近來京城開城三浪津等ニ於テ改良種ノ真果ヲ産出ス
- (ホ) 苹果 在來林檎ハ産額少ク小形ニシテ品質劣等ナリ洋種苹果ハ結果極メテ良好ニシテ漸次産出増加シツツアリ
- (ヘ) 梨 在來梨ハ咸興梨ノ如キ稍良品ナキニ非サルモ一般ニ味佳良ト云フヘカラス内地種ハ能ク真果ヲ結ヒ栽培日ニ増加セリ又洋種ノ結果ハ内地ニ比シ著シク優レリ

(ト) 葡萄 風土能ク洋種葡萄ニ適シ内地ニ於テ栽培困難ナル真種モ容易ニ結果ス

内地人果樹園經營表

(明治四十五年六月末現在)

道名	經營者數	役資額	果樹園反別
京畿道	一九八	四八〇、六七八	二八三、一九
忠清北道	二四	三〇、三四一	四一、三三
忠清南道	八一	四一、六六五	七四、九六
全羅北道	七〇	三三、九一四	五七、九二
全羅南道	六一	七三、三一四	八二、四一
慶尚北道	一三四	一二七、九四八	二〇、五九七
慶尚南道	二三八	二六九、三九九	三六、八七五
黃海道	一二五	七九、八五八	九七、五五
平安南道	一五五	七五、一三九	一三、七五四
平安北道	五五	一三七、五四	二四、七五
江原道	二八	四、四九〇	一、二四九

第五章 農業

一七三

咸鏡北道	二二二	七三、〇三二	二二、四二二
咸鏡南道	三三六	二六、〇七六	三九、一〇一
計	一、二二七	一、三二九、五九八	一、四四九、三三八

一七四

十一 蔬菜 従来白菜、蘿蔔、甜瓜、南瓜、水芹、蒜薹ノ栽培多ク行ハレ開城白菜ノ如キ其ノ尤ナルモノナリ近來内地人ノ移住増加ニ伴ヒ種種ナル蔬菜類ノ栽培行ハレ胡瓜、茄、午葱、胡蘿蔔、菠薐草、野蜀葵、菜豆、蒲苳、甜豆、葱、甘藍、西洋甜瓜等ノ類漸次増加スルニ至レリ

十二 蠶業 家蠶業ハ從來各地ニ普及セラレタリト雖各月飼育ノ蠶量極メテ少ク蠶種ハ雜穀黃白綠混清園質不同繭層薄キ三眠蠶ニシテ桑樹ハ畦畔宅地又ハ堤塘ニ散在シ自然ノ生育ニ放任シテ培モ培養ヲ加ヘサルカ故ニ野生蠶ニ等シク蠶室ハ矮小ナル温突ヲ用キ蠶具ハ家具ヲ代用シ繭絲ニハ器械ヲ使用スルコト稀ニシテ多クハ赤手ヲ以テ紡績シ繭トシテ自家用ニ充ツルニ過キサルカ如キ状態ニ在リシカ明治三十九年以來桑樹及蠶種ヲ始メトシテ其他各般ノ改良ニ努メタル結果近時漸ク其ノ效顯ハレ裁養蠶製絲ノ如キ技術ハ著シク改良セラレ生産品ノ品質亦向上シ今ヤ朝鮮ノ蠶業ハ在來ノ面目

ナ一新スルニ至レリ明治四十四年ニ於ケル桑園反別ハ三千九百二十七町六反歩ニシテ養蠶戸數十萬二千九百八十二戸ニ過キスト雖風土能ク蠶業ニ適シ社會ノ各種階級ヲ通シテ簡易適切ナル副業ナルヲ以テ將來格段ノ發達ヲ爲スヲ疑ハス

柞蠶業ハ從來殆經營スル者ナカリシカ明治三十九年以來之カ奨勵ニ努メタル結果今ヤ中部以北ノ地ニハ多數ノ飼育者ヲ見ルニ至レリ明治四十四年ノ繭産額ハ七千七百四十四萬九千餘箇ニ達シ其ノ發達ノ跡著シキモノアリ

家蠶表

(明治四十四年)

道	桑園(町)		飼養戸數		繭産額(石)		製絲産額	
	段別	計	存蠶	夏産	秋産	計	戸數	産額
京畿道	400	3,500	8,500	3,500	3,500	天	5,500	7,500
忠清北道	600	1,500	1,500	1,500	1,500	天	1,500	1,500
忠清南道	600	1,500	1,500	1,500	1,500	天	1,500	1,500
全羅北道	600	1,500	1,500	1,500	1,500	天	1,500	1,500
全羅南道	600	1,500	1,500	1,500	1,500	天	1,500	1,500
計	3,600	12,000	33,000	13,000	13,000	天	20,000	27,000

第五章 農業

一七五

道	同	明治四十三年	明治四十四年
全羅南道	一、五七〇	一、五七〇	一、五七〇
慶尚南道	三、三三三	三、三三三	三、三三三
慶尚北道	二、八五九	二、八五九	二、八五九
黃海道	一、〇五八	一、〇五八	一、〇五八
平安南道	四、二〇九	四、二〇九	四、二〇九
平安北道	四、三三三	四、三三三	四、三三三
江原道	三、三三三	三、三三三	三、三三三
咸鏡南道	一、五七〇	一、五七〇	一、五七〇
咸鏡北道	一、五七〇	一、五七〇	一、五七〇
總計	九、〇八八	九、〇八八	九、〇八八
明治四十三年	八、六二六	八、六二六	八、六二六
同	四、七三三	四、七三三	四、七三三

本表中桑畑見積段別ハ混植又ハ雜邊畔等ニ散在セル桑樹ニ對スル見積面積ヲ示ス
 明治四十二、三兩年ノ京畿道京城府及四十二年桑畑段別ニ於テ咸鏡北道中二郡、嶺南嶺ニ於テ同

道中三郡、製絲戶數ニ於テ黃海道中四郡ハ調査未詳ニ付之ヲ含マズ
 棒蠶表
 明治四十四年

道	飼養林		飼養戶數		繭產		額計
	段別	初	春	秋	春	秋	
京畿道	八三、九	九八	七六	七九、六七六	三七八、四七〇	一一七〇、四六六	
忠清南道	八七、四	四八	五〇	三五四、七二〇	一六二、二四〇	四一六、九六〇	
忠清北道	一三三、八	五六	三三	四三六、九〇〇	二四四、三三〇	六八一、二三〇	
全羅南道	四、〇	三		三〇〇		三〇〇	
全羅北道	一六一、五	九八	一七五	二九八、八四九	一一、二五、八七七	一、四二四、七二六	
慶尚南道	一五四、五	三三三	一六五	九九八、四七四	二、〇二六、六〇五	三、〇二五、〇七九	
慶尚北道	一〇三、三	三三三	六二	一五九、三〇〇	三四四、三〇〇	五〇三、六〇〇	
黃海道	三、六六五	一五三	二六八	二五、二八四、八二〇	三九、九〇六、一六〇	六五、一九〇、九八〇	
平安南道	三、六六五	一五三	二六八	二五、二八四、八二〇	三九、九〇六、一六〇	六五、一九〇、九八〇	
平安北道	六、七四、四	四九六	三二八	二、九三〇、七六二	一一、七六六、六二〇	四、〇七三、三八三	

同	明治四十三年	同	同	同	同
四	十二年	十三年	十四年	十五年	十六年
年	年	年	年	年	年
計	計	計	計	計	計
一、〇二〇	一、〇二〇	一、〇二〇	一、〇二〇	一、〇二〇	一、〇二〇
三九	三九	三九	三九	三九	三九
三六九、〇〇〇	三六九、〇〇〇	三六九、〇〇〇	三六九、〇〇〇	三六九、〇〇〇	三六九、〇〇〇
五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇
九二四、五〇〇	九二四、五〇〇	九二四、五〇〇	九二四、五〇〇	九二四、五〇〇	九二四、五〇〇
五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇
七七、四九七、九三三	七七、四九七、九三三	七七、四九七、九三三	七七、四九七、九三三	七七、四九七、九三三	七七、四九七、九三三
三五、七五九、〇四七	三五、七五九、〇四七	三五、七五九、〇四七	三五、七五九、〇四七	三五、七五九、〇四七	三五、七五九、〇四七

四 勸業機關

農業ハ朝鮮ノ産業中最重要ノ位置ヲ占メ國民ノ經濟ハ一ニ農業ニ在ルカ故ニ改良指導ノ途ヲ講スルカ爲勸業機關ヲ設クルコト左ノ如シ

一 勸業模範場

(イ) 勸業模範場 本場ハ明治三十九年日本政府之ヲ京畿道水原ニ設置シ産業ノ改良發達上ニ資スル調査、試験、農事ノ模範、實地指導、講習、講話、種苗、蠶種、種禽、種豚ノ配付等ヲ主要ノ目的トシ其ノ出張所ヲ大邱、平壤、木浦ニ設ケ明治四十年三月之ヲ舊韓國政府ニ譲リ爾來年

一年ニ模範ノ實ヲ舉グルニ至リシカ日併合ノ結果總督府ノ管轄ニ歸シ水原ヲ本場トシ大邱、平壤、龍山、木浦及羅島ニ支場ヲ設ケタリ

(ロ) 勸業模範場大邱支場 慶尙北道大邱ニ在リ明治四十一年四月勸業模範場大邱出張所トシテ設置シタリシカ明治四十三年十月現今ノ名稱ニ更メタリ勸業模範場ノ業務中主トシテ南朝鮮地方ニ關スル事項ヲ分掌セリ

(ハ) 勸業模範場平壤支場 平安南道平壤ニ在リ明治四十一年一月勸業模範場平壤出張所トシテ設置シタリシカ明治四十三年十月現今ノ名稱ニ更メタリ勸業模範場ノ業務中主トシテ西朝鮮地方ニ關スル事項ヲ分掌セリ

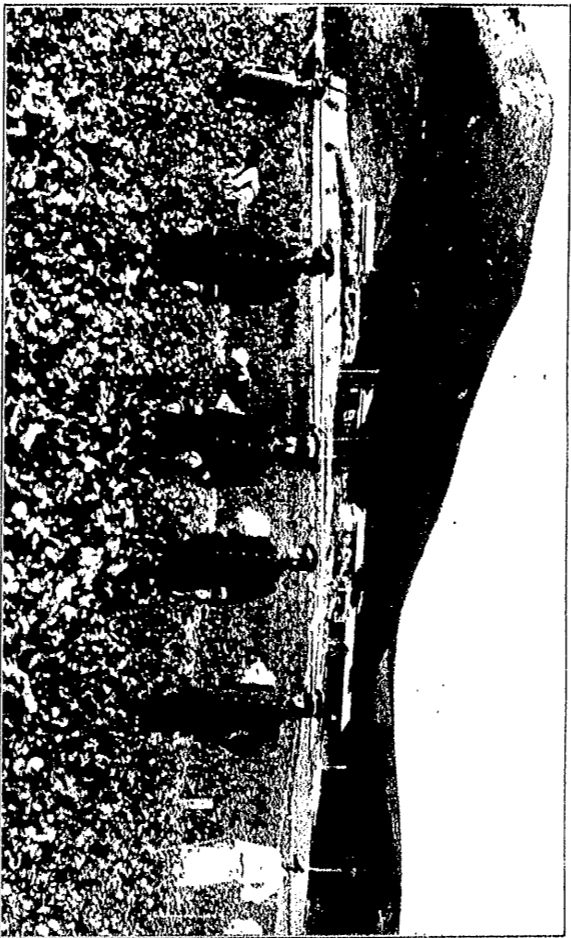
(ニ) 勸業模範場龍山支場 京城府龍山ニ在リ從前女子蠶業講習所ト稱セシカ明治四十三年十月以來勸業模範場龍山支場ト改稱セリ明治三十八年七月大韓婦人會ノ設立セララルヤ其ノ事業トシテ養蠶所ヲ茲ニ設ケシニ始マリ四十二年官立トナレリ抑朝鮮婦女子ノ一定ノ職業ナク徒食ニ流ルノ弊ニ鑑ミ之ニ授産ノ途ヲ講セムトスルノ目的一ニ出テタルモノニテ同年四月二十名ノ生徒ヲ



募集セシニ志願者九十三名ノ多キニ及ヒ試験ノ上定員ヲ採用シ十一月第一回卒業生ヲ出セリ

(ホ)勸業模範場木浦支場 全羅南道木浦ニ在リ明治三十八年朝鮮ノ有志相謀リテ棉花ノ栽培協會ヲ設立シ紡績原料ニ適セル陸地棉ヲ朝鮮南部一帯ニ普及セシムコトヲ企畫シ之レカ經營ノ實行ニ就キ當時ノ日韓兩國政府ニ請願スル所アリ當局其ノ請ヲ容レ當時ノ勸業模範場木浦出張所ニシテ陸地棉ノ試験ヲ行ヒ傍其ノ普及ニ努力セシムルト同時ニ繰織工場ヲ建設シテ種子ノ蒐集ニ勉メシムル等幾多施設ノ結果ハ期待セル成績ヲ得タルニヨリ明治四十一年ニレカ栽培ノ獎勵機關トシテ臨時棉花栽培所ヲ置キ益陸地棉ノ普及ヲ圖リ來リシカ四十二年十月勸業模範場ノ所轄ニ移セリ現在附屬棉採種圃二十箇所アリ明治四十四年ニ於ケル陸地棉栽培面積ハ約二千八百町歩ニシテ其ノ産額ハ二百萬斤以上ノ見込ナリ

(ニ)勸業模範場蘇島支場 京城府蘇島ニ在リ開墾模範場ト稱シ明治三十九年八月ノ創立ニ係リシカ明治四十三年十月移シテ勸業模範場支場ト爲セリ園藝ニ關スル試験及模範的栽培ヲ爲シ廣ク公衆ノ觀覽ニ供セリ



景光ノ繁開墾地陸地棉試驗場支場木浦勸業模範場

二種苗場 種苗場ハ忠清北道清州、忠清南道公州、全羅北道全州、全羅南道光州、慶尙南道晉州、
黃海道海州、江原道春川、平安北道義州、咸鏡南道咸興及咸鏡北道鏡城ノ十箇所ニ設ケラレ各其ノ
所在道廳ノ所屬ニシテ其ノ地方ニ適スル種苗、蠶種、種卵、種禽及種豚ノ配付又ハ種畜ノ種付ヲ爲
スコト、農事ニ關スル模範ヲ示スコト、農産ノ改良増殖ニ關シ試験及調査ヲ行フコト、農用器具器
械ノ貸與ヲ爲スコト、農事ニ關スル講話、講習、傳習及實地指導ヲ爲スコト等ヲ以テ其ノ主ナル業
務トナス

附

農林學校 京畿道水原ニ在リ勸業模範場ニ附屬ス明治三十九年四月ノ創立ニ係リ農林業ニ必要ナル
智能技術ノ普及ヲ謀リ兼テ徳性涵養ノ目的ニ出テタルモノニシテ本科ヲ三箇年、速成科ヲ一箇年
トス但シ速成科ノ生徒ハ當分募集セス

朝鮮農會 明治三十九年ノ創立ニ係リ朝鮮ニ於ケル農林業ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トシ本會ヲ
京城ニ置キ水原開城清州公州全州群山光州大邱三浪津晉州黃州平壤鎮南浦蕭川義州ノ十五箇所ニ

支會ヲ設ケ其ノ事業トシテ毎月一回會報ヲ發刊シ其ノ他圖書ノ編輯出版質問應答農事ノ講習講
話、傳習會、品評會ノ開催牛畜鶏種ノ改良模範果樹園藝業傳習所ノ設置種苗ノ育成配付又ハ其ノ
供給ノ仲介ヲナス等官民ノ間ニ介立シテ直接間接ニ指導勸奨ニ努メツアリ

第六章 拓殖事業

茲ニ日韓兩國政府ハ明治四十一年八月東洋拓殖株式會社ヲ發布シ東洋拓殖株式會社ヲ與シ共同指
導ノ下ニ拓殖事業ニ從事セシムルコトトセリ朝鮮ニ於ケル拓殖ハ獨同會社ノミナラス他ニ幾多ノ經
營者アリト雖本章ハ特ニ該會社ヲ拓殖事業ニ於ケル最近ノ概況ヲ掲ケテ其ノ一斑ヲ示サムト欲ス同
會社ノ經營スル事業ノ種類ハ

- 一 農業
- 二 拓殖ニ必要ナル土地ノ賣買及貸借
- 三 同土地ノ經營及管理
- 四 同建築物ノ築造賣買及貸借
- 五 同移民ノ募集及分配
- 六 同資金ノ供給



七 移民及朝鮮農業者ニ物品ノ供給其ノ生産又ハ獲得シタル物品ノ分配

ニシテ本社ヲ京城ニ置ケ別ニ出張所及派出所ヲ樞要ノ地ニ置キ以テ其ノ事業ヲ管轄セシム
 會社ノ資本金ハ壹千萬圓(總株數貳拾萬株一株額面五拾圓)ニシテ大正元年末現在ニ於テハ既ニ四分
 ノ三ノ拂込ヲ了シ餘ス所二百五十萬圓ナリ株式ハ總テ記名式ニシテ日籍人ニ限リ之ヲ所有スルコ
 トトセリ今其ノ概況ヲ舉ケレハ左ノ如シ

會社ノ概況

年 度	資本金	拂込資本金	準備金	損 益	勘 定	記 蓄 金	金 庫
四十四年度	10,000,000	7,000,000	1,000,000	101,700	10,000	100,000	1,700
四十三年度			1,000,000	1,000	7,000	100,000	1,000
四十二年度			1,000,000	1,000	7,000	100,000	1,000
四十一年度			1,000,000	1,000	7,000	100,000	1,000

一 土地ノ經營 會社ノ經營セル土地ハ三種類ヨリ成レリ即チ出資地、貸借地、買收地ノ三是ナリ出

資地ハ舊韓國政府カ引受株式六萬株ニ對シ拂込ニ代ヘ提供スル土地ヲ謂ヒ貸借地ハ將來政府カ引受
 株式ノ拂込ニ充當スヘキ土地ニシテ會社カ自己ノ利益上之ト協議シ豫定シテ貸借經營セルモノヲ謂
 フ買收地ハ前二者ノ土地ニ接近シテ管理上便宜ナルト將來發展ノ見込アル都會ノ附近及農民ノ移住
 ニ適當ナル土地ヲ選定シ會社自ラ之ヲ買收スルモノヲ謂フ會社ハ之等ノ土地ニ對シ改良施設ヲ加ヘ
 灌溉水路ノ開鑿耕地ノ整理堤防ノ改築ヲ爲シ又直營農場ヲ設ケテ農事ノ模範ヲ示スト同時ニ種苗ノ
 改良果樹蔬菜ノ普及ヲ謀レリ森島ニ於ケル直營農場ノ如キハ其ノ一ニシテ現今三十五町步ヲ劃シ主
 トシテ果樹ノ栽培ヲ爲シ傍ヲ間作トシテ蔬菜ノ栽培ヲ營メリ尙枯木ハ其種ノ接木ヲ行ヒ廣ク一般公
 衆ニ配布シテ改良種ノ普及ヲ圖ラントスルノ計畫ヲ爲セリ間作蔬菜モ其種子ヲ選定シ各種ノ方法ニ
 依リテ栽培シ地方作物ノ改善ニ資セムトシツツアリ

大正元年九月末現在

道 名	出 資 地	借 地	買 收 地	計 地
京 畿 道	△開全三 △開全三 △開全三	△開全三 △開全三 △開全三	△開全三 △開全三 △開全三	△開全三 △開全三 △開全三
	九千五百六十九町	九千五百六十九町	九千五百六十九町	九千五百六十九町
	七千五百三十一町	七千五百三十一町	七千五百三十一町	七千五百三十一町
	五萬八千五百九十三町	五萬八千五百九十三町	五萬八千五百九十三町	五萬八千五百九十三町

道	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	計
盛清北道	17,800	100,150	11,800	11,800	11,800	11,800	11,800	11,800	11,800	11,800	11,800
全羅北道	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000
全羅南道	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000
慶尙北道	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000
慶尙南道	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000
黃海道	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000
平安南道	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000
平安北道	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000
江原道	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000
咸鏡南道	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000
咸鏡北道	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000
合計	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000

備考

一、買取地ニハ本表田畑ノ外京畿道、忠清南道、全羅南道、慶尙南道、黃海道、平安南道、

咸鏡南道ニ於テ雜地千〇〇四町三段九畝二十六步又京畿道、全羅南道、慶尙南道、黃海道ニ於テ山林千八百二十三町三段四畝七步ヲ有セリ

二、江原道及咸鏡北道ニハ出資地賃借地及買取地ナシ

三、農事改良 内鮮農民ニ對シ稻作ノ改良ヲ獎勵スル目的ヲ以テ四十三年以來四十三箇所ニ七百餘町歩ノ採種田ヲ設ケ施肥插秧、除草、調製方法等ノ實地指導ヲ爲シ又一面種籽、肥料、耕牛ノ貸付ヲ爲シ以テ新築ノ改善ヲ圖リツツアリ

四、農務經營 京城東大門外露島ニ於テ畑地三十五町歩ヲ劃シ主トシテ果樹ノ栽培果樹苗木ノ養成ヲ爲シ間作トシテ蔬菜ヲ栽培ス

四、殖林經營

(一)苗圃 殖林經營ニ必要ナル苗木ノ養成ニ著手シ明治四十二年以來苗圃ヲ龍山水原露島ノ三箇所ニ設ケ面積六千五百餘坪ニ植ウルニ苗木百萬本ヲ以テセリ亞テ京城ヲ距ル東一里ノ地往十里ニ十三町歩ヲ主トシテ苗木ヲ養成ス苗木現在數ハ機二年生三百萬本同一年生三百六十萬本



ナリト云フ又威鏡南道ニ於テモ適地ヲ選ミ苗圃ヲ新設スルノ計畫アリ

(ロ)殖林 梓樹養成其ノ他ノ用途ニ充ツル爲メ鳳ニ殖林地ヲ選定シ黃州、鳳山、平山、金川、延安ノ五箇所ニ於テ國有林約一萬町歩ヲ借入レ造林ニ著手セリ而シテ四十五年春期ニ於テハ黃海道延安郡所在飛鳳山ニ樺苗百六十萬本餘ノ植栽ト同種子六十五石ノ播種ヲ七百二十餘町歩ノ地積ニ了シ其ノ周圍ニ「アカシヤ」苗十八萬本餘ヲ植栽セリ此ノ外京畿道黃海道ニ於テ一萬餘町歩ノ國有山野ヲ借受ケ造林スルノ計畫アリ

五竹林經營 竹林經營上最有利ト認メラル慶尙南道河東方面ニ於テ民有竹林ヲ買取シ之ヲ改良シテ模範林ヲ作り且苗竹ヲ養成シテ國有未墾地ノ貸付ヲ受ケ若ハ民有未墾地ヲ買取シテ竹林ヲ拓ク計畫ヲ以テ民有竹林七十八町歩ヲ買取シ之ヲ經營ニ努メツアリ

六水利事業計畫

(一)平安北道泰城水利工事 平安北道龜城泰川二郡ヲ貫流スル川坊江(大寧江支流)ノ右岸龜城郡龍淵面、泰川郡四面、南面ノ三面ニ互リ地味豐沃ナル畑地面積三千町歩ハ其ノ耕作物ノ多クハ

高粱、玉蜀黍、粟種等ナルモ地勢上之ニ用水ヲ注カハ水田ニ變成シ得ヘキ見込アルニ依リ工費三十三萬圓ヲ費シ二箇年中ニ竣功ノ豫定ニテ大正元年十月之方起工許可ヲ得近ク著手ノ管ナリ

(二)全羅北道古阜郡平野水利工事 全羅北道古阜郡ヲ貫流スル東津江ノ一支流沿岸約四千町歩ノ耕地ハ年年旱害水害ヲ被ムルヲ以テ實測ノ結果其ノ上流ニ貯水池二箇所ヲ新設シ尙排水路用水路道路橋梁ノ設備ヲ爲ストキハ約三千六百町歩ヲ灌漑シ得ル見込ヲ以テ目下起工計畫中ナリ

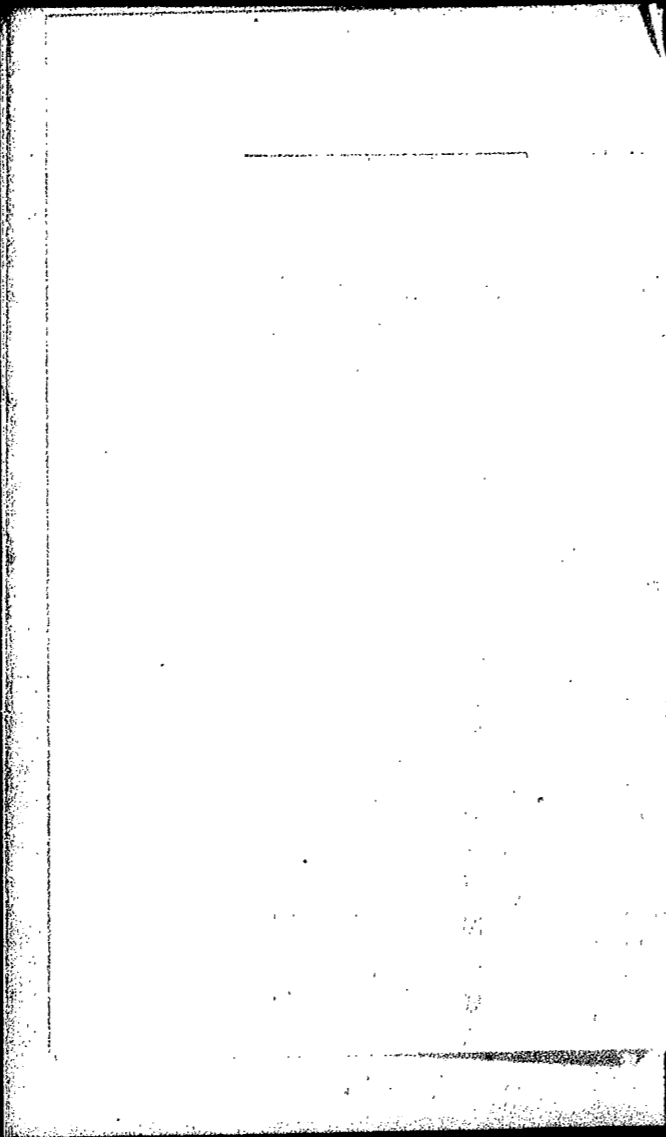
七移民事業 本會社ハ移民ニ關シ明治四十三年九月政府ノ認可ヲ得テ移住規則ヲ設定シ既ニ二回ノ移住ヲ了セリ其ノ第一回ハ移住戸數百五十二戸五百八十一人第二回ハ四百二十一戸千九百九人ニシテ總計五百七十三戸二千四百九十九人ニ達セリ第三回ハ募集戸數千三百三十三戸ニ對シ二千二百九十二戸ノ應募アリ目下承認審査中ニ屬スルモ既ニ承認ヲ與ヘタルモノ千五百五及ヘリ而シテ前記二回ニ於ケル移民ノ地方分布狀況ハ別表ノ如シ表中甲種移民トハ會社ヨリ貸付セラレタル土地ノ代價ニ年六分ノ利子ヲ付シ五箇年間元金償還二十五年内ニ年賦償還シタル後該地ノ地主トナルヘキ者ヲ謂ヒ乙種移民トハ會社ノ土地ヲ借受ケ小作スル者ヲ謂フ



移住民ニ對シテハ移住規則ニ基キ一月ニ付二町歩以内ノ田畑ヲ貸付シ尙移住後成績良好ナル者ニ對シテハ其ノ移住者ノ選定シタル地ヲ購入シテ之ヲ貸付ヲ許可スルコトアルヲ以テ移住者ハ五町歩迄ノ土地ノ擴張ヲ爲スコトヲ得ヘリ尙團體ヲ組織シ移住地ヲ選定シテ其ノ買入及貸付ヲ請求スルトキハ會社ハ可成其ノ土地ヲ購入シ甲種移住トシテ之ニ貸付スルノ便法ヲ設ケリ

- 又移住者ニ對シテハ特ニ乘車、乘船賃ヲ割引シ渡洋ノ後ハ會社ハ團體移住者ニ對シテハ住家納屋ノ建築及耕牛、農具、種苗、肥料ノ購入費トシテ二百圓ヲ限リ貸付スヘシ其ノ詳細ハ移住規則ヲ見ルヘシ今會社ノ移住民募集ノ順序ヲ示セハ左ノ如シ
- 一、移住民募集公告期日 毎年二月中
- 二、移住民申込期日 六月末日迄
- 三、移住承認期日 八月末日迄
- 四、移住民移住地ニ到着期日 翌年二月十五日迄

八資本貸付 會社ハ拓殖上必要ナル資金ヲ移住民ニ貸付ス其ノ方法左ノ如シ



移住民ニ對シテハ移住規則ニ基キ一月ニ付二町歩以内ノ田畑ヲ貸付シ尙移住後成績良好ナル者ニ對シテハ其ノ移住者ノ選定シタル地ヲ購入シテ之カ貸付ヲ許可スルコトアルヲ以テ移住者ハ五町歩迄ノ土地ノ擴張ヲ爲スコトヲ得ヘク尙團體ヲ組織シ移住地ヲ選定シテ其ノ買入及貸付ヲ請求スルトキハ會社ハ可成其ノ土地ヲ購入シ甲種移住民トシテ之ニ貸付スルノ便法ヲ設ケリ

- 一、移住民募集公告期日 毎年二月中旬
二、移住民申込期日 六月末日迄
三、移住承認期日 八月末日迄
四、移住民移住地ニ到着期日 翌年二月十五日迄
八資本貸付 會社ハ拓殖上必要ナル資金ヲ移住民ニ貸付ス其ノ方法左ノ如シ

甲種移住民

Table with columns for '種類' (Type) and '別地' (District). Rows include various districts like 道水原郡, 道水原郡, 道水原郡, etc., with numerical data and '計' (Total) rows.

(大正二年一月一日現在)

乙種移住民

Table with columns for '種類' (Type) and '別地' (District). Rows include various districts like 道水原郡, 道水原郡, 道水原郡, etc., with numerical data and '計' (Total) rows.

(大正二年一月一日現在)

備考

一、△ハ年賦金ノ一時償還ヲ爲シテ土地所有權ヲ得タルモノ
△ハ移住契約ノ不履行ニ依リ會社ヨリ移住承認ヲ取消シタルモノ
×ハ移住不能ノ爲會社ヨリ移住承認ヲ取消シタルモノ
二、人員ノ符合セサルハ移住者家族ノ移動アリシニ依ル

- (一) 二十五年以内ノ年賦償還ノ方法ニ依リ移住費ノ貸付ヲ爲スヘク
 - (二) 十五年以内ノ年賦償還ノ方法ニ依リ在鮮ノ不動産ヲ擔保トシテ貸付ヲ爲スヘク
 - (三) 五年以内ノ定期償還ノ方法ニ依リ在鮮ノ不動産ヲ擔保トシテ貸付ヲ爲スヘク
 - (四) 移住民ノ生産又ハ獲得シタル物品ヲ擔保トシテ貸付ヲ爲スヘク
 - (五) 在鮮ノ不動産ヲ擔保トシテ三年以内ノ定期償還ノ方法ニ依リ貸付ヲ爲スヘク
 - (六) 二十人以上連帯シテ義務ヲ負フ者ニハ五年以内ノ定期償還ノ方法ニテ無擔保ニテ貸付ヲ爲スヘク
 - (七) 朝鮮ニ於テ拓殖事業ヲ爲ス會社又ハ個人ニシテ事業經營上必要ナル移住民ヲ募集セムトスル場合ニハ一定ノ條件ノ下ニ其ノ移住民ニ對シテ移住費ヲ貸與スルコトアルヘシ
- 前記ノ方法ニ依リ拓殖資金トシテ貸付タル總額ハ大正元年九月末日ニ於テ二百六十五萬七千四百十六圓二錢ナリ而シテ利率ハ最高年一割二分最低年七分ニシテ其ノ貸付期限ハ最長十箇年以内定期貸最長五箇年以内ナリトス

第七章 鑛業

朝鮮從來ノ採鑛ノ方法ハ姑息幼稚ナル舊慣ニ放任セラレ且之カ行政ニ就テハ何等方針ノ一定セルモノナク頗ル紛雜ヲ極メタリシヲ以テ舊韓國政府ハ明治三十九年鑛業法及砂鑛採取法ヲ公布シ鑛業ヲ獎勵シ昔弊ヲ一掃セムコトヲ期セリ爾來内外資本家ノ朝鮮鑛業ニ注目スル者頗ニ増加シ採鑛ノ出願者年々追フテ加ハレリ明治三十九年鑛業法施行以來ノ採鑛出願者數ハ左ノ如シ

種別	國籍別			四十四年	四十三年	四十二年	四十一年	四十年
	朝鮮人	内地人	外人					
鑛業	一、九五	三〇九	三二	三九一	三三五	二一九	一四一	一九〇
砂	九六	五二五	三二	一七九	七五七	三九八	一八〇	二二五
合計	一、〇四六	八三四	六四	五七〇	一、一五二	五九六	三二一	四一五

第七章 鑛業

一九三

種別	年賦償還貸付金		定期償還貸付金		合計	農工債券引受高	合計
	内地人	朝鮮人	内地人	朝鮮人			
日數	六三	一五	七八	四〇五	五九	四六六	五四九
金額	八六〇、三九二、三三〇	九三、六五〇、〇〇〇	九五四、〇四二、三二〇	二九六、二三〇、〇〇〇	四〇五、四九三、七〇〇	一、六五〇、〇〇〇	七〇三、三七三、七〇〇
							一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇
							二、六五七、四二六、〇二〇

總計	業 績	
	外 國	内 地
六九三	一六七	六九
二〇三	二八二	九六
四九八	一〇〇	四三
三三八	五八	四四
二七九	六四	六二

一九四

備考 表中鐵業トアルハ金、銀、銅、鉛、錫、安質母尾、水銀、亞鉛、鐵、滿倫、黑鉛、石炭、石油、硫黃ノ採掘業ヲ謂ヒ砂鐵業トアルハ砂金砂鐵砂錫ノ採取業ヲ謂フ
以上ノ出願者ニ對シテ政府ノ許可ヲ與ヘタルモノハ左ノ如シ

種別	國籍	年 度				
		四十四年	四十三年	四十二年	四十一年	四十年
朝 鮮	人	六六	一〇八	八九	一六	一一
内 地	人	二〇二	一〇三	一四〇	一一六	七八
外 國	人	三三	二二八	二四三	二三三	二〇八
合 計	人	二七〇	三三八	四九三	三三三	二八二

總計	業 績	
	外 國	内 地
四〇三	二二三	一四二
二八九	七二	五三
三〇五	六三	二二
一六五	三三	二八
一八二	七四	一〇

(イ)金 金ハ朝鮮ニ於ケル主要ナル鐵産物ニシテ其ノ産額約一千萬圓ニ達ス之ニ次クモノハ鐵、石炭、黑鉛、銅ナリ金ノ産地トシテ最顯著ナルハ雲山金坑ナリ該坑ハ米國人ノ設立セル「ガリエンタル、コンソリテーター」ト、マイニング・コムパニー「Oriental Consolidated Mining Company」ノ經營ニ係リ其ノ領區ノ廣キ平安北道雲山郡全部ヲ包括シ七坑場ヲ有ス最近一箇年間ニ於ケル産額ハ三百餘萬圓ニ及ヘリ次ニ著名ナルハ黃海遼寧安嶺山トス該山ハ英國人ノ設立セル「コレアン・シンジケート」ノ所屬ニシテ「セウル、マイニング・コムパニー」ノ代理經營ニ係リ最近一箇年ノ産額十餘萬圓ナリ其ノ他稷山、朔州、昌城、宣川モ近時探鐵セリレ相應ノ産額ヲ擧ケルニ至レリ

第七章 鐵業

一九五

砂金ノ分布ハ汎ク半島全部ニ亙リ特ニ順安ハ砂金ノ産地トシテ知ラレ全義、木川、文義ノ各郡モ亦砂金ノ産地トシテ名アリ

(口) 鐵礦 朝鮮ハ鐵礦ニ富ミ各道到ル處發見セラレツアリ別テ磁鐵礦、赤鐵礦、錳鐵礦、砂鐵等アレトモ就中錳鐵礦ノ産出最多シ黃州及黑橋驛附近ヨリ四兼二浦ニ到ル間及平安南道价川郡ニ見出サルルモノハ錳鐵礦ニシテ載察、殷栗ノ鐵山モ亦此ノ類ナリ而シテ錳鐵礦ニ亞キ産出ノ多キハ赤鐵礦ニシテ安岳鐵山ハ即是ナリ磁鐵礦モ各所ニ見出サレサルニ非スト雖探掘未タ盛ナラス砂鐵ハ深松鐵床ヲ爲シ河海ノ沿岸ニ産出スレトモ産量少シ鐵礦ノ多クハ探掘ノ儘直チニ内地ニ輸送シ内地ノ製鐵所ニ於テ精製ス尙現場ニ於テ小規模ノ設計ニ基キ農具、鍋、釜ノ鑄造ヲ爲セルモノアレトモ極メテ少量ナリ鐵礦中最モ産出ノ多キモノヲ載察、殷栗ノ二鐵山トナス共ニ黃海道ニ在リ從來舊韓國政府ノ經營ニ係リ明治四十一年ヨリ探掘ヲ開始シタリシカ四十二年一月農商務省ノ所管ニ移レリ而シテ明治四十一年中ノ産額ハ兩鐵山合シテ五萬二千噸十五萬六千圓ニ達シ翌四十二年中ニハ五萬五千噸十六萬五千圓、四十三年中ニハ七萬二千噸二十一萬六千圓、四十四年ニハ六

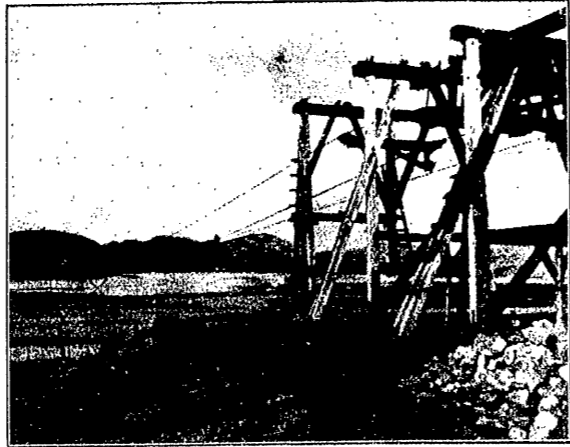
萬六千噸十九萬八千圓ニ上レリ其ノ他安岳鐵山ハ近時五萬噸ノ産額アリ其ノ他价川、兼二浦、黑橋驛附近ノ鐵山ハ近時探掘著手ノモノナレトモ鐵量豊富ニシテ有望ナリ
(ク) 石炭 平壤無煙炭ノ名ハ漸ク世人ノ知ル所トナレリ明治四十年以降官營トナリ政府ハ此處ニ平壤鐵業所ヲ設置シ平壤、江東ノ二郡ヲ鐵區ト爲シテ探掘セリ目下四坑アリ鐵量頗ル豐饒ニシテ品質優良ナリ其ノ百分中ニ於ケル主成分ハ揮發分七乃至二〇、灰炭七〇乃至九〇、灰分四乃至一五ニシテ硫黄ヲ含ムコト甚々少シ開採以來ノ産額左ノ如シ

年 度	探 掘 量	販 賣 量	販 賣 高
明 治 十 一 年	二、五〇〇噸	七〇〇噸	五、七〇〇圓
同 四 十 一 年	四六、〇〇〇噸	一一、〇〇〇噸	五〇、七〇〇圓
同 四 十 二 年	五三、四九三噸	五一、二六四噸	二八四、九八七圓
同 四 十 三 年	七八、八三五噸	八九、七〇九噸	六六六、三五八圓
同 四 十 四 年	一二七、二一四噸	八二、六一二噸	七〇二、〇八二圓

探出炭ハ從來軌道ニ依リテ探炭場ヨリ平壤驛ニ出テ兼二浦ニ送リテ積出セラレタリシカ今ヤ平南

第七章 鐵業

線ノ開通ヲ見、積込場ノ設備成リタルヲ以テ全部鎮南浦ヨリ積出スコトナレリ
 長嶺炭坑ハ慶尙北道ノ東岸迎日灣ノ南方ニアリ褐炭ヲ産ス品質中位ニ在リ主成分百分中揮發分二
 九餘炭四〇、灰分二四、硫黄二ナリ採掘後直ニ釜山ニ輸送ス釜山ニ於ケル相場ハ一萬斤三十五六圓
 ニシテ明治四十四年中ノ産額ハ僅ニ九十六萬斤ニ過キス其ノ他慶尙北道及咸鏡北道ニ褐炭坑アリ
 (二) 黒鉛 鱗狀、纖維狀、葉理狀、土狀等ノ種類アリ鱗狀、纖維狀ノ良質ノモノハ主成分百分中九
 〇以上ノ炭素ヲ含有シ多ク咸鏡南道平安北道ニ産シ葉理狀及土狀ノ品位ノ稍劣レルモノハ南朝鮮
 ニ産出ス平安北道龜城、昌城並朔州附近ヨリ産出スルモノハ鱗狀ヲナシテ品質優良ナリ現今朝鮮
 黒鉛商會ノ採掘セル坑場ハ忠清北道青山郡ヨリ慶尙北道尙州郡地方ニ互ル一帯ノ地ニ在リテ續床
 連續シ産量多シト雖品質稍劣者ニ劣ル
 (ホ) 銅 銅礦ノ既知ノモノヲ舉ケレハ咸鏡北道ノ甲山及慶尙南道ノ昌原ニ指テ風スヘシ近時又平安
 北道ノ厚昌モ探掘セラレツツアリ甲山ハ米國人ノ經營ニ係リ尙産額多カラス
 左ニ最近數年間ニ於ケル重要輸出産物ノ價格ヲ掲ケ



平壤礦業所ノハイボル式空架索運炭ノ光景



平壤礦業所屬無煙炭坑寺洞ニ於ケル積込場ノ光景

品目	明治四十四年	同四十三年	同四十二年	同四十一年	同四十年
金及金礦	九三三、四八七	九三五一、〇四〇	六、八五、七九九	四、八、一五、八九六	四、六、三、八〇、五六
銅	七八九	四、四八八	三〇、三五九	六四、九九七	九三、六七一
鐵	二七八、六九三	三三九、八六六	二八、九八六	一、六、二、八八三	五、一、七、五、六
石炭	三、七、六、四二七	三、六、二、四一九	三、三、三、五七	四、五、三、三六	一、五、九、六、八
鉛	一、三、三、二、九九	一、四、三、〇、六	一、五〇、五七五	九六、九三五	一、九、三、八、九
錫	一〇、一、三、三、八九四	一〇、一、七、三、〇、一四	六、八、七、二、九七六	五、一、八、六、〇、三七	四、八、一、七、八、四〇

朝鮮産地一覽表

地方	礦種	地方	礦種
京城畿道	銅、金、鉛、銀、錫	京城畿道	鐵、金、銀、銅、錫、鉛
京城畿道	銅、金、鉛、銀、錫	江華郡	鐵、金、銀、銅、錫、鉛
開城郡	金、銅、鉛	加平郡	金、銀、銅、錫、鉛
始興郡	金、銀、鉛	果川郡	金、銀

第七章 礦業

第七章 礦業	道南安平	道原江	道
	順川郡 平壤郡 祥原郡	鐵原郡 春川郡 三陟郡 通川郡 洪川郡 楊口郡 江陵郡	載寧郡 金川郡 黃州郡 松禾郡 白川郡
	水銀、砂金、鐵、砂金、石炭、	砂金、金、銀、鉛、砂金、	同、砂金、鐵、石炭、

1101	道南鏡咸	道北安
	德源郡 咸興郡 永興郡 定平郡 甲山郡	慈城郡 楚山郡 昌城郡 朔州郡 郭山郡 濱州郡 寧邊郡 厚昌郡 龍川郡 江界郡
	金、銀、銅、砂金、	同、砂金、金、銀、銅、鐵、砂金、

海	黃	道北尙慶
海州郡	遂安郡 咸安郡 信川郡 鳳山郡 長淵郡 新溪郡	禮安郡 永川郡 善山郡 順興郡 奉化郡 寧海郡 仁同郡 高靈郡
鐵、砂金、	鐵、水銀、砂金、	砂金、

平	道南安平
龜城郡 雲山郡 定州郡 宣川郡	水柔郡 德川郡 安州郡 肅川郡 价川郡 中和郡 龍岡郡 成川郡 江原郡 順安郡 三和郡 鐵山郡
金、砂金、	同、

道南鏡成			
安邊郡	文川郡	端川郡	長津郡
金、銅、鐵	銀、銅、砂金、		
道北鏡成			
富嶽郡	慶源郡	慶源郡	會寧郡
金、銅、砂金、石炭、	同、	同、	石炭、

第八章 水産業

一 漁業

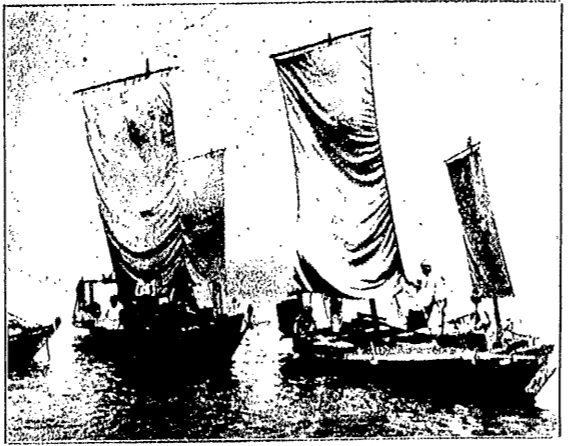
一 日本海方面 豆滿江口ヨリ釜山港ニ至ル日本海方面沿岸ハ東朝鮮灣ヲ中心トシテく字形ニ突入シ
 沙濱險崖相連リテ好個ノ海岸漁場ヲ形成セリ潮汐ノ干満ハ微少ナレトモ水深ク各種水族ノ滯溜ニ適
 シ而モ、リマン海流ハ北ヨリシテ寒帶性水族ヲ輸送シ對馬海流ハ南ヨリシテ暖帶性水族ヲ齎ラシテ
 共ニ水産ノ分布ヲ濃厚ナラシメ捕魚ノ利無盡蔵ト稱セラル唯々此ノ北部ニ於ケル沿岸一帯ノ地方ハ
 大關嶺ノ背部ニ當リ地勢急峻ニシテ交通ノ便宜ヲ缺キ地方漁業ノ發達ニ緊要ナル供給ノ便ニ乏シク
 日韓人ノ漁業未タ充分ナラスト雖尙朝鮮人ノ經營ニ係ル咸鏡道ノ明太魚、鮭、江原道ノ鱈、慶尙道
 ノ鱈、漁業等ノ如キ又内地人ノ經營ニ係ル捕鯨業及鯖、鰹、鯖、鱈、等ノ漁業ハ此ノ地方屈指ノ大漁
 業トシテ推獎スルニ足ル

二 多島海方面 釜山港ヨリ木浦附近ニ至ル沿海ハ大小ノ島嶼甚布散點シ多島海ノ稱アリ此ノ沿岸ハ



大牙屈曲シテ牛島嶼灣相交リ廣漠タル海域ヲ占メ水深概ホ八十尋内外ニシテ漁具ノ使用ニ傾ケルノミナラス寒暖共海流ノ影響ヲ受ケ水産ノ分布豐カニシテ而モ深大ナル平野ニ接シ市場、大河、港灣ニ富ミ九州中國方面ノ連絡容易ナルカ故ニ漁獲物ノ集散傾ニシテ日鮮人ノ漁業共ニ進歩シ釜山馬山近海ニ於ケル鱈、鱈漁業ノ如キ鎮海灣附近ノ鱈漁業ノ如キ欲知、青山、巨文ノ各島及安島近海ノ鱈、鱈漁業ノ如キ濟州島沖ニ於ケル鯨漁業汝自灣ニ於ケル鯨漁業等ノ如キ稍々著明ナルモノナリ

三黃海方面 木浦附近ヨリ鳴線江口ニ至ル黃海方面ノ沿岸ハ四朝鮮灣及仁川近海群山近海等ニ由リテろ宇狀ニ屈曲シ河口、灣、潟、礁、岬、淺灘及孤島群嶼相食ミテ海岸線ノ錯綜名狀スヘカラス海底ハ遠淺チ爲シテ黃海ノ中心ニ至ルモ水深五十尋ヲ越エサルヲ以テ寒冷ノ候暖帶性水族ノ滯留ニ適セスト雖暖湖ノ影響ヲ受ケ潮汐ノ進退強度ナルヲ以テ春季八十八夜前後約五十日間ニ至レハ石首魚、鯛、鱈、鱈、鱈其他所別ノ爲ニ群集スルモノ二十尋以內ノ淺所ニ割到シテ日鮮漁船ノ輻輳實ニ壯觀ヲ極ム就中全羅道ノ七山灘、忠清道ノ煙島近海、黃海道ノ延平灘及平安道ノ魚泳島近海ニ於ケル石首魚、漁業ノ如キハ咸南ノ明太魚慶南ノ鱈漁業ト共ニ朝鮮海ノ三大漁業ト稱セラル尙此ノ方面ニ



全羅南道濟州郡ニ於ケル授産漁業習船歸港ノ景光



朝鮮總督府水産試驗船ノ景光
平安北道清川江口沖ニテ操業ノ景光

於テハ介藻類ノ養殖ニ適當ノ場所多キニ拘ラス從來日鮮漁民ノ未タ普ク之ヲ利用スルニ至ラサルノ
 狀アルハ遺憾ナリト云フヘシ

上述ノ如ク朝鮮沿岸ハ其ノ海勢ヲ異ニシ其ノ漁業モ亦各地良否ノ別アリト雖概シテ將來有望ノ漁場
 トシテ進歩發展ノ餘地アルヲ見ル明治四十四年各道沿岸漁場ニ於ケル内鮮人ノ漁獲高ヲ擧ケレハ左
 ノ如クニシテ之ヲ前年ニ比スレハ著シキ増進ヲ示セリ

道名	漁獲物價額	製品價額	合計	主要生産物ノ名稱
京畿道	四一三、七七〇	一七、八二五	四三一、五九五	石首魚、鰻、鯛、鮫、海參、鯉
忠清北道	一一一、〇六一	三、一八〇	一一四、二八一	石首魚、鰻、太刀魚、鯉、紫干鱈、鹽鱈
忠清南道	八四、三九七	一、二五三	八五、六五〇	石首魚、鯛、鮫、鯛、鱈、石首
全羅北道	八四、三一一	八、二六〇	九二、五七一	鯉、鰻、海羅、石花菜、海苔、乾鰻、鹽鱈、干鮑
全羅南道	四三、六四九	五、六五〇	四九、二九九	鯉、鯛、若布、鱈、紫干鱈、鹽鱈、干鮑
慶尙北道	三、五〇〇	八、三八五	一二、八八五	鯉、鯛、鱈、餅、鱈、平目、煮干鱈、鹽鱈
慶尙南道	三、五〇〇	八、三八五	一二、八八五	鯉、鯛、鱈、餅、鱈、平目、煮干鱈、鹽鱈

黄海道	三三三、三〇三	三〇〇、一〇〇	二五三、三三三	鮫、鯛、石首魚、鯉、干鰯、干民魚、煮干鰯
平安南道	一〇〇、五八七	—	一〇〇、五八七	鯛、鯉、鱈
平安北道	二六八、四九五	三五七、五四	三〇四、三九九	石首魚、鯉、鯽、鹽石魚、鹽鯉、鹽蝦
江原道	一一七、七九四	八八、一七三	二二五、九六六	若布、明太、鱈、干鰯、鹽鯉
咸鏡南道	一〇、三四〇、一一	六六、三三九、八二	六九六、四〇九	明太、鱈、干鰯、干明太、海參、明太卵
咸鏡北道	一四、三〇七	五五、五六七	一九八、三三四	明太、鱈、鯉、雜魚、縮鮑、和布
合計	六三、四、八六〇、三	六五五、一一八、九九九、九七八	—	—
四十三年	—	—	七、八七、一九二〇	—
四十二年	—	—	六、二五、九〇〇	—

備考 養殖物價額ハ漁獲物價額中ニ算入セリ

二 朝鮮人ノ水産業

從來沿海ノ漁業ニ對シテ舊韓國政府ハ何等ノ施設ヲ與ヘタルコトナク保護、獎勵、監督等ノ道殆ト備ハラヌ加フルニ半島民ノ漁獵ノ技及器具頗ル拙劣ニシテ多クハ舊價ヲ墨守スルニ過キサリシカハ魚

族ノ豐饒ナルニ比シ漁獲頗ル上ラサリキ、蓋シ一ハ國民ノ牛鶏ニ他キテ嗜好ノ魚肉ニ傾カサリシト一ハ魚族ノ饒多ニシテ拙劣ナル漁法ヲ以テモ尙能ク需要ヲ充タシ得タリシトニ由ラス▲ハアラヌ漁具トシテ見ルニ足ルヘキモノハ江原道ノ地曳網(揮羅網)、慶尙道ノ牽網(魚張)、忠清、京畿、黄海三道ヲ中心トシテ使用セラルルヨ船、中船(又手網)等ニシテ漁舟ハ造ルニ鋸ヲ施サス鐵釘ヲ用井ス悉ク木釘ヲ以テシテ脆弱ヲ免レンス、構造粗笨操縦鈍ニシテ遠洋ノ漁業ニ適セス

一 明太魚漁 明太魚ハ咸鏡道ノ特産ニシテ北ハ豆滿江口ヨリ南ハ咸興附近ニ至ル一帯ノ沿岸ニ産シ産期ニ到レハ魚族列ヲナシテ沿岸ノ淺瀬ニ群游シ長サ數里ニ互リ幅二三里ニ及フコト少カラズ産卵ヲ終レハ沿岸各所ニ散逸シ水上ニ浮游ス産期ハ毎年十月ニ始マリ翌年三月ニ終ル朝鮮人ハ手繰網、刺網、延繩ノ方法ニテ漁獲ス産期ニ至レハ漁舟ノ游戈スルモノ八百艘ニ及ヒ一般ノ漁獲高百噸乃至二百噸ニ及ヒ其ノ總價格七八十萬圓乃至百萬圓ニ及フ特ニ明太魚ハ朝鮮人ノ冠饗祭ニハ缺クヘカラサル者ナルカ故ニ其ノ販路全國ニ互レリ

二 石首魚漁 頗ル盛ナル漁業ニシテ明太魚漁ニ比スヘシ慶尙南道馬山浦ノ西北ヨリ平安道ニ至ル沿

第八章 水産業



岸ニ行ハレ全羅道七山灘黃海道延平列島附近最多ク産出ス漁期ハ區域ニ依リテ差アリ七山灘附近ハ
 毎年二月中旬ニ始マリ四月上旬ニ終リ、慶尙全羅道ノ沿岸ハ六月ヨリ九月ニ及ブ主トシテ網船、中
 船、碇船、駐木等ノ方法ニ依リテ之ヲ漁ス若夫漁期ニ至レハ各道ノ漁舟並ニ幅狭シ流スル者魚ヲ買フ
 者帆船扼櫂入り亂レテ海上異彩ヲ放ツ其ノ收穫ハ天候ノ異同ニ因リ豐凶ノ差アリト雖例年四五千萬
 圓ニ及ブ石首魚モ亦特ニ朝鮮人ノ最嗜好スル者ニシテ冠婚葬祭ニ必須ノモノナレハ販路頗ル廣ク都
 鄙到ル處之方販賣ヲ見サルハ無シ最近内地人ノ出漁スル者漸ク増加シ清國人ノ出漁スル者モ亦少カ
 ワス

三鮮漁 慶尙道ニ於ケル朝鮮人漁業ノ第一位ヲ占ムル盛大ノモノニシテ毎年十月ヨリ二月マデヲ流
 期トシ、十一月最盛ニシテ釜山灣以南ノ沿岸ヲ中心トス、魚張及延繩ヲ用キ毎年三四百ノ漁舟集
 合シ頗ル盛況ヲ極ム收穫高ニ三十萬圓ニ及ブ

四鯨漁 前述ノ鯨ト漁期ナ同クシ永興灣通川灣長筒灣迎日灣蔚山灣ヲ以テ主要漁場ト爲シ其ノ他咸
 鏡道沿岸ニモ産出スル所アリ孰レモ北海道沿岸ニ於ケル者ヨリモ體形稍小ニシテ群集モ亦濃密ナ

ウス生鮮又ハ鹽魚トシテ半島各地ニ需要セラル朝鮮人ハ生鮮ノ鯨ヲ珍重シ正月其ノ他嘉儀ニハ缺ク
 ヘカワサルモノト爲ス一年ノ漁獲高ニ三十萬圓ニシテ鯨ト伯仲ノ間ニアリ

五鱈漁 春秋ノ二期アリ江原道沿岸ヨリ咸鏡道元山近海ニ及ブ漁獲ハ凶豐ノ差アリト雖毎年四萬斤
 ノ漁獲アルヲ常トス

其ノ他鯛、鰯、鮭等ハ重要ノ漁業ニシテ又全羅南道各島嶼ニ於ケル海產類具類モ産出額約三十萬圓
 ニ上リ朝鮮人ノ漁業モ亦漁獲高三百萬圓ノ多キニ上レリ而シテ朝鮮人漁業者モ近時内地人ノ漁業ノ
 巧妙ナルヲ目撃シ技術器具漸ク舊態ヲ改メ漁區販路共ニ擴張セララルニ至リシヲ以テ漸次發展ノ域
 ニ進ムヘキヤ必セリ

朝鮮人水産業經營狀況一覽

明治四十四年

道名	水産業者戸口數		漁業資本		生産額	
	戸數	人口	船舶價格	漁具價格	合計	合計
京畿道	5,500	120,000	1,200,000	1,900,000	3,100,000	3,100,000

第八章 水産業

道	船數	人員	漁獲算高	平均	一船二付	一人二付
忠清北道	1,000	10,000	100,000	100	100	100
忠清南道	1,000	10,000	100,000	100	100	100
全羅北道	1,000	10,000	100,000	100	100	100
全羅南道	1,000	10,000	100,000	100	100	100
慶尙北道	1,000	10,000	100,000	100	100	100
慶尙南道	1,000	10,000	100,000	100	100	100
黃海道	1,000	10,000	100,000	100	100	100
平安南道	1,000	10,000	100,000	100	100	100
平安北道	1,000	10,000	100,000	100	100	100
江原道	1,000	10,000	100,000	100	100	100
咸鏡南道	1,000	10,000	100,000	100	100	100
咸鏡北道	1,000	10,000	100,000	100	100	100
合計	10,000	100,000	1,000,000	100	100	100

朝鮮ニ於ケル内地人ノ漁業權ハ明治四十一年日韓兩國漁業協定書ノ締結ニ由リテ從來兩國間ニ存在

三 内地人ノ水産業

セシ漁業規則ヲ全廢シ韓國漁業法ニ依リ韓國人ト等シク漁業權ヲ享有行使シ及處分スルコトヲ得ルニ至リシカ日韓併合ノ實ヲ見ルニ至リ從來ノ漁業法ニ不備ノ點アルト共ニ進テ朝鮮人ノ生業ヲ扶助發達セシメ又内地漁民ノ移住ノ經營ニ依リテ未開チ啓發セシムル必要アルヲ以テ四十四年六月更ニ漁業令ヲ制定シ舊漁業法ニ換ヘテ四十五年四月ヨリ實施シタリ

近時朝鮮海ノ漁業ノ有窮ナルニ鑑ミ漁業者ノ數ハ逐年著シク増加チ示セ左ニ内地人ノ朝鮮海ニ於ケル概況ヲ示スヘシ

一最近五箇年ニ於ケル出漁船數

年次	船數	人員	漁獲算高	平均	一船二付	一人二付
明治四十年	3,233	14,182	373,925	115.7	100	100
同四十一年	3,899	16,644	418,850	108.7	100	100
同四十二年	3,755	15,749	393,900	101.3	100	100
同四十三年	3,960	16,565	390,800	99.5	100	100
同四十四年	5,029	20,724	471,563	93.7	100	100



二最近五箇年ニ於ケル出漁人員地方別

年別	縣別	長崎	山口	廣島	香川	熊本	福岡	大分	岡山	愛媛	鹿兒	其ノ	合計
明治四十年	同	1,254	1,254	1,254	1,254	1,254	1,254	1,254	1,254	1,254	1,254	1,254	12,540
明治四十一年	同	1,354	1,354	1,354	1,354	1,354	1,354	1,354	1,354	1,354	1,354	1,354	13,540
明治四十二年	同	1,454	1,454	1,454	1,454	1,454	1,454	1,454	1,454	1,454	1,454	1,454	14,540
明治四十三年	同	1,554	1,554	1,554	1,554	1,554	1,554	1,554	1,554	1,554	1,554	1,554	15,540
明治四十四年	同	1,654	1,654	1,654	1,654	1,654	1,654	1,654	1,654	1,654	1,654	1,654	16,540

三内地人水産業經營狀況一覽

道名	水産業者戸口數	船舶價格	漁具價格	合計	漁獲金高	製造金高	合計
京畿道	1,200	1,200	1,200	3,600	1,200	1,200	2,400
忠清南道	1,100	1,100	1,100	3,300	1,100	1,100	2,200
忠清北道	1,000	1,000	1,000	3,000	1,000	1,000	2,000
京畿道	1,200	1,200	1,200	3,600	1,200	1,200	2,400
合計	4,500	4,500	4,500	13,500	4,500	4,500	9,000

明治四十四年六月末現在

道名	戸口數	船舶價格	漁具價格	合計	漁獲金高	製造金高	合計
全羅北道	1,200	1,200	1,200	3,600	1,200	1,200	2,400
全羅南道	1,100	1,100	1,100	3,300	1,100	1,100	2,200
慶尚北道	1,000	1,000	1,000	3,000	1,000	1,000	2,000
慶尚南道	900	900	900	2,700	900	900	1,800
平安南道	800	800	800	2,400	800	800	1,600
平安北道	700	700	700	2,100	700	700	1,400
江原道	600	600	600	1,800	600	600	1,200
咸鏡南道	500	500	500	1,500	500	500	1,000
咸鏡北道	400	400	400	1,200	400	400	800
合計	8,100	8,100	8,100	24,300	8,100	8,100	16,200

四捕鯨業

明治三十七年以來内地人獨占ノ事業ニ屬シ年毎ニ發展ヲ加ヘツアリ現時斯業ニ従事スル者ハ東洋捕鯨株式會社、日韓捕鯨會社、日韓捕鯨會社ノ二社ニシテ前者ハ馬養島長嶺灣及蔚山灣ノ三箇所ニ根據地ヲ置キ後者ハ蔚山灣及巨濟島ノ知世浦ヲ基地トシテ捕鯨ニ従事セリ今最近五箇年ニ於ケル捕鯨統計ヲ左

年次	汽船	捕鯨船數	捕鯨頭數	捕鯨價格	捕鯨頭數	一頭平均	價	一頭平均	格
明治四十年	八	一	四	三二二	二〇一六	二〇・一六	一四八	一四八	一四八
明治四十一年	九	一	三	二四七	三二二・七	二〇・一六	一四八	一四八	一四八
明治四十二年	九	一	三	二四七	三二二・七	二〇・一六	一四八	一四八	一四八
明治四十三年	九	一	三	二四七	三二二・七	二〇・一六	一四八	一四八	一四八
明治四十四年	一	一	三	二四七	三二二・七	二〇・一六	一四八	一四八	一四八

朝鮮海出漁團體表

明治四十四年六月末

名稱	位置	團體員	團體基金	同種立金	補助金	事務所費	漁業根據地	設立年月日
同組合群山支部	群山府北而京	一〇	六五五	一〇〇	三〇〇〇	三五	位置二同	四十一年
同組合支部	浦里	一〇	六五五	一〇〇	三〇〇〇	三五	位置二同	四十一年
同組合支部	南海郡三東面	一〇	六五五	一〇〇	三〇〇〇	三五	位置二同	四十一年
同組合支部	網助港	一〇	六五五	一〇〇	三〇〇〇	三五	位置二同	四十一年
同組合支部	群山各國居留地	一〇	六五五	一〇〇	三〇〇〇	三五	位置二同	四十一年
同組合支部	地木町通	一〇	六五五	一〇〇	三〇〇〇	三五	位置二同	四十一年
同組合支部	福岡縣博多	一〇	六五五	一〇〇	三〇〇〇	三五	位置二同	四十一年
同組合支部	機張郡大邊浦	一〇	六五五	一〇〇	三〇〇〇	三五	位置二同	四十一年
同組合支部	吉敷郡山口町	一〇	六五五	一〇〇	三〇〇〇	三五	位置二同	四十一年
同組合支部	群山府北面竹	一〇	六五五	一〇〇	三〇〇〇	三五	位置二同	四十一年
同組合支部	城山	一〇	六五五	一〇〇	三〇〇〇	三五	位置二同	四十一年
同組合支部	其山	一〇	六五五	一〇〇	三〇〇〇	三五	位置二同	四十一年
同組合支部	同出張所	一〇	六五五	一〇〇	三〇〇〇	三五	位置二同	四十一年
同組合支部	釜山南濱町	一〇	六五五	一〇〇	三〇〇〇	三五	位置二同	四十一年
同組合支部	同縣漁業團體	一〇	六五五	一〇〇	三〇〇〇	三五	位置二同	四十一年

第八章 水産業

三重縣林業組合	釜山南濱町	2000			釜山近海	同	明治四十二年
千葉縣漁業團	馬山府龜山面	2000			釜山近海	同	明治三十八年
大分縣漁業團體	栗山府朱南面	?			釜山近海	同	不明
廣島內外漁業社會社	新樹島	?			釜山近海	同	不明
長崎縣漁業團	大垣村柿野				釜山近海	同	四十三年
岡山縣水產組合	龍南郡西面東				釜山近海	同	四十三年
島根縣水產組合	龍南郡東面松				釜山近海	同	四十三年
福井縣漁業團體	朝鮮海				釜山近海	同	四十三年
鹿兒島縣漁業團體	機張郡大邊浦				釜山近海	同	四十三年
鹿兒島縣漁業團體	鹿兒島市山下				釜山近海	同	四十三年

同串木野水	同串木野村下	7000	6000	釜山近海	同	五月
同羽島浦合	同村羽島	2000	2000	釜山近海	同	四月
同木浦合	同村下名	2000	2000	釜山近海	同	三月
同東加世田村	同東加世田村	2000	2000	釜山近海	同	二月
同海加世田村	同唐仁宗	2000	2000	釜山近海	同	二月
同海加世田村	同四加世田村小	2000	2000	釜山近海	同	二月
同知覽村合	同知覽村南別府	2000	2000	釜山近海	同	二月
同知覽村合	同知覽村別府	2000	2000	釜山近海	同	二月
同鹿兒島縣漁業團體	同鹿兒島縣漁業團體	2000	2000	釜山近海	同	二月
同鹿兒島縣漁業團體	同鹿兒島縣漁業團體	2000	2000	釜山近海	同	二月
總計		29	29	釜山近海	同	五月

半島ノ沿岸到ル處トシテ製鹽業ノ行ハレサルハナシ其ノ製鹽ハ總テ煮熬法ニ依リ海水ヲ直ニ煎熬シ

四 製鹽業

若ハ海水ヲ鹽田ニ導キ撒砂ニ依リテ濃厚ナル鹹水ヲ採リ之ヲ煎蒸シテ製鹽スルモノナリト雖其ノ方
法頗ル粗雑幼稚ニシテ價格高ク産額モ亦多カリ
元來朝鮮ハ一般ニ降雨少ク空氣乾燥シ最モ製鹽ニ適當ス加フルニ沿岸一帶ノ地形ハ製鹽場ヲ作ルニ
適當セル所尠カリテ現今半島内ノ製鹽事業ハ次表ニ示ス如ク鹽田面積三千七百餘町歩鹽ノ生
産力二億八千萬斤ナリトス

鹽業調査成績表

自明治四十年至同四十四年調査

道名	製造者數	小作人數	從業者數	鹽田段別	鹽生産力	鹽井數	釜屋數
京畿道	1,515	6,767	25,555	1,515	3,500,000斤	3,513	1,515
忠清南道	1,011	5,777	12,511	1,011	2,100,000斤	7,777	1,011
全羅北道	1,011	5,777	12,511	1,011	2,100,000斤	7,777	1,011
全羅南道	1,011	5,777	12,511	1,011	2,100,000斤	7,777	1,011
慶尙北道	1,011	5,777	12,511	1,011	2,100,000斤	7,777	1,011
慶尙南道	1,011	5,777	12,511	1,011	2,100,000斤	7,777	1,011
江原道	1,011	5,777	12,511	1,011	2,100,000斤	7,777	1,011
平安北道	1,011	5,777	12,511	1,011	2,100,000斤	7,777	1,011
平安南道	1,011	5,777	12,511	1,011	2,100,000斤	7,777	1,011
黃海道	1,011	5,777	12,511	1,011	2,100,000斤	7,777	1,011
慶尙南道	1,011	5,777	12,511	1,011	2,100,000斤	7,777	1,011
合計	10,000	50,000	100,000	10,000	20,000,000斤	70,000	10,000

備考 鹽ノ生産力ハ前表ノ如ク二億八千二百萬斤ナルモ實際毎年生産ノ豫想量ハ約二億斤内
外トス

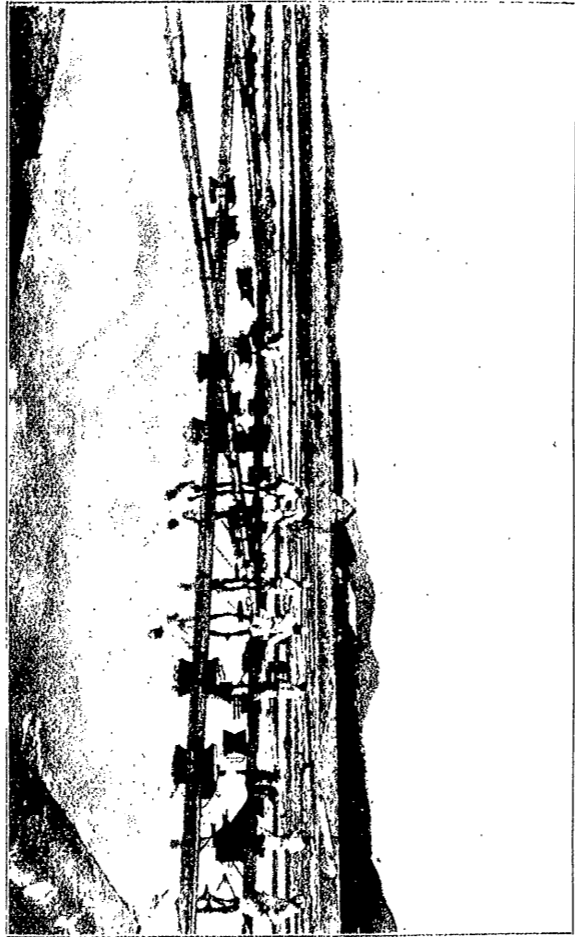
朝鮮ニ於ケル鹽ノ總需要量ハ約三億斤ニシテ内二億斤ハ前表朝鮮ノ鹽田ヨリ生産供給セラレ一億斤
ハ輸入ニ依リテ供給セラル然ルニ朝鮮鹽ハ勞力ト燃料ヲ費スコト多ク隨テ其ノ生産費百斤當リ
平均賣價拾錢ナルニ比シ清國天目鹽ハ仁川ニ於テ高價ノ時ニ於テスラ百斤七八十錢ニシテ甚シク
低落ノ場合ト雖四拾錢内外ヲ以テ供給セラル此故ニ清國鹽ハ年年其ノ輸入ヲ増シ漸次朝鮮鹽ヲ壓倒
第八章 水産業



セムトスルノ勢ヲ示シ朝鮮ノ鹽業ハ輸入ノ増加ト同比例ヲ以テ減退スルノ情勢ニシテ就中平安道黃海道ノ如キハ廢棄鹽田ノ年々増加セルヲ見ル今最近輸入額ノ狀況ヲ舉グレハ左ノ如シ

最近數年間輸入高及價格

年次	區別	内地	臺灣	支那	其他	計
明治四十一年	數量	六、四四三、〇〇〇斤	一、五三三、〇〇〇斤	五、七三〇、〇〇〇斤	八、四〇〇、〇〇〇斤	二二、一〇六、〇〇〇斤
	價格	六、〇〇〇、〇〇〇	八、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇	一七、〇〇〇、〇〇〇
同 四十二年	數量	五、八〇〇、〇〇〇斤	一、〇〇〇、〇〇〇斤	六、五〇〇、〇〇〇斤	三、〇〇〇、〇〇〇斤	一六、三〇〇、〇〇〇斤
	價格	五、〇〇〇、〇〇〇	八、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇	一六、〇〇〇、〇〇〇
同 四十三年	數量	六、一三九、〇〇〇斤	一、一〇〇、〇〇〇斤	六、五〇〇、〇〇〇斤	三、〇〇〇、〇〇〇斤	一六、八三九、〇〇〇斤
	價格	六、〇〇〇、〇〇〇	八、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇	一七、〇〇〇、〇〇〇
同 四十四年	數量	六、二〇〇、〇〇〇斤	一、一〇〇、〇〇〇斤	六、五〇〇、〇〇〇斤	三、〇〇〇、〇〇〇斤	一六、九〇〇、〇〇〇斤
	價格	六、〇〇〇、〇〇〇	八、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇	一七、〇〇〇、〇〇〇
大正元年(九月)	數量	六、二〇〇、〇〇〇斤	一、一〇〇、〇〇〇斤	六、五〇〇、〇〇〇斤	三、〇〇〇、〇〇〇斤	一六、九〇〇、〇〇〇斤
	價格	六、〇〇〇、〇〇〇	八、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇	一七、〇〇〇、〇〇〇



京畿道仁川府安面鹽田

輸移入ノ狀況斯ノ如シ若シ此ノ趨勢ニ放任ハンカ朝鮮ノ鹽業ハ遂ニ全ク廢滅ニ歸スルニ至ルヘク其ノ結果正貨ノ流出ヲ促シ經濟上及財政上ニ影響スル處夥カラス茲ニ於テ舊韓國政府ハ明治四十年中地ヲ京畿道仁川府宋安面ニトシ面積壹町歩ノ天日製鹽試驗場ヲ設ケ試驗ノ結果朝鮮ニ於テ天日製鹽ハ確實ニ成立スヘク其ノ產額ハ豐饒ニシテ而モ其ノ品質ハ支那鹽ニ比シ遙ニ優越シ臺灣鹽ニ匹敵シ一等鹽ノ如キハ煎熬鹽ニ比シ毫モ遜色ヲ見ス其ノ化學的成份ニ至リテハ前記各種鹽ニ比シ優越シ純食鹽分八九〇%ヲ越エ日本内地ノ一等鹽ニ相當スルモノヲ得ルノ好結果ヲ得タリ此ノ結果ニヨリ天日製鹽ヲ官營トスルコトトシ先ツ第一期事業トシテ面積一千町歩ノ天日製鹽田ヲ築造スルコトニ決シ明治四十二年度ヨリ著手シ四十四年度内ニ竣成ノ筈ナリ其ノ確定セル鹽田ノ總面積左ノ如シ

朱安(京畿道仁川府) 鹽田面積九十八町一反七畝十三步

廣梁灣(平安南道鎮南浦府) 同 九百三十三町一反八畝十六步

合計 一千三十一町三反五畝二十九步

前記鹽田ニ於テ工事進行中傍リ鹽ノ製造ヲ爲シタル數量左ノ如シ

第八章 水産業

天日製鹽製造高表

年次	天日製鹽製造高		廣 梁		合 計	
	鹽田面積 町歩	製造高 斤	鹽田面積 町歩	製造高 斤	鹽田面積 町歩	製造高 斤
明治四十一年	一〇〇〇〇	一三三、七五三			一〇〇〇〇	一三三、七五三
同 四十二年	五、五八〇	二〇、〇四九			五、五八〇	二〇、〇四九
同 四十三年	三、六五三	七三、八一〇			三、六五三	七三、八一〇
同 四十四年	九、八二七	一五三、〇五七	四、七九四	二五、八〇四	一四、六二一	一七八、八六一
同 四十五年	九、八二七	一五三、〇五七	四、七九四	二五、八〇四	一四、六二一	一七八、八六一
同 四十六年	九、八二七	一五三、〇五七	四、七九四	二五、八〇四	一四、六二一	一七八、八六一
同 四十七年	九、八二七	一五三、〇五七	四、七九四	二五、八〇四	一四、六二一	一七八、八六一
同 四十八年	九、八二七	一五三、〇五七	四、七九四	二五、八〇四	一四、六二一	一七八、八六一
同 四十九年	九、八二七	一五三、〇五七	四、七九四	二五、八〇四	一四、六二一	一七八、八六一
同 五十年	九、八二七	一五三、〇五七	四、七九四	二五、八〇四	一四、六二一	一七八、八六一

右生産額ハ鹽田築造工事中一部分ノ鹽田ニ於テ生産シタルモノナルカ故ニ其ノ産額尠キモ工事竣成
シ且鹽田ノ老熟スルニ隨ヒ漸次其ノ産額ヲ増加スルニ至ルハ勿論ナリトス

第九章 林業

一 森 林

朝鮮ニ於ケル林野ノ總面積ハ約一千六百萬町歩ヲ算シ全土ノ七割三分ヲ占メ世界ニ稀ナル山國ナル
ニ拘ラス古來林政不備ニシテ禁令洽カラス人民ノ自由樵採ヲ默認シテ顧ミサリシヲ以テ到ル處濫伐
暴採ヲ肆コシ或ハ火田ヲ起シ或ハ急傾地ヲ開墾シテ墾モ墾裁ヲ意トスル者ナク爲ニ林野ノ大部分ハ
荒廢ヲ極メ僅ニ陵園附屬ノ森林及北鮮ニ於ケル鴨綠、豆滿兩江ノ流域ニ於テ見ルニ足ルノ林相ヲ保
ツニ適キスシテ秀山曠野起伏シ滿目荒涼ヲ極メ延テ産業ノ發達ヲ妨ケ國土ノ保安ヲ害シ其ノ災禍舉
テ算フヘカラス之カ復舊改善ノ策ヲ講スルハ洵ニ焦眉ノ急務ニ屬セリ蓋ニ舊韓國政府ハ森林法ヲ發
布シ一般山野ノ保護、整理、増殖ヲ圖リ盛ニ殖林ヲ奨勵シタリシカ半島ノ民情ニ適セサル點少カラ
サルヲ以テ明治四十四年六月朝鮮總督府ハ新ニ森林令ヲ布キ從來ノ森林法ヲ廢シテ國土ノ保安、危
害ノ防止、水源ノ涵養、公衆ノ衛生、魚附又ハ風致ノ爲必要アリト認ムルモノハ之ヲ保安林ニ編入

少伐採開墾者ハ放牧ヲ爲スコトヲ得サレシメ以テ刻下ノ急務ニ應ジシム
最近ノ調査ニ係ル朝鮮各道ニ於ケル林野ノ面積ヲ舉ケレハ左ノ如シ

森林面積表

道名	成林地	稚樹發生地	無立木地	計	全面積ニ對スル林野ノ割合
京畿道	一七三、三三三	三九七、三二九	三九九、五三〇	七七一、一九二	五八
忠清北道	八六、〇二七	一一五、一六九	一九四、九三〇	五三二、一三〇	七〇
忠清南道	九一、九七七	一八五、四八二	一九一、三三三	四六八、六九二	五五
全羅北道	二六七、〇五〇	二二五、三三二	四七〇、七四	五三二、四六六	六三
全羅南道	八五、二六四	六三三、三三九	二二四、一五	九八二、六二八	七八
慶尙北道	一七四、四二八	七五八、九三六	三七五、九一〇	一、三〇九、二七四	六九
慶尙南道	一一五、八二六	四六六、七二二	二九四、六四六	八八七、一九五	七〇
黃海道	一一〇、四六九	七三六、九四七	一五七、四三三	一、〇〇四、八三九	六三
平安南道	三三六、四九七	六〇五、九七五	一五六、八三〇	九九九、二九九	六五
平安北道	八七八、八九二	八〇七、七七九	七〇八、六四五	一、三九三、三二六	八〇

江原道	成林地	稚樹發生地	無立木地	計	全面積ニ對スル林野ノ割合
江原道	六七二、二四四	九五三、九八二	二八五、二一九	一、九一〇、三三四	七〇
咸鏡北道	一四五、八八一	五二二、三五五	五三七、六八〇	一一一七、八五一	八〇
咸鏡南道	八八、〇三〇	一四七、六九五	六三四、二二六	一、五九九、九六一	八二
計	五、二二六、八八五	六、六一九、四七三	四、一〇七、四六一	一五、八四九、六六一	七三

即チ全面積約二千六百萬町歩ノ内成林及疎生又ハ散生地ハ約三分ノ一ニ止マリ殘地ノ内約三分ノ二ハ天然生雜樹ノ生育地ニシテ殘三分ノ一ハ草地又ハ禿裸地ニ屬セリ
半島ノ氣候ハ南北ニ於テ差等アリ隨テ北寒帶ヨリ南溫帶ニ到ル迄各種ノ樹木ヲ生シ其ノ分布亦地方ニヨリ同シカラス北部鴨綠江及豆滿江ノ兩流域上流地方其ノ他ノ高山ニ於テハタウヒ、カラマツ、ヒノキ、モミ、テウセンゴ、エフマツ、カバ、ヤマナラシ等ヲ主トシテ鬱蒼タル樹林ヲ形成シ南部ニ在リテハ到ル處アカマツヲ生シナラ、クヌギ、ケヤキ、エノキ、ムクノギ、ハンノキ、クルミ、ハルニレ、クリ等ヲ生シ最南部ニ至レハカシ、シビ等ノ常綠樹及竹林ノ存在スルヲ見ル
又各道ニ於テ一圃地五千町歩以上ニ互ル圃有林野ノ面積及其ノ材積ヲ舉ケレハ左ノ如シ

第九章 林業

道名	主要林野全面積	上ノ内立木地面積	見積材積
京畿道	九六、七四〇	二六、四〇〇	五、一三八、〇〇〇
忠清北道	一六一、五七七	七三、七八七	二、九〇〇、八一〇
忠清南道	三四、八五六	一一、八一九	一、七九七、五七五
全羅北道	一〇〇、三三七	八二、三二七	九、三三五、〇五〇
全羅南道	一一三、七七〇	三六、一八一	七、〇三三、七三六
慶尙北道	三〇三、九三七	一〇九、二五二	一四、五〇三、〇五五
慶尙南道	一〇三、三五三	四九、五六六	八、五八九、七八〇
黃海道	二四〇、九二三	八二、四二三	二九、七一四、四五〇
平安南道	四九四、八五八	二七九、三六五	一一七、八四五、三二〇
平安北道	一、二六六、六二二	七一一、二八一	一五九、八一〇、五〇〇
江原道	八七九、四九六	五〇八、五八九	一二五、七九九、二七〇
咸鏡南道	一、五八一、五三〇	一一二、八三三	三三五、〇八四、八二〇
咸鏡北道	一、二二二、〇一八	九四九、二七一	二二二、七八五、四〇〇
計	六、六〇〇、〇一七	四、〇三三、〇九四	一、〇五〇、三三七、六六六

二二八

朝鮮ノ山野ノ荒廢ハ其ノ極ニ達セルモ人煙稀ナル僻遠ノ地、大江ノ水源、絶海ノ孤島若ハ墳墓ノ附近等ニハ尙多少見ルヘキノ森林ヲ存セリ

二 殖林事業

朝鮮ノ林野ハ甚シク荒廢セリト雖到ル處造林ニ適シ又樹木ノ生育狀態モ殆ト内地ト相等シク少シク植栽ニ努ムルニ於テハ容易ニ其林ヲ形成シ得ヘシ
 明治四十年以降國費ヲ以テ京城附近其ノ他ノ著明地ニ造林ヲ行フト同時ニ民間ニ種苗ノ無償下付ヲ爲シ又地方費及恩賜金經營ニ屬スル苗圃ニ於テモ苗木ノ下付ヲ行フト同時ニ一面ニ於テ國有林野ノ内存置ヲ要セサル部分ハ民間ニ造林貸付ヲ爲シ事業成功ノ後無償ニテ下付シ得ルコトトシ大ニ造林ノ獎勵ヲ行ヒツツアリ而シテ是等ノ貸付シ得ヘキ林野ハ極メテ多クシテ各道ニ互リ造林適地ヲ選定シ得ヘク從テ殖林ノ事業ハ前途頗ル有望ナリ
 既往ニ於ケル民間殖林事業ハ未ダ大ニ見ルヘキモ無シト雖東洋拓殖會社、釜山居留民團等ヲ主トシ近時ニ至リテハ三井合名會社ニ於テモ大規模ノ造林計畫ヲ立テ漸次實行者増加ノ趨勢ヲ呈セリ

第九章 林業

二二九

朝鮮ニ於ケル造林通樹ハ北ハ寒帯ヨリ南ハ暖帯ニ至ル迄其ノ數少カラスト雖比較的造林容易ニシテ生長速ナル經濟的樹種ノ主要ナルモノヲ舉ケレハ概ネ左ノ如シ

ニセアカシヤ 適地汎ク就中荒廢地ノ恢復ヲ目的トスル造林ニ適シ箭林、中林及矮林作業ノ執レ

ニモ好適シ種苗至廉造林容易ニシテ土地及氣候ニ對スル適應力強ク生長力旺盛ナリ

植付後三四年目頃ヨリ薪炭材ニ供セラレ十年乃至二十年目頃ヨリ鐵道枕木、鐵坑支柱、土工若ハ建築用材等ニ用キラル

アカマツ 殆ト造林ニ適セサル地ナク生長中等ニシテ適應力強シ

植付後十年目頃ヨリ小丸太ヲ産シ四五十年目ヨリ各種建築及土工用材、鐵坑支柱ニ適シ其ノ枝條ハ薪材ニ適ス

白楊樹類 住宅附近、耕地内外、河川溪流ノ沿岸浸水地等ニ植ツレハ生長最旺盛ニシテ其ノ利益多大ナリ

矮林作業ニ好適シ苗ハ插種法ニ依リ一箇年マテ容易ニ養成スルコトヲ得



況狀育生ノ年初苗樹ナシカアセニ

植付後三四年目頃ヨリ薪炭材トナリ七八年目頃ヨリ用材ニ供セラレ小丸太、朝鮮式建築材、器具材、軽木ノ原料、燐寸軸木、製紙原料等ニ好適ス

クモギ 概木山ノ中腹以下ノ濕潤地ニ適生シ又逐年生長力ヲ増加ス矮林作業ニ依リ植付後約十年乃至十五年目頃ニ第一回ノ伐採ヲ行ヒ自後約五年乃至十五年毎ニ萌芽幹ヲ伐採スルニ適ス材ハ上等ノ薪炭トナリ葉ハ梓糶飼料ニ好適ナル有用ノ樹木ナリ

クリ 濕潤ニシテ排水良キ中腹以下ノ山地又ハ家敷廻リ等ニ適シ其ノ生長中等ナリ植付後四五年度目ヨリ結實シ四五十年ニ至リ最も多量ニ産ス材ハ枕木、鐵坑用材、家具、船具、燃料及木炭トナリ樹皮ハタンニン原料及染料トナルヘシ

一 苗圃事業

(1) 國營苗圃ハ明治四十年水原、平壤、大邱ノ三箇所ニ、同四十二年京城、木浦、鏡城ノ三箇所ニ同四十四年ニ於テハ更ニ清州、晉州、全州、海州、義州、咸興、公州、春川ノ八箇所ニ新設シ以テ各道ニ二箇所(京畿道ハ二箇所)トシ計十四箇所ヲ置キシヨ明治四十五年四月京城及水原

ノ一部ヲ除ク外幸テ地方費經營ニ移シ其ノ事業費ヲ補助スルコトトセリ而シテ京城及水原苗圃ノ養成樹種ハクヌギ、ニセアカシヤ、アカマツ、ヒラミツドヤマナラシ等ヲ主トス。

國費苗圃一覽表

(大正元年)

苗圃名	所在地	面積	播種數量	養苗概數
京城	京城府	一町二九二	八三九	一、四六四、二六〇
水原	水原郡	九八〇・一	一〇六〇・一	三、九九四、三〇〇
計		二、四〇九・三	一、九〇〇	五、四五八、五六〇

(口) 地方費ノ經營ニ屬スル苗圃ハ明治四十四年度ニ於テ始テ開設シタルモノニシテ全羅北道及黃海道ヲ除クノ外各道ニ之カ設置ヲ見其ノ數七十六箇所ニ上リシカ明治四十五年四月國費ヨリ十三箇所ノ苗圃ヲ移シタルヲ以テ現時八十九箇所ニ上レリ而シテ其ノ養成樹種ハクヌギ、クリ、ニセアカシヤ、アカマツ、ヒラミツドヤマナラシ及ドロノキ等ヲ主トセリ。

地方費苗圃一覽表

(大正元年)

道名	苗圃箇所數	面積	播種數量	養苗概數
京城	三九	九七八・二四	一、二七、四〇〇	五、二五五、三七〇
忠清北道	一八	二、八八九・二八	六六〇・七	一、四七四、九〇九
忠清南道	一九	一〇、六八一・五	五〇八・二	四、八〇七、〇〇〇
全羅北道	一一	五、一九二・一	一〇七・一	六、一〇八、〇〇〇
全羅南道	二二	九、四二〇・七	一、八九七	一、五九八、六七〇
慶尚北道	二六	一八、八二二・一	二、五九一	一、〇〇〇、〇〇〇
慶尚南道	二二	一八、五九一・七	一、五六一	一、二四三、七〇一
黃海道	一一	五、六一一・五	一、八五三	一〇、一八、六七一
平安南道	三三	八、二二〇・九	二、三〇四	六、二五三、〇〇〇
平安北道	一一	三、九三三・三	二、二五二	五、三〇、九八四
江原道	一一	四、五二二・七	五、三三九	一、四、一、七〇〇
咸鏡南道	三	七、六八一・二	一一、九二二	一、四、三〇四、九二二
咸鏡北道	三	一、三八二・〇三	四〇、九四一	
計	八九	一、三、八二〇・三	一、二、七、四〇〇	

(未詳)

備考 養苗概數ハ國費ヨリ移シタル苗圃ノ分ノミヲ掲ケ

(一)恩賜金經營ニ屬スル苗圃ハ地方費苗圃ト同シク明治四十四年度ニ於テ始テ開設シタルモノニシテ管内六道ニ於テ設置シタル苗圃所四十四箇所ニ上リシカ明治四十五年度ニ於テ七箇所ヲ増設シ現時五十一箇所ニ上レリ而シテ養成樹種ハ略地方費苗圃ニ同シ

恩賜金苗圃一覽表

道名	苗圃箇所數	面積	大正元年播種數	明治四十四年養苗數
全羅北道	九	一、六四二	二、三二四	一〇、一三五
黃海道	九	一、八四二	三、七二二	一〇、〇四〇
平安南道	一〇	二、四七〇	六、六三四	四、〇四〇
平安北道	一〇	〇、七〇二	八、三三六	五、三九〇
江原道	四	七、七三〇	四、五六七	
咸鏡南道	五	二、五〇〇	一、一三七	
計	五二	三六、九〇八	一五、〇九九	五九、五六五

(大正元年)

(二)又民間ニ於ケル苗木培養者ノ數ハ三百餘人ニ上リ自家用植樹ノ爲又ハ販賣ノ目的ヲ以テアカマツ、クロマツ、テツセンゴエマツ、カラマツ、グマヤ、ニセアカシヤ、グリ、白楊類等ヲ養成シツツアリ其ノ道別培養者及事業ノ成績左ノ如シ

私營養苗一覽表

道名	培養者數		產成苗數			
	内地人	朝鮮人	四十一年	四十二年	四十三年	四十四年
京畿道	四	四九	六、七五五	二、六二五	六、六三九	三、〇五二
忠清南道	三	一〇七	三、二二五	一、七八〇	一、八四七	七、八九八
忠清北道	一	二〇	五、二五〇	五、二四三	一、九二〇	八、五三〇
全羅南道	一	九	五、〇四六	六、〇一八	一、四一〇	一、七五二
全羅北道	二	九	五、三〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	五、〇〇〇
慶尙南道	九	一	一〇、〇〇〇	三、九八〇	一〇、〇〇〇	七、六九六
慶尙北道	二	一	一〇、〇〇〇	九、〇〇〇	一〇、五〇〇	九、八二〇
黃海道	九	一	一〇、〇〇〇	九、〇〇〇	一〇、五〇〇	九、八二〇
平安南道	四	一	二、五〇〇	二、〇〇〇	八、七五〇	六、一七二
計	四八	一四九	六六、七五五	二六、二五一	六六、三九七	三〇、六五一

第九章 林業



江原道	計	二八六	二二二	三二六	三三六〇六	二五七九五	五〇四〇	九〇九	一一七二四	〇七六	三、九五〇
-----	---	-----	-----	-----	-------	-------	------	-----	-------	-----	-------

二 植栽事業

(イ) 國費事業トシテハ造林ノ模範ヲ示シ風致ノ増加ヲ計リ且植栽ニ關スル試驗ヲ行フヲ目的トシ明治四十年京城白雲洞及平壤牡丹嶺ノ二箇所ニ造林ヲ開始シ爾後水原、大邱、開城地方ニモ造林ヲ行ヒタリシカ近年ニ至リ京城附近ノ荒地地ニ對スル造林ノミニ主力ヲ注クコトトセリ而シテ植栽樹種ハアカマツ、ニセアカシヤ、クマギ等ヲ主トシ又クマギノ播種サモ施行セリ明治四十年以降大正元年ニ至ル六箇年間ノ事業左ノ如シ

國費植栽一覽表

植栽地方	面積	植栽種數	播種數	植栽施行年度
京城	一、四三六畝六二五	三〇五六九三二	石	自四十年至大正元年 六箇年

同 水原	二八、五〇〇	六六、六〇〇	三七五	四十二年	一箇年
同 開城	三〇、〇〇〇	九七、五八〇	五〇〇	四十二年	一箇年
慶尙北道	一五、〇〇〇	五三、二〇〇	六〇〇	四十一年、四十二年	二箇年
平安南道	一一八、二六三	四四九、一一〇	五〇〇	自四十年至四十二年	三箇年
計	一七三、七六三	四、二〇三、三三二	一九七五		

(ロ) 地方費經營事業トシテハ日向淺キヲ以テ未ダ特記スルニ足ラズト雖明治四十四年中江原道ニ於テ施行シタルチ嚆矢トシ大正元年ニハ江原、忠清北、慶尙北、全羅南ノ四道ニテ造林ヲ行ヒアカマツ、クロマツ、クマギ、ニセアカシヤ、クリ、白楊類等ヲ植栽セリ今其ノ成績ヲ示セハ左ノ如シ

地方費植栽一覽表

道名	面積	植栽種數	植栽施行年度
江原道	六四、三三三	一九三〇〇	四十四年、大正元年 二箇年

第九章 林業

忠清北道	二八八〇〇〇	八〇〇〇〇	四十五年	一箇年
慶尙北道	六〇〇八八	二四〇三〇	四十五年	一箇年
全羅南道	二〇〇〇〇	七三、五〇〇		
計	二、五三、二〇〇	四、一三、二〇〇		

二三八

(ハ)民間ニ於ケル植林經營者中釜山居留民團ニ於テハ釜山ノ水源涵養及造林ヨリ生スル收益ニ依リ學校基本財産或ハ民間基本財産ノ増殖ヲ圖リ明治三十七年以降アカマツ、クロマツ、クスギ等ヲ植栽シツツアリ今四十年以後ニ於ケル事業ノ成績ヲ示セハ左ノ如シ

年 度	植付面積	付 苗 數			計 數	經 費
		アカマツ	クスギ	其ノ他		
明治四十年	一九	六六、七〇〇	一〇、八四四	二六、八六七	二〇三八	
同 四十一年	一九	五九、六〇〇	一七、一三〇	七八、七三〇	三三三二	
同 四十二年	一九	一一、七三六、五〇〇	一七、三六、五〇〇	一七、三六、五〇〇	一七、九〇	
同 四十三年	一九	七八四、二五〇	一、一七、二五〇	七八四、二五〇	三、四〇九	

同 四十四年度	六七、三九九、七〇〇	二、二六、三〇〇	二、二五、五七〇	三八九、七〇〇	三、一三三
計	三、八一三、七一九八	一、二六、三〇〇	一、二五、五七〇	三、九六五、八五〇	一、四、七〇一

(ニ)又東洋拓殖株式會社ニ於テ植林經營ヲ爲スコトハ第六章ニ於テ既ニ述フルカ如シ復タ茲ニ贅テス

三種苗下付 民間植樹獎勵ノ爲國費地方費及恩賜金經營苗圃ニテ養成セル苗木及購入種苗ノ無償下付ヲ行ヒツツアリ明治四十二年以降大正元年度ニ至ル成績左ノ如シ

樹 種	四十三年度		四十四年度		元 年	
	種 數	子 數	種 數	子 數	種 數	子 數
グマシキ	三三、九〇四	一九、九七三	一一、五五七	六六、一〇八	二〇、七二八	三、八五七
ニモアカシヤ	二、七五	六、〇六	六、一五	一〇、三三九	八、九六、七五八	一、八五四〇九
白楊樹類				三九、八二三	四、五八、六二三	一一、七〇、八三〇
アカマツ		七〇		一〇、一〇〇	五、二九、九六八	八、五七、八九六
クリ		四、七〇		五、九四〇	四、〇三、八一八	三、四八、二七五

第九章 林業

二三九

其	計	他	計
三三二七九	二四九七五	一八八〇七	一〇八三三
・一五	・一八	一七八二七	四〇八三九
二四九七五	一八八〇七	一〇八三三	四〇八三九
六二七三六	八七〇五	六二七三六	八七〇五

二四〇

四記念植樹 記念植樹ハ毎年四月三日神武天皇祭日ヲ期シ舉行スルコトトシ明治四十四年第一回ヲ實行セシニ豫想外ノ好結果ヲ得其ノ總植付本數四百六十五萬本ニ達シ又四十五年舉行ノ第二回記念植樹ハ第一回ニ倍蓰スルノ盛況ヲ呈シ總本數一千十六萬餘本ニ上レリ而シテ其ノ植栽用苗木ハ國費地方費及恩賜金經營苗圃ヨリ無償下付シ其ノ他ハ私人ノ購入者ハ自然苗ノ採取等ヲ以テ之ニ充テ植栽地ハ官公衙、學校等ノ構内、道路ノ兩側、埋地等目ヲ惹キ易キ場所ヲ主トシ都邑、村落、附近ノ國有又ハ公有地等ニ植付ケ一部ノ地方ニ偏スルコトナク都鄙ノ別ヲ論セス普ク施行セラルルニ至レリ又植樹ノ實行者ハ官公衙學校ノ職員、生徒、守備隊、憲兵、而長、里長、洞長及金融組合員、農林業篤志者ハ勿論一般人民ニ至ル迄内地人タルト朝鮮人タルトノ別ナク植栽ニ從事シタリ植付本數ヲ道別ニ舉ケレハ左ノ如シ

記念植樹一覽表

道名	植栽本數	道名	植栽本數
京畿道	三二四、四八一	黃海道	一三八、八〇〇
忠清北道	三二四、四八一	平安南道	一七六、六二九
忠清南道	三二四、四八一	平安北道	七六七、三三六
全羅北道	三〇四、八一四	江原道	二九八、九〇〇
全羅南道	二五二、四三九	咸鏡北道	四六、七六〇
慶尙北道	二九〇、六一〇	咸鏡南道	一七九、五三六
慶尙南道	六〇八、三三〇	計	一〇二、九六七
	四二六、五七〇		四六五、四四七
	八七七、七三六		一〇、二六四、七六〇

三 部分林

蓋ニ舊韓國政府ハ部分林規則ヲ發布シ國有山林ヲ無料ニテ民間ニ提供シ之ニ植栽セシメ伐採期ニ際シ利益ヲ分收スルノ法ヲ講シテ大ニ部分林ヲ獎勵シ官民協力以テ植栽ノ企圖ニ努メタリシガ明治四十四年六月森林令ノ發布ト共ニ部分林規則ヲ廢シ從前ノ設定ニ係ルモノニ就テハ依然同一ノ取扱ヲ爲スコトトセリ

第九章 林業

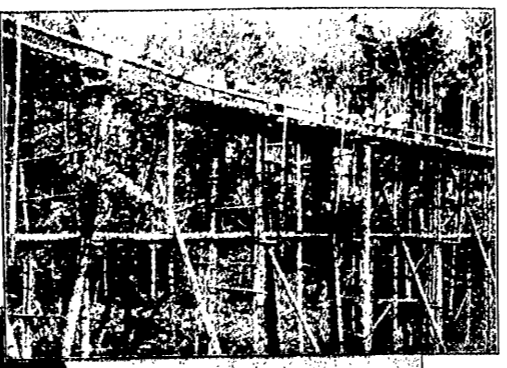
二四二

部分林設定一覽表 (自明治四十一年三月開始 至同四十四年八月廢止)

部分林設定	件數		面積	
	内地人	朝鮮人	内地人	朝鮮人
一	二	二	三三	五八四二町
二	二	二	三三	一五八二町
三	二	二	三三	七四三三町

四 營林廠

營林廠ハ明治四十年五月ノ設置ニ係リ曾テ統監府ノ所屬官署タリシカ韓國併合ト同時ニ總督府ノ所管ト爲リ本廠ヲ平安北道新義州ニ置キ出張所ヲ鴨綠江遼東沿岸要所ニ設ケ兩江流域ニ帶ノ國有森林ヲ管理シ其ノ流下材ヲ以テ製材シ若ハ販賣シ廣ク需要ニ應セムコトヲ期セリ從來ハ主トシテ官衙建築用材ノ供給ニ過キサリシカ四十三年度ヨリ民間ノ需要ニ應スルコトヲ得ルニ至レリ鴨綠江材ハ咸鏡南道及平安北道ノ同江流域森林ヨリ伐採シ獲ニ依リテ新義州ニ流下シ滿洲、北滿地方ニ輸送セラル木材ハベニマツ(俗稱テウセンゴエマツ)スギマツ(シラベ、トツロ、エゾマツ等ノ俗稱アリ)ヲ主トシ少量ノ落葉松及雜木ヲ產出ス



營林廠明化洞運材用橋梁ノ景



營林廠新登坡鎮出張所ノ景



營林廠明化洞木馬運材土場ノ景

鳴綠江流域森林面積及材積

一 國有林全面積及總蓄積量表 (尺總)

全面積	五葉松	落葉松	唐松、白檜等	赤松	雜木	計
19,900 畝	10,288 畝	5,547 畝	10,310 畝	5,000 畝	15,561 畝	37,105 畝

二 利用見込箇所主要樹種面積材積表

樹種別	面積	材積	利用率	利用材積	平均材齡
五葉松	18,350.5	85,996.9	33%	19,147.8	100
落葉松	4,421.4	4,996.9	33%	1,396.3	100
唐松、白檜等	2,905.4	10,511.7	33%	6,334.4	100
計	36,677.3	101,505.5	33%	25,878.5	100

備考

一、利用率各地ニ依リ異ナルヲ以テ本表ニハ掲記シ難シ因テ利用材積ニ基キ算出セシモノナリ

二、檀木ハ雜木中ニ混生シアルヲ以テ面積ハ其ノ區域ヲ示シタルモノナリ

豆満江材ハ成鏡北道ノ同江流域森林ヨリ會寧ニ流下スルモノニシテ伐木及運輸不便ノ爲一時事業ヲ休止シツツアリ

豆満江流域森林面積及材積表

名 稱	面積	材 積	利用率	利用材積	平均材齡	備 考
四頭水流域	1,030,000	1,030,000	100%	1,030,000	100	樹種ハ落葉松八分唐
延而水流域	1,030,000	1,030,000	100%	1,030,000	100	樹種ハ落葉松八分唐
計	2,060,000	2,060,000	100%	2,060,000	100	

一伐木運材及流筏 鴨綠江流域ニ於テハ成鏡南道甲山、三水、厚昌、慈城各郡内ノ森林ヨリ主トシテ紅松、黃松ノ丸材、角材及電柱、小丸太等ヲ伐採シツツアリ伐採期ハ主トシテ夏季及秋季ニシテ

冬季ニ至リ地上及河水ノ凍結ニ乘シ集材及運材ニ著手シ或ハ溪谷ヲ利用シ或ハ牛曳、橇曳、木馬、修羅、輕便鐵道等ニ依リ江岸ニ運ヒ結桿シテ流下ス而シテ流筏事業ハ筏夫ノ熟練ノ結果逐年流下貨ヲ適減シ洪水其ノ他不慮ノ天災以外ニ材木ノ流失亦極メテ少ク逐年良好ノ成績ヲ示シツツアリ

今既往ニ於ケル伐木運材及流筏材積ヲ示セハ左ノ如シ

年 度	伐 木	運 材	材 積	著 者
明治四十四年度	43,871	43,871	43,871	217,178
同 四十三年度	12,252	12,252	12,252	42,511
同 四十二年度	15,229	15,229	15,229	97,705
同 四十一年度	10,007	10,007	10,007	97,704
同 四十一年度	14,763	14,763	14,763	45,040

二個人作業 營林廠所管森林ヨリ伐木搬出ヲ爲サムトシ出願スル日、鮮人ニ對シテハ身元ヲ調査シ適當ト認ムル者ニ之ヲ許可シ著筏ノ後検査ヲ行ヒ所要材ハ之ヲ買取シ否ラサルモノハ原木料ヲ徵收シテ自由賣買ヲ許可シ居レリ其ノ自由賣買許可及原木料徵收金額ハ左ノ如シ

第九章 林業



年 度	車輛及車柱	丸材及角材	其 他	計
明治四十四年度	四三、〇七九	一〇、六七四	三、一四〇	五五、八九三
同 四十三年度	二〇、六四七	五、九九八	三八	二六、六八三
同 四十二年度	三、九八九	一九、四八四		二三、四七三
同 四十一年度	四、九一五	二三、七四八		二八、六六三

二四六

三 漂流木整理 明治四十二年三月營林廠ハ鴨綠江探木公司ト漂流木整理ノ方法ニ關シ協定ヲ簽ケ相
 互漂流木整理規則ヲ定メ朝鮮側ニ漂流セシモノヲ營林廠ニ於テ支那側ニ漂著セシモノヲ探木公司ニ
 於テ整理スルコトトセリ而シテ既往ノ漂流木拾集返還數ハ左ノ如シ

年 度	拾 集 數	返 還 數	買 收 數
明治四十四年度	(R.C.) 四二、九五二	三三、六一四	
同 四十三年度	三八、七九二	三〇、三九〇	

同 四十二年度	六七、二五二	四六、〇五二	
同 四十一年度	一一三		

備考 一連ハ長八尺ノモノニシテ約八尺縮ニ相當ス
 四 製材 日韓併合以來朝鮮内各地ニ於ケル諸建築工事漸次其ノ數ヲ増シ又煙草箱及仕組板類ノ需要
 増加ニ伴ヒ從テ製材ノ高價増進スルニ至レリ

年 度	新義州製材		會寧製材		計	
	製材數	費消原木數	製材數	費消原木數	製材數	費消原木數
明治四十四年度	二二八、六〇九	二〇八、一九三	六六、〇〇四	一三、三五〇	二九五、二二二	二二一、五五二
同 四十三年度	一一三、九七八	一一五、九五九	一七、二四四	二四、三五〇	一三一、二二二	二四〇、三〇九
同 四十二年度	九八、三二六	一七五、九〇七	二二、七三三	二二、八三二	一二一、三三三	一九八、七三八
同 四十一年度	一五〇、三六六	一一六、八八六	八五四	一五〇、三	一五、八九〇	一四、一八九

五 販賣 木材ノ販賣ハ當初主トシテ朝鮮内ニ於ケル各官衙ノ建築用材ノミヲ供給セシモ近年其ノ他
 ノ建築物興ノ爲年々需要ヲ増加シ來リ今ヤ其ノ販路ハ南鮮地方ニ及フニ至レリ

第九章 林業

二四七

年 度	區 別	丸材 材	製 材	車軸 柱及	其小 丸太	價 額 計
明治四十四年度	價數	四三、三五五	九、九七三	二、二二三	一、二二〇	九一、九五六
同 四十三年度	價數	四三、〇六九	七、二四四	一、〇〇〇	三、七九七	一一、四五二
同 四十二年度	價數	四七、四〇六	九、九七九	一、〇〇〇	一、〇七二	九一、四四〇
同 四十一年度	價數	五三、三三六	八、九〇一	八〇四	一、〇七二	九一、四四〇
	額量	一七、五九〇	一、七五〇	五七八	八三七	三、七九七
	額量	三、四〇八	一、三〇八	一、三〇八	一、三〇八	三、七九七

五 朝鮮ノ木材

韓羅豆滿兩江流域ノ產出材ハ一部ハ支那等ニ輸出セラルレ一部ハ朝鮮内地ノ需要ニ充テラル而シテ右兩江流域以外ノ森林ニ於テモ多少木材ノ產出ナキニ非サレトモ其ノ材質一般ニ粗惡ニシテ各種ノ需要ヲ充シ難ク加フルニ朝鮮内地ノ發展ニ伴ヒ主トシテ内地人家屋用材ノ需要增加シタルヲ以テ内地及外國產木材ノ供給ヲ仰クコト尠カラズ
今最近三箇年ノ輸移出入價格ヲ示セハ左ノ如シ

種 類	輸 移 出 先		輸 入 及 移 入 價 額 (圓)	
	日 本	露 領 亞 細 亞	日 本	露 領 亞 細 亞
木 材 及 板	四、二〇五	一、二六〇	一、八三九	一、八三九
薪 材	一、三〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇
木 炭	一、八六七	一、八六七	一、八六七	一、八六七
合 計	七、三七二	四、三六七	四、九〇六	四、九〇六

第九章 林業

種類	明治四十四年		明治四十三年		明治四十二年	
	日本	他國	日本	他國	日本	他國
木材及板	一七〇、三八一	九、〇八〇	七二、九〇〇	七三、九〇四	七二、一〇〇	二四三、二〇三
其合計	一七〇、三八一	九、〇八〇	七二、九〇〇	七三、九〇四	七二、一〇〇	二四三、二〇三
薪材	三、一七四	二、〇〇〇	二、五五四	二、五五四	二、二二四	二、二二四
其合計	三、一七四	二、〇〇〇	二、五五四	二、五五四	二、二二四	二、二二四
木炭	六二、九一四	六、二九一	四八、〇五九	四八、〇五九	四〇、八四六	四〇、八四六
其合計	六二、九一四	六、二九一	四八、〇五九	四八、〇五九	四〇、八四六	四〇、八四六
合計	二、一四五、一二〇	一、一七四、二〇四	一、一八五、五〇四	一、一八五、五〇四	一、〇九五、八五一	一、〇九五、八五一

二五〇

第十章 商業

一 貿易

朝鮮ニ於ケル貿易ハ近年駁殺トシテ増進シ大正元年中ニ於ケル貿易額ハ約九千萬圓ニ達シ之ヲ前年ニ比スレハ二割餘ノ増加ニシテ未曾有ノ好況ナリトス
 今最近五箇年間ニ於ケル輸移出入額並ニ入超額ヲ示セハ左ノ如シ

年別	輸移出	輸移入	合計	輸移入超過額
大正四年	三〇、一五九、〇四五	六七、三三〇、五九八	九七、三七九、六四三	三七、〇六一、五五五
同五年	二七、九九二、二二八	五四、二〇四、九九四	八二、一〇六、七二二	二六、一一九、二七六
同六年	二八、九二六、二九八	三九、七九三、七六九	六八、七二〇、〇六七	一〇、八六六、五七一
同七年	三二、六一七、三七八	三六、六五五、〇九三	五九、二七二、四七一	一四、〇三七、七一五
同八年	一九、〇四〇、五三二	四一、七八〇、〇五五	六〇、八二〇、五八六	二二、七三九、五二四

第十章 商業

二五一

此ノ如ク本年ノ貿易ハ輸移出入共ニ著シキ發展ニシテ輸移出ニ在リテハ農産物、礦産物、水産物等
 執レモ増進ヲ示シ僅ニ畜産物ニ於テ減少ヲ見タルノミ殊ニ米價ノ暴騰ト内地ニ於ケル米類輸移入税
 ノ低減ハ米移出ニ著シキ盛況ヲ呈セリ輸移入ニ在リテモ主要品殆ト増進ヲ見サルナク就中小麦粉、
 食鹽、砂糖、糖漿等ノ食料品、金巾、内地綿布、支那麻布、絹布等ノ衣料品、鐵道枕木、木材及板、
 セメント、機械類、鐵類等ノ企業材料並石油石炭等ノ増加最大ナリトス蓋其ノ歸スル所ハ交通機關
 ノ發達、内地人移住者ノ増加、鮮民購買力ノ増進、企業界ノ活躍等ニ依リ需給ノ關係益々多クナリ
 シニ因ル

更ニ本年ノ貿易品價額ヲ内地ト外國トニ區分シ既往數年ニ對比スレハ左ノ如シ

輸移出入品價額別表 (圓)

國名	大正元年		明治四十四年		同四十二年		同四十一年		總貿易ニ對スル割合
	入	出	入	出	入	出	入	出	
内地	5,540,000	2,540,000	5,540,000	2,540,000	5,540,000	2,540,000	5,540,000	2,540,000	75.5
外國	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	24.5
合計	6,540,000	3,540,000	6,540,000	3,540,000	6,540,000	3,540,000	6,540,000	3,540,000	100.0

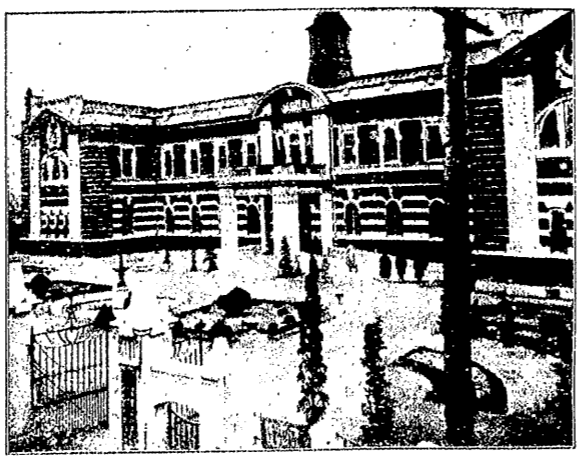
次ニ本年ノ貿易額ヲ各港別ニ區分シ既往二年ト對照スレハ左ノ如シ

貿易額港別一覽表 (圓)

港名	大正元年		明治四十四年		同四十三年	
	輸移出	輸移入	輸移出	輸移入	輸移出	輸移入
仁川	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000
釜山	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000
大邱	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000
仁川	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000
合計	4,800,000	4,800,000	4,800,000	4,800,000	4,800,000	4,800,000

之ヲ貿易額ヨリ觀ルニ釜山ニ於ケル貿易ハ内地下ノ聯絡完成ニ近クト共ニ遂年増加シ本年ニ至リ遂
ニ仁川ヲ凌駕スルニ至レリ仁川、京城、鎮南浦、元山、群山等順次之ニ亞リ今是等各地ニ於ケル物
價ノ概概ヲ舉クレハ左ノ如シ

釜山	元山	鎮南浦	京城	群山	木浦	大邱	蔚山	清津	咸興	平壤	合
1,250,000	800,000	1,500,000	1,800,000	1,000,000	1,200,000	1,500,000	1,800,000	1,500,000	1,000,000	1,500,000	12,550,000
1,100,000	700,000	1,300,000	1,500,000	900,000	1,100,000	1,400,000	1,700,000	1,400,000	900,000	1,400,000	11,200,000
150,000	100,000	200,000	300,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	1,350,000
1,000,000	600,000	1,200,000	1,500,000	900,000	1,100,000	1,400,000	1,700,000	1,400,000	800,000	1,400,000	11,050,000



朝鮮總督府商陳列館ノ景



朝鮮總督府商陳列館内ノ景光

品目	支		精		大		小		豆		豆		粉		砂精(四温)
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	
單位	石	石	石	石	石	石	石	石	石	石	石	石	石	石	百斤
京城	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	九二六
仁川	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	九二六
群山	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	九二六
木浦	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	九二六
釜山	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	九二六
馬山	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	九二六
大邱	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	九二六
平壤	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	九二六
新州	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	九二六
元山	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	九二六
清津	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	五二六	九二六

二五五

物價一覽表 (圓)

明治四十四年中

打鐵洋	鐵板	鐵絲	和紙	洋紙	朝鮮紙	杉板	石油	木炭	樺木	牛皮	繩	吹
一打	一打	一打	一打	一打	一打	一打	一打	一打	一打	一打	一打	一打
洋鐵	鐵板	鐵絲	和紙	洋紙	朝鮮紙	杉板	石油	木炭	樺木	牛皮	繩	吹
斤	斤	斤	斤	斤	斤	斤	斤	斤	斤	斤	斤	斤
...

棉	和紙	洋紙	朝鮮紙	杉板	石油	木炭	樺木	牛皮	繩	吹
一斤	一斤	一斤	一斤	一斤	一斤	一斤	一斤	一斤	一斤	一斤
棉	和紙	洋紙	朝鮮紙	杉板	石油	木炭	樺木	牛皮	繩	吹
斤	斤	斤	斤	斤	斤	斤	斤	斤	斤	斤
...

(イ) 輸移出

甲 農産物

既往三年ニ於ケル農産物ノ輸移出額ヲ比較スルニ左ノ如シ

品名	輸移出額	
	明治四十四年	明治四十三年
米	二,五三一,九六九	三,五〇〇,八三八
精米	一,八七〇,〇四三	二,四二〇,五〇五
其	八八一,七六〇	六五六,四〇九
大	一三,三一三	七二,七三四
小	八六,一三六	二八八,五五九
大豆	四,三六一,八三七	五,二一七,二四六
豆	二四四,九九一	四四五,五七二
其他	二二,二五〇	六三,二六五
計	三,二二八	四,二七五

品名	輸移出額	
	明治四十四年	明治四十三年
其	四八,一九六	九,九〇二
胡	三八四,九三九	一三〇,二七三
其	二六〇,七八	一三七,一一四
胡	三〇,七八	二四,一一二
其	二六,四八二	二五,二〇九
子	四三五,五九八	七〇,〇二四
子	二六一,六八六	二七,四一一
類	二五,八七〇	一三,二七八
計	一四,二二六,一五四	一〇,六六四,三九二

即チ本年輸移出額ノ増進最モ著シキハ米穀ニシテ就中内地移出ニ於テ多大ノ増加ヲシタリ毎年朝鮮ヨリ内地ニ移出スル米ハ約五十萬石ニシテ秋收後出荷旺盛ヲ呈スルヲ常トシタリシカ昨年夏期内地米價ノ騰貴ト共ニ上騰シタル朝鮮米價ハ農民ノ高値覺トナリテ容易ニ下落セス内地相場ニ比シ常ニ割高ヲ示シテ移出採算ノ餘地ナカリシモ四月輸移出税ノ一部廢止セラレテ恰カモ其ノ當時ヨリ内地米價上向トナリタルヲ以テ朝鮮内各生産地ヨリ出荷漸ク活潑トナリ釜山仁川群山等ヨリ多額

第十章 商業

ノ移出ヲ見ルニ至リ五月内地ニ於ケル米輸入税ノ低減ト相俟テ空前ノ盛況ヲ來セリ亞テ十一月内地輸入税ノ復舊セルニ拘ラス尙相當ノ出荷アリテ常ニ好況ヲ持續セリ

滿洲地方ヘノ輸出ハ同地方内鮮人ノ増加ト共ニ近年急激ナル増進ヲ爲シ一箇年約十三四萬石ニ達ス

販路ハ遠ク長春寬城子以北ノ北滿各地ニ及ヒ前年末内地移出不引合ニ際シテモ尙相當ノ好況ヲ見ル

亦輸出税ハ著シク此ノ方面ノ出荷ヲ盛ナラシメタリ

浦院輸出米ハ前年來ノ騰貴ニ伴ヒ蘭買、西貢米ノ競争ヲ招クノ傾向アリシモ品質ノ良好ナルニ因リ需要尙依然タルノ狀アリ

右ノ如ク本年ノ米輸出價格ノ増進ハ敢テ其ノ數量ニ於テ増加シタルニアラスシテ朝鮮ニ於ケル經濟機關ノ發達ト農家經濟ノ向上トニ由リ輸出ノ期其ノ宜シキヲ得タルト精米業ノ發展ニ依リ從來ノ米移出ハ進ンテ精米トナリ且米價ノ昂騰ニ因リ此ノ増進ヲ見タルモノトス

大麥小麥ハ農産物中米大豆ニ亞リ重要輸出品ニシテ其ノ大部ハ内地ニ移出セラルル而シテ本年ノ移出振ハサリシハ米價ノ上騰ニ由リ其ノ代用品トシテ鮮人間ノ消費量多カリシニ基因ス

大豆又其ノ大部ヲ内地ニ移出セラル本年ハ豐稔ニシテ收穫量増加シタルノミナラス品質亦優良ナルモノアリ且出荷期ニ際シ内地相場好況ヲ呈セシヲ以テ頗ル順境ヲ示シ從來ノ販路地方ハ勿論遠ク東瀛地方ニ多量ノ移出ヲ見タリ小豆ハ朝鮮ニ於ケル需要増加ノ結果出荷稍減少セリ

此ノ外荊麻子、人蔘、棉花等ノ生産漸次増進シ孰レモ好況ヲ示シツツアリ

乙 水産物

既往三年ニ於ケル水産物ノ輸移出狀況ヲ舉ケレハ左ノ如シ

品 種	明治四十五年		明治四十四年		同 四 十 三 年	
	正 元 年	年	年	年	年	年
鮮 魚	一三八、三四八	四	一三三、七七七	四	一七三、九二九	四
鹹 魚	二一三、五七九	四	九五、八三八	四	八三、一九二	四
魚 肉	六八、九四四	四	五二、九六三	四	六〇、三四一	四
乾 魚	三三三、四三六	四	其ノ他ノ水産物中ニ含ム			
貝	五一、二六四	四	四八、二九九	四	八三、一〇五	四

第十章 商業

乾鱈	四四、六八三	四三、〇四六	三七、〇八〇
鱈	二五、七六五	九八、〇九九	一一、二六六
石	九六、七八六	九四、九二六	八七、八三〇
海	一一、七八三	一〇、四六〇	八七、八九四
海	一九〇、二八一	九五、四五八	九五、四六〇
肥	三六一、一五一	二六四、六四五	二八一、一六七
其	六〇、六八四	三六一、二五三	三八、三〇五
他	一、七〇二、七六〇	一、三〇四、六二二	一、〇三九、五五九

近年朝鮮ニ於ケル漁獲物ハ益増加ノ傾向ヲ示シ近時内地沿海ニ於ケル魚族ノ減少ト共ニ内地漁業者ノ朝鮮海ニ出漁スル者甚々多ク是ト共ニ鮮人間ニ於テモ漁法漁具ノ改良行ハレ漁獲物ノ處理運搬ノ術亦進歩シテ新漁場ノ開發ナリ盛ナリシメ今年ヤ水産業ハ益有利ナル産業タラムトス而シテ朝鮮内ノ需要急増セルニ拘リス漁獲物ノ結果本年ハ鮮魚ノ輸出増進シ就中交通機關ノ發達ニ依リ鐵路滿洲ニ輸出セラルルモノ多キニ至レリ

水産製造物ニ於テモ本年ノ輸出甚々増加シ煎子、曬鱈魚肥等ノ内地移出乾貝乾銀鱈等ノ清國向

製品孰レモ増進シ其ノ他海草類モ内地ニ於ケル寒天製造業糊料製造業ノ發展ト朝鮮海ニ於ケル採取量ノ増加ニヨリ移出良好ナル發達ヲ見タリ

丙 畜産物

本年申畜産物ノ輸出價額ハ之ヲ前年ニ比スレハ稍減退ヲ示セリ

品	種	明治四十五年	明治四十四年	同 四十三
牛	脂	六六、六二四	七〇、六八六	六八、八五〇
牛	骨	二六、四五二	二六、二八二	二二、五七六
牛	皮	一〇七、六六一	七〇、三五一	六三、四〇八
計		一、三三三、〇一六	一、〇六八、八五七	一、〇〇四、七三五
			一、八六九、四〇六	一、七三〇、二四二

即ち本年生牛ノ輸出前年ニ比シレハ約五十萬圓ノ減退ニシテ之カ原因ハ種々アルヘシト雖朝鮮ニ於ケル農事ノ發達各種事業ノ勃興等ニ依リ勞牛ノ需要ト食用トシテ肉ノ消費漸増加シタレト生牛

第十章 商業

價格騰貴ノ結果浦鹽ニ於ケル山東牛トノ競争困難ナリタル等ニ基因スルモノニシテ牛脂牛皮等ノ減退ハ朝鮮ニ於ケル製革事業石鹼製造業等ノ物與セル結果ナリトス

丁 礦産物

礦産物ハ朝鮮輸移出品中農産物ニ次ク重要ナル位置ヲ占メ就中金、鐵、石炭等ノ産出豐富ニシテ近來新鐵廠ノ開發探掘設備ノ進歩等ニヨリ輸移出額レモ好況ヲ示セリ

品	種	明治四十五年	明治四十四年	同 四十三年
金	銀	二七四、九三八	二三四、八九一	五一七、四三一
銅	鐵	三一、六八八	二七八、六九二	三三九、八六一
錫	鉛	三、〇五二	七一三	四、四八八
炭	炭	一六五、二七九	一三二、二九一	一一四、二〇六
地	地	三三四、三八一	三七六、四二七	三六二、四一九
金	金	九、一四一、二九七	九、〇九九、七九六	八、八三三、六〇九
地	地	三二、一二九	三四、四六七	一七八、七四六

二六四

其他ノ礦物	計
六、九三二	一〇、二六九、六九六
四、〇六七	一〇、一六一、三四四
七、八〇六	一〇、三五八、五六六

而シテ本表中石炭ノ輸移出額ニ於テ稍減少ヲ示セリト雖數量ニ於テハ多大ノ増進ヲナシ其ノ他ノ礦物亦執レモ増進ヲ示セルヲ以テ本年ノ礦産物輸移出額ハ前年ニ比シテ十萬餘圓ヲ増加シタリ

戊 製造品

朝鮮ノ産業界ハ漸ク資本増加ノ時期ニ入りタリト雖其ノ製造工業ニ至リテハ未タ充分發達ノ機運ニ到達セス從テ製造品ノ輸移出ハ微々タリ然レトモ清酒、醬油、煙草、紙等ハ稍見ルヘキモノアリ本年ハ朝鮮内ニ於ケル是等各品ノ需要激増シタル結果執レモ多少ノ減退ニ終リタリ

品	種	明治四十五年	明治四十四年	同 四十三年
清	酒	三、〇八七	二、六二九	四、六四九
油	油	一三、六六五	一六、三九二	一五、八〇二

第十章 商業

二六五

紙	二一、六八六	二、三八五	三、五五六
卷	九五、九〇三	一〇八、三三三	九五、五七八
紙	一三、四、三、四一	一五、一、六九九	一、九、三、八五
計			

二六六

(ロ) 輸移入

甲 官民企業材料

從來藩邸トシテ振ハサリシ朝鮮ノ企業界ハ近年鐵道ノ延長道路ノ改修河川港灣ノ修築通信機關ノ發達等政府事業ノ進捗ニ伴ヒ農業ノ經營嶺山ノ採掘漁場ノ開發等極メテ有利ナル狀態トナリ之ニ對スル投資額ハ俄カニ増加シ更ニ海運業電氣事業輕便鐵道業等各地ニ勃興シタルノミナラス煙草製造業石鹼製造業、製革業等亦タ見ルヘキモノアリ其ノ他精米業鐵工場製鹽業並各種工場ノ企畫モ活況ヲ呈シ又一方公私ノ建築工事各地水道工事等モ頗ル進捗シ是等諸般ノ企業ニ對スル器具機械材料等ノ輸移入從テ増加シ殊ニ本年ハ是等ノ入増一層著シク他ノ貨物ニ比シテ其ノ増進ノ程度遙カニ大ナリ

斯ノ如ク企業材料ノ輸移入増加ハ直接間接ニ朝鮮産業ノ發達ヲ助長シ將來輸移出貿易ノ發展ヲ招クヘキヤ必セリ

官民企業材料輸移入額三年對照表 (單位圓)

品	種	明治四十五年	明治四十四年	同 四十三年
鐵及鋼(塊及錠、板、電鍍板、線、葉鐵、筒及管等)		二、九六五、一四九	二、〇九六、九六一	九八五、四八二
銅、鉛、錫、亞鉛、ニッケル、水銀、鎳及黃銅其他ノ金屬		六五六、五一一	五二四、六七六	三三八、九六四
釘、枕條及同附屬品、家具用金具及物、錫釜、銅及黃銅製品等		二、五二〇、一七六	一九五八、五〇五	一、七六六、九一〇
車 輛		一、六八二、七九一	一、三三三、四〇六	二、〇四、六四八
業 用 機 械		一、八三六、五六八	一、四五八、〇九一	一、一一二、六七七
鐵 道 枕 木		七四七、一六七	六〇一、八七五	六一五、八二五
瓦 材 及 煉 瓦		一、五一六、七七五	一、三四六、九七一	一、〇六五、二二一
		一、三、〇、六六六	一、一、五、七八九	六、五、七、一六

第十章 商業

二六七

漆	一九一、四二一	一四五、二七〇	一一〇、二〇四
七、網	六九四、三五〇	五七九、〇二四	三九八、六九四
織、帶、及、石	五四、五〇二	五〇、七二六	二五、八八〇
織、用、電	一八七、七七〇	一四四、四二七	一〇五、九五八
繩、索	一八〇、三二六	一八四、七三七	一五八、四七九
油、及、染、料	二、二七五、二三七	一、二七六、〇〇七	八三四、九一五
藥、品	一、六七〇、二九六	二七九、三六八	一七一、六四七
及、發、售、物	三六〇、三一六	一三、六五〇、四六九	八、七九七、五二二
計	一七、六七〇、四二二		

乙 生活資料

併合以來内地人の朝鮮ニ移住スル者甚々多ク朝鮮人亦増加ノ傾向カナルヲ以テ衣食料其ノ他生活ニ伴フ必需品ノ輸入ハ甚シク増進シ更ニ鮮人經濟ノ發展ハ一層輸入貿易ノ膨脹ヲ助長シタリ蓋シ交通機關ノ發達ニ伴ヒ農産物ノ生産地價格ハ急激ナル騰貴ヲナシ之ニ反シテ農具肥料等ハ運搬費用ノ減少ニヨリ騰貴ノ傾向著シカラス而シテ農業労働ニ就テハ勞銀ハ騰貴シタリト雖地方農民ハ一

部落共同シテ農業ニ從事シ水稻ノ移植除草刈取等多クハ相互ノ勞力利用ヲ謀ルノ風習アルヲ以テ勞銀ノ騰貴ニヨリ苦痛ヲ感スルコトナク且農事改良ノ獎勵農工銀行金融組合等ノ農産物擔保低利資金ノ貸付等政府ノ施設ニ因リ農民ノ經濟状態ハ大ニ改善セラレ殊ニ本年ノ如キ穀價異常ノ暴騰ニ因リ農民ノ所得ハ一層増加シ從テ其ノ購買力ノ増進シタルコト甚々大ナルモノアリ次ニ一般労働者ニ至リテモ企業界ノ隆盛ト共ニ勞銀比較的騰貴シ殊ニ労働機會ノ増加懸シク從テ生計ノ資ヲ得ルコトモ甚々容易ナルニ至リ購買力亦増進シタリ

斯ノ如ク從來經濟能力ノ微弱ナリシ農業者或労働者階級ノ購買力増進ハ生活資料ノ入増ヲ惹起シタルコト懸シトセス今之ヲ表示スレハ左ノ如シ

衣食料品輸入額三年對照表

品 種	明治四十五年	明治四十四年	同 四十二年
米、粟、落花生、豆、胡麻、其他ノ穀物及種子	五五五、七九三	八二〇、一五〇	一五三、三六三

第十章 商業

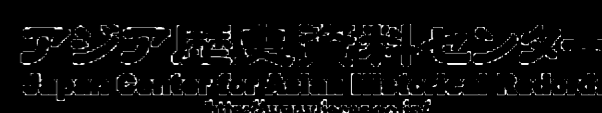
前表企業材料並生活資料中ニ計上セラレザリシ雜品及小包郵便旅客携帶品等モ他ノ一般貨物ト同一

備考 絹布ハ小包郵便ニ依レモノヲ含マス

丙 其他ノ輸移入品

旅版、提袋及佩袋類	洋紙、紙製品及文具類	權取	石、漆、磁、料、器、類	遊藝機及障子類	提燈及計測器類
七、三三六	二、九五二、八六六	二、九五二、八六六	五、一八七、九七七	一、九二八、九七二	一、八三三、八九二
六二、三六一	一、八五九、五二九	一、七九一、四一四	一、二二、六七三	四、九七二	一、六七二、四三三
五、六六六	一、三三二、六六四	一、六〇、三三三	二、〇二九、三三三	四、三三三、九	一、七〇〇、〇三二
					二、七〇、〇〇二
					二、二五、六三三
					四、四六、九七五
					三、〇、五八七、四五六
					三、〇、五八七、四五六
					四、四六、九七五
					三、〇、五八七、四五六
					三、〇、五八七、四五六

漆器	陶器	毛織品	諸品	地氈、手巾、浴巾、布類	純毛布類	純絹布類	麻類	金類	綿織、絹織、絲織類	酒類	砂糖類	麥粉類	雜項類
一五、五二五	六三、六〇六	五、六六、八八一	二五、一九〇	九、五九、八九五	六、五二、二六七	一、五九、八九五	一、五九、八九五	一、五九、八九五	一、五九、八九五	一、五九、八九五	一、五九、八九五	一、五九、八九五	一、五九、八九五



ノ原因ニヨリ孰レモ増進ノ傾向ヲ示セリ即チ左表ノ如シ

品	明治四十五年		明治四十四年		同
	正元	年	正元	年	
雜	五,五二六	四七三	五,六六〇	二七九	三,九三三,〇七五
小包	三,九一三	四三六	三,六九七	四五五	二,三〇八,八三〇
旅客携帶物品	一四五	五九七	一四三	四四六	一三九,一九二
鐵道小荷物及手荷物	六一三	九四二	三五八	六一六	九三,三三三
再輸入	二〇,八四七		五,〇六一		四五,七一七
計	一〇,二二〇	二九五	九,八四九	七五七	六,五二〇,一三七

以上ヲ總括スルニ本年朝鮮ニ於ケル貿易狀況ハ輸移出ニアリテハ各種産業ノ發展ニ伴ヒ僅ニ畜産物等ニ於テ減退シタル外農産物、水産物、礦産物等ハ孰レモ多額ノ増進ヲ示シ又輸移入ニアリテモ人口ノ増加鮮人生活程度ノ向上ニヨリ生活資料ノ入増著シク他ノ方面ニ在リテハ官民企業ノ隆盛ナルニ從ヒ同材料ノ輸移入ハ更ニ一層甚タシキ増進ヲ示シタルヲ以テ結局輸移入超過額ニ於テモ亦大ナル増加ヲ見ルニ至レリ蓋シ朝鮮從來ノ經濟狀況ハ積年政治上ノ宿弊並社會的風習ノ弊害ニ依リ産

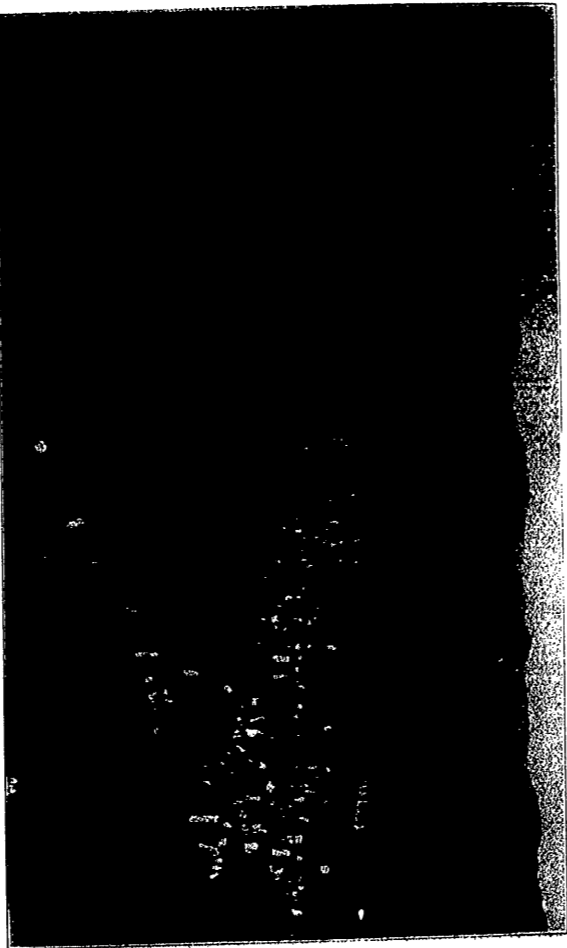
業ノ發達貿易ノ發展ノ如キ得テ望ムヘカヲサリシモ新政以來内地人ノ移住シテ産業開發ニ從事スルモノノ年非僅ニ増加シ運輸交通機關ノ改善開港設備ノ進捗道路ノ改修金融機關ノ發達倉庫業ノ發展農事ノ改良其他諸般ノ直接政府事業若ハ其ノ保護事業ノ進捗ト相俟テ朝鮮ノ經濟界ハ急激ナル進歩ヲナシ土地先少資本化セラレ漸次資本經濟ノ時期ニ入り内地人ノ指導啓蒙ハ漸ク鮮人ノ欲望ヲ向上セシメ生産力ノ増加ヲ促シ物質交換ノ範圍亦々擴大シ且運輸交通ノ發達ニヨリ奧筋ニ於ケル輸移出品ノ騰貴輸入品ノ下落等貿易發展ノ重要ナル原因ヲ爲セリ即チ從來ノ一地方經濟ノ時代ヨリ今や交通經濟ノ狀態ニ遷移セムトスル過渡時代ニアルモノニシテ殖民地ノ經營上輸移入増加ヲ見ルハ蓋シ當然ノ現象タリ然レトモ輸移入ノ超過ハ可及的限度ニ在ラシムルヲ得テ下ス即チ奢侈的消費ヲ節約スルノ同時ニ輸移入品中朝鮮ニ於テ生産製造セラレ若ハ朝鮮産品ニ簡易ノ工程ヲ加フルニ於テハ代用ニ供シ得ヘキモノノ如キハ努メテ輸移入ヲ避クルノ方法ヲ講スルヲ必要トスルニシテ之ヲ要スルニ本年朝鮮ノ貿易ハ總說ニ說明シタル如ク金銀ヲ併セ半額約一億圓ニ達シ之ヲ前年ニ比スレハ著シキ増進ニシテ實好ナル結果ニ終リシタルモノトス

二 朝鮮人ノ商業

二七四

近來常設店舗ヲ設ケテ商業ニ從事スルモノ漸次増加スト雖由來朝鮮人ノ取引ノ大部分ハ市場ニ於テ行ハルルチ各地一般ノ慣例トシ市場ハ朝鮮ニ於ケル重要ナル商業機關ナリ而シテ此等ノ市ハ毎月五回若ハ六回定期開催セラレ其ノ出市者ハ附近ノ住民ハ勿論遠ク八九里ノ地ヨリ到ル者尠シトセス目下朝鮮ニ於ケル市場ノ數ハ一千有餘ニ上リ一箇年ノ取引高五千萬圓ノ巨額ニ達ス從テ其ノ新設變更ハ地方經濟ニ影響スル所頗ル大ナルヲ以テ地方長官カ市場ニ關スル處分ヲ爲サムトスルニ際シテハ本府ノ指揮ヲ仰カシムルコトトナシ來リモ併合以來地方制度整備シ從來ノ如キ手續ニ依ルノ必要ナキヲ認メ市場ニ關シテハ重大ナル事項ヲ除クノ外地方長官限リ之ヲ處分シ其ノ結果ヲ報告セシムルコトトナシタリ

朝鮮人商業ノ機關トシテ重要ナルモノ四アリ曰ク客主曰ク居間曰ク監考曰ク典當是ナリ
(一)客主ノ本來ノ業務ハ委託ヲ受ケテ取引ヲ爲シ又ハ手形ノ引受、割引、資金及貨幣ノ交換等ヲ爲シ併セテ華客ヲ宿泊セシムルモノニシテ其ノ商行爲トスル所恰モ内地ニ於ケル間屋業ニ類ス客主



京光ノ日市人鮮朝ルケ於ニ邸大

カ委託販賣チナス貨物ハ大瓶穀物、煙草、牛皮等ニシテ客主ハ絶エス市場ノ相場ヲ通報シ委託者
 ハ機ヲ見テ其ノ所有貨物ヲ客主ニ送り指定價格ヲ表示シテ之カ販賣ヲ委託ス之ト同時ニ客主ハ委
 託者ニ對シ左記様式ノ預證書ヲ交付ス

任 置 票	
一、 粳米	三百斗
何號庫入積	
月 日	客主某
某 前	

而シテ客主カ委託者ノ指定價格ヲ以テ販賣シタルトキハ所定ノ口錢其ノ他諸經費ヲ控除シ殘額ヲ
 委託者ニ交付ス

(二) 居間ハ賣買業者ノ中間ニ在シ諸般ノ周旋ヲ爲シ一定ノ口錢ヲ受クルコトヲ本業トスル者ニシテ恰モ内地ノ仲立人ニ似タリ居間ハ常ニ客主ノ店舖ニ出入シ其ノ依頼ヲ受ケ賣買者ヲ探索紹介シ賣買成立ノ曉ニ於テ報酬トシテ口錢ヲ得ルモノナリ普通居間ニ二種アリテ一ハ一定ノ出入客主ヲ有シ其ノ使用人トナリテ周旋ノ勞ニ當ルモノヲ云ヒ一ハ一定ノ客主ヲ有セス尙モ事件アレハ何レノ客主ニ對シテモ周旋ノ勞ヲ取リ致テ之ヲ辭スルナキモノヲ云フ而シテ其ノ行動稍客主業ト相似タルモノアリト雖兩者ノ間ニハ自ラ劃然タル區別ノ存スルアリテ客主ハ委託者ノ爲ニ賣買ヲ紹介スルト同時ニ表面自ラ取引ノ當業者トナリ權義ノ主體タルニ反シ居間ハ單ニ賣買業ヲ紹介スルニ止マリ取引ニ關シ何等關與スル處ナシ

(三) 監考ハ地方ニ依リ其ノ取扱フ商品一定セサレトモ市場取引ノ米穀ハ必ス監考之ヲ升量シ其ノ手數料トシテ一樹ニ充タサル端數ノ米穀ヲ收納スルノ慣習アリ

(四) 朝鮮ニ於ケル典當業者(質屋業)ハ多クハ金貸業者カ兼業トシテ之ヲ營ム者ニシテ純然タル典當業ハ皆無ト稱シテ過言ニアラス而モ金貸業者ノ幾部分ハ典當業ヲ兼ムル者ニシテ金貸業者ハ當然

典當業者タルモノニ非サルカ故ニ金貸業者ノ數ノ多キニ比シ典當業者ハ其ノ數少ナシ而シテ典當業者ノ取扱フ典物ハ金銀細工、衣冠靴家具什器等多ク貸金ノ比例ハ借主ノ信用ニ由リ異ナルト雖評價ノ三割乃至五割ヲ以テ普通トス而シテ期限ハ一定セサルカ如キモ普通ノ典物ニ在リテハ三箇月ヲ以テ一期トス金銀ノ如キ價格移動ノ少キモノニ在リテハ稍長キカ如ク細民ニ融通スル場合ニ在リテハ時期ノ頗ル短キモノアリ然レトモ孰モ利息支拂ニヨリ延期シ得ルコト及流質トナリタル場合ニ典當權者當然ニ典物ヲ賣却處分シ得ルコトハ内地ト異ナルナシ

其ノ他商業機關トシテ市場取引、契等ニ關シ慣行ナキニ非サルモ行政ノ刷新ト共ニ次第ニ其ノ面目ヲ改ムルニ至レリ左ニ朝鮮人ノ所謂商賈ト稱スルモノノ主要ナルモノヲ舉ケム(朝鮮人ハ店ノ字ヲ用ヒスシハ賤ヲ用フ)

- 米 糜 米ヲ販賣ス上米糜下米糜ノ別アリ
- 雜穀 糜 米穀、豆類、黍等ヲ賣ル
- 魚物 糜 果物ヲ賣ル



苧布 應 苧布ヲ賣ル
 立 應 絹布類ヲ賣ル
 白木 應 木綿類ヲ賣ル
 荒貨 房 雜貨應ナリ
 床 應 宕布、網布、染粉、帶、紐、色糸、帽子等ヲ賣ル
 鐵 應 諸種ノ指物ヲ賣ル
 瓷器 應 素燒物ヲ賣ル
 砂器 應 陶器類ヲ賣ル
 册 應 書籍ヲ賣ル
 銀 房 細工屋ナリ(房ハ製造業者ニ用ヅ)
 玉 房 玉細工屋ナリ
 飯價假家 諸種ノ日用食料品類ヲ賣ル

貝物 應 飾物屋ナリ
 木器 應 下駄、木鉢、等ヲ賣ル
 商 應 竹董應ニシテ雜貨ヲモ兼賣ス
 裏頭 商家 喪具ヲ賣貨スルモノニシテ内地ノ喪儀社ナリ
 其ノ他 應 諸種ノ名稱種種アレトモ此等ハ大概其ノ名稱ニ依リテ判別シ得ヘキモノナルガ故ニ之ヲ省略ス

朝鮮人商業會議所

主要ナル都市ニ在リテハ内地人又ハ朝鮮人間ニ商業會議所ヲ設立セルモノアリ其ノ業務ハ商工業ニ關スル諸般ノ調査報告關係人ノ請求ニ由リ商工業ニ關スル紛議ノ仲裁ヲ爲ス等内地商業會議所ノ業務ト大差ナシ今各地ニ於ケル朝鮮人設立ノ商業會議所概況ヲ示セ左ノ如シ

朝鮮人商業會議所一覽

明治四十四年十二月末調

名稱	議員數	特別議員數	會度數	議事數	選舉權者數	被選舉權者數	資本額	設立年月
京城商業會議所	五〇	一〇	三	六	七〇〇	七〇〇	七五〇	明治三十八年
仁川朝鮮人商業會議所	七	三	二	三	三四四	三四四	七六〇	明治三十八年
開城商業會議所	四〇	六	一〇	二〇	一六〇	一五〇	一〇二四	明治三十八年
水原商業會議所	一〇	五	六	六	五〇	四〇	一一〇〇	明治三十八年
江華郡商業會議所	二五	二	七	七	一	一	一一〇〇	明治三十八年
大邱商務所	一八	三	三	一六	五三	三三	二六〇	明治三十八年
金堤商業會議所	一四	三	四	五	九三	一六八	四二四	明治三十九年
東萊商業會議所	三〇	八	二	一〇	九八	三三	四二四	明治四十一年

二八〇

名稱	議員數	特別議員數	會度數	議事數	選舉權者數	被選舉權者數	資本額	設立年月
龍南郡商業會議所	四三	九	六	一三	五三	四六	七五一	明治四十一年
平壤商業會議所	三三	三	一	四	二三五	二三五	四五〇	明治四十一年
三和商業會議所	三〇	七	二	六	一六〇	一〇七	二四〇六	明治四十一年
元山商業會議所	四〇	〇	二	三	二〇〇	二〇〇	九七六	明治四十一年
咸興商業會議所	三〇	〇	三	三	五〇〇	五〇〇	三九六	明治四十一年
北青商業會議所	四〇	八	一	一	九五	五三	四〇〇	明治四十一年

三 内地人の商業

朝鮮内地人の足跡殆ど到ラサル所オク概要ノ地ハ市ヲ爲シ邑ヲ作り駁駁トシテ日進月歩ノ趨勢ヲ示ス今其ノ概況ヲ舉クハ左ノ如シ

第十章 商業

三八一

京畿道 京城、龍山、水原、開城、永登浦、仁川、江華島
 忠清北道 清州、堤川、忠州、永清
 忠清南道 大田、江景、公州、烏致院、洪州、禮山、牙山、平澤、成歡、瑞山、天安
 全羅北道 群山、全州、蕙浦、南原、金堤、羅里
 全羅南道 木浦、羅州、慶山浦、南平、咸平、光州
 慶尙北道 大邱、金泉、慶州、安東、浦項、尙州、倭館、慶山
 慶尙南道 釜山、東萊、金海、密陽、蔚山、馬山、統營、晉州、居昌
 黃海道 咸興、黃州、兼三浦、沙里院、新幕、谷山、海州
 平安南道 平壤、安州、鎮南浦、咸川
 平安北道 定州、新義州、宣川、義州、寧邊、龍岩浦、江界
 江原道 春川、江陵、蔚珍、鐵原、原州
 咸鏡南道 咸興、元山、北青、四湖津

咸鏡北道 清津、鏡城、羅南、會寧、城津、吉州
 (口) 內地人商業會議所一覽

(明治四十四年十二月末調)

名 稱	議 員 數	特 別 議 員 數	會 議 度 數	議 事 件 數	選 舉 權 者 數	被 選 權 者 數	經 費		設 立 年 月
							大正元年	明治四十四年	
京城日本入 商業會議所	三三	九	二八	七五	二四四	一八二	三三〇	三三〇	明治二十年
仁川商業會議所	三三	三	一六	四九	四八五	四五六	六六七	六八八	同十九年四月
群山商業會議所	一一	三	一六	五〇	一〇〇	九八	三〇一	四一七	同四十年九月
木浦商業會議所	一一	〇	二四	四二	四二	二二〇	五五〇	八二五	同三十三年
大邱商業會議所	一一	二	二二	二九	一七	一九三	三三三	三三三	同三十九年
釜山商業會議所	一九	三	二五	八四	七二	二二二	八五一	八五九	同十二年三月

第十章 商業

二八三

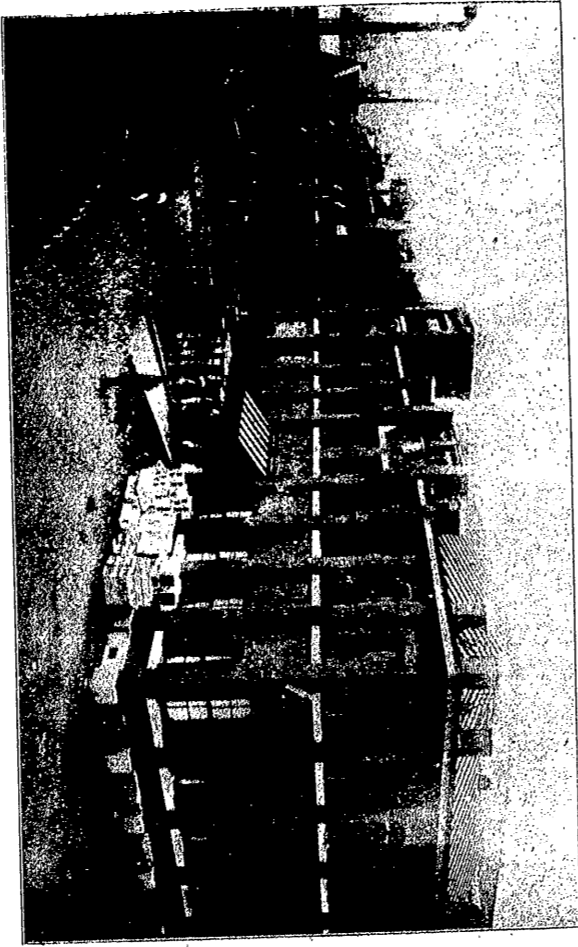
所	所	所	所	所	所	所	所
清	元	龍	馬	馬	馬	馬	馬
津	山	南	山	山	山	山	山
商	山	浦	山	山	山	山	山
業	商	商	商	商	商	商	商
會	業	業	業	業	業	業	業
議	會	會	會	會	會	會	會
議	議	議	議	議	議	議	議
二二	二〇	一八	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇
一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七
二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二
一九九	一四〇	一五〇	二〇〇	九二	二〇二	二〇二	二〇二
一六八	二一九	二九七	二九七	二八五〇	二八五〇	二八五〇	二八五〇
三三三〇	六九二七	七九五七	七九五七	七三五〇	七三五〇	七三五〇	七三五〇
三三七〇	七四五七	七四五七	七四五七	七四五七	七四五七	七四五七	七四五七
十同	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四
一四二年	月	月	月	月	月	月	月

二八四

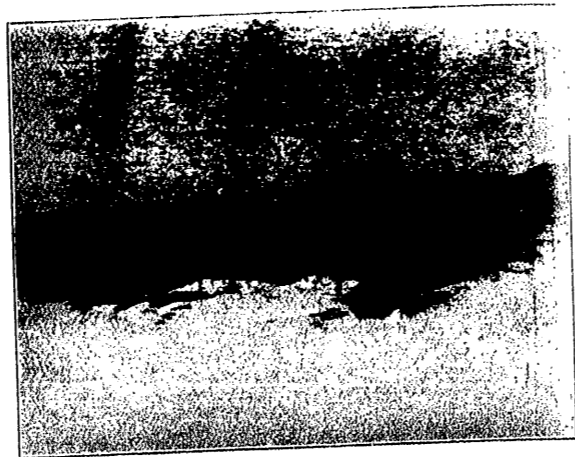
四 會 社

朝鮮産業ノ發達ニ伴ヒ會社事業ハ年ト共ニ増加シ漸次大規模ノ企業ノ物與テ見ルニ至レリ最近ノ調査ニ係ル會社數、事業ノ種類、資本額等ヲ示セハ左表ノ如シ

會社ノ設立ニ就テハ朝鮮ハ尙新開地ニ屬シ其ノ實狀未タ内外ニ知悉セララルニ至ラス往々ニシテ投資者流ノ不確實ナル會社事業ヲ計畫シ爲ニ事業ノ墮跌ヲ來シテ損害ヲ多衆ニ及スノミナラス延テ産業ノ發達ヲ阻碍スルコトアルヲ以テ總督府ニ於テハ明治四十四年一月會社令ヲ發布シ會社ノ設立ハ



(東京在) 社會式株草煙亞東



景全社會革皮鮮朝



景光ノ場業作△-ロク社會革皮鮮朝

之ヲ自由ニ委セス總督ノ許可ヲ受ケシメ以テ墾殖ナル發達ヲ圖ルコトセリ
 (一) 朝鮮ニ本店ヲ有スル會社組織別表

(明治四十四年十二月末現在)

組織別	社數	資本金		拂込資本金
		資本	金	
内地人設立 合名會社 株式會社 計	一〇五三一 三六五二	一〇八一 二二七 八五三 九三九 二八五 五〇〇	〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇	四三九 二七 八三六 八二七 七一三 二七〇
朝鮮人設立 合名會社 株式會社 計	二一 八九五四	七七 二〇七 七六八 〇〇〇 〇〇〇	〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇	二二 六五 一五三 三九 五〇
日韓人合同設立 合名會社 株式會社 計	一 五八六一	二二 八七 二二 九〇 九〇 〇〇〇	〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇	八七 九 〇三 八 四〇 五〇〇

第十章 商業

二八五

道別	商業					
	林業及 農業	商業	工業	銀行業及 金融業	運輸業	瓦斯 電氣業
京畿道	6	29	3	7	3	
忠清北道	1	3				
忠清南道	1	4				
全羅北道	2	1				
全羅南道	2	4				
慶尚北道	4	3				
慶尚南道	4	4				
合計	31	39	3	14	6	

(三) 朝鮮ニ本店ヲ有スル會社數目的別、地方別表
(大正元年十二月末現在)

計	合		
	株式會社	合資會社	合名會社
計	43	67	72
	22	85	11
	27	55	20
	70	70	0
	9	8	3
	0	39	5
	4	7	0
	8	4	0
	7	6	0
	6	6	0
	0	0	0

組織別	內地會社		外國會社	
	株式會社	合資會社	株式會社	合資會社
社數	32	2	1	1
資本金	8,831,500	5,000	2,100	2,000
拂込資本金	6,671,350	735	75	2

(二) 朝鮮ニ支店ヲ設クタル内地又ハ外國會社組織別表
(明治四十四年十二月末現在)

計	合		
	株式會社	合資會社	合名會社
計	14	84	1
	33	97	4
	40	97	7
	19	97	5
	1	88	5
	5	8	0
	1	31	3
	3	7	2
	7	6	7
	7	6	7
	5	8	5
	2	8	7
	5	8	7



道別	支店數目的別、地方別表				
	農業及商業	工業	水產業	礦業	運輸業
京畿道	四	三	五	二	二
忠清北道	二	二	二	二	二
忠清南道	二	二	二	二	二
全羅北道	二	二	二	二	二
全羅南道	二	二	二	二	二
慶尙北道	二	二	二	二	二
慶尙南道	二	二	二	二	二
合計	三三	三三	三三	三三	三三

(四) 内地又ハ外國會社ノ朝鮮ニ設置シタル支店數目的別、地方別表 (大正元年十二月末現在)

道別	支店數目的別、地方別表				
	農業及商業	工業	水產業	礦業	運輸業
平安南道	一	一	一	一	一
平安北道	一	一	一	一	一
江原道	一	一	一	一	一
咸鏡南道	一	一	一	一	一
咸鏡北道	一	一	一	一	一
合計	五	五	五	五	五

二八八

五 税 關

道別	支店數目的別、地方別表				
	農業及商業	工業	水產業	礦業	運輸業
慶尙南道	一	一	一	一	一
慶尙北道	一	一	一	一	一
平安南道	一	一	一	一	一
平安北道	一	一	一	一	一
江原道	一	一	一	一	一
咸鏡南道	一	一	一	一	一
咸鏡北道	一	一	一	一	一
合計	七	七	七	七	七

朝鮮ニ於ケル税關ハ明治九年日本人ニ對スル徵稅ノ爲釜山港ニ設置シタルヲ以テ嚆矢トシ次テ十三年元山ニ開關シ十六年ニ至リ徵稅ハ日本人ノミナラス諸外國人ニモ課スルノ目的ニ依リ仁川ニ税關ヲ設置シ三十年ニ至リ鎮南浦及木浦ニ開關セラレ群山、馬山、城津ハ三十二年、新義州ハ三十九年、清津ハ四十一年ニ至リ税關ノ設置ヲ見タリ而シテ此等各税關ヲ管理スルタメ京城ニ總稅務司廳ヲ設置シタリシカ明治四十年ニ至リ日韓新協約ニ基キ之ヲ廢止シ更ニ關稅局ヲ設ケ度支部ノ指揮監督ノ

下ニ置キ關稅總長アリテ關稅事務ヲ處理スルコトナレリ而シテ仁川、釜山、元山、鎮南浦ノ四港ニ稅關ヲ設置シ其ノ他ノ沿岸諸港ニ支署、出張所及監視署等ヲ置キ海關稅ノ徵收及監視事務ヲ分掌セシムルコトナレリ尙海外貿易ノ便宜ヲ計リ明治三十九年京城ニ官設保稅市場ヲ設置シ次々京城、仁川、釜山、大邱、平壤及鎮南浦ニ官設保稅倉庫ヲ設置シタリシカ前者ハ幾モナク廢止セラレタルモ後者ハ尙存續セラレ併合ノ結果十二箇所ノ稅關ハ總督ノ管理ニ移レリ

港別收稅額一覽

港別	輸移出稅	輸移入稅	噸	稅	諸收入	計
仁川	一四五、九九七	七八四、七二一	三〇、三七八	五、四〇九	九六六、五〇五	四、三三三
釜山	一七四、七六三	五三三、九八九	二五、二四九	二九、一三四	七五三、一三五	二、三三三
元山	二六、五二四	一八七、一九六	三、〇四一	七、三七五	二三四、一三六	一、〇〇〇
鎮南浦	一一〇、一一九	八二、四四〇	六、九〇三	四、七八〇	三〇四、二二二	一、〇〇〇
京城	五、九六八	四、五五〇	—	—	四、五六九	—
計	—	—	—	—	—	—

郡	輸移出稅	輸移入稅	噸	稅	諸收入	計
大邱	五〇、九二六	八六、三三九	一〇、七六六	四、三三七	一、四三二、五八八	—
馬山	四七、〇二二	七〇、三九五	一、七六六	四、九五四	一、三三九、七五五	—
清津	—	四七、一〇二	—	—	四、七四〇、八	—
新義州	—	四、五一一〇	—	—	—	—
平壤	—	五、六〇一九	—	—	—	—
合	—	—	—	—	—	—
計	—	—	—	—	—	—

關稅率概要
輸入稅表

第十章 商業

年	輸移出稅	輸移入稅	噸	稅	諸收入	計
明治四十三年	八六三、三四二	二、四三二、二二五	七、七八〇	六、九七九五	三、四四二、二四一	—
同四十二年	七〇〇、六三三	二、三三〇、三五五	七、九五九	六、六〇八二	三、一五六、六二九	—
同四十一年	六六六、八一五	二、五一一、〇三三	九、一九五一	八、三、四七二	三、三三三、三五九	—
同四十年	七五八、七五四	二、三、九、六六〇	八、七、二、一六	—	三、一六五、三三〇	—

第一類		品名	從價稅率
穀物			五分
豆類			五分
穀粉及澱粉類			五分
種子類			五分
蔬菜(生、乾、鹽漬又ハ貯蔵シタルモノ)			五分
果實			五分
一 生果			五分
二 乾、鹽漬又ハ貯蔵シタルモノ			七分五厘
茶			七分五厘
胡椒(粉末ニセサルモノ)			五分
香料			八分

二九二

第十章 商業		品名	從價稅率
砂糖各種			七分五厘
糖蜜及糖水			七分五厘
氷砂糖			一分
菓子類			一分
麥麵、餛飩及其他ノ麵類			七分五厘
味噌			五分
醬油			五分
肉類			五分
一 生鮮ナルモノ			五分
二 乾、鹽漬又ハ貯蔵シタルモノ			七分五厘
魚介類			五分

二九三

第二類

一 生鮮ナルモノ	二九四
二 乾、鹽漬又ハ貯藏シタルモノ	從價五分
海産物(海藻及海苔等)	同 七分五厘
寒天	同 七分五厘
鹽	同 七分五厘
燕巢	同 七分五厘
豆腐、蒲蕪、蕨、湯葉及鹽辛	同 八分
ワムネ、ジンジャー、ピーア、曹達水及礮水等ノ如キ諸飲料	同 五分
飲食物(別號ニ掲ケサルモノ)	同 七分五厘
清酒及支那釀造酒	同 七分五厘
林檎酒	同 八分
麥酒	同 八分

甜葡萄酒樽入、醸入各種(ポート、セラー、ゲエルモット、シヤンパン等ヲ含ム)	同 七分五厘
リキニール各種	同 一分
酒精及蒸溜酒	同 七分五厘
一 醸入ノモノ	同 七分五厘
二 樽入、醸入各種	同 二分五厘
酒類(別號ニ掲ケサルモノ)	同 二分五厘
標草各種	同 二分
貂、服虎、海豹、獺、海狸、狐、兎及其ノ他ノ上等毛皮	同 一分五厘
皮類	同 一分五厘
一 生又ハ治理セサルモノ	同 五分
二 糞又ハ治理シタルモノ	同 七分五厘

第十章 商業

二九五

熱皮	二九六
一 普通ノモノ	従價七分五厘
二 上等ノモノ又ハ押形ヲ附シ模樣ヲ附ケ若ハ著色シタルモノ	一割
皮革製品	同
毛張	同
毛類(別號ニ掲ケサルモノ)	同
羽毛	同
骨(工程ヲ經サルモノ)	同
角(工程ヲ經サルモノ)	同
一 犀角	同

第三類	二 其ノ他	同	五分
牙(工程ヲ經サルモノ)	一 象牙	同	八分
	二 其ノ他	同	五分
	象牙製品	同	八分
	蹄(工程ヲ經サルモノ)	同	五分
	甲及殼(工程ヲ經サルモノ)	同	八分
	一 鼈甲	同	五分
	二 其ノ他	同	八分
	甲殼製品	同	五分
	一 鼈甲製品	同	二分
	二 其ノ他	同	八分
第十章 商業			二九七

珊瑚(工程ヲ經サルモノ)	二九八
珊瑚製品(全製又ハ半製ノモノ)	從價五
一 珠	同
二 其ノ他	同
眞珠	同
植物性油	同
一 桐油	同
二 其ノ他	同
獸脂	同
蠟(動物性又ハ植物性ノモノ)	同
石油及其ノ他ノ礦物性油	同
油、脂及蠟(別號ニ掲ケサルモノ)	同

燻附油	同
蠟燭	同
人 蔘(紅、白、精、粗ヲ別マス)	同
明礬	同
硫黃	同
松脂	同
樟腦	同
龍腦	同
麝香	同
膠	同
藥材(別號ニ掲ケサルモノ)	同
製藥各種	同
第十章 商業	二九九

第六類

化學藥(別號ニ掲ケサルモノ)	從價七分五厘
蘇木	同 七分五厘
雌黃	同 七分五厘
洋紅及コチニール	同 八分
朱	同 八分
ヴァニシユ及漆	同 七分五厘
染料、顔料及彫料(別號ニ掲ケサルモノ)	同 七分五厘
タール及ビツテ	同 五分
塗料及同材料(別號ニ掲ケサルモノ)	同 七分五厘
實綿及緯綿	同 五分
亞麻、大麻、黃麻、苧麻及其ノ他ノ植物纖維(別號ニ掲ケサルモノ)	同 五分

三〇〇

第七類

羊毛	同 七分五厘
織絲各種(綿、毛、大麻等ニテ製シタルモノ)	同 五分
生絲、擦生絲、熨斗絲、屑絲、真綿	同 七分五厘
線及縫絲	同 八分
一 絹製ノモノ	同 八分
二 其ノ他	同 五分
天蠶絲	同 八分
繩索各種	同 七分五厘
綿製品	同 七分五厘
毛製品	同 七分五厘
毛縮交織布	同 七分五厘

三〇一

第十章 商業

第八類

紗、縮緬、琥珀、襪子、襪子、羽二重、天鷲絨(絹製ノモノ)	同	三〇二	從價一割
絹製品(別號ニ掲ケサルモノ)	同	七	分五厘
絹織交織布	同	七	分五厘
絹毛交織布	同	七	分五厘
亞麻布、亞麻棉交織布、亞麻毛交織布、亞麻絹交織布	同	七	分五厘
各種	同	七	分五厘
帆布	同	七	分五厘
苧麻布及大麻、黃麻等ノ織物(別號ニ掲ケサルモノ)	同	七	分五厘
アランケット及ラツク	同	七	分五厘
地氈	同	七	分五厘
蠟布、油布及牀布	同	七	分五厘
フェルト	同	七	分五厘

紋織地	同	七	分五厘
刺繡布(金、銀又ハ絹ニテ刺繡シタルモノ)	同	八	分
布帛及布帛製品(別號ニ掲ケサルモノ)	同	八	分
衣類及服飾品各種	同	八	分
一 絹製ノモノ	同	七	分五厘
二 其ノ他	同	七	分五厘
帽子	同	七	分五厘
靴及其ノ他ノ履物	同	七	分五厘
鈕釦、バックル、フック及アイ類	同	七	分五厘
細貨類(眞假ヲ別タス)	同	七	分五厘
一 鍍甲、珊瑚珠、眞珠、金、銀、セード又ハ貴石製ノモノ、金又ハ銀ヲ鍍シタルモノ、蒔繪漆塗ノモノ	同	二	割

三〇三

第十章 商業

第九類

二 硝子製ノモノ	三〇四
三 其ノ他	從價一八分
裝飾具	
一 金屬製ノモノ	
甲 金又ハ銀製ノモノ、鉄線ヲ施シタルモノ	同 二
乙 金屬ヲ鍍シタルモノ	同 一
丙 其ノ他	同 七分五厘
二 象牙、珊瑚、瑪瑙、眞珠、セード又ハ寶石製ノモノ、上等漆塗ノモノ	同 二
三 絹、綿、毛、普通陶磁器、硝子、モザイク又ハメ ルシヤウム製ノモノ	同 七分五厘
四 其ノ他	同 一

第十類

粗紙	同 五分
色紙、紋紙、フアンシーパー、壁紙	同 一
印刷料紙(別號ニ掲ケサルモノ)	同 七分五厘
紙類(別號ニ掲ケサルモノ)	同 七分五厘
印材	同 一
帳簿類(白紙ノモノ)	同 七分五厘
文具類	同 七分五厘
石炭及コークス	同 五分
寶石類	同 二
セード製品	同 二
琥珀	同 八分
モザイク製品	同 七分五厘
第十章 商業	三〇五

第十二類

メルシヤウム製品	同	從價七分五厘
磁石	同	五分
石類(別號ニ掲ケサルモノ)	同	五分
一 工ヲ加エタルモノ	同	七分五厘
二 工ヲ加エサルモノ	同	五分
金剛砂	同	五分
セメント各種	同	五分
石灰	同	五分
砂紙	同	五分
煉瓦及瓦	同	五分
土器	同	五分
陶磁器	同	七分五厘

第十二類

一 普通品	同	七分五厘
二 上等品	同	八分
硝子各種	同	七分五厘
硝子板(縁ノ有無ヲ別タス)	同	八分
鏡又ハ鍍銀シタル硝子板(縁ノ有無ヲ別タス)	同	一分
硝子製品	同	七分五厘
銅	同	七分五厘
ブリキ板	同	七分五厘
ニッケル	同	七分五厘
白金	同	七分五厘
水銀	同	七分五厘
銅	同	七分五厘

第十章 商業

第十三類

一 線	從價七分五厘
二 其ノ他	同
黃銅	同
金屬箔	同
一 金箔及銀箔	同
二 其ノ他	同
金屬各種(別號ニ掲ケサルモノ)	同
一 塊、錠、條、竿、板、箔、帶、丁形及アンケル形	同
二 筒、管、線、波形又ハ電線シタルモノ	同
三 板及屑	同
針及ピン	同
刃物	同

三〇八

鍍及鍍	同
金銀製品	同
鍍金屬製品	同
一 金又ハ銀ヲ鍍シタルモノ	同
二 其ノ他	同
珠寶ヲ施シタル物品	同
釘類、工匠具、鐵道用材料及其ノ他ノ物品(金屬製ノモノ)	同
時計及同部分品	同
寫眞器	同
望遠鏡及雙眼鏡	同
眼鏡	同
樂器	同

三〇九

第十章 商業

第十四類

機械類	一 金屬製ノモノ	從價七分五厘
	二 其ノ他	同 八分
兵器及彈藥		同 八分
獵銃		同 八分
獵銃附屬品		同 八分
	一 金屬製ノモノ	同 八分
	甲 金屬ヲ鍍シタルモノ	同 八分
	乙 其ノ他	同 八分
	二 絹、綿又ハ毛製ノモノ	同 七分五厘
	三 其ノ他	同 七分五厘
爆發物		同 七分五厘

三一〇

香水各種	同 二分
家屋建築用木材(既ニ切り組ミタルモノ)	同 五分
木材(別號ニ掲ケサルモノ)	同 五分
一 軟木	同 七分五厘
二 堅木	同 七分五厘
屋根板	同 五分
竹(剥リタルト否トナ別タス)	同 五分
樹皮其ノ他ノ鞣皮用品	同 五分
膜(剥リタルト否トナ別タス)	同 五分
木炭及竹炭	同 七分五厘
馬具	同 一分
馬車	同 一分
第十章 商業	三一

荷車	三二
扇及團扇	從價八分
提燈類	同七分五厘
ランプ及同部分品	同五分
傘	同七分五厘
一 紙張ノモノ	同五分
二 其ノ他	同七分五厘
余件	同七分五厘
漆器	同五分
一 漆繪ノモノ	同五分
二 其ノ他	同七分五厘

隙子、襖及木製ノ戸	同五分
家具	同八分
旅櫃及提籠	同一分
佩袋、煙袋其ノ他ノ袋物類	同七分五厘
一 絹、綿又ハ毛製ノモノ	同七分五厘
二 其ノ他	同一分
煙管	同五分
一 金屬製ノモノ	同五分
甲 金、銀製又ハ鉄鋼ヲ施シタルモノ	同一分五厘
乙 金屬ヲ鍍シタルモノ	同七分五厘
丙 其ノ他	同五分
二 象牙、鼈甲、珊瑚又ハセード製ノモノ	同五分

第十章 商業

三二三

第十五類

三 土器、普通陶磁器、硝子、モザイク又ハメルシヤウ ム製ノモノ	三一四	從價七分五厘
四 其ノ他	同	一割
一 骨	同	五分
二 其ノ他	同	五分
甲 普通品	同	五分
乙 上品	同	七分五厘
造化	同	八分
繪畫、版畫、寫真、彫刻物各種(線ノ有無ヲ別タス)	同	一分
美術品	同	一分
衛球、象棋、骨牌其ノ他ノ遊戲用器具	同	一分

一 金屬製ノモノ	同	一分
甲 金屬ヲ鍍シタルモノ	同	一分
乙 其ノ他	同	七分五厘
二 象牙製ノモノ	同	二分
三 絹、棉、毛、土器、普通陶磁器、硝子、モザイク 又ハメルシヤウム製ノモノ	同	七分五厘
四 其ノ他	同	一分
玩具	同	一分
一 金屬製ノモノ	同	一分
甲 金屬ヲ鍍シタルモノ	同	一分
乙 其ノ他	同	七分五厘
二 象牙又ハ骨甲製ノモノ、上等漆塗ノモノ	同	二分
第十章 商業	三一五	一割

三 絹、綿、毛、土器、普通陶磁器、硝子、モザイク	三六	從價七分五厘
又ハメルシヤム製ノモノ		
四 其ノ他		
蒸香類	同	一割
齒磨粉	同	一割
石鹼	同	八分
マツテ	同	五分
線香	同	二分
煙火	同	二分
油粕	同	五分
鳥糞其ノ他ノ肥料	同	五分
液膜及液膜製品	同	八分

船舶		
一 帆船	每噸	〇・四
二 蒸汽船	同	〇・五
三 其ノ他	從價	八分
別號ニ掲ケサル生粗品又ハ未製品	同	五分
別號ニ掲ケサル半製品	同	七分五厘
別號ニ掲ケサル全製品	同	八分
理學、數學、氣象學、醫藥用等ノ諸學術器具及其ノ附屬品	無	稅
活字(新古ヲ別タス)	同	
書籍、新聞紙、樂譜、地圖、海圖及設計圖	同	
收入印紙、郵便切手及官製郵便簿	同	
紙幣、銀行券及其ノ半製品、利札、株券其ノ他ノ有價證券	同	
第十章 商業	三一七	

第十 章 商業	其 他	鐵 鑽 其 他	石 炭	牛 皮	生 牛	朝鮮產品			小 麥	大 豆	小 豆	品 名	從 價 稅
						生 麻	佳 子	小 豆					
六 度 量 衡													
三 二 九		同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	五	分
		無	五	五	五	五	五	五	五	五	五	分	分
													率

第十六類	貨 幣	金 銀 地 金	度 量 衡 器	消 防 用 具	農 具	鐵 種	貨 物 包 裝 用 袋、 叭、 糖、 茶 鉛 及 繩	廣 告 專 用 品	看 板	雜 形 各 種	輸 出 稅 表	三 二 八	
													稅

朝鮮ノ度量衡ニハ從來一定ノ標準ナク亂雜ナ極メタリシカハ舊韓國政府ハ度量衡規則ヲ發布シ次テ三十八年之ヲ改正シタレトモ改正度量衡器ハ僅カニ京城、仁川、釜山、平壤等ニ販賣セラレタルニ過キス四十年ニハ益度量衡ノ統一ヲ圖リ改正器ノ使用ヲ各地ニ奨励シタルモ因循ニシテ容易ニ舊價ヲ棄ツヘクモアリサリシカ四十二年九月度量衡法ヲ改正シテ(一)名稱名位ハ皆日本内地ノ規程ニ準シ(二)其ノ製造輸入及販賣ハ政府ノ手ニ於テシ(三)内地官廳ノ檢定シタル度量衡器ニ限り政府ノ許可ヲ受ケタル者ニ於テ之ヲ輸入販賣スルコトヲ得(四)而シテ政府專賣度量衡器ハ相當ノ資産借用アル者ニ委託販賣セシメ(五)漸次施行區域ヲ擴張指定スルコトトナシ四十五年六月ニ至リ施行ヲ完了セリ

爾來朝鮮人モ其ノ統一正確ナル度量衡ニ據ルノ便ナルヲ覺リ其ノ成績頗ル見ルヘキモノアリ

度量衡法施行時期及委託販賣者人員

道	別	全道施行ノ時期	内地委託販賣者
---	---	---------	---------

京畿道	同	明治四十四年四月一日	二二	八	三〇
忠清南道	同	四十四年七月一日	一八	五	二二
忠清北道	同	四十四年七月一日	一九	三	二二
全羅南道	同	四十四年七月一日	二〇	三	二二
全羅北道	同	四十四年七月一日	二〇	三	二二
慶尙南道	同	四十四年七月一日	二〇	三	二二
慶尙北道	同	四十四年七月一日	二〇	三	二二
黃海道	同	四十四年七月一日	二〇	三	二二
平安南道	同	四十四年七月一日	二〇	三	二二
平安北道	同	四十四年七月一日	二〇	三	二二
江原道	同	四十五年六月一日	二〇	三	二二
咸鏡南道	同	四十五年六月一日	二〇	三	二二
咸鏡北道	同	四十五年六月一日	二〇	三	二二
計			二四二	六四七	三〇三

第十一章 工業

一 朝鮮人の工業

朝鮮ノ工業ハ見ルハキモノナキモ數百年前即チ高麗朝時代ニ在リテ一時高度ノ發達ヲ遂ケタルコトハ之ヲ當時ノ建築ニ見高麗燒ニ徴スルモ其ノ一斑ヲ想見スルヲ得ヘシ然レトモ爾來次第ニ衰微シ現今ニ於テハ機業、蠶業、製紙、醸造、金屬品業等ノ農家ノ副業又ハ小規模ノ工業トシテ各地ニ營マシテ加フルニ忍耐、勞働力ニ富ムノ點ト之ヲ指導スル各級ノ施設トハ必ス朝鮮ノ工業ヲシテ他日ノ大成ヲ期セシムヘシ

一機業 機業ハ朝鮮ニ於ケル最重要ナル工業ナルヲ以テ其ノ改良發達ヲ圖ル爲朝鮮總督府ハ主要ナル産地ニ機業教師ヲ派シ實地指導ノ任ニ當ラシメツツアリ左ニ織物主要産地ヲ掲クヘシ

織物主要産地一覽

道名	郡名	織物名	道名	郡名	織物名	道名	郡名	織物名
京畿道	水原、廣州、楊平、清州、忠州	絹、綿、毛織物	忠清南道	扶川、孤山、鹿仁、林川、青陽、靈浦	絹、綿、毛織物	京畿道	朔寧	絹、綿、毛織物
忠清北道	清州、忠州	絹、綿、毛織物	忠清北道	長水	絹、綿、毛織物	忠清南道	公州	絹、綿、毛織物
全羅南道	蕪岐、懷德	絹、綿、毛織物	全羅南道	求禮、順天	絹、綿、毛織物	慶尙北道	安東、醴泉、咸昌	絹、綿、毛織物
慶尙南道	唐津、潭陽、咸平、善山、星州、大邱、比安、開寧、義城、尙州、安東、慶州	絹、綿、毛織物	慶尙北道	義城、善山、安東、慶州	絹、綿、毛織物	慶尙南道	順川、德川	絹、綿、毛織物
慶尙北道	尙州、安東、慶州	絹、綿、毛織物	慶尙南道	咸陽、三嘉、安義	絹、綿、毛織物	平安北道	寧邊、泰川	絹、綿、毛織物
慶尙南道	晉州、陝川、巨濟	絹、綿、毛織物	平安南道	咸陽、三嘉、安義	絹、綿、毛織物	江原道	金化、江陵	絹、綿、毛織物
黄海道	白川、平山、松禾、安岳、鳳山	絹、綿、毛織物	平安北道	咸陽、三嘉、安義	絹、綿、毛織物	咸鏡南道	永興、北青	絹、綿、毛織物
平安南道	平壤、龍岡、永柔、安州、鎮南浦	絹、綿、毛織物	江原道	三陟、襄陽	絹、綿、毛織物			
平安北道	寧邊、泰川、碧潼	絹、綿、毛織物	咸鏡北道	會寧、咸興、南浦、明川	絹、綿、毛織物			

第十一章 工業

三三三

三三三

(イ)綿布 綿布ハ各地到ル所産出セラルナク就中慶尙南道全羅南道産出最モ多ク朝鮮全土ニ於ケル一箇年ノ産額ハ數百萬圓ニ上ルヘシ多クハ農家婦女ノ副業的産物ニシテ棉花ヲ手紡シ居織機ニテ製織スル不織白木綿ノ粗ナルモノナリ近來紡績糸ヲ用キ「バツタン」織機ヲ以テ製織スルモノ漸次増加シ尙小規模ノ工場ヲ經營スルモノ各地ニ散見スルニ至レリ

(ロ)絹布 江原、平安南北及慶尙南道ニ産出シ多クハ明細ト稱スル平絹ノ類ニシテ平安道成川、泰川、寧邊、醴川、徳川ノ綃及江原道鐵原ノ綃最モアリク等ハ皆織上ノ後戻汁ヲ以テ精練シ染色シ男女ノ衣料ニ供ス一箇年ノ産額概算額四十萬圓ナリ

(ハ)麻布 忠清南道慶尙北道咸鏡南道江原道最モ産出多ク重要ナル物産ノ一ナリ何レモ白無地ノモノニシテ之ヲ製織スルニハ豫メ麻ヲ清水ニ浸シ日光ニ晒シテ自然漂白チナシ織機ヲ制キテ細糸トナシ居織機ニ依リテ製織シ夏ノ衣料、裏服、帆袋及雜用ニ用リ各道産出額數百萬圓ニ上ルニ繁榮 蕪業ハ高麗時代ニ著シキ發達ヲ爲シタルモノ今ヤ全ク見ルヘキモノナク唯各地ニ於テ極メテ粗造ナル日用品ノ製造セラルルヲ見ルノミ然レトモ各地到ル處優秀ナル陶磁器ノ原料ニ富ムヲ以テ

製造方法ニ一大改良ヲ加フルアラハ面目チ一新スルコト難キニアラス

三製紙業 製紙ハ朝鮮工業中有望ナルモノノ一ナリ慶尙北道慶州、慶尙南道、三嘉、陝川、全羅北道全州ニハ製紙業ニ従事スルモノ多ク産額亦多シ各所ニ於ケル製紙原料ハ楮ヲ楮ヲ以テス朝鮮人製紙ノ方法ハ頗ル簡易ニシテ張板ヲ用キ晴天ヲ選ヒ河岸ニ於テ漉洒抄製シ河原又ハ温泉ニテ乾燥ス一箇年ノ産出額約五十萬圓ニシテ高麗紙ト稱シ密紙用トシテ清國ニ輸出セラルルモノ毎年十萬圓餘アリ

四金屬品 朝鮮人ハ古來眞鍮製ノ器具ヲ多ク使用スル慣習アリ食器、金盃、火鉢、便器等ノ眞鍮製品各處ニ産出ス鐵器類ハ鍋釜及農具ヲ主要ナルモノトシ就中釜ハ堅牢ヲ以テ名アリ其ノ他婦人ノ裝飾品タル指輪、簪、簪等ノ銀又ハ眞鍮製品各所ニ製作セラルルモ加工彫刻見ルヘキモノ少シ

五雜工品

(イ)雜雜 京畿道江華島、全羅南道靈城ノ特産物トシテ知ラル又慶尙北道金泉ハ産ヲ以テ名アリ無地織ナルモノアリ福蔭等ノ文字ヲ織出セルモノアリ近來内地人大邸ニ製適合資會社ヲ設立シ



朝鮮産莞草ヲ用キ高麗簾及蓆表ヲ製造セリ

三二六

(リ)木竹細工 簾、扇子、煙管竹等ノ竹細工品ハ巧妙ニシテ全羅南道潭陽及羅州ノ麓ハ其ノ名高シ木工品ハ櫃、篋筒、漆器等僅ニ存スレトモ見ルニ足ルモノナシ

六醸造業 朝鮮人ノ飲用スル酒類ハ藥酒、濁酒、白酒、燒酎、過夏酒、梨蘆酒、甘紅露、松竹酒、合酒等種類多シト雖藥酒、白酒、濁酒、燒酎及過夏酒ハ其ノ主要ナルモノニシテ需要者多ク從テ醸造高ハ各酒ヲ通シテ百萬石ニ上ルヘシ

(イ)藥酒 小麥麴、糯米、粳米等ヲ混合シ醸造シタルモノニシテ他酒ニ比シ品質稍々良好ナリ黃海道以南殊ニ京城附近ニ於テ汎ク飲用セラレ酒中ノ珍トシテ宴會祭日等ニ於テ必須ノモノトセラル其ノ優良ノモノハ果實酒ニ類スル味ヲ有シ酒精分十乃至二〇%ヲ有シ帶黃赤色ヲ呈ス耐久性ナク貯藏シ難キヲ以テ多クハ冬期自家用トシテ醸造セラレ

(ロ)濁酒 小麥粉及粗麴ヲ蒸シ又ハ煮タル糯米、粳米及水ヲ加ヘテ醸造シタルモノヲ採漬シテ濾過セル白濁液ニシテ一般下層社會ノ嗜飲物タルノミナラス又飯食ノ代用物ナルカ故ニ需要頗ル

多シ腐敗シ易キヲ以テ多ク自家用トシテ四季ヲ通シ隨時醸造ス

(ハ)燒酎 小麥、粗麴、粳米糯米及黍等ヲ以テ醸造シタルモノニシテ各地ニ於テ飲用セラレ糖度比較的低ク三十度内外ヲ普通トシ北方ニ到ルニ從ヒ其ノ度ヲ増シ五十度ニ到ルモノアリ京城以南ニ在リテハ夏季ノミ之ヲ飲用スルカ故ニ製造高僅少ナレトモ北鮮地方ニ於テハ四時常ニ飲用スルカ故ニ醸造高從テ多大ナリ

(ニ)白酒 藥酒ト濁酒ノ混成物ニシテ水ヲ以テ稀薄トナシタルモノナリ藥酒ニ近シ

(ホ)過夏酒 小麥麴、麥芽、糯、燒酎ヲ加味シ醸造シタルモノニシテ恰モ我カ味淋ニ似タリ其ノ酒精分八十乃至十八%ニシテ他酒ニ比シ飲用量多カラズ

其ノ他紅酒、甘紅露、梨蘆酒等ノ諸酒ハ孰モ燒酎ヲ基トシ之ニ糖蜜類ヲ加味シタル混成酒ニ過キス

二 内地人ノ工業

内地人經營ノ工業モ未タ舊制ノ域ヲ脱セス見ルニ足ルヘキモノ尠シト雖其ノ重ナルモノヲ舉クレハ

第十一章 工業

三二七

糯米、鐵工、煙草、煉瓦、瓦製造、電氣事業、製材事業、醸造業、製菓業等ナリトス左ニ内地人經營ノ工場ヲ示スヘシ

(イ) 糯米業 朝鮮人ノ收穫米ハ概シテ賣買セラルモ多ク朝鮮人ノ食用トシテ白米ノ賣買セラルルモノナキニ非サルモ概ヨリ直ニ精白シタル一種ノ半白米ニ過キス然ルニ概ハ輪移出ニ不便多ク半白米ハ内地人ノ口ニ適セサルヲ以テ主要地ニ於テハ内地人ニシテ稍大規模ニ糯米業ヲ兼ネタル糯米業ヲ營ムモノ少カラス

(ロ) 鐵工業 半島各地ニ行ハルト雖多クハ銀冶職ノ傍ラ小道具ノ製造諸機械ノ修繕ヲ營ムニ過キスシテ機械ヲ應用シ稍大規模ノ工場ヲ經營セルモノハ其ノ數少シ然レトモ漸次工業ノ發達スルニ伴ヒ各種機械ノ使用増加シ鐵工ノ需要多キヲ加フヘク且朝鮮人ノ勞銀低廉ナルヲ以テ鐵工業ノ前途ハ有望ナリト云フヘシ

(ハ) 煙草製造業 由來朝鮮人ハ煙草ヲ嗜好トスル國民ニシテ男子ニシテ喫セサル者ノ殆ト稱ナリ十四五歳ノ童兒ヨリ喫煙ヲ始メ以テ死期ニ及フ暇アレハ則チシガハ或ハ煙管ヲ口ニシテ離

ササルノ有様ナレハ其ノ喫量亦從テ大ナリ此ノ如ク朝鮮ニハ多大ノ需要販路ヲ有スルカ故ニ京城、釜山、大邱等ニ於テハ内地人ノ煙草製造業ニ從事セル者多ク執モ繁榮ノ域ニ在リ從來官煙及英米煙草會社販路ヲ爭ヒタリシカ近時官煙ハ京城ニ製造所ヲ設ケ銳意擴張ヲ計リシ以來漸ク勢力ヲ倍加シ外煙ヲ凌クノ狀ヲ呈セリ(第十章商業中貿易欄參照)然レトモ朝鮮國內需要ノ額ハ次第ニ増加シ原料ノ作製モ日ニ繁盛ナラムトス

(ニ) 煉瓦及瓦製造 麻浦、永登浦等ニ於テ官營セラルルモノノ外到ル處原料ニ富ムヲ以テ内地人及清國人ノ經營セルモノ多シ唯燃料ニ乏シキヲ以テ陶器業ト同シク其ノ發展ヲ阻害セラルルナキ能ハスト雖建築業ノ進歩ト共ニ有望ナル事業ナリ

(ホ) 醸造業 内地人ノ移住ト共ニ清酒ノ需要激増シタルヲ以テ近時内地人ノ各地ニ於テ清酒醸造ニ從事スル者頗ル多ク既ニ大規模ノ設計ニ出ツルモノスラ無キニ非ラス殊ニ半島内ハ原料低廉ナルニ加フルニ職工ノ勞銀安價ニシテ且腐敗ノ虞ナキヲ以テ收益少カラス加フルニ販路廣ク賣捌容易ナルヲ以テ研究改良ヲ加ヘハ酒造業ノ前途好望ナリ(四十二年ヨリ居留地内ノ内地人ニ

免許税トシテ一石ニ付キ金二十錢ヲ課税セリ
左ニ各道ニ於ケル内地人醸造業ノ概況ヲ表示スヘシ

内地人酒類醸造高

三三〇

明治四十四年度

道別	場	清酒	焼酒	濁酒	白酒	石	味淋	混成酒	計	製糖(石)	製糖價格
京畿道	二五	六〇七六	三三	二二八	四〇				六五六五		
忠清北道	二五	二二							六四		
忠清南道	二〇	三二七							六四		
全羅北道	二二	二五九九							三二八		
全羅南道	三三	三三〇							二二七		
慶尙北道	一七	九三三							二六二		
慶尙南道	一七	一一六							一三八八		
黄海道	六五	一一〇九							九六二		
平安南道	九	二一〇							二二二		
平安北道	九	九四							二八八		
合計		二〇三	五二〇	二〇					二四六一		

江原道 一四
 咸鏡南道 一三
 咸鏡北道 一七
 合計 三三
 近時漸ク隆盛ヲ致シ漸次内地移入品ヲ防遏スルノ兆ヲ示セリ殊ニ味噌ノ醸造ハ頗ル盛ニシテ朝鮮内ノ供給ニ對シテハ最早移入ナ仰クノ必要ナク醬油モ近來京城、仁川、釜山等ニ於テ内地品ニ劣ラサル精良ノモノ醸出セララルニ至リシカハ從來内地人ノ移入ニ係リシ醬油ハ痛撃ヲ加ヘラレタルノ觀アリ朝鮮内製醸ノ原料豐富ニシテ而モ低廉ナルヲ以テ該業ノ前途ハ有望ナリ醬油ノ醸造高ハ左ノ如シ

内地人醬油醸造高

道別	製造場數	製造量	價額	一石ノ卸賣價格
京畿道	三二	一三三六五	三三三〇〇	三〇〇〇

明治四十四年

第十一章 工業

三三三

合	成鏡	成鏡	平鏡	安海	慶南	慶南	全南	全南	全南	忠南
計	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道
	八三	五五	四二	二二	二二	三三	七七	七七	九九	五五
	二九	三三	三三	二〇〇	四六四	一五〇	六一六	一〇二七	一九一六	一四〇五
	七二九	〇三二	一〇四	三〇〇	四三〇〇	四三〇〇	一三二	四〇三	五三〇八	二八五七〇
	F.L	F.L	F.L	F.L	F.L	F.L	F.L	F.L	F.L	F.L
	二五〇〇	二五〇〇	二五〇〇	二五〇〇	二五〇〇	二五〇〇	二五〇〇	二五〇〇	二五〇〇	二五〇〇

(ト)電氣事業 從來米國人コールマンノ經營ニ屬セシ韓美電氣會社ハ京龍間ノ電車、電燈事業ヲ特ミツアリシカ龍山ニ日韓瓦斯會社(資本金七十萬圓)設立セラレ京龍間ノ瓦斯事業ヲ經營スルニ至リ四十二年八月韓美電氣會社ノ電氣事業ヲ買取シ電氣及瓦斯事業ハ該會社獨占ニ移レリ近時釜山、仁川、鎮南浦等ヲ初メ各所ニ電氣事業ヲ開始スルモノ漸ク增加シ既ニ當該官廳ノ

許可ヲ得タルモノ十三會社ニ及ブ
電氣事業許可件數

大正元年十二月末日調

會社名	本店所在地	支店所在地	事業ノ目的	供給區域	資本金	備考
韓國瓦斯電氣株式會社	東京	釜山	山電燈、電力、電鐵	釜山	三百萬圓	
日韓瓦斯電氣株式會社	東京	仁川、海山	同	仁川、海山	六百萬圓	
鎮南浦電氣株式會社	鎮南浦	同	同	鎮南浦	十五萬圓	
大田電氣株式會社	大田	島致院	同	大田、島致院	八萬圓	島致院支店ノ事業ハ未開業
大邱電氣株式會社	大邱	同	同	大邱	十萬圓	
平壤電氣株式會社	平壤	同	同	平壤	三十萬圓	

第十一章 工業

三三三

元山水力電氣株式會社	元山	同	元	山十五萬圓	電氣事業ハ未
朝鮮電氣株式會社	清津	電燈、電力、電鐵	清津、羅南	五十萬圓	開業
群山電氣株式會社	群山	電燈、電力	群山	十六萬圓	
木浦電燈株式會社	木浦	同	木浦	二十萬圓	
清州電氣株式會社	清州	同	清州	五萬圓	
新義州電氣株式會社	新義州	同	新義州	六萬圓	
開城電燈株式會社	開城	同	開城	二十萬圓	

三三四

(チ)其ノ他製材業 造船業トハ漸ク緒ニ就クニ至レリ鴨綠江材力大渠港ニ使用セラルルニ至ラハ
 斯業ノ前途亦有望ナリ

三 官營工業

現ニ官營事業トシテハ煉瓦工場土管工場及印刷所アルノミ煉瓦工場ハ煉瓦、瓦及土管ノ製造ヲ主ト
 シ官公建築事業ノ需要ニ應スル目的ニ出テタルモノニシテ明治四十年四月創メテ之ヲ漢江沿岸麻浦
 ニ設置シ煉瓦ノ製造ヲ開始シ次テ同年七月瓦及土管工場ヲ京仁線永登浦ニ創設セリ政府ハ兩工場ニ
 資金二十六萬五千圓ヲ投シ之ヲ經營テ計リタリキ蓋朝鮮ノ特殊風土ハ煉瓦造家屋ノ最適セルヲ示セ
 ルモ從來民間ニ於テ製煉セラルルモノハ粗劣ニシテ殆ト實用ニ堪ヘス會々官公ノ建設事業ノ激増シ
 需用日ニ多キチ加フルニ際シ模範事業トシテ政府自ラ其ノ任ニ當リシモノナリ
 右二工場ハ總督府設置後會計局ニ於テ管理シ普通ノ職工及人夫ヲ後役シテ之ニ從事セシメタルモ明
 治四十五年四月以後ハ主トシテ煉瓦ニ付テハ京城監獄在監ノ朝鮮人タル受刑者、瓦及土管ニ付テハ
 永登浦分監在監ノ内地人タル受刑者ヲ使役スルコトトシ同時ニ該事業ニ關スル事務全部ハ之ヲ司法
 部ノ所管ニ移シタリ今最近三箇年間に於ケル兩工場事業ノ概況ヲ左ニ示ス

麻浦煉瓦工場事業一覽

第十一章 工業

三三五

年 度 別	品 目	生 産 數	供 給 數	事 業 收 入
明治四十三年	煉瓦	七〇七〇〇	六五八二〇〇	五二九一七
明治四十四年	煉瓦	七一九五〇〇	五九一〇〇〇	六三、六〇六
明治四十五年	煉瓦	四三五〇〇〇	三〇四七〇〇〇	二八、一〇〇
大正元年	煉瓦	同	同	同

永登浦土管工場事業一覽

年 度 別	品 目	生 産 數	供 給 數	事 業 收 入
明治四十三年	土管	二五〇〇〇	一七〇〇〇	一六、一一一
明治四十四年	土管	四三九〇〇〇	八八〇〇〇	二一、六四
明治四十五年	土管	四一三〇〇〇	三二七〇〇〇	二一、六四
大正元年	土管	同	同	同

印刷所ハ龍山ニ在リ印刷、製紙及鐵工ノ事業ヲ經營シツツアリ明治四十年以來事業ノ擴張ヲ計リ工場ノ改築機械ノ増置、技術者ノ僱聘等ニ努メ精巧ナル印刷物ヲモ出版シ得ルニ至レリ製紙ノ業モ漸ク追ヒ發展ヲ計リツツアレトモ未タ發功ノ域ニ達セズ

印刷所事業概況

大正元年十二月末日調

年 次	機 關	石 炭	役 員	職 工 及 縮 役	給 料 總 額	一 日 働 働 一 人 一 日	生 産 品 價 格
明治四十三年	馬力 115	1,116	15	1,100	5,500	100	1,100
明治四十四年	馬力 115	1,116	15	1,100	5,500	100	1,100
明治四十五年	馬力 115	1,116	15	1,100	5,500	100	1,100
大正元年	馬力 115	1,116	15	1,100	5,500	100	1,100

備考

一、機關數ハ使用現在數ヲ示ス其ノ使用セサルモノ四十二年ハ二基、四十四年、四十五年ハ三基現在セリ
 第十一章 工業
 三三七

一、四十三年石炭消費高ハ噸數ヲ示セリ

三三八

四 總督府中央試驗所、工業傳習所

總督府中央試驗所

明治四十五年四月ヨリ各種工業上ノ試驗、研究ニ從事セシムル爲メ中央試驗所創設セラレタリ四十五年度ニ於テハ從來既ニ存シタル醸造試驗及分析事業ヲ繼承シタル外他ノ事業ニ付テハ專ラ建物其ノ他器械器具ノ設備ニ止メ次年度ヨリ染織、窯業、應用化學、醸造、有機無機ノ分析等廣ク工業ニ關スル試驗研究ニ從事シ以テ朝鮮ニ於ケル工業ノ促進ニ資スル計畫ナリ

總督府工業傳習所

本所ハ明治四十年四月京城ニ創設セラレタルモノニシテ獨立ノ官署ナリシカ中央試驗所創設ト共ニ同所ニ附設セラレタリ蓋シ有益ナル試驗ノ結果ヲ實施スルニ便益多キヲ以テナリ傳習科目ハ染織(各種染色及機織)、陶器(食器、裝飾用陶器)、金工(各種板金鑄工、鍛工)、木工(造家及家具、車輛及機器ノ製造)及應用化學(石鹼、膠、鞣皮及紙類ノ製造)ノ五科トシ課程ハ本科、專攻科



所習傳業工及所驗試中央府督總朝鮮

及實科ニ分ツ、本科ノ修業年限ハ二箇年、専攻科ノ修業年限ハ一箇年トシ本科修了後尙進ミテ技術ノ研究練習ヲ希望スル者ヲ收容ス、實科ハ四十三年四月ノ創設ニ係リ修業年限ヲ一箇年以内トシ工業家又ハ其ノ隣保者ノ子弟ニシテ實技ノミヲ練習セムトスル者ヲ收容ス傳習生ノ募集ハ本科生ハ廣ク之ヲ募集シ入所試験ヲ行ヒ志願者中優秀ノ者ヲ選拔スル法ヲ採リ實科生ハ一定ノ數ヲ指定シ地方廳ヨリ工業者ノ子弟等ニ就キ適當ナル者ヲ推薦セシメテ入所セシム傳習生ハ本所創設當初ハ從來ノ朝鮮ノ風習ニ泥ミ勞動的實習ヲ嫌惡シ半途退學シタル者アリシモ爾來漸次練習ヲ脱シ今ハ喜ヒテ技術ノ傳習ヲ受ケ如何ナル勞動ヲモ辭セサルニ至レリ由來朝鮮人ノ手指ハ先天的ニ手藝ニ長シ技術ノ進歩早ク成績頗ル見ルヘキモノアリ

卒業生ノ實況ニ付テハ本所創立後尙淺ク卒業生ノ數本科二百四十三人、實科百六十五人ニ過キヌシテ未タ成績ノ記スヘキモノナシト雖各自其ノ習得セル技能ニ依リ或ハ獨立自營ノ業ニ從事シ或ハ各所ノ工業經營者ニ雇傭セラレ或ハ各地方廳ノ經營ニ係ル機械製紙等ノ傳習事業ニ教師トシテ採用セリタル者多ク孰レモ適所ニ其ノ職業ヲ得ツアリ

工業傳習所概況 (毎年十二月末現在)

年次	教員		計數	生徒數	入學者	卒業生	經費
	内地人	朝鮮人					
大正元年	一七	六	二三	七四	五八〇	八九	一四、五〇一
明治四十四年	一七	六	二三	六八	七五五	一三七	六三、六三〇
同四十四年	一七	六	二三	一一三	二、六四	一七九	七五、〇二五
同四十二年	一七	六	二三	一七八	一、二八〇	四六	五四、八五〇

備考 大正元年經費豫算額ハ中央試驗所ノ經費ヲ掲ク

五 地方工業傳習所

機業、製紙、繩隊製造其ノ他副業トシテ最モ適當ナル工業ヲ朝鮮人ニ普及スル爲メ恩賜授産事業又ハ地方費事業トシテ或ハ個人又ハ組合ガ政府ノ補助ヲ得此ノ種工業ノ簡易ナル傳習事業ヲ經營スル者尠カラズ將來此等傳習所ヲ卒業シタル技工ノ就職スルモノ増加スルニ及ハハ朝鮮ノ工業發達ニ資スル所助カフサルヘシ大正元年八月調査ニ係ル地方工業傳習所ハ左ノ如シ

區別	地方費經營		組合經營		個人經營		合計
	所數	傳習生數	所數	傳習生數	所數	傳習生數	
機業	一	一五	一	三〇	一	一六	三五
製紙業	一	一	一	一	一	三	五
繩隊及繩製造業	一	一	一	一	一	三	五
木工、金工、漆工業	一	一〇	一	一	一	三	一四
計	四	四三	六	三〇	二四	五二九	七二

備考 恩賜金經營ノ傳習所ニ付テハ地方行政中臨時恩賜金ノ節參照

六 工業所有權ノ保護

從來朝鮮ニハ工業所有權保護ノ制度存セザリシヲ以テ帝國政府ハ明治四十一年八月米國下條約ヲ締結シ米國ハ其ノ米國ニ於テ朝鮮人ニ對シテモ工業所有權ノ保護ヲ與フルト同時ニ發明、意匠、商標ノ保護ニ關シテハ朝鮮ニ於ケル治外法權ヲ撤退シ日本國ハ内地ニ行ハルルト同様ノ法令ヲ朝鮮ニ施

行シ以テ東國人ノ發明、意匠、商標ヲ朝鮮内ニ於テ保護スヘキコトヲ約セリ仍テ帝國政府ハ同年八月十六日ヲ以テ韓國特許令、同意匠令、同商標令ヲ施行シ四十二年十一月一日ヨリ韓國實用新案令ヲ施行シ統監府特許局ニ於テ之ヲ管理シ此等ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシメタリシカ韓國併合ノ事アルト同時ニ韓國特許令外三令ヲ廢止シ統監府特許局ヲ廢止シ新ニ特許法、意匠法、商標法、實用新案法ヲ朝鮮ニ施行シ工業所有權保護ニ關スル事務一切ハ農商務省特許局ニ屬スルコトト爲レリ而シテ從前ノ四令ニ依リテ既得セラントタル權利ハ特許法外三法ニ依リテ設定セラレタルモノト同一ニ看做サレ其ノ權利ノ效力ハ我領土全部ニ完全ノモノタルト同時ニ本國ニ於テ既得セラレタル權利ハ當然ニ朝鮮ニ於テモ其ノ效力ヲ保有スルモノト爲セリ統監府特許局設置以來其ノ廢止ニ至レマテ（自明治四十一年八月至同四十三年八月）ニ取扱ヒタル事件數ハ特許四百六十八、意匠百二十三、商標千百十四、實用新案五十九、合計一千七百六十四件ナリ

七 工業獎勵ノ施設一斑

篤志者ニシテ工業傳習事業ヲ企畫スル者又ハ有益ナル工業ヲ經營スルモ事業創始ノ際收支償フ能ハ

サル者ニ對シテハ總督府又ハ地方廳ハ金品ヲ補助シテ其ノ成功ヲ實クシ以テ工業ノ發達ヲ勵メツデアリ
又曩ニ韓國併合ノ際朝鮮人授産ノ爲下賜セラレタル恩賜金ノ利子ノ一部ヲ以テ從來一般ニ副業トシテ行ハルル機業、製紙業等ノ改良ヲ計リ或ハ從來全ク存セサルモ將來有望ナル副業タルヘキ蠶蠟製造ノ技術ヲ傳習セシムル爲三箇月乃至六箇月ノ短期ヲ以テ習業シ得ヘキ工業ノ傳習所ヲ各地ニ起シ或ハ實地指導ヲ爲ス爲巡迴教師ヲ置キ各種ノ方法ヲ講シテ手工業ノ改良發達ヲ圖リツデアリ

内地人經營工場一覽表

明治四十四年調

道別	營業別	工場數	資本數	技術者		計	生産品價額
				内地人	朝鮮人		
京	精米	二	三、四、五、八、〇〇	四六	二〇	四六三	六、七、二
	印刷	八	六、三、九、〇〇〇	一七	一、二、六	三〇五	四、三、一
	鐵工	五	六〇、五〇〇	五	四一	三〇	四、三、一
	瓦斯電氣	四	六、一、五〇〇〇	三二	四六	七、一	七、七、五〇〇
							一、三、五、三、〇〇

第十一章 工業

三四三

道北 尙慶	道南 羅全	道北 羅
其煙瓦印精 計	其鐵印精 計	再鐵 計製
他草 刷米	他工 刷米	鹽工
一五三三二一一八	一七五四二六	一四二二
三四七四五〇 六五〇〇〇 二〇〇〇〇 三〇〇〇〇 一四九四五〇	一四七六九〇〇 七〇七五〇〇 二二四〇〇〇 一七〇〇〇〇 七三〇〇〇〇	二〇一五〇〇〇 二〇〇〇〇〇 四〇〇〇
二五九 一六	三〇二二九二七	二四 三
五四一〇二二〇八	七三三九二六六	六二二二
八二六 一〇 七五一 八 九 四八	四一九二八四一七〇	二八一 一八 一四
八八〇 二〇 七六六 一九 一九 五六	四九二五九三三三六	三四三 二〇 一七
八六二四〇〇 三七〇〇〇 三四二五〇〇 四二〇〇 七〇〇〇 四七一七〇〇	一〇三三三六〇 三九〇三五〇 三四三七六 五五三七七 五五三七七 三四三六六	一五九六三五五 三二二〇〇 一六〇〇〇

全	道南 清忠	北道 忠清	道 鐵
精	瓦電鐵精	精	其煙再礦瓦 計 製 及煉
米	氣工米	米	他草鹽造瓦
一〇	八一一一五	一一	五三〇二五四三
一七七五〇〇	一三六八五〇 八〇〇〇〇 一〇〇〇〇 五五〇〇〇	五〇〇〇〇 五〇〇〇〇	九三三四五五〇 一〇九二〇〇〇 一三三三〇〇〇 七三〇〇〇〇 四〇〇〇〇
一一	二二一八一四		一七〇九〇七六九
五七	一八一〇五二二	一一	七七八九四二五八
二四九	八一六三八六四	四 四	五〇一三三七 三七六九九 二二四 一一〇
			一九
三〇六	九九一六八九六	五 五	九八八九八 三三二 三九一九 二二六 八二 一五七
一五四九二五五	二六四八八 四二〇〇 七四八八 六〇〇〇 二四六九〇〇	二四七五〇 二四七五〇	七八五二〇七六 一五四三六〇 二二七四七五四 二二〇八二九 二五三三三 三六七〇〇

第十一章 工業	北鏡成	南道	道北安平				道南	
	製印	煉	製製醃精				其煙礦瓦	
	材刷	計	煉材造米				他草造	
	二一	一一	七	三	二	一	一	四
	二五〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇	二二五〇〇〇	一四三〇〇〇	五〇〇〇〇	一〇〇〇〇	八八四二〇〇	一〇〇〇〇〇
	三	一	二	九	八	一	二	九
	二二五	八八	五三	二二	六	三五	二二	一九
	二二五	三三	一七	九	六	一〇	七	一六〇
	四	一	二	〇	三	二	一	一
	二六	三〇	三三	一六	九	二	九	二六
	二〇〇〇〇	一〇〇〇〇	六〇四三〇〇	九八三三〇	一八〇〇〇	一八四〇〇〇	一六〇〇五八一	五三、四五〇

三四七

安平	道黃	道南尙慶				
電印精	精	其煙再礦瓦				
氣刷米	米	他草造				
二二五	一一	四八	九	一	三	四
四五〇〇〇〇	二〇〇〇〇	四〇〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇	七五〇〇〇	一八〇〇〇〇	四〇〇〇〇〇
二二	二二	六	七	一	三	八
九	六五	五	八	五	六	四
六	四二〇	七	一	〇	一	九
一五	五五	一	二	〇	二	五
一五	七五〇〇	三〇	二〇	八七	五	五

三四六

備考 符號(×)ハ月給ナ(※)ハ月給又ハ年給附テ示ス

上 擧 げ 職 業 (賃 金 人 夫)		初 級 職 人 内	中 級 職 人 内	高 級 職 人 内	初 級 職 人 内	中 級 職 人 内	高 級 職 人 内	初 級 職 人 内	中 級 職 人 内	高 級 職 人 内	初 級 職 人 内	中 級 職 人 内	高 級 職 人 内	初 級 職 人 内	中 級 職 人 内	高 級 職 人 内	初 級 職 人 内	中 級 職 人 内	高 級 職 人 内	
平	擧	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
醬	油	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
人	製	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
足	職	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
杜	版	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
沿	植	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
靴	職	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
洋	裁	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
洗	縫	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
金	細	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
彫	工	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
鍛	職	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
鐵	職	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
桶	冶	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
表	具	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

三五〇

第十二章 土地調査

三五三

一目的 土地調査の目的ハ土地所有權ヲ確認シ權利ノ紛争ヲ未然ニ防止セムコトヲ期シ土地ノ所有主、地目、疆界及面積ヲ調査測量シテ地積ヲ明カニシ且財政ノ基礎ヲ確實ニシ負擔ノ公正ヲ期セムカ爲土地ノ品位、等級ヲ調査スルニ在リ元來朝鮮ノ土地ハ舊法典タル大典會通及最近施行ノ土地家屋證明規則、土地家屋典當規則、國有未墾地利用法、土地家屋所有權證明規則等ニ依リ個人ノ所有權ヲ認メタルモノト稱フヘキモ證明規則ニ依ルノ外ハ其ノ所有權ヲ證明スヘキ方法ナク而カモ其ノ證明方法タル當該官廳ニ土地家屋帳ノ設備アルニアラスシテ單ニ證明ノ出願ニ對シ調査スルニ過キス其ノ往往ニシテ正誤ヲ失スルモノアルモ亦固ヨリ其ノ所ナリ若シ夫レ未タ證明ヲ經サル土地ノ所有者ニ在リテハ之カ賣買等ニ際シ作成スル私文記若ハ占有ノ事實ニ依リテ所有權ヲ主張スルノ外他ニ的確ナル證明方法アルコトナシ是ノ故ニ廢權利ノ紛争ヲ生シ解決ノ爲實地ニ踏査スルモ其ノ判定猶甚々容易ナラス縱令裁判ノ判決アルモ其ノ執行亦頗ル困難ナルヲ免レス從來ノ制度既ニ斯ノ如シ是

レ速ニ土地調査ヲ行ヒ以テ地籍ヲ明カニスルト共ニ財政ノ基礎ヲ鞏固ナラシメムトスル所以ニシテ彼ノ單ニ増稅ヲ目的トシタル從前ノ量田ト同日ノ談ニ在ラス

二效果 一國ノ政治經濟ノ發達カ土地所有權ノ確認ニ基クコト多大ナルハ歐米諸國及其ノ殖民地ノ歷史上顯著ノ事實ナリトス之ヲ朝鮮ノ實況ニ鑑ミレハ土地家屋帳ノ備ハルモノナク土地所有權ノ確認亦殆ト之アルナシ加之其ノ面積ハ斗落ト云ヒ日耕ト稱シ之カ廣狹ヲ算定スルノ準規漫トシテ捉フヘカラス然レトモ土地調査完成ノ曉ニハ其ノ效果ノ及フ所單ニ產業及財政ノ基礎ヲ鞏固ナラシムルニ止ラス令其ノ效果ノ主ナルモノヲ舉クレハ左ノ如シ

イ 地籍ヲ明カニシ土地ノ所有權其ノ他土地ニ關スル諸般ノ權利ヲ確認スルカ故ニ土地ノ經濟的價値ヲ増進シ其ノ價格ヲ騰貴セシム

ロ 土地ノ權利ニ關スル證明又ハ登記ノ制度ヲ的確ニ實行スルコトヲ得テ賣買、讓與及抵當權等ノ設定ヲ容易ナラシメ土地ノ經濟的利用ヲ増大セシム

ハ 世運ノ進歩人文ノ發展ニ伴ヒ必然生スヘキ土地ノ紛争ヲ未然ニ防止スルコトヲ得

ニ 地稅ノ基礎ヲ確實ニシ負擔ノ公正ヲ得セシムルカ故ニ歲入ノ増進ヲ期シ得ヘク財政ノ運用ヲシテ圓滿ナラシム

ホ 産業ノ開發其ノ他行政ノ施設改善ハ地積ノ整理ヲ待テ確實ナル效果ヲ舉クルコトヲ得ヘシ

三 附註 朝鮮ノ土地調査ニ關シテハ外國ノ事例ヲ參照シタルモノアリト雖主トシテ範圍ヲ執リタルハ日本内地ニ於ケル地租改正、沖繩ニ於ケル土地整理及臺灣ニ於ケル土地調査ニシテ就中臺灣ニ學ブ所最多シ

イ 調査ノ範圍及成功期限 調査ノ範圍ハ耕地、宅地ヲ主トシ山林原野(其ノ多クハ國有ニ屬ス)ハ單ニ調査地固ニ介在スルモノノミ止メ其ノ他ハ事業發達ノ關係上姑ク之ヲ除外セリ、調査地ノ總面積ハ二百七十五萬五千町步此ノ筆數一千三百七十七萬五千筆ニシテ四十二年三月閉局ノ時ヨリ滿七箇年ヲ以テ調査ヲ完了スル豫定ナリ

ロ 従事員ノ養成 調査及測量ノ従事員ハ其ノ指導監督ノ任ニ當ルモノヲ除クノ外專ラ朝鮮人ヲ養成シテ之ニ充ツ即チ一面ニ於テハ技術員ノ養成ヲ各地ノ農業學校等ニ委託スル外局員養成所

ヲ京城ニ設ケ(當初ハ舊官立漢城高等學校及同外國語學校ニ臨時事務員若ハ技術員養成所ヲ附設シ委託養成ノ方法ヲ採リタリ)土地調査局直接經營ノ下ニ事務員及技術員ヲ養成シ他面ニ於テハ同局ニ於テ局員ニ對シ講習又ハ實習ノ道ヲ開キ以テ事業ノ必需ニ應スヘキ此等従事員ノ養成ヲ爲シ居レリ

ハ 諮問機關 土地所有權及疆界ノ調査ハ之ヲ地方土地調査委員會ニ諮問シテ調査ノ適否ヲ審理セシメ土地調査局長之ヲ査定ス(地方土地調査委員會ハ各道長官主宰ノ下ニ之ヲ開設ス)而シテ其ノ査定ニ對シ異議アル者ニハ高等土地調査委員會ニ再審且最終ノ裁決ヲ求ムルコトヲ得セシム

ニ 土地濠帳及地圖 土地調査ノ終了ニ隨ヒ土地濠帳及地圖ヲ調製ス土地濠帳及地圖ノ調製ヲ終リタルトキハ之ヲ濠帳保管廳ヘ移付シ土地所有權移轉登錄ノ方法ヲ開始シ一般民衆ヲシテ成ルヘク速ニ土地調査ノ效果ヲ享受セシメントス

四 實地調査細部測量ノ著手及完成豫定年度道別一覽左表ノ如シ

五近時朝鮮ノ進運著シキモノアリ之ニ伴ヒ各道市街地ノ土地調査ヲ急應スルノ必要ヲ認メ明治四十

京	忠	全	全	慶	慶	廣	平	平	江	成	成
道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道
畿	清	羅	羅	尙	尙	安	安	鏡	鏡	鏡	鏡
北	北	南	南	南	北	北	北	南	南	南	北
道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道
明	明	同	同	大	同	同	同	同	同	同	同
治	治	正	正	治	正	正	正	正	正	正	正
四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度
大	大	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
正	正	正	正	正	正	正	正	正	正	正	正
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度

三五六

五年度ヨリ左記各地ノ調査ニ著手シ大正二年度ニ於テ全部了スルノ豫定ナリ
 京城、仁川、大邱、水原、咸興、元山、羅南、清津、會寧、鏡城、義州、新義州、鎮南浦、
 全州、群山、江界、平壤、開城、大田、公州、金泉、清州、馬山、晉州、光州、木浦、羅州、
 海州、鎮海

第十二章 土地調査

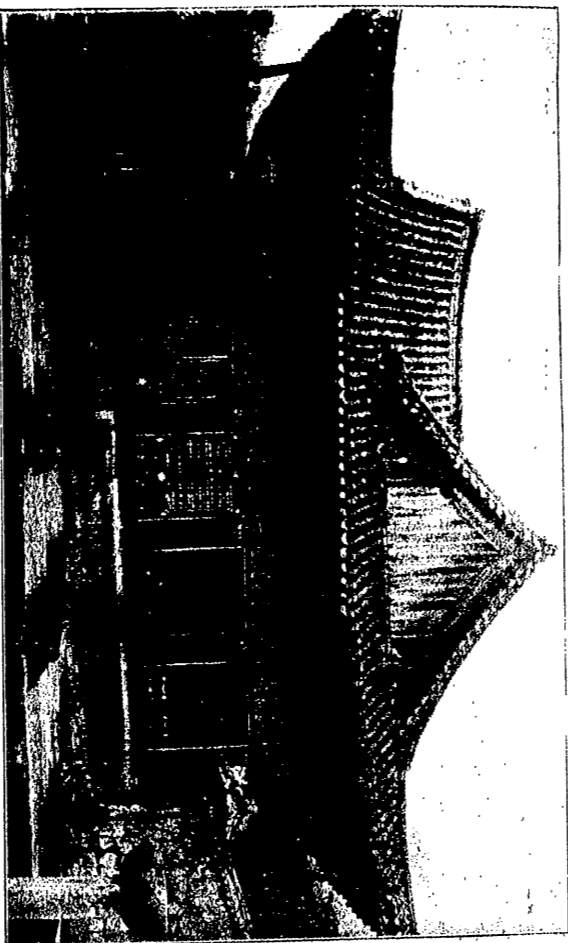
三五七

第十三章 宗教

朝鮮ノ佛教ハ傳來ノ緣由甚々深遠ナルニ拘リス近古四百年來國家ノ制度上種種ノ方面ヨリ抑壓ヲ受ケ沈衰其ノ極ニ達シ徒ニ寺刹ノ名ノミ在リテ實質其ノ存在ヲ認メサルノ狀況ヲ呈セリ明治四十四年九月ヨリ寺刹令ヲ施行シ住持ノ就職ヲ認可シテ當器ノ人物ヲ得寺務管理上無責任ノコトナカラシムルヲ期シ本寺末寺ノ關係ヲ明カニシテ階次監督ノ制ヲ設ク寺務運用ニ不規律不整理ノコトナカラシムル爲從來ノ慣行ト時運趨勢ニ伴フテ實施スヘキ條規ヲ立テ寺法ヲ定メ認可ヲ受クヘキモノトナシ又寺有財產ノ散逸濫費ヲ防止スルニ要用ナル法規ヲ設ケテ保護監督兩併行シ以テ寺刹本來ノ體用ト僧侶ノ行持ニ一新生面ヲ啓クヘキ基礎ヲ確立セリ今左ニ最近ノ調査ニ係ル寺刹僧侶祠院ノ員數ヲ示スヘシ

寺刹祠院及僧侶一覽

道	別	寺	刹	祠	院	計	僧	尼	計	尼
京	畿	道	一一七	一一	一一	一一九	八六〇	一三九	九九九	



慶應大寺慶應在所里隣掛面東外部慶應北向慶

忠清道	忠清南道	忠清北道	全羅南道	全羅北道	慶尚南道	慶尚北道	黃海道	平安南道	平安北道	江原道	咸鏡南道	咸鏡北道	總計
三九	六五	九七	五九	五八	一〇六	一〇六	五八	四三	四三	八四	四六	二五	九六
三三	三三	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	四四
三九	六八	九八	五八	五八	一一一	一一一	六一	四三	四三	八六	四七	二五	一〇一〇
二六	二八	二八	二八	二八	二八	二八	二八	二八	二八	二八	二八	二八	五二〇
二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	五六九
一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	五七九

朝鮮ニ於ケル基督教ハ其ノ傳來後三百年間ニ於テ抑止禁遏ノ苦境ヲ忍ビテ其ノ命派ヲ保チタルカ各
國下開港條約ヲ結フニ方リ各居留地ニ於テ公然布教ノ自由ヲ得何時シカ其ノ地域ヲ越テ教線ヲ張リ

第十三章 宗教

明治三十九年統監府令ヲ以テ内地人ニ居留地外ニ於テ布教ヲ許ス制度ヲ設ケルト共ニ他ノ各國人モ日本人ト同シク居留地外ニ於テ公然布教スルヲ得ルモノトナレリ而シテ最近ノ調査ニ係ル基督教布教狀況ハ左表ノ如シ

基督教布教狀況

道別	教會		其他		宣教師		信徒	
	堂	所	所	集會	人	人	内地	外域
京畿	19	7	1	1	1	1	1	1
忠南	1	1	1	1	1	1	1	1
全北	1	1	1	1	1	1	1	1
全南	1	1	1	1	1	1	1	1
慶北	1	1	1	1	1	1	1	1
慶南	1	1	1	1	1	1	1	1
總計	24	11	5	5	5	5	5	5

宗派別基督教一覽

宗派	外國宣教師		朝鮮人牧師及助手		教會堂	集會所	朝鮮人信徒
	人	人	人	人			
米國長老派	60	91	305	374	7,509		
米國長老公會	46	273	116	137	2,069		
英國聖公會	11	100	25	25	3,974		
露國公會	1	8	3	1	188		
總計	118	372	449	537	14,140		

年次	四十一年		四十二年		四十三年		四十四年		合計
	佛敎	神道	佛敎	神道	佛敎	神道	佛敎	神道	
教務所	三七	七	四	四	三	九	七	九	四〇
脱教所	四六	三	七八	一〇	五五	一三	八七	七三	六
布教師	一〇二	一八	一六	一〇	一八	三九	四七	五九	四
内地人	二九、九三九	三、二二七	三八、六八六	四、九六六	三四、三六五	三、八二五	四三、〇一六	三九、三五六	七、八二三
朝鮮人	一三、二〇八	三〇六	一七、六九二	一、七七一	一六、五二〇	一、二七一	三〇、八八二	二七、三九三	三〇、八八六
外國人	一	三	一	三	二	二	二	二	二
計	四三、二四七	二、六三四	五九、三六〇	六、六六五	五〇、八八五	五、一〇九	七三、九〇〇	六一、六四九	一〇、九一一

第十三章 宗教

三六三

總計	大韓	浸禮	加奈	漢洲	英國	救世	安南	米國	米國	佛國
二七四	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
二二七	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
七三〇	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六
九六六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一九四八三	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七

然り而シテ内地人ノ發展ニ伴ヒ基督敎、佛敎、神道ノ布敎モ漸次地歩ヲ占ムルアリテ内地人ノ密集スル要地トシテ寺院堂宇ヲ見サルナキニ至レリ

内地人設立教務所脱教所及布教師信徒

三六一

第十四章 教育

一 内地人の教育

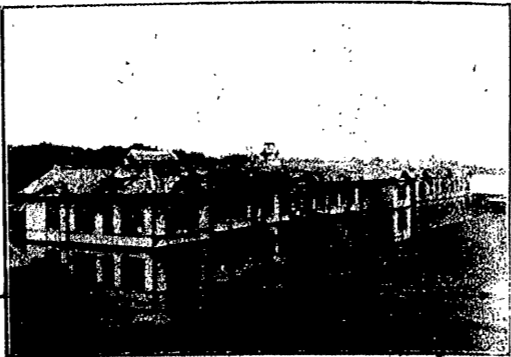
朝鮮ノ發展ニ伴ヒ内地人ノ移住スル者日ニ増加シ教育機關ノ設置ハ焦眉ノ急ト爲リシカ既ニ京城、仁川、釜山、元山、平壤等ノ都會ニ在リテハ教育機關ノ設ケラルルアリト雖比較的内地人ノ少ナキ地方ニ在リテハ一小學校ノ設置スラ容易ナラス茲ニ於テカ明治四十二年二月統監府ハ小學校規則ヲ發布シ之カ設置改善ヲ計リ内地諸學校トノ聯絡ヲ保持スルカ爲メ教授科目ヲ統一シ小學校ノ設置、廢止ハ總テ理事官ノ認可ヲ要シ教員ハ原則トシテ小學校教員免許狀ヲ有スルコトヲ要シ且其ノ任命權ハ理事官ニ屬スルコトトセリ本規則發布ノ結果亦文部省ハ省令ヲ以テ在韓小學兒童及卒業者入學轉學ニ關シ其ノ在外指定學校タルト否トニ拘ラス全然内地ニ於ケル小學校ト同一ノ取扱ヲ爲スヘキコトヲ認メタリ

明治四十二年十二月學校組合令發布セラル蓋内地人ノ集關地ニシテ其ノ發展ノ程度未ダ居留民團ヲ

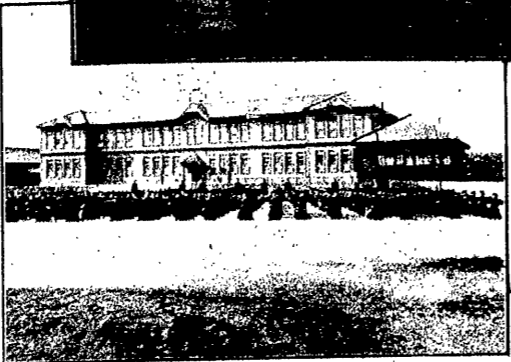
設置スルニ至リサル地ニ在リテハ居留民ハ日本人會ヲ組織シ教育衛生等ノ公共的事業ヲ經營セルモ是レ唯事實上ノ團體ニ過キスシテ團體員ニ對シ經費ノ負擔ヲ強制シ得ル權能ナク從テ其ノ基礎薄弱ニシテ事業ノ發達ヲ期シ難カリシヲ以テ本令ニ依リ設立セラレタル組合ヲ法人トシ之ニ經費ノ負擔ヲ強制スルノ權能ヲ付與シ以テ團體ノ基礎ヲ鞏固ナラシメ併セテ其ノ經營事業ノ發達ヲ企圖セリ

明治四十三年六月統監府令ヲ以テ在外指定學校規程發布セラル本令ニ依リ指定セラレタル學校職員ハ在外指定學校職員退職料及遺族扶助料法ニ依リ待遇セラルヘキ特典ヲ有スルト共ニ他方ニ於テハ此ノ特典ヲ享受セムカ爲指定セラルヘキ學校ハ其ノ管理及維持ノ方法確實ニシテ所定ノ學科ヲ教授スルニ足ルヘキ相當ノ教員及設備ヲ具ヘ特ニ統監ノ指定ヲ經タルモノナルコトヲ要シ同校職員ニ對スル懲戒權ハ所轄理事官ニ屬セシメシカ併合ノ結果官制改正ニ伴ヒ其ノ職權ハ道長官ノ管掌ニ移レ

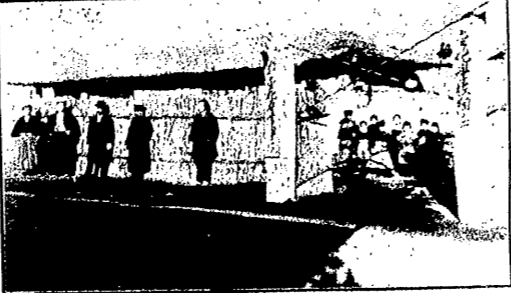
朝鮮ニ於ケル内地人教育ハ固ヨリ内地ニ於ケル教育方針ト異ル所ナリ其ノ制度亦大差アルヘカラスト雖朝鮮ノ事情ニ應ジテ特ニ注意ヲ要スルモノアルト又時勢ノ變遷ニ伴ヒ新ニ規定ヲ要スルモノア



朝鮮總督府中學校(在京城)



京城南大門公立尋常小學校生徒體操中ノ景



江原道金化公立尋常小學校

ルトヲ以テ明治四十五年三月府令ヲ以テ朝鮮公立小學校、同高等女學校、同實業專修學校、及簡易實業專修學校ノ各規則並是等諸學校官制其ノ他關係諸法規ノ發布アリテ四月ヨリ之ヲ實施シタリ右諸規則ニ於テ朝鮮ニ於ケル内地人ノ教育上特ニ注意スヘキ要項ヲ明ニシ公立學校ハ居留民間又ハ學校組合ノ設置ニ限リ其ノ設置ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケルヲ要シ且公立各學校官制ニ依リ職員ノ身分定マリ各官吏ニ任命シ其ノ任免ハ朝鮮總督之ヲ爲ス等ハ新制ノ主要ナル點ニシテ其ノ實施ハ遺算ヲ行ハレタリ而シテ從來朝鮮ニ於ケル學校職員ハ在外指定學校以外ニ在リテハ退職料及遺族扶助料ヲ受ケルノ權利ヲ有セザリシカ公立學校職員ノ身分確定スルト共ニ明治四十五年三月法律第十一號ヲ以テ朝鮮ニ於ケル學校職員ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ支給テ受ケサル文官列任以上ノ者ノ退職料及遺族扶助料ニ關スル件並勅令第七十號ヲ以テ同法施行ニ關スル件發布セラレ又同四月朝鮮總督府令第八十二號ヲ以テ公立學校職員退職料及遺族扶助料支給規則實施セラレタルヲ以テ茲ニ公立學校職員ハ總テ同法ニ依ル待遇ヲ受ケルニ至レリ

現在ニ於テ内地人ヲ教育スル學校ハ公立小學校百八十五、朝鮮總督府中學校一、公立高等女學校三、

公立商業專修學校二、公立簡易商業專修學校二、私立專門學校一、及私立各種學校三あり而シテ公立小學校ハ執レモ居留民團又ハ學校組合ノ設立ニ係リ公立高等女學校、公立商業專修學校及公立簡易商業專修學校亦居留民團ノ設立ニ係レリ

元統監府ハ他方ニ於テ補助金ヲ下附シ學校ノ新設及其ノ完備ヲ促シタリシカ朝鮮總督府モ亦居留民團及學校組合ノ設立ニ係ルモノニハ國庫ヨリ補助金ヲ支給シ私立學校ニ在リテモ成績良好ナルモノニ對シテハ夫夫之ヲ交付シツツアリ今最近六箇年間ニ於テ下附セラレタル教育費補助金額ヲ示セハ左ノ如シ

内地人學校教育費補助金額年一覽表

年 度	學 校 數	金 額	一 校 平 均
明治四十五年度	小學校 一七一 中等學校 五	九一、七一八 一、二〇、〇〇〇	五八六 二、四〇〇
同 四十四年度	小學校 一五七 中等學校	七八、八〇〇 一三、〇〇〇	五一二 二、六〇〇

年 度	學 校 數	金 額	一 校 平 均
同 四十三年度	同	五五、〇〇〇	四九一
同 四十二年度	同	四〇、〇〇〇	四六五
同 四十一年度	同	三〇、〇〇〇	四八三

備考 本表中一校平均額ハ經常補助金及一時補助金ヲ合計通算シテ校數ニ等分シタルモノナリ
朝鮮總督府中學校ハ朝鮮唯一ノ中學校ニシテ京城四部慶熙宮內ニ在リ明治四十三年勅令第九十九號ニ依リ同年四月一日ヨリ開設セラレ統監府中學校ト稱シ同年三月三十一日廢校ニ係ル元京城居留民團立京城第一中學校第一學年、第二學年、第三學年生徒ヲ引續キ各相當ノ學年ニ之ヲ編入シ同年六月一日文部省告示ヲ以テ本校第一部(普通科)生徒及卒業者ハ他ノ學校へ入學轉學ニ關シ中學校令ニ依リ設置シタル府縣立中學校生徒及卒業者ト同等ト認メラレ同年九月官制改正ニ從ヒ朝鮮總督府中學校ト改稱セリ校會其ノ他諸般ノ設備内地中學校ニ觀ラス目下在學生五百〇八名、學校長ヲ奏任トシ奏任教諭アリ左ニ最近ノ概況ヲ表示スヘシ

朝鮮總督府中學校 ×印ハ兼務者△印ハ外國人以下同シ (大正元年九月現在)



種別	生徒数		計		職員数		設立年月
	第一學年	第二學年	計	職員	教員	計	
朝鮮總督府 中學校	一六五	一四三	三〇八	一	一〇	一一	一九〇三
附屬臨時小學校 教員養成所	二七	—	二七	—	—	—	—
計	一九二	一四三	三三五	一	一〇	一一	一九〇三

從來朝鮮ニハ小學教員ノ養成所ナラズ加フルニ朝鮮ニ於ケル教育者ハ又特種ノ素養ヲ要スルモ
アルニ因リ四十四年三月勅令ヲ以テ臨時教員養成所ヲ設置セラレ朝鮮總督府中學校内ニ設クルコト
ト爲リ同養成所ニハ中學校長ノ推薦ニ係ル中學卒業者ヲ入學セシメ一箇年間ノ教育ヲ終ヘタル者ヲ
小學教員トシテ採用スルモノニシテ養成所ハ一學級ノ組織トシ本年三月第一期卒業生二十七名ヲ出
シ各道ノ小學校ニ赴任セシメ現今第二期生二十七名ヲ收容セリ

高等女學校

(大正元年九月現在)

學 校 名	所在地	管理者	生徒数		計		職員数		設立年月
			本科	補習科	計	校長	教員	計	
京城公立高等女學校	京城	川山	二〇〇	—	二〇〇	—	—	—	一九〇三
南山町居留民團	南山町	居留民團	—	—	—	—	—	—	—
計			二〇〇	—	二〇〇	—	—	—	一九〇三

學 校 名	所在地	管理者	生徒数		計		職員数		設立年月
			本科	補習科	計	校長	教員	計	
釜山公立高等女學校	釜山	居留民團	七四六	—	七四六	—	—	—	一九〇三
仁川公立實科高等女學校	仁川	居留民團	—	—	—	—	—	—	—
計			七四六	—	七四六	—	—	—	一九〇三

專門學校

(大正元年九月現在)

學 校 名	所在地	管理者	學級數	生徒數	校長	教員	計	設立年月
東洋協會專門學校	京城	東洋協會	—	—	—	—	—	一九〇一
京城分校	大和町	—	—	—	—	—	—	—

商業專修學校

(大正元年九月現在)

學 校 名	所在地	管理者	本科	補習科	計	職員	教員	計	設立年月
釜山公立商業專修學校	釜山	居留民團	二二〇	—	二二〇	—	—	—	一九〇三
計			二二〇	—	二二〇	—	—	—	一九〇三

第十四章 教育

第十四章 教育

道別	校數	學級數	男	女	計	男	女	計
京畿道	二〇	一三八	三、七六〇	三、三〇二	七、〇六二	一三八	三九	一七七
忠清道	二〇	一五	一、七一一	一、四二二	三、一三三	一一	六	一八
全羅道	二二	三三	五、三三七	四、八八七	一〇、二二四	二八	〇	二八
全羅道	二二	二九	五、七六六	四、八八〇	一〇、六四六	二九	六	三五
慶尚道	一六	三三	六、四四四	五、五五〇	一二、九九四	二九	六	三五
慶尚道	一六	三三	六、八八五	六、一七〇	一三、〇五五	二九	六	三五
黃海道	四〇	一三六	三、一〇一	二、六七七	五、七七八	一四	三	一七
平安道	二二	一六	二、〇六	一、九四	四、〇〇	一	〇	一
平安道	二二	一六	八、一五	七、二二	一五、三七七	一	〇	一
江原道	二二	一六	二、五五	二、二八	四、八三	一	〇	一
咸鏡道	八	九	四、七四	四、九九	九、七三	一	〇	一
計								

三七三

公立小學校

(大正元年九月現在)

學校名	所在地	管理者	生徒數	學級數	職員數	其他職員數	計數	年設立
財團法人善隣商業學校	京城	大倉喜八郎	一六四	三	一	一	一	四一四
私立法政專門學校	京城	胡崎喜三郎	七九	五	一	一	一	四三、四
女子技藝學校	旭町	湖崎喜三郎	六九	四	一	一	一	四三、四
私立京城夜學校	旭町	湖崎喜三郎	三二	三	一	一	一	四三、四

各種學校

學校名	所在地	管理者	生徒數	學級數	職員數	其他職員數	計數	年設立
仁川公立商業專修學校	仁川	居留民 山川	一五二	一〇	一	一	一	四一四
元山公立簡易商業學校	元山	居留民 山川	一八	三	一	一	一	四一四
平壤公立簡易商業學校	平壤	居留民 關東	二二	一	一	一	一	四一四
專修學校	計		三三〇	九五	四	四	四	四一四

三七二

(大正元年九月現在)

府設置セラレ其ノ指導ノ下ニ更ニ教育ノ刷新ニ從事シ法令ノ改廢ヲ行ヒ普通學校、高等學校、外國
語學校、高等女學校及實業學校等ヲ設置シ内地人教員ヲ配置シ教科書ヲ編纂シ大ニ舊態ヲ改メタリ
明治四十三年韓國併合ニ際シ諸般官制ノ改革アリタリト雖獨リ教育ノ制度ハ事根本ノ問題ニ屬スル
ヲ以テ暫ク舊制ヲ存續シ先ツ時世ノ變遷ニ伴フ當然ノ改廢ヲ加ヘ新政ニ戻ル所ナカラシメタリ爾
來併合後ニ於ケル時世ノ趨向、民衆ノ實際ニ鑑ミ周到ナル調査ト研究トヲ重ネテ新制度ヲ樹テ明治
四十四年八月朝鮮教育令ヲ發布シ同十月各學校官制及規則ヲ發布シ十一月共ニ之ヲ實施シタリ
朝鮮教育令ハ朝鮮人教育ニ關スル主義綱領ヲ明ニシ且教育ノ種類ヲ一定シ朝鮮人ノ教育ハ教育ニ關
スル勸諭ノ御趣旨ニ基キ忠實ナル國民ヲ育成スルヲ本義トシ時世民智ニ適スル教育ヲ施スコトヲ努
メ以テ徳性ノ涵養ト國語ノ普及ニ力ヲ致シ日常生活ニ必須ナル智識技能ヲ授ケ學校ノ系統及程度ヲ
簡約ニシテ時務ニ遠カラシメサルコトニ力メタル點ハ新令ノ主眼トスル所ニシテ各學校ヲ通シ此ノ
一貫ノ趣旨ヲ遵守セムコトヲ期セリ

新教育令ハ普通、實業及専門ノ三教育ニ關スルモノニシテ普通教育ノ機關トシテ普通學校高等普通

學校及女子高等普通學校ヲ置キ實業教育ノ機關トシテ農業學校、商業學校、工業學校及簡易實業學校專門教育ニ專門學校ヲ設クルコトト爲セリ而シテ普通學校教員養成ノ機關ニ至リテハ教育上及經濟上ノ利便ニ鑑ミ官立高等普通學校ニ師範科及速成科ヲ設クルコトトセリ

新制實施ノ結果設置セラレタルモノハ官立ニ於テ京城及平壤ノ兩高等普通學校、京城女子高等普通學校及京城專修學校ノ四校ニシテ舊來ノ高等學校、高等女學校及法學校ハ夫夫此ノ四校ニ變更セラレ舊來ノ師範學校ハ京城高等普通學校附設臨時教員養成所ニ變更シ外國語學校ハ之ヲ廢止シテ其ノ生徒ハ京城高等普通學校ニ併セ公立ハ普通學校及實業學校ノ二種トシ現在普通學校三百三十八校實業學校四十五校ヲ有シ内十七校ハ普通學校ニ附設セル簡易實業學校ナリトス此等公立學校ハ地方ノ經營ニ屬シ國庫ヨリハ年々補助金ヲ支給スルコトトセリ

普通學校ハ併合當時ニ於テハ公立一百校ニ過キサリシガ併合ニ際シテ下賜セラレタル臨時恩賜金利子五分ノ一半ハ教育特ニ普通教育ノ經費ニ充當スヘキコトトシ其ノ經營ハ主トシテ四十四年度以降ニ於テ實行ナ見ルニ至リ右恩賜金利子ヲ基礎トシ國庫及地方費ノ補助、學校財產收入等ヲ合シテ明治

四十四年ニ於テハ一百三十四校ヲ新設シ四十五年ニ於テハ更ニ百七校ヲ増設シ殆ト一郡一校ヲ有スルニ至レリ

私立學校ハ全道ニ亘リ現在約一千三百餘校ヲ數ヘ内約五百餘校ハ外國宣教師ノ管理ニ係リ學科中ニ宗教ノ一科ヲ課スルモノナリ私立學校ハ一時濫設ノ狀況ヲ呈シ監督ノ必要アルニ因リ舊韓國政府ハ明治四十一年私立學校令ヲ發布シテ之ヲ指導監督ニ力メタリシモ四十四年十月新教育令ノ實施ニ際シ總督府ハ新ニ私立學校規則ヲ發布シテ之ニ代ラシメタリ私立學校ハ近來著シク減少シ併合若ハ廢止ニヨリ廢校ノ届出ヲ爲スモノ頗ル多シ蓋其ノ歸因スル所維持困難ナルト私立學校ノ整理改善ニ昂メタルニ因ル

官公立普通學校

(大正元年九月現在)

種別	道	別	校數	學級數	兒童數		內地人	朝鮮人	計數	
					男	女				
京	畿	道	四八	一八四	七三三	七三三	八〇二	六四	一七五	二三九

第十四章 教育

三七七

立	官	立										公		
		咸鏡北道	咸鏡南道	江原道	平安北道	平安南道	黃海道	慶尚北道	慶尚南道	全羅北道	全羅南道		忠清北道	忠清南道
計	普通學校	三三六	二二二	一四一	二五五	二二五	二八〇	一八九	二八一	四一	二九	二八	二四	一八
		一〇八	三七	五七	六六	八六	三〇一	二九四	一八二	一〇三	九六	八三	五六	四九
		二五九	二五九	四〇,二八	一,四七三	二,三三九	二,四八二	三,〇〇一	二,九四四	一,八二二	三,五一九	三,四六一	四,〇九一	三,〇三九
		一三七	一三七	三六〇	四〇,二八	二〇五	一,六七八	二,五七五	二,六四〇	三,二七一	三,九七三	三,七七二	四,三六六	一,七六三
		三九六	三九六	四三,七二八	一,六七八	二,五七五	二,六四〇	三,二七一	三,九七三	三,七七二	四,三六六	三,一九八	二,八〇六	一,七六三
		一三	一三	三九五	一五	一九	二五	三六	二八	二〇	三〇	四七	三〇	二六
		八	八	一〇七	三三	五七	六七	八九	八〇	五一	一〇二	一三三	九七	八〇
		二二	二二	一,四六六	四七	七六	九二	一二五	一〇八	七一	一三三	一七九	一一七	八五

三七八

合	計	三三八	一〇九一	四〇,三八七	三,七七七	四四,二四	四〇八	一,〇七九	一,四八七
---	---	-----	------	--------	-------	-------	-----	-------	-------

備考 職員中ニハ兼務者ヲ含ム
高等程度諸學校

官	別種	學校名	所在地	生徒		學級數	職員		開校年月
				男	女		職員	其他	
京城高等普通學校	京城	京城	京城	八四		八四	一	一	四四・二
京城高等普通學校	京城	京城	京城	六五八		六五八	一	一	三九・九
京城高等普通學校	京城	京城	京城	三七九		三七九	一	一	四四・一
京城高等普通學校	京城	京城	京城	四三		四三	一	一	四四・一
京城高等普通學校	京城	京城	京城	二二六		二二六	一	一	四四・一
京城高等普通學校	京城	京城	京城	一九二		一九二	一	一	四四・一
京城高等普通學校	京城	京城	京城	一四五		一四五	一	一	四四・一
京城高等普通學校	京城	京城	京城	四七		四七	一	一	四四・一
京城高等普通學校	京城	京城	京城	一四二		一四二	一	一	四四・一

第十四章 教育

三七九

第十四章 教育

三八一

別科	公立										計	
	京	忠	全	全	慶	慶	平	平	江	成		
道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道
別	農	農	農	農	農	農	農	農	農	農	農	農
科	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業
校數	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
生徒數	一七五	一七五	一七五	一七五	一七五	一七五	一七五	一七五	一七五	一七五	一七五	一七五
學級數	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
內地人	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
朝鮮人	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
計數	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三

備考 職員數中×印ハ兼務者ヲ示ス
實業學校

(大正元年九月現在)

合	私立				公立			
	計	技	木	科	計	技	木	科
計	八	一	一	一	九	四	一	一
生徒數	一三三	三三	三三	八〇	一四二	四四	九八	九八
學級數	二	二	二	五	三〇	三	三	三
內地人	×	×	×	×	×	×	×	×
朝鮮人	×	×	×	×	×	×	×	×
計數	四	三	三	四	一〇	二	二	二

三八〇

テ醫師タルノ資格ヲ有スル者ナリ、唯邊境又ハ孤島等ニ在リテハ資格アル醫師ヲ開業ヲ許ミ得ヘ
 カラサル事情アルニ依リ相當經歷アル者ニ對シ地域及年數ヲ限リテ開業ヲ許セリ
 産婆ハ從來朝鮮人ニ於テ就業スル者ナシ而シテ内地人タル産婆ハ内地人ノ増殖ニ伴ヒ漸次其ノ數
 ナ加ヘツツアレトモ尙全土ニ於テ僅ニ二百三十一人ニ過キス故ニ産婆ノ開業ナキ地ニ住居スル
 内地人ノ不便謂フヘカリス爲ニ往來難産ニ困シミ正規ノ産婆ヲ遠クル能ハサルモノアルヲ以テ出
 産期ニ際シテ多ク他所ニ移リ又ハ内地ニ歸還スルヲ例トシ殖民政策上影響スル所尠カラズ
 又朝鮮人ハ古來産時ニ他人ノ介保ヲ用ヒサルノ習慣アリ近時産婆ノ技能ヲ經驗スルニ迫テ大ニ倍
 頼ノ念ヲ生セリ而シテ從來朝鮮ニ於ケル産婆ハ内地ニ於ケル有資格者ニ限リ開業ヲ許セリ
 開業醫師及産婆ニ關スル現在數ハ左表ノ如シ

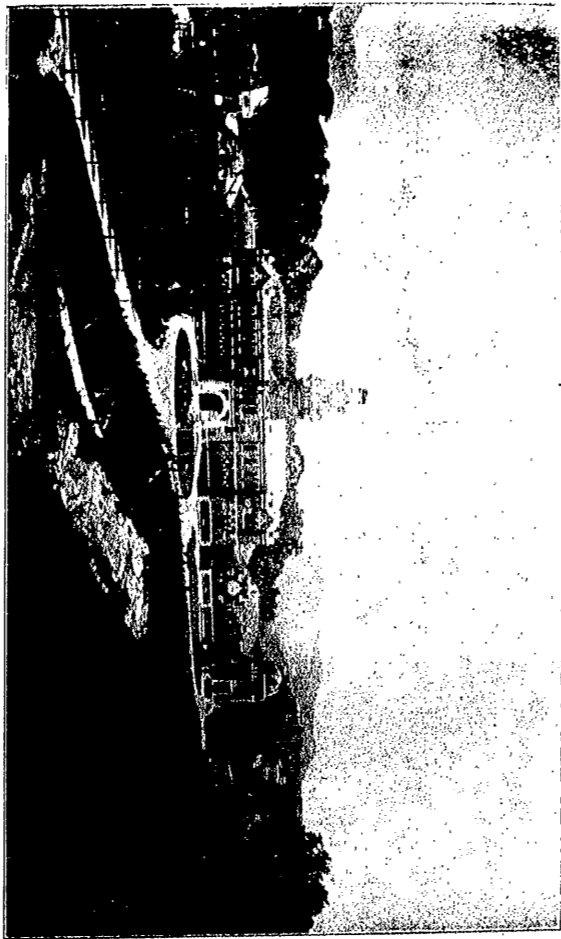
醫師、齒科醫師、産婆

(朝鮮人外國人ヲ除ク)

道	別	醫師	齒科醫師	限地開業醫師	産婆
---	---	----	------	--------	----

朝鮮人開業醫師年別及出身別

京城府内	忠清北道	忠清南道	全羅北道	全羅南道	慶尙北道	慶尙南道	黃海道	平安北道	平安南道	江原道	咸鏡北道	咸鏡南道	計
147	100	100	107	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
15	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
132	97	97	104	97	97	97	97	97	97	97	97	97	97
64	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18



景全院醫府督總鮮朝

前表以外ニ外國人タル醫師二十七人及從來開業ノ朝鮮人醫師一千八百六人アリ是レ多クハ家傳ニ係
ル漢法醫ニシテ技術極メテ拙劣到處人命ヲ托スルニ足ラサルモ而カモ朝鮮ノ如キ名醫乏シキ地ニ在
テハ又以テ醫療上ノ必要機關タラスムハアラス是レ遺憾方ニ禁止シ難キ所以ナリ

出身別	年別					
	四十一年	四十二年	四十三年	四十四年	大正元年	計
總督府醫事院						
官立醫院						
大韓醫院						
平壤同濟醫院						
世宗醫院						
平壤耶穌教醫院						
愛知縣立醫院						
計	七	一四	三〇	五三	六	一〇三
						一八四
						一四八
						四八
						二五
						五六

今試ニ資格アル醫術開業者ヲ全土ノ人口ニ比例スルニ其ノ一人ハ三萬二千九百六十四人ニ對シ之ヲ内地ノ醫師一人カ人口一千三百四十七人ニ相當スルカ如キニハ到底比スヘクモアラス而カモ開業醫ノ多クハ人家稠密ナル市街地ニ集注シ農村漁邑等ニハ殊ニ疎薄ナリ茲ヲ以テ一般ニ醫師ノ分布ノ普カラムコトヲ熟考シテ已マサル狀況ナリ

(H)病院、隔離病舎 病院トシテ官公立ノモノ及基督敎徒ノ設立ニ係ルモノヲ除ク外病院トシテ面目ヲ有スルモノ甚々少ナシ各道ニ於ケル病院及隔離病舎數ヲ擧クレハ左表ノ如シ

官私立病院

道 別	官 立	公 立	私 立	計
京城府	總督府醫院		內外人總計 二二〇	二二〇
京城府 其ノ他	慈惠醫院		內外人總計 一三	一三
忠清北道	同		內外人總計 二四	二四
忠清南道	同		內外人總計 二	二
全羅北道	同	郡山國立 一	內外人總計 二	三
全羅南道	同		內外人總計 一	一
計				六三一

第十五章 衛生

道別	官	有	公	立	計
京城道 其ノ他		—	順化院	—	—
忠清道		—		—	—
忠清南道		—		—	—
忠清北道		—		—	—
全羅南道		—		—	—
全羅北道		—		—	—
慶尙南道		—		—	—
慶尙北道		—		—	—
黃海道		—		—	—
平安南道		—		—	—
平安北道		—		—	—
江原道		—		—	—
咸鏡南道		—		—	—
咸鏡北道		—		—	—
計		—		—	—

三九一

四二三三三五一 | | 二 | 二一

傳染病院及隔離病舎

道別	官	有	公	立	計
全羅南道	慈惠醫院	—	本館同	—	—
全羅北道		—	釜山民團立	—	—
慶尙南道		—		—	—
慶尙北道		—		—	—
黃海道		—		—	—
平安南道		—		—	—
平安北道		—		—	—
江原道		—		—	—
咸鏡南道		—	釜山民團立	—	—
咸鏡北道		—	會社日本人會	—	—
計		—		—	—

三九〇

二二四 七四二 一一九 九九五 四

備考

外ニ陸軍所屬ノ病院アリト雖一般患者ノ治療ニ關係ナキヲ以テ省略ス
外國人ノ經營ニ係ル病院ハ總テ耶蘇教ニ關係アルモノナリ

成鏡北道

八 |

二〇二

三九二

二八二

備考 外ニ海濱檢疫所屬ノモノ及鐵道自營ノモノ等アレトモ一般患者收容ニ關係ナキヲ以テ省略ス

前表ニ掲ケタル京城所在順化院ハ京城府及居留民團ノ負擔ト國費ノ補助ノ下ニ成レル漢城衛生會ノ經營ニ係ルモノニシテ規模宏壯設備完全ニシテ朝鮮ニ於ケル唯一ノ傳染病院ナリトス其ノ他稍完備ニ近キ隔離病舎ナキニ非スト雖數フルニ足ラス

(ハ)種痘認許員 由來朝鮮ニ於テハ種痘ヲ普及セムトスルモ之ニ從事スヘキ醫師ニ乏シク其ノ缺如ヲ補ハムカ爲明治三十二年各道ニ種痘認許員ヲ設置シ爾來今日ニ迄ヘリ素ヨリ醫學ノ素養ナキ者ヲ短期養成シテ非ニ當ラシムルカ故ニ技術拙劣ニシテ却テ種痘忌避ノ念ヲ助成セシムルノ虞ナキヲ免カレスト雖當分尙醫師ノ乏シキ地方ニ於テハ之ヲ廢スルノ時機ニ達セス
種痘認許員ハ主トシテ朝鮮人ヲ限リ認許シ内地人ニ對シテハ特ニ婦人ニノミ之ヲ許セリ是レ朝鮮



院醫惠慈原水郡原水道畿京



況狀ノ療診者患上同

第十五章 衛生

三九三

道別	内地		計人	朝鮮		計人
	男	女		男	女	
江原道						
平安北道						
平安南道						
黃海道						
慶尚北道						
慶尚南道						
全羅北道						
全羅南道						
忠清北道						
忠清南道						
京畿道						
京城府						
其ノ他						
計	一三九四五六	一三九四五六	二七八八	一五〇	二二	一七二
計	一三九四五六	一三九四五六	二七八八	一五〇	二二	一七二

婦人ハ男子ニ近接スルヲ忌ムノ風習アルカ故ナリ而シテ大正元年十月末日ノ現在數ハ左ノ如シ
 種痘認許員
 大正元年十月末調

成鏡南道	六四	五二	六一	三	六四	六六
成鏡北道	六四	五二	五八	九	六七	七二
問計	一二五八	一一〇	一一五	一一八三	一三〇七	一三〇七

三九四

(三)入齒、鍼灸所、按摩 入齒、鍼灸所及按摩業ノ如キハ從來朝鮮人ニシテ營業スル者ナク内地人ノミ官許ヲ得テ就業セリ尤入齒業ハ土地ノ狀況ニ依リ齒科醫學ニ關シ多少ノ差養アルヲ程度トシ特ニ許可シツツアリ然レトモ醫師ノ普及ニ伴ヒ漸次許可地域ヲ減縮スルノ方針ナリ

二 検微事務

由來朝鮮ニ於テハ蚊、蠅、蝨ト稱スル賣笑婦至ル處ニ存在スルモ往年之ニ對シテ檢微ヲ行ヒタルコトナシ唯京城其ノ他ノ大都市ニ於テ近年漸ク之ヲ施行ヲ見ルニ至レルモノアルモ一般ノ上ヨリ見レハ尙謂フニ足ラス其ノ外近邊内地人ノ増殖ニ伴ヒ内地人賣笑婦ノ數歲ト共ニ増加シ今日ニ於テハ往ク處トシテ大概其ノ影ヲ認メサルナシ是ニ對シテハ努メテ檢微ヲ行フノ方針ヲ執レリ

地方ニ於ケル健康診断期日ハ一週一回又ハ旬日一回等一様ナラス而シテ其ノ事務ハ健康診断醫囑託若ハ警察囑託醫カ警察官署ノ指命ニ依リ從事シツツアルモ中ニハ營業者ノ自衛上行ハルルモノモアルヲ健康診断場所ハ特設ノモノアルモ多クハ慈善醫院又ハ警察囑託醫ノ自宅等ニ於テス狀況此ノ如クナルヲ以テ成ルヘク之ヲ劃一スルヲ要スルモ經費ノ關係上遽カニ所期ヲ達シ難ク僅ニ専務健康診断醫ヲ京城府ニ三名、地方ニ十一名ヲ配置シタルニ過キス而カモ診断場所及之ニ要スル器具、藥品ノ如キ概シテ營業者ノ提供ニ係リ官費支辨ノモノハ甚々稀少ナリ

健康診療ノ結果治療ヲ要スト認メタル者ノ治療場所ハ特設ニ係ルモノ京城府ニ四箇所他ノ地方ニ於テモ僅ニ其ノ存在ヲ認ムルモ多クハ自宅治療ニシテ又慈善醫院、私立病院等ニ於テスルモノモ之レアリ
 自宅治療中ハ警察官廳ニ於テ相當取締ヲ爲スト雖陰然其ノ業ヲ繼續スル者ナキニ非ス特設治療所ノ設置ハ賣笑婦ノ増加ニ伴ヒ益其ノ必要ヲ感セスマハアラズ
 尙賣笑婦及治療所ニ關スル狀況ハ左表ニ詳カナリ



道別	官設		民團立		合學 校經 營組		同業 者共 營		個人 經營		計
	道	府	道	府	道	府	道	府	道	府	
京城府											
其 他											
忠清道											
忠清南道											
忠清北道											
全羅南道											
全羅北道											
黃海道											
平安南道											
平安北道											
咸鏡南道											
咸鏡北道											
計											

第十五章
衛生

三九七

特設賣笑娼治療所

咸鏡北道	二六二	二六六	二六六	二六六	二六六	二六六	二六六	二六六	二六六	二六六	二六六
計	三九〇	三九〇	三九〇	三九〇	三九〇	三九〇	三九〇	三九〇	三九〇	三九〇	三九〇

道別	內地實 人		朝鮮 人		計 數	集 團 場 所 數
	道	府	道	府		
京城府						
其 他						
忠清道						
忠清南道						
忠清北道						
全羅道						
全羅南道						
全羅北道						
慶尚道						
慶尚南道						
慶尚北道						
黃海道						
平安道						
平安南道						
平安北道						
江原道						
咸鏡道						
咸鏡南道						
咸鏡北道						
計						

賣笑娼現在狀況

三九六

成鏡北道	一	一	二九四	一四	四八四
計	三	二	二九四	一四	四八四

三九八

備考 忠清北道、全羅南道、慶尙北道、江原道ノ四道ニハ特設治療所ナシ

三 藥品取締

(イ) 藥品 藥品ニ關シテハ從來何等ノ取締方法ナク單ニ阿片煙ノ輸入、製造、販賣ニ關シテ刑法及
 利法大全ノ規定ニ依リ之ヲ取締ヲ爲セルノミナリシカ明治四十五年三月制令第二十二號ヲ以テ藥
 品及藥品營業取締令ヲ發布シ一般藥品及賣藥ノ取締ヲ履行シツツアリ
 (ロ) 藥劑師 内地ニ於テ其ノ資格ヲ享有セル者及前記制令ノ規定ニ依リ朝鮮總督府ノ免許ヲ受ケ
 タル者ノミヲ認メ其ノ届出ニ因リ開業ヲ許セリ現在全道ニ在ル者合シテ五十八名アリ而シテ朝鮮
 人ニハ此ノ資格ヲ有スル者ナシ

四 飲食物取締

飲食物ニ關スル取締ハ從來極メテ不完全ニシテ衛生上ノ危害ヲ防制スルニ足ラズ殊ニ併合後ニ於テ

ハ社會ノ時運急轉直下シ飲食物其ノ他物品ノ製出及移輸入等日ニ増加シ之ト同時ニ不真物品亦續
 續市場ニ現ハルルニ至リ漢ニ市場鬻リ所ノ清酒中ニ「フオラムアルテホイド」又ハ多量ノ「サルチ
 ル」酸ヲ含有シ飲食用器具其ノ他飲食物中ニ不真有害ノモノヲ發見シタルニ因リ一層之ヲ取締ヲ爲
 スノ必要アリ各關係ノ取締法規發布セラレ取締履行中ニ在リ

五 屠場

屠場ノ取締ニ關シテハ蓋ニ舊韓國政府ノ發布ニ係ル屠場規則ト各理事廳ノ發布ニ係ル規定ト二者相
 俟テ其ノ效力現時ニ達シ尙各道警務部ニ於テハ適宜其ノ施行細則ヲ制定シ施行シツツアリ
 現今朝鮮ニ於ケル屠場ハ京城ニ於テハ公私設ノ屠場各二箇所アリ公設屠場ノ二箇所ハ元韓國政府ノ
 創設ニ係ル官立屠場ナリシカ併合後總督府内務部ノ主管ニ屬シ後警務總監部ノ管掌ニ歸シ更ニ又四
 十五年四月ヨリ漢城衛生會ノ經營ニ移セリ此ノ二箇所ハ其ノ構造設備等稍模範的ナリト雖他ノ各道
 ニ於テハ概シテ小規模ノモノ多シ尤モ近時一般ニ公設屠場ヲ獎勵シ居留民間、學校組合其ノ他ノ團
 體ノ經營ニ移サシムルノ方針ヲ執レリ



屠畜検査獣醫ノ配屬ハ經費ノ關係上未タ周到ノ域ニ達セズト雖漸ク以テ各地方ニ資格アル獣醫ノ配屬ヲ謀リツツアリ

屠畜場調査表

大正元年八月末日調

道別	公立		私				小計	計
	内地人經營	朝鮮人經營	内地人共同	支那人經營	支那人經營			
京	12	1	2	1	1	1	20	20
京	1	1	1	1	1	1	6	6
忠	1	1	1	1	1	1	6	6
忠	1	1	1	1	1	1	6	6
全	1	1	1	1	1	1	6	6
全	1	1	1	1	1	1	6	6
慶	1	1	1	1	1	1	6	6
慶	1	1	1	1	1	1	6	6
黄	1	1	1	1	1	1	6	6
平	1	1	1	1	1	1	6	6
計	19	1	11	11	11	11	55	55

道名	牛	馬	羊	豚	犬	計
平	1	1	1	1	1	5
安	1	1	1	1	1	5
江	1	1	1	1	1	5
原	1	1	1	1	1	5
成	1	1	1	1	1	5
成	1	1	1	1	1	5
鏡	1	1	1	1	1	5
鏡	1	1	1	1	1	5
北	1	1	1	1	1	5
道	1	1	1	1	1	5
計	11	11	11	11	11	55

明治四十五年一月ヨリ大正元年八月マテ屠畜總數表調

道名	牛	馬	羊	豚	犬	計
京	11,517	33	1	3,483	3,926	15,001
京	16,548	33	1	4,260	5,441	22,283
忠	5,406	33	1	3,891	4,162	13,693
忠	11,678	33	1	7,837	6,357	26,507
全	8,333	33	1	4,537	4,929	18,233
全	9,884	33	1	5,537	4,929	21,328
計	67,106	33	1	28,837	33,926	130,001

第十五章 衛生

四〇一

慶尚北道	一六〇〇八	四二	三三五	一一四五五	三二〇七四
慶尚南道	一一七七一	七	二二二	一一五一一	一六〇一一
黃海道	八六四六	三	二二二	四一九五	三六七五四
平安南道	一〇〇六〇	一	二二二	一〇一八	三六七五九
平安北道	七九六九	一	二二二	二〇二二	三二六六一
江原道	四二五六	一	二二二	二〇二二	一四五八五
咸鏡南道	三二五六	一	二二二	三二三五	一五四八七
咸鏡北道	一一二二八	一	二二二	九四三四	一七九〇二
合計	二二六二四四	二五	二二三四	五五八三六	三三八六九五

四〇二

六 傳染病

(イ) 虎列刺 最近ニ於ケル虎列刺ノ流行ハ明治四十二年ニシテ初メ京城ニ於テ一名ノ患者ヲ發生シ忽チ猛烈ニ傳播シテ八月二十九日ヨリ十月二十一日ニ至ル迄内地人百五十四名、朝鮮人千二十一名合計千七百七十五名ノ多キニ達セリ故ニ其ノ翌年ハ大ニ警戒シ流行期ニ先タテテ豫防上各般ノ措置ヲ厲行シ地方一二箇所ニ虎列刺患者ノ發生セシモ直ニ防止スルヲ得タリ然ルニ九月下旬平壤府

ニ發生シタル虎列刺ハ其ノ勢猛烈ニシテ忽チ數十名ノ患者ヲ出シ蔓延ノ兆アリシカハ當局者ハ平壤ニ一萬圓ノ豫防費ヲ投シテ極力防疫ニ努メシメタルモ不幸ニシテ大同江沿岸ノ各地ニ傳ハリ鎮南浦ヨリ黃海道統寧地方ニ波及シ頗ル猖獗ヲ極メタリシヲ以テ銳意防疫ニ盡瘁シ檢疫隔離ハ固ヨリ下水ノ浚渫、便所ノ改造、防蠅ノ設備ニ至ル迄厲行シタリシニ依リ總計患者四百八十六名ニシテ終熄シタリ翌四十四年ニハ前年ニ繼ミ大ニ警戒ヲ加ヘタリシカハ一名ノ患者ヲモ發生スルコトナカリシ

大正元年ニ於テハ八月下旬上海ニ於テ虎列刺發生シ漸次流行猖獗ヲ極ムルニ至レルニ由リ總督府告示ヲ以テ同地方ヲ虎列刺流行地ト指定シ特ニ海港檢疫ヲ厲行セシメ朝鮮四海岸沿岸各道警務部ニ警告ヲ與ヘ專リ病毒侵入ノ豫防ニ努メタル處上海ニ於ケル病毒ハ終ニ内地ニ傳播シ山口、福岡、長崎等ノ各縣ニ患者ヲ發生シ漸ク流行狀況ヲ呈シ途ニ該地方ヨリ來航ノ船舶ニ依リ病毒ヲ搬入セラルルノ不幸ヲ見ルニ至リ九月初旬黃海道殷栗郡長連面二十餘名ノ患者ヲ發生シ次テ全羅南道突山郡、旆水郡慶尙南道蔚山郡等亦小流行ノ状態ヲ現スニ至レリ上海地方及内地ニ於ケル各流行地

第十五章 衛生

四〇三

トノ關係上其ノ病源侵襲ヲ防遏スヘキ要衝ハ釜山及仁川ナルヲ以テ之ニ對シテハ夙ニ訓令ヲ發シテ連絡船客運船船帆船等ノ乘組員ニ對シテ檢査ヲ開始シタルニ其ノ效驗頗ル著シク仁川於於テハ入港ノ船内ニ患者一人尙保有者一人、釜山ニ於テハ同府總影島ニ患者一人同港碇泊漁船内ニ同三人尙保有者三人ヲ出シタリ其ノ他ノ港灣及船舶ノ出入頻繁ナル樞要ノ沿岸地ニ於テモ特ニ入港ノ船舶ニ對シテ檢査ヲ爲サシムルコトトナシタルニ船内ニ於テ患者ヲ發見シタルコトアリシモ幸ニ病源ハ汎ク散逸スルニ至ラズシテ甚シキ流行狀態ヲ呈セザリキ九月七月初發ヨリ十一月二十一日ニ至ル累計患者八十六人内死亡五十四人尙保有者二十七人ヲ出シタルノミ

虎列刺患者表

自明治四十五年一月至大正元年十二月

道名	自	至	九月	十月	十一月	計
京畿道						
道		八一				

全羅南道	慶尙南道	黃海道	計
三〇	一五	一七	六二
一八	五	三	二六
四八	二〇	二〇	八八

備考

尙保有者 慶尙南道八人、全羅南道十九人アリ

前記各道ノ外他ノ各道ニハ患者ナシ

(ロ)痘瘡 痘瘡ハ朝鮮ニ於テハ殆ト地方病ノ觀ヲ呈シ古來ヨリ四季ヲ通シ各地ニ發生シ年々多少ノ流行ヲ見サルハナシ故ニ種痘ノ普及ニ就テハ特ニ力ヲ致シ一般ニ履行シツツアリ然レトモ衛生思想ノ尙幼稚ナル朝鮮人間ニ於テハ痘瘡ハ人生必ス經過セサルヘカラサルモノニシテ到底入カザリテ濟フヘカラサル災厄ナリトシ之ニ對シテ適モ豫防ノ方法ヲ講セサルノミナラス同病ニ罹ルヲ以テ寧ロ自然ノ命數ナリト思惟スル者多シ況ヤ種痘ノ效力ヲ解スル者ノ如キハ極メテ鮮少ニシテ宜

日リ種痘施行ノ命ヲ受クルヤ徒ニ疑懼ノ念ヲ抱キ之ヲ忌避スル者多ク其ノ甚シキハ往往故ラニ隱遁奔竄ヲ企ツル如キ狀況ナリ故ニ種痘ノ施行ニ際シテハ各警察官憲兵ニ於テ努メテ其ノ迷信ヲ滅除シ種痘ノ規程豫防ノ最善ナル唯一ノ良法ナルヲ示シタル結果近時漸ク之ヲ受クル者多キチ加フルニ至レリ明治四十一年以降同四十四年迄累年種痘人員左表ノ如シ

四〇六

種痘者道名

道名	四十四年	四十三年	四十二年	四十一年
京城府	六五、一一二	一六九、一八八	一四六、三九〇	一四五、〇三五
東京府	一五三、三〇四	七八、六〇五	一三、八〇〇	二〇、九五〇
神奈川府	一一〇、三五七	三三、一七七	三九、七五〇	四四、四九〇
北關道	二六八、四八八	二二四、八八一	三九、六〇〇	五六、〇〇〇
南關道	一三八、九〇二	九五、五二八	四二、二二五	二八、八五〇
北陸道	二七二、三五〇	二二八、七二二	九六、九七〇	一六、一五〇
全羅道	二〇、一一九〇			
全羅南道				
全羅北道				
慶尚道				

附

道名	四十四年	四十三年	四十二年	四十一年
慶尚南道	三五〇、三二六	一七一、八〇六	一〇三、八〇〇	七〇、七六〇
慶尚北道	三四八、六六八	八三、四七九	五二、〇〇〇	三一、六八五
平安南道	一一三、四七一	二〇、一七四	三〇、五五〇	五四、三五〇
平安北道	一一四、五〇三	五九、〇四四	二八、七五〇	二八、一八〇
江原道	二六一、四〇八	三五、三八四	四三、五〇〇	一五、五〇〇
咸鏡南道	四二九、五五八	九九、七八三	一八、七五〇	二〇、九四五
咸鏡北道	五九、二四〇	二二、三七五	二二、三〇〇	一一、七〇〇
合計	二、九〇六、八七七	一、二二二、一四六	六七九、二三五	五四四、五九五

痘苗製造

痘苗製造ハ舊韓國政府ノ創業ニ係リ幾多ノ沿革ヲ經テ現時警務總監部衛生課ニ屬ス乃チ別ニ痘苗製造室ヲ置キ專門ノ技師、獸醫ヲ配屬シ其ノ製造及配布ヲ掌レリ本年內製造ニ係ル痘苗配布及賣下具數左表ノ如シ

第十五章 衛生

自明治四十五年一月
至大正元年十月
四〇七

道名	配布具數	實下具數
京城	七四、一六	一四、七六〇
忠清	二七、四三一	
全羅	五六、五九五	
全羅	六四、六五〇	
慶尚	四二、〇八〇	六〇
慶尚	五九、五六八	二〇
平安	六八、九九九	二〇
平安	六七、六三五	一五〇
江原	三八、七三五	二七五
咸鏡	四八、五〇五	五三〇
咸鏡	七五、二九五	二六五
合計	七〇二、四九一	一六、一三七

四〇八

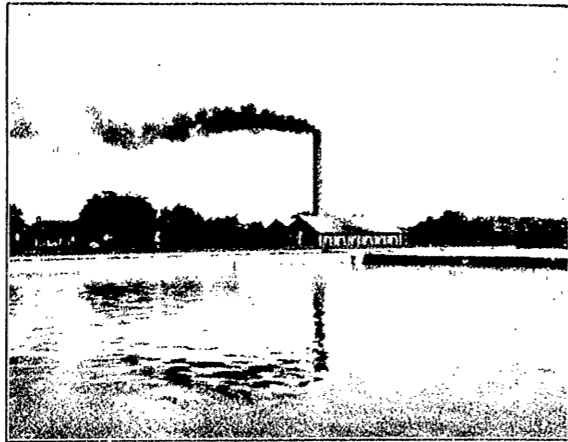
(一)赤痢病 赤痢病ハ年々各地ニ發生シツツアルヲ以テ患者發見ニ就テハ常に周曆ナル檢病の戸口調査ヲ履行シツツアリト雖朝鮮人部落ニ於テハ土地、飲料、水等概シテ不衛生のニシテ傳染病流行ノ因ヲ爲スニ依リ容易ニ之カ終熄ヲ期スル能ハサルハ頗ル遺憾ナリト本年一月ヨリ十月迄ノ患者發生總數ハ千八百六十一人ニシテ其ノ内最多キハ慶尚南道釜山ニ於ケル四百二十六人之ニ次クハ京城府ノ三百八十八人、慶尚北道大邱ノ二百三十八人ナリ死亡率ハ患者百人ニ對シ死者十二人ニ當ル

(二)腸炎扶助 腸炎扶助モ亦年々各地ニ發生スルモ比較的少數ニシテ本年一月ヨリ十月迄ノ患者數千三百十一人其ノ内最多キハ慶尚南道釜山ノ二百七十四人之ニ次クハ平安南道平壤ノ百三十四人、黃海道ノ百三十人ナリ死亡率ハ患者百人ニ對シ死者十一人ニ當ル

病名	内地患者數	朝鮮患者數	計
虎刺	三九	四七	八六
虎刺	二七	二七	五四

四〇九

第十五章 衛生



池水淨道水城京



況狀事工道水浦南鎮

七水 道

備考 木表外ニ外國人ノ赤痢患者十三人ヲヲチナス患者四人、虎列刺ハ十一月迄ノ計數ナリ

現今水道ノ設備アルハ京城、仁川、釜山、平壤、木浦、鎮南浦、群山ノ七箇所ニシテ其ノ他ノ各地ハ執レモ井水、河水、泉水等ヲ使用セリ而シテ市街地若ハ墾落地ニ於ケル井水ハ一般ニ不潔ニシテ飲用ニ適セサルモノ多シ蓋朝鮮人ハ習俗トシテ住家ニ便所ヲ設ケス隨所ニ放尿シ下水ノ如キ自然ノ流下ニ委シテ施設ヲ加ヘサルノ有様ナレハ穢年ノ穢陋深ク地層ニ浸潤シ爲ニ水質ヲシテ汚濁ナラシ

赤痢	腸炎	痘疹	癩癧	瘰癧	疥癬	癩癧	癩癧	癩癧	癩癧	癩癧	癩癧	癩癧	癩癧	癩癧	癩癧	癩癧	癩癧	癩癧	癩癧	癩癧
133	133	133	133	133	133	133	133	133	133	133	133	133	133	133	133	133	133	133	133	133
133	133	133	133	133	133	133	133	133	133	133	133	133	133	133	133	133	133	133	133	133
133	133	133	133	133	133	133	133	133	133	133	133	133	133	133	133	133	133	133	133	133

メタルニ歸因ス從テ消化器系傳染病比年各地ニ流行シ彼ノ「ジストマ」ノ如キ諸處ニ傳播シ病毒極メテ濃厚ナ呈セリ故ニ水質ノ改良ハ當面ノ急務ナルヲ以テ各地ニ簡易ノ水道施設、鑿井ノ開掘ヲ見ルニ至レリ各地既設水道ノ現況ヲ舉ケレハ左表ノ如シ

名	稱	管理者	鐵管 延長	工費總額	人口	給水 檢數	消火 檢數	設計方法	給水開始年月
京城水道	同	京鐵道	三〇、〇〇〇 呎	三、〇〇〇、〇〇〇 圓	一、〇〇〇、〇〇〇 人	一、〇〇〇、〇〇〇 人	一、〇〇〇、〇〇〇 人	同	明治四十一年八月
仁川水道	同	同	五、〇〇〇 呎	五〇〇、〇〇〇 圓	一〇〇、〇〇〇 人	一〇〇、〇〇〇 人	一〇〇、〇〇〇 人	同	同四十二年十二月
平壤水道	同	平安南道	一〇、〇〇〇 呎	一、〇〇〇、〇〇〇 圓	五〇、〇〇〇 人	五〇、〇〇〇 人	五〇、〇〇〇 人	同	同四十三年七月
釜山水道	同	同	一〇、〇〇〇 呎	一、〇〇〇、〇〇〇 圓	五〇、〇〇〇 人	五〇、〇〇〇 人	五〇、〇〇〇 人	同	同四十三年九月
木浦水道	同	同	一〇、〇〇〇 呎	一、〇〇〇、〇〇〇 圓	五〇、〇〇〇 人	五〇、〇〇〇 人	五〇、〇〇〇 人	同	同四十三年四月
鐵南浦水道	同	同	一〇、〇〇〇 呎	一、〇〇〇、〇〇〇 圓	五〇、〇〇〇 人	五〇、〇〇〇 人	五〇、〇〇〇 人	同	同四十三年四月
群山水道	同	同	一〇、〇〇〇 呎	一、〇〇〇、〇〇〇 圓	五〇、〇〇〇 人	五〇、〇〇〇 人	五〇、〇〇〇 人	同	同四十三年四月

備考 表中△印ハ豫定ノ符ナリ又京城水道ノ工費額ハ民間ヨリ買取セシ總額ヲ掲記セルモナリ

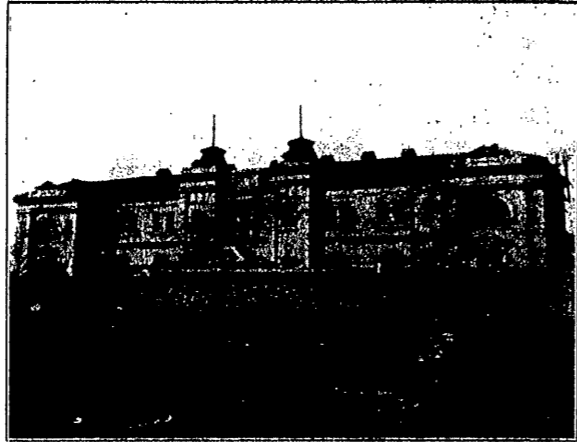
第十六章 裁判及監獄

一 裁判制度

朝鮮總督府裁判所ハ朝鮮總督ニ直隸シ朝鮮ニ於ケル民事ノ裁判及非訟事件ニ關スル事務ヲ掌ル而シテ其ノ事務取扱ニ關シテハ三審制度ニ則リ分ツテ高等法院、覆審法院及地方法院ノ三種トシ又地方法院事務ノ一部又ハ全部ヲ取扱ハシムル爲メ地方法院支廳ヲ設置セリ

地方法院ハ民事及刑事ニ付第一審裁判ヲ行ヒ且非訟事件ニ關スル事務ヲ取扱フ覆審法院ハ地方法院ノ第一審ノ裁判ニ對スル控訴及抗告高等法院ハ覆審法院ノ第二審ノ判決ニ對スル上告及抗告ニ付裁判ヲ行ヒ且高等法院ハ裁判所構成法ニ定メタル大審院ノ特別權限ニ屬スル職務ヲ執行ス

地方法院ハ刑事單獨ニテ裁判ヲ爲スト雖訴訟物ノ價格千圓ヲ超過スル民事事件、人事訴訟事件、破産事件、刑法第七十四條及第七十六條ノ犯罪事件、本刑死刑無期又ハ短期一年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ該ル犯罪事件(裁判所構成法ニ定メタル大審院ノ特別權限ニ屬スル事件ヲ除ク)及其ノ共犯事件ニ



平壤覆審法院



京城地方法院ニ於テ行ハレタル裁判ノ實況

シテ本事件ト同時ニ審判スル場合ハ三人ノ判事覆審法院ハ三人ノ判事高等法院ハ五人ノ判事ヲ以テ組織シタル部ニ於テ合議裁判シ且各裁判所ニ檢察局ヲ併置シ檢察事務ヲ掌ラシム今裁判所所在地、其ノ數及職員ヲ舉クレハ左ノ如シ

朝鮮總督府裁判所所在地

大正元年

京		高等法院		
城	平	京		覆審法院
平	壤	成	公	京
海	州	興	州	城
瑞興	黃州	載寧	松禾	同
安州	德川	鎮南浦	新義州	上
慈山	義州	定州	寧邊	所
北青	元山	永興	江陵	緒
寧慶	蔚珍	清津	鏡城	支
大田	江界	鴻山	洪州	廳
開城	驪州	水原	仁川	春川
原州	鐵原	原州	永同	忠

第十六章 裁判及監獄

四一三

大邱		大邱	金泉 尙州 安東 義城 慶州 盈德
光州	蔚山	蔚山	蔚山 蔚山 密陽 龍南 晉州 居昌
光州	蔚山	蔚山	蔚山 蔚山 密陽 龍南 晉州 居昌
光州	蔚山	蔚山	蔚山 蔚山 密陽 龍南 晉州 居昌
光州	蔚山	蔚山	蔚山 蔚山 密陽 龍南 晉州 居昌
光州	蔚山	蔚山	蔚山 蔚山 密陽 龍南 晉州 居昌
光州	蔚山	蔚山	蔚山 蔚山 密陽 龍南 晉州 居昌
光州	蔚山	蔚山	蔚山 蔚山 密陽 龍南 晉州 居昌
光州	蔚山	蔚山	蔚山 蔚山 密陽 龍南 晉州 居昌
光州	蔚山	蔚山	蔚山 蔚山 密陽 龍南 晉州 居昌

本表中※印ヲ附シタルハ合議部ノアル支廳ヲ示ス

裁判所職員配當一覽

大正元年十一月末日現在

廳名	廳數	朝鮮人別		判事	檢事	書記	長	通譯	官	書記	通譯	生員	計
		朝鮮地	朝鮮地										
高等法院	一	朝鮮地	朝鮮地	一七	一	一	一	一	一	一	一	一	一七
覆審法院	三	朝鮮地	朝鮮地	三三	一	一	一	一	一	一	一	一	三三
地方法院	八	朝鮮地	朝鮮地	九五	二六	一	一	一	一	一	一	一	一二一
總計		朝鮮地	朝鮮地	一三二	二七	三	三	三	三	三	三	三	一三二

地方法院支廳	總計	朝鮮人別		判事	檢事	書記	長	通譯	官	書記	通譯	生員	計
		朝鮮地	朝鮮地										
蔚山	六〇	朝鮮地	朝鮮地	八二	一	一	一	一	一	一	一	一	八二
光州	七三	朝鮮地	朝鮮地	六七	一	一	一	一	一	一	一	一	六七
總計	一三三	朝鮮地	朝鮮地	一四九	二	二	二	二	二	二	二	二	一四九

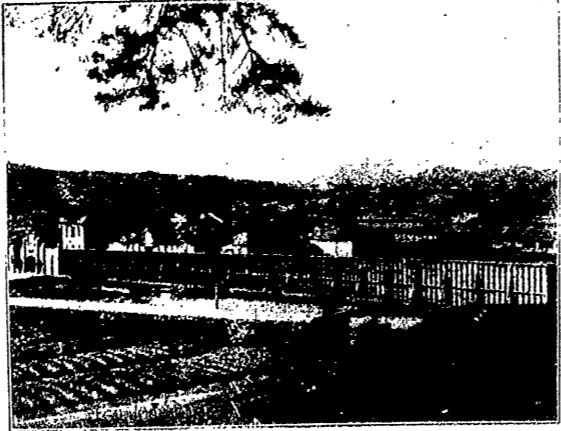
前表中朝鮮人ニシテ判事又ハ檢事タル者ハ民事ニ在リテハ原告、被告トモ朝鮮人タル場合刑事ニ在リテハ被告人朝鮮人タル場合ニ限リ其ノ職務ヲ行フ

二 適用法規

現今朝鮮總督府裁判所ノ適用セル法規ハ明治四十五年四月一日ヨリ施行ノ民事令、刑事令ニ依リ内地ノ法規ヲ適用セリト雖民事ニ付テハ民法中能力、親族及相繼ニ關スル規定ハ之ヲ朝鮮人ニ適用セシテ從來ノ慣習ニ依ルコトト爲シ又不動産ニ關スル物權ノ種類及效力ニ付テハ民法ニ定メタル物權ヲ除クノ外尙慣習ニ依ルコトトセリ

刑事ニ付テハ殺人罪、強盜罪ニ限リ當分ノ内朝鮮人ニ對シ舊韓國刑法大全ノ效力ヲ有セシムルコト

第十六章 裁判及監獄



京城監獄



同上囚徒作業ノ實況

トセリ

三 監 獄

四一六

監獄ハ從來警察ノ一部トシテ舊韓國内部ノ管轄ニ屬シ其ノ事務ハ警察官ノ兼掌スル所ナリシガ明治四十年十二月監獄官制ヲ公布シ法部ノ所管ニ屬セシメ典獄以下ノ職員ヲ置キ明治四十一年一月京城監獄ノ事務ヲ開始シ次テ七箇ノ監獄及十二箇ノ分監ヲ開設シ明治四十二年十二月統監府監獄ヲ開設シ舊韓國監獄及内地人囚徒ヲ收容シタル理事廳監獄ノ事務一切ヲ承繼シ明治四十三年十一月朝鮮總督府監獄ヲ開設シ統監府監獄ノ事務一切ヲ承繼シ以テ現時ニ至レリ目下朝鮮ニ於ケル監獄ノ數九、分監ノ數十三、在監囚人數二萬三百餘人ナリ左ニ其ノ概況ヲ舉グ

監獄職員配置一覽 大正元年十一月末日現在

監 獄 名	分 監 數	内 地 人	典 獄	長 看 守	生 通 譯	監 獄 醫 師	教 師	教 師	藥 劑 師	看 守	女 監 取 締	計
京 城	一	朝鮮人	一	七	一	三	三	一	二	九七	二	一一四
										五〇	三	一五

釜 大 海 平 咸 公 四
 山 邱 州 壤 興 州 門

第十六章
 義例及監獄

二 二 二 二 二 二 二
 朝鮮人 內地人 朝鮮人 內地人 朝鮮人 內地人 朝鮮人 內地人 朝鮮人 內地人

| - | - | - | - | - | - | - | -

一七 二五 四 一九 一七 六 二

- | - | - | - | - | - | - | -

| - | - | - | - | - | - | - | -

| - | - | - | - | - | - | - | -

| - | - | - | - | - | - | - | -

四二七

| - | - | - | - | - | - | - | -

三六 五六 四〇 五五 二二 三三 五五 七五 三三 四九 三五 四七 九〇 二六

| - | - | - | - | - | - | - | -

三八 六九 三〇 七〇 二四 五九 九四 三五 六二 三六 六一 九二 二四

第十六章 裁判及監獄

四一九

地方	受刑者		刑罰執行		合計	
	男	女	男	女	男	女
春川	11	1	1	1	12	2
公州	12	1	1	1	13	2
清州	12	1	1	1	13	2
咸興	12	1	1	1	13	2
元山	12	1	1	1	13	2
清津	12	1	1	1	13	2
平壤	12	1	1	1	13	2
鎮南浦	12	1	1	1	13	2
合計	100	10	10	10	110	20

地方	受刑者		刑罰執行		合計	
	男	女	男	女	男	女
京城	12	1	1	1	13	2
永登浦	12	1	1	1	13	2
四大門	12	1	1	1	13	2
仁川	12	1	1	1	13	2
合計	100	10	10	10	110	20

在監人數一覽 (大正元年十月末日現在)

地方	受刑者		刑罰執行		合計	
	男	女	男	女	男	女
光州	12	1	1	1	13	2
總計	100	10	10	10	110	20

州	光州		馬山		晉州		釜山		大邱		海州		新義州	
	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男
全	1,773	1,773	1,773	1,773	1,773	1,773	1,773	1,773	1,773	1,773	1,773	1,773	1,773	1,773
州	3,333	3,333	3,333	3,333	3,333	3,333	3,333	3,333	3,333	3,333	3,333	3,333	3,333	3,333
女	1,666	1,666	1,666	1,666	1,666	1,666	1,666	1,666	1,666	1,666	1,666	1,666	1,666	1,666
男	1,667	1,667	1,667	1,667	1,667	1,667	1,667	1,667	1,667	1,667	1,667	1,667	1,667	1,667

四二〇

總計	計		木浦		群山	
	女	男	女	男	女	男
總計	1,773	1,773	1,773	1,773	1,773	1,773
女	886	886	886	886	886	886
男	887	887	887	887	887	887

外ニ勞役場留置内地人男三人携帶乳兒朝鮮人男九人女三人アリ
イ、拘禁及行刑ノ概況

舊韓國監獄制度改正以前ニ於ケル各地ノ監獄ハ獄舎ノ狹隘不完全、拘禁ノ亂雜不規律殆ト想像モ及ハサル状態ナリシモ鋭意之ヲ改善ニ努メタル結果漸次獄舎ノ改善、規律ノ整及行刑ノ統一ヲ見ルニ至レリ就中適因方法ノ改善ハ一般ノ因情ヲシテ益平穩ニ趨カシメ從テ遷善悔悟ノ兆候ヲ認ムル者ヲ續出シ逐年假出獄者ヲ増加スルノ傾向ヲ來セリ又假出獄者ニ對スル取締ニ付テモ從來内地ノ例ニ

做り来りタル朝鮮ノ實況ニ適セサルモノアルヲ以テ新ニ假出獄取締規則ヲ制定シ假出獄者ヲシテ
 處世上動カラサル便宜ヲ得セシメタルニ其ノ成績頗ル良好ニシテ本年十月迄ニ假出獄ヲ許可シタル
 者左ノ如シ

假出獄者	自明治四十二年三月 至同四十二年十二月	明治四十四年	自明治四十五年一月 至大正元年十月
	四一	九九	一六二

監獄作業ニ付テハ鋭意其ノ擴張普及ニ努メタル結果逐年就業者ヲ増加シ今や遠カラスシテ全因ノ就
 業ヲ見ルニ至ラムトスルノ趨勢ナリ然ルニ其ノ業種ニ付テハ監獄作業トシテ適當ト認ムヘキモノ甚
 マ鮮ク將來ハ一般商工業ノ發達ニ由リテ適當ナル業種ニ在監者ノ勞力ヲ僱役セムトスル企業家ノ出
 ツルヲ期待セリ今就業者ノ概況ヲ示セハ左表ノ如シ

年次別就業人員	同上受刑者百ニ對スル割合
---------	--------------

明治四十二年六月末日現在	七二三人	一七一人
同 十二月末日現在	八七八人	三九一人
同 四十二年六月末日現在	二、五九〇	四一一人
同 四十二年十二月末日現在	二、五七三	四一一人
同 四十四年六月末日現在	三、七四二	四六一人
同 四十四年十二月末日現在	五、七六九	六五一人
同 四十五年六月末日現在	六、七一二	七〇一人

監獄作業收入額表

區別	明治四十四年度	明治四十三年度
囚徒	三、四、九、八、三、〇、〇、〇	一、五、五、八、二、〇、〇、〇
農作	八、九、〇、〇、〇、〇、〇	六、一、五、六、〇、〇、〇
製糖	三、三、〇、〇、〇、〇、〇	二、七、七、〇、〇、〇、〇
其他	四、七、一、九、三、〇、〇、〇	二、四、五、〇、八、〇、〇、〇
合 計		

第十七章 警察

一 警備機關ノ配置

警備機關ノ配置ニ關シテハ、秩序ノ恢復ニ全力ヲ傾注セシ警察モ、仁政ノ普及ト共ニ諸般ノ産業振興シ民心順ルヲ圖リ、分岐的警備機關ヲ配置シ其ノ管轄區域ハ平均一郡強ニ對シ凡ソ一警察署又ハ警察事務ヲ取扱フ憲兵分隊若ハ分遣所ヲ設置セリ即チ左ノ如シ

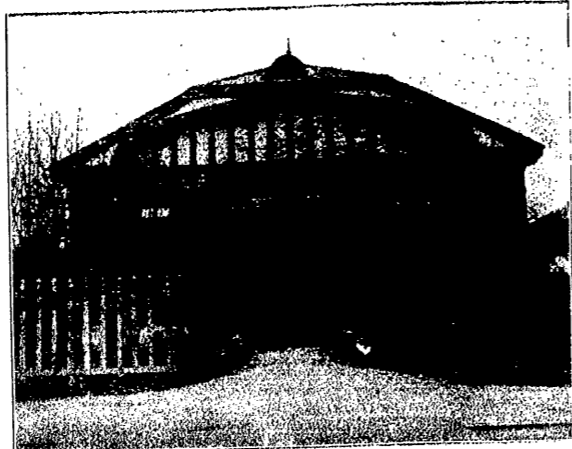
警備機關一覽表

街名	郡府	警察署數	警察分隊數	憲兵分隊	憲兵分遣所
京城府警察總監		一			
京城府直轄		一			
京畿道警察部		一			
忠清北道警察部		一			
忠清南道警察部		一			
全羅北道警察部		一			
全羅南道警察部		一			
慶尙北道警察部		一			
慶尙南道警察部		一			
黃海道警察部		一			
平安北道警察部		一			
平安南道警察部		一			
江原道警察部		一			
咸鏡南道警察部		一			
咸鏡北道警察部		一			
計		一六	五	三	一

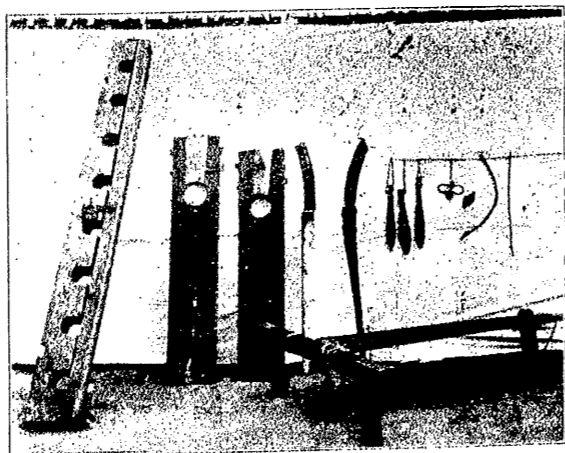
街名	郡府	警察署數	警察分隊數	憲兵分隊	憲兵分遣所
忠清南道警察部		一			
全羅北道警察部		一			
全羅南道警察部		一			
慶尙北道警察部		一			
慶尙南道警察部		一			
黃海道警察部		一			
平安北道警察部		一			
平安南道警察部		一			
江原道警察部		一			
咸鏡南道警察部		一			
咸鏡北道警察部		一			
計		一六	五	三	一

從來本浦、麗水ノ兩地ニハ各五隻ノ警備船ヲ配置シ專ラ沿岸及島嶼ノ警備ニ任セシメ來リシモ沿岸

二 海上警備



(城京在)署察警部北



具刑ノ代時府政國韓

左ヨリ順次、第一足枷、第二首枷、第三斬首刀、第四利棒、第五手枷、第六數取、第七管、第八管利蓋

交通ノ頻繁トナルニ從ヒ十隻ノ警備船ニケハ其ノ警備ヲ全ウスル能ハサルガ故ニ四十四年一月以來
陸軍運輸部ヨリ汽船五隻ヲ借入レ之ヲ釜山仁川其ノ他要所ニ配置シ一般海上ノ警備其常貿易ノ取締
及遭難船ノ救護ニ努メシメツアリ

四二六

警備船一覽

警備母船	第二扇海丸(汽船)	三三三噸
同	第二浦賀丸(同)	一七〇噸
同	第一新高丸(同)	一六五噸
同	第一東丸(同)	二三噸
同	第一神戶丸(同)	一七噸
警備船	(各五噸)	十隻
石油發動機船	(各三噸)	五隻

三 警察官ノ養成

内地人巡查教養ノ爲京城北部順化坊帶洞元韓園赤十字病院跡ニ警官練習所ヲ設置シ新ニ採用セル巡查約三箇月(警察官ノ前歴アルモノハ一箇月)間ノ教習ヲ爲シ朝鮮各道ノ缺員ヲ補充セシム又朝鮮人タル巡查補ノ養成ハ各道ニ於テ之ヲ爲シ執レモ初級警察官トシテ必要ナル學科ヲ教授ス尙將來ハ京城ニ於ケル練習所ニ特ニ練習科ヲ設置シ現職ノ警官巡查中ヨリ選抜シタル者ニ特種ノ教育ヲ施スコトヲ計畫ス

四 官職類似其ノ他取締

懸賞又ハ官職類似其ノ他ノ射倖ノ方法ヲ用非ムコトヲ提供シ又ハ投票ヲ募集セムトスルモノ漸ク増加シ勳モスレハ警告ノ之ニ伴フモノアルヲ以テ四十四年四月朝鮮總督府ハ府令ヲ發シ是等ノ所爲ヲ爲サムトスル者ニ京城ニ在リテハ警務總長其ノ他ノ地方ニ在リテハ警務部長ノ許可ヲ受クヘキコトト爲シ而シテ事項ノ學術技藝ニ關スルモノニ就キ懸賞ノ方法ヲ用ホムトスルモノニ在リテハ此ノ限ニアラストセリ

五 引火質物貯蔵取締

四二八

石油、揮發油、酒精、樟子、煙火ノ貯蔵所ヲ建設スルモノ漸次増加シ危險ノ虞アルニ由リ四十四年六月朝鮮總督府ハ府令ヲ以テ引火質物貯蔵所取締規則ヲ發布シ是等物件ノ貯蔵所ハ京城ニ在リテハ警務總長其ノ他ノ地方ニ在リテハ警務部長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ建設スルコトヲ得サルコトト爲セリ

六 信用告知業取締

他人ノ商取引、資產其ノ他信用ニ關スル事項ヲ依頼者ニ告知スルノ業ヲ爲スモノ少カラス之カ取締ヲ加フルノ必要ヲ認メ四十四年七月朝鮮總督府ハ府令ヲ發シ信用告知業取締規則ヲ定メ其ノ業務ヲ爲サントスルモノハ京城ニ在リテハ警務總長其ノ他ノ地ニ在リテハ警務部長ノ許可ヲ受クヘキコトト爲セリ

七 狩獵取締

從來朝鮮ニ於テハ狩獵ニ關スル法規ナク其ノ保護鳥獸タルト否トナ間ハス之カ捕獲ハ各自ノ自由ニ

放任セラレタルモ時世ノ進運ハ永ク其ノ放任ヲ容サス漸ク之カ取締ノ必要ヲ感シ遂ニ明治四十四年四月朝鮮總督府令ヲ以テ狩獵規則ヲ發布シ之カ取締ヲ爲セシモ近頃其ノ不備ノ點ヲ發見シ大正元年九月府令ヲ以テ其ノ一部ヲ改正セリ本規定ノ要旨ハ野生鳥獸ノ捕獲、野生鳥類ノ巢及卵及雛ノ採取狩獵ノ場所、狩獵ノ方法(銃器、網、罟)及時季、學術研究又ハ有害鳥獸驅除ノ爲其ノ他特別ノ事由ニ因ル保護鳥及狩獵期間外ノ特別捕獲、狩獵免狀、免狀ノ有效期間、免許手数料、製製品若ハ羽毛ノ輸出營業等ニ關スル事項ニシテ狩獵期間ハ毎年十月一日ヨリ翌年四月三十日ノ七箇月間ナルモ成鏡南北道平安南北道ノ四道ハ毎年九月十五日ヨリ翌年四月三十日迄トス而シテ免許手数料ハ甲乙特別ノ三種ニシテ甲種ハ(獵具ハ張網若ハ鷹)三圖乙種ハ(同上銃器)七圖特別ハ(藥用材料ノ爲銃器ニテ鹿熊其ノ他一定ノ野生獸類ヲ捕獲セムトスル者ニ一年間ノ免許有效期間ヲ付スルモノ)五十圖ニシテ再下付手数料一圖ト爲ス其ノ十月迄ノ免許下付數ハ五千八百二十七枚ニシテ昨年ニ比スレハ一千二百五十七枚ノ多ヲ見ル

八 銃砲火藥取締

第十七章 警察

四二九

從來朝鮮ニ於テハ銃砲火藥類ノ取締ニ關シ内地人ニ對シテハ各領事館令理事廳令ヲ以テ規定ヲ設ケアリシモ不備ノ點多ク且其ノ規定事項モ區區ニ互リタルカ爲執行上ノ寬嚴其ノ軌ヲ一ニスル能ハサルノ嫌アリタリ又朝鮮人ニ對シテハ隆熙元年九月法律第五號銃砲及火藥類關東法ノ適用アリ内容ニ於ケル主要ノ點ハ(イ)銃砲火藥類ノ製造、販賣、所持授受及運搬ハ總テ許可ヲ受ケヘク(ロ)其ノ他火藥貯藏ニ付テハ制限規定アリ(ハ)當該官廳ハ行政上ノ處分トシテハ許可ノ取消及物件領置ノ職權ヲ行フコトヲ得(ニ)法ノ違反者ニ對シテハ禁獄、笞刑、罰金、沒收ニ處スルコトヲ得ル等ニシテ之ニ依リ略ホ取締ノ目的ヲ達シ得ヘキカ如シト雖銃砲火藥類ノ如キ危險物ノ取締ニ付テハ製造、販賣、貯藏及運搬等ハ最も嚴重ノ方針ニ依ルコト緊要ナルノミナラス其ノ他之ニ伴フ詳細ノ規定ヲ要スヘキカ故ニ叙上諸種ノ事由ニ依リ内鮮人ヲ同一法規ノ下ニ取締ルノ必要ヲ認メ大正元年八月制令第三號ヲ以テ銃砲火藥取締令ヲ同十月府令第二十五號ヲ以テ施行規則及警務總監部令第四號ヲ以テ施行細則ヲ發布シ執レモ元年十二月一日ヨリ施行スルコトセリ法ノ主要トセシ所ハ(イ)軍用銃砲ノ製造及改造ト火藥類ノ製造トハ絶對ニ之ヲ禁シ(ロ)非軍用銃砲ノ製造又ハ改造ハ銃砲製造業者及

行政官廳ノ許可ヲ受ケタル者ニ限リ(ハ)火藥類ノ變形又ハ修理ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル者ニ限リ(ニ)銃砲火藥類ノ輸出入、移出入、讓渡及讓受ニハ許可ヲ受ケシメ(ホ)行商、市場、露店其ノ他屋外ノ販賣ヲ禁シ(ヘ)取締上ノ必要アルトキハ輸出入、移出入、授受、運搬携帶若ハ使用ヲ禁止シ又ハ制限ヲ爲スノ途ヲ設ケ(ト)其ノ他隨檢又ハ帳簿書類ノ検査若ハ假領置ニ關スル事項ヲ規定シタリ又施行規則及同細則ニ於テハ(イ)銃砲火藥類ノ範圍(ロ)取引、授受、使用、運搬、貯藏其ノ他取扱ノ事項(ハ)取扱人ニ關スル事項(ニ)作業所、貯藏所ニ關スル事項(ホ)其ノ他願届ノ事項等ニ關シ詳細ナル規定ヲ制定シ從來不備ナリシ取締上ノ缺點ヲ補ヒ遺憾ナカラシメ適切且ツ完全ニ施行スルヲ得ヘキコトヲ期セリ

九 古物商取締

古物商取締ニ關シテハ舊韓國政府時代ハ何等法規ノ制定セラレシモノナク古物ノ賣買讓與ハ自由ニ放任セラレタルカ爲鮮人古物商ニ就テハ全ク取締ノ途ナク又内地人ニ就テハ領事館令又ハ理事廳令ヲ以テ規定セラレタルモノアリタルモ其ノ規定區區ニ流レ且不備ノ點多ク殊ニ近年開港地ハ勿論其



ノ他朝鮮内地人ノ移住スル者漸次増加シ從テ内地人鮮人古物商ノ數亦多キチ加ヘ昨年未調
 査ニ依レハ營業者ノ數九百八十八人内地人八百十九人鮮人百六十九人トナリ從來ノ如キ不備ノ法規ニテハ到底之カ
 取締ノ目的ヲ達スル能ハサルノミナラス鮮人ニ在リテハ其ノ生活狀態ハ併合以來著シク變遷ヲ來シ
 物價ノ騰貴ト内地人増加ニ伴フ就職ノ困難ハ延テ彼等ノ生計ニ影響ヲ及ホシタルコト尠カラズ此等
 ノ原因ハ即チ生活上ノ困難ト爲リ強竊盜、詐欺、橫領等犯人ノ増加ヲ見之カ増加ノ反面ニハ不正ノ
 物品ヲ賣買、交換スル者ノ數加ハルモ亦自然ノ趨勢ニシテ以上諸種ノ事情ハ古物商取締法規ノ發布
 ヲ痛切ニ感スルニ至リタルヲ以テ明治四十五年三月制令第二號ヲ以テ古物商取締令ニ關シテハ古物
 商取締ニ依ルヘキコトヲ定メ四月一日ヨリ之ヲ施行シタリ之カ施行ニ付(イ)古物商ハ賣主、贖渡主
 ニ於テ其ノ物品ヲ處分スルノ權利ヲ有スルコトヲ確認シタル後ニ非サレハ買受交換ヲ爲スチ得サル
 コトト爲シ(ロ)不正品ノ疑アルモノハ申告スヘキコトヲ命ジ以テ不正品ノ販路ヲ杜絶シ同時ニ不正
 品ノ發見ヲ容易ナラシムルコトヲセリ其ノ他(ハ)傳染病毒ニ汚染シタル物品ノ取締(ニ)家族、雇人
 ノ營業上ニ於ケル責任ノ歸著ヲ明ニシ取締上ノ便宜ヲ得タリ同時ニ又總督府令第二十二號ヲ以テ古

- 一 犯罪檢事件數 一〇四
- 二 同 人員 九七
- 三 贓物發見件數 二〇六
- 四 同 價額 一、八四三、〇六〇

一〇 質屋取締

質屋ノ取締ニ關シ朝鮮人ニ適用スヘキ法規トシテハ光武二年十一月法律第一號典當舖規則及農商工
 部令第三十一號典當舖規則アリシカ爲取締上甚シキ不便ナカリシモ内地人ニ就テハ領事館令又ハ理
 部令第十七章 警察 四三三

物商取締ニ關スル制令施行規則ヲ發布シ(イ)營業者自ラ管理セサル店舗ノ規定(ロ)行商、露店、糶
 賣、市場ニ關スル規定等ヲ切實ニシ以テ營業者業務上ノ便利ト取締ノ完備トナ期シ(ハ)品觸ノ制
 度(ニ)帳簿ノ記載事項及保存期限ヲ定メ以テ不正品ノ發見ヲ容易ナラシメ同時ニ營業者力不慮ノ
 損失ヲ蒙ルコトナカラムコトヲ期セリ而シテ同年四月施行以來十月ニ至ル六箇月間ニ於テ其ノ取締
 ノ爲贓物ヲ發見シ之ニ據リテ犯人ヲ檢舉シタル件數、人員及發見價額ヲ示セハ左ノ如シ

事願令ヲ以テ取締法規ノ定メアリシモ其ノ規定事項トシテハ甚シク區區ニ互リ從テ取締上ノ緩嚴其ノ宜シキヲ得サルノモナラス尙取締法規ナキ地方ニ於テ支障尠カラズ殊ニ併合以來内地人ノ朝鮮内ニ移住スル者年々増加シ來リ開港地ハ勿論其ノ他ノ地方ニモ内地人ノ實屋業ヲ爲ス者益多キヲ加ヘ明治四十四年末調査ニ依レハ實屋業者總數千二百三十四人内地人六百四十一人ナリ斯ル狀況ナルヲ以テ全朝鮮内ニ施行スヘキ共通法規ノ必要ヲ感スルニ至リタルノミナラス内地人ト朝鮮人トノ取締上ノ權衡モ亦甚シキ差違アリ不都合尠カラサルヲ以テ明治四十五年三月制令第三號ヲ以テ實屋取締ニ關シテハ實屋取締法ニ依リシメ内地人ヲ同一法規ノ下ニ取締マルコトト爲セリ但シ朝鮮ニテハ經濟上ノ狀態ト其ノ業務上ノ舊慣トハ内地ト同一ニ律スヘカラサルモノアリ仍テ利子制限、流質期限、實物處分及實物ノ滅失又ハ毀損ノ場合ニ於ケル損害ノ負擔ニ關シテハ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得ヘキ特例ヲ認ムルコトト爲シ總督府令第三十二號ヲ以テ制令施行規則ヲ發布シ其ノ條項中ニ利子ノ割合、流質期限、實物ノ滅失又ハ毀損ノ場合ニ於ケル損害負擔ノ方法ハ認可ヲ受クヘキ旨ヲ定メ舊慣アルモノニシテ弊害ナキ以上ハ可成認可スルノ方針ヲ採リ且經濟上ノ關係ヨリ利子ノ割合ハ取締

法ノ制限ニ依ラサルコトヲ得ル旨ノ例外規定ヲ認メテ施行上最モ適切ナラムコトヲ期シタリ其ノ結果實施後ニ於ケル狀況ハ頗ル良好且適當ナル狀況ニ於テ執行セラレツツアリ尙施行規則ニ於テハ(イ)營業者自ラ管理セサル店舗ノ規定ヲ設ケ(ロ)典當舖ノ名稱ヲ用非テ營業スルコトヲ得セシメ(ハ)組合ノ設置ヲ認メ(ニ)品觸ノ制度(ホ)帳簿ノ調製及保存ノ規定等ヲ設ケタリ之ニ依リ不正品ノ發見ニ多大ノ便利アリシムルノミナラス一面營業者ヲシテ不慮ノ損害ヲ蒙ルコトナカラシメ且取締上ノ便宜ヲ得ルコトヲ期セリ此ノ法令發布ノ效果ハ著大ニシテ同年四月施行以來十月ニ至ル六箇月間ニ於テ實屋取締ニ依リ發見シタル贓物ノ發見件數及價額又之ニ據リ檢舉シタル犯罪ノ件數、人員等ヲ舉クレハ左ノ如シ

一 犯人檢案件數	四八〇
二 同 人員	二九五
三 贓物發見件數	七七六
四 價 額	四、二七、四〇〇



一 遺失物ニ關スル件

四三六

遺失物ニ關シテハ從來何等特別ノ法規ナク朝鮮人ニ對シテハ拾得ノ場合ニ於ケル届出又ハ隠匿ニ就キ刑法大全ノ規定アルノミニテ内地人ニ對シテハ内地ノ遺失物法ニ準シテ之ヲ取扱ヒ來リシモ斯クテハ之ガ統一ヲ圖クノミナラス其ノ不便尠カラズ仍テ明治四十五年五月制令第二十三號ヲ以テ遺失物其ノ他ノ物件ニ關スル規定ヲ發布シ犯罪者ノ置去リタルモノト認ムル物件誤テ占有シタル物件他人ノ置去リタル物件逃走ノ家畜又ハ埋藏物ニ關シテハ遺失物法ニ依ルコトトシ同時ニ之ガ施行ニ關スル府令ヲ發布シ同年六月一日ヨリ實施スルニ至レリ

二 寄附金募集取締

從來朝鮮人ニ對シテハ舊韓國ノ寄附金募集取締規則ニ依リ朝鮮總督之ヲ許可シ内地人及外國人ニ對シテハ明治三十九年四月發布ノ統監府令保安規則ニ依リ京城ニ在リテハ警務總長其ノ他ノ地方ニ在リテハ警務部長ニ於テ認可シ居タリシカ該規則ハ取締官廳下許可官廳トナ異ニシ不便尠カラサルヲ以テ四十四年十一月朝鮮總督ハ府令ヲ以テ寄附金募集取締規則ヲ發布シ内外人タルト朝鮮人タルトナ間ハス之ヲ取締ルコトト爲セリ

三 消防

從來京城其ノ他内地人ノ居住スル市街地ニ在リテハ消防ニ關スル經費ハ民間若ハ民會ニ於テ之ヲ負擔シ警察之ヲ監督ヲ爲シタリシカ今日ニ在リテハ從來消防ノ設備ヲ缺キタル地方ニ於テモ之ガ組織ヲ見ルニ至レリ大正元年十一月ノ調査ニ據レハ朝鮮全土ニ於ケル消防組ノ組織數ハ左ノ如シ

- 一 内地人ノミ組織スルモノ 三四組
- 二 内地人朝鮮人合同組織スルモノ 九一組
- 三 朝鮮人ノミ組織スルモノ 一一八組
- 二四三組

四 犯罪狀況

明治四十五年上半期ニ於ケル犯罪發生數ハ二萬二千三百二十五件ニシテ檢事件數ハ一萬七千二百四十件ナリ客年ノ下半期ニ比スレハ犯罪發生數ニ於テ五千一百檢舉數ニ於テ四千五百三十二ヲ増加セ

第十七章 警察

四三七

此ノ現象ハ實際犯罪ノ増加ニアラスシテ前述セル警備機關ノ分散的配置ニ由リ警察力ノ普及ト共ニ自然犯罪ノ發覺スルニ至リシト又一般國民ニ於テモ犯罪必訴ノ觀念ノ發達セルトニ起因スルカ如シ面シテ犯罪種別ハ竊盜、強盜、詐欺取財、賭博、傷害罪、猥褻、姦淫等最モ多シ

一五 犯罪即決ニ關スル概況

明治四十五年上半年ニ於テ犯罪即決ノ件數ハ九千七百四十九件ニシテ其ノ内賭博罪及諸取締規則違反最多ク其ノ他ハ傷害犯又ハ警察犯處罰規則違反等ナリ而シテ一般人民ノ感想ハ何レモ裁判ニ於ケルカ如キ日數ヲ要セス治罪ノ形式簡略ニシテ而モ處斷公正且敏速ナルカ爲傾ル適切ナル制度ナリト稱シ居レリ仍テ正式裁判ノ請求ヲ爲スモノ至テ少ク即決總件數中其ノ申請ヲ爲セシハ僅カニ二十二件ニシテ内無罪トナリシモノ二件ナリ

一六 民事争訟調停ノ概況

明治四十五年上半年ニ於ケル民事争訟調停件數ハ内外人合シテ五千二百二件ニシテ之ヲ客年下半期ニ比スレハ一千七百五十二件ノ増加ナリ一般人民ノ之ニ對スル感想ハ其ノ取扱敏速ニシテ手續簡易殊

ニ日數及費用ヲ要セサル點ニ於テ歡迎スルモノノ如シ而シテ其ノ事件ハ金錢請求小作物引渡及其ノ他物品引渡請求事件最多クシテ漸次著シク増加ノ傾向アリ

一七 警察犯處罰規則改正及實施後ノ狀況

從來朝鮮ニ於テハ警察犯ニ對スル取締ハ四十一年統監府令第四十四號警察犯處罰令ニ依リシモ同令ハ朝鮮人ニ效力ヲ有セス一般取締上往々其ノ均衡ヲ失シ遺憾ノ點懸カラサルト一般刑事ニ關スル法令ノ整理統一ヲ期スル趣旨トニ依リ朝鮮内ニ在ル内外鮮人ヲ同一取締ノ下ニ置クノ便宜ナルヲ認メ刑事令發布ニ際シ四十五年三月朝鮮總督府令第四十號ヲ以テ右處罰令ヲ改正シ所定罪目ヲ八十七種ニ類別シ舊令ニ十二種ノ罪目ヲ加ヘ此等ハ主トシテ朝鮮現時ノ實狀ニ照シ朝鮮人ノ行爲トシテ取締ヲ要スヘキモノ又ハ警察取締ニ屬スヘキ諸營業ノ濫部其ノ他ニ對スル取締ヲ厲行スル主旨ニ依リタルモノナルカ改正發布後ノ狀況ハ一般ニ良好ノ成績ヲ示シ安寧秩序ノ保持、特殊弊風ノ矯正等效果大ニ見ルヘキモノアリ其ノ他加罰上ニ於テモ輕重其ノ宜キヲ得又社會公衆ニ於テモ此等法規ノ改正ハ時世ノ要求ニ伴フ適切ノ措置ナリト稱シ居レルカ如シ改正後ニ於ケル加罰件數ヲ舉クレハ一千三



百九十五件ニシテ本令實施上ニ於テ違反者ノ必罰ニ偏スルカ如キ弊アルヲ認メス

一八 執達吏事務取扱概況

明治四十五年上半年ニ於ケル執達吏事務取扱件數内地人ハ一萬一千八百十八件ニシテ朝鮮人ハ七千四百四十五件ナリ其ノ手数料内地人ハ二千七百十九圓二十七錢ニシテ朝鮮人ハ三千四百十六圓十五錢ナリ又之ヲ取扱事件ハ漸次著シク増加シツツアリ而シテ朝鮮人ニ對スル強制執行事務ハ明治四十一年以降舊韓國民刑訴訟規則ニ基キ警視廳警部ヲシテ執行官吏トシ總テノ有體助産ニ對スル執行及特定物ノ引渡ヲ目的トスル執行事務ニ從事セシメ又明治四十二年司法權委任ト共ニ勅令ニ依リ内地人及外國人ニ對スル該事務モ亦警察官吏ニ委セラレタリシカ明治四十五年四月朝鮮民事令實施ニ依リ内、鮮、外、人共ニ同一手續ニ依ルコトナリ目下釜山ニ於テノ執達吏事務者ニ於テ取扱ヲ爲シ居ルヲ除ク外全部警察官吏ヲシテ同事務ヲ取扱ハシメツツアリ

第十八章 通信

併合以來通信事務ハ其ノ發達著シク内地人又ハ外國人ノ居住地若ハ府郡廳所在地其ノ他樞要ナル土地ニ郵便局又ハ郵便所ヲ設置シ各府郡ニ少クモ一箇所以上ノ完全ナル通信機關ヲ有スルニ至リタルヲ以テ今ヤ中島到ル處通信ノ便ヲ有セサルハ無キニ至レリ

左ニ通信機關發達ノ概況ヲ示スヘシ

(各年度末日調)

年 度	郵便局	郵便所	郵便所	受渡所	郵便電信	電話	計	郵便切手
大正元年十月末	一七九	二八五	—	—	—	七二	五三六	—
明治四十四年度	一九九	二七二	—	—	—	六七	五二九	一三七〇
同 四十三年度	一九五	二四二	—	—	—	五九	五〇三	八五五
同 四十二年度	一八五	二〇九	—	—	—	四九	四三三	五四五
同 四十一年度	一八六	一五二	—	—	—	四八	四八三	四八三

郵便局所ニ於テハ左ノ事務ヲ取扱フモノトス

四四二

- 郵便局 郵便、爲替、貯金、電信、電話、歳入歳出金受拂、年金恩給交付
- 郵便所 郵便、爲替、貯金、電信、電話、歳入歳出金受拂、年金恩給交付
- 電信取扱所 電信

二 郵便線路

(各年度末日調)

年 度	通 常 道 路		電 報 道 路		水 道	
	單 程	雙 程	單 程	雙 程	單 程	雙 程
大正元年十月末	二、四六五	四、九五〇	八三三	四、八七七	一〇、一一九	三、七三三
明治四十四年度	二、五〇八	四、八八五	七八〇	四、三九六	一一、〇〇七	三、七三三
同 四十三年度	二、六八九	三、九〇四	六八一	三、三六六	一一、五三六	三、四一四
同 四十二年度	二、四三三	三、三三〇	六四六	二、八九三	一一、二八八	二、八八〇
同 四十一年度	二、三六五	三、六四二	六四七	二、七七〇	一〇、五五四	二、七九〇
						二、六九六

三 電信及電話線路

(同上)

年 度	電 信 線 路		電 話 線 路	
	長 線	短 線	長 線	短 線
大正元年十月末	四、四二五	三、五三七	一、〇一七	六、七三九
明治四十四年度	四、〇七	三、三九二	一、〇一七	六、四一二
同 四十三年度	三、八八九	三、一七二	一、二〇四	四、一四八
同 四十二年度	三、三六三	二、〇五四	一、〇三三	二、九八一
同 四十一年度	三、一六	二、八八〇	八二	二、二五三

四 郵便物取扱數

(各年度中)

年 度	引 通 常 郵 物		引 小 包 郵 物	
	受 配	送 達	受 配	送 達
明治四十四年度	五、四三〇、九四一〇	六、三、四二二、五九七	七、八七三、三六	一一、一六三、五三
同 四十三年度	四、七〇八、五七〇	五、三、一八一、四七一	六、六一六、三三	九、二八〇、九七
同 四十二年度	四、〇七三、八二二	四、三、二七七、八二〇	四、八九一、七三	七、五〇、九六七

第十八章 通信

四四三

五 外國郵便物取扱數 (各年度中)

同 四十一年度	三五、六五九、七五八	三七、六一四、九七九	三六、二七六、三	六〇、一七六、五
同 四十年度	三一、六四一、六九〇	三三、〇二七、七八九	三二、八〇三、五	四三、八五一、六

六 朝鮮人通常郵便物取扱數 (同上)

年 度	引 受		配 送		計 受		計 送	
	内 國	外 國	内 國	外 國	内 國	外 國	内 國	外 國
明治四十四年度	一一七、二九五	二五〇、四三三	二一四、〇	六九、一六	一〇、四六五	一〇、四六五	七九、五五八	三三、四一三
同 四十三年度	一一三、八七八	二二九、八五三	一四〇、一	一〇、四六五	一〇、四六五	一〇、四六五	七三、五四七	三〇、八〇〇
同 四十二年度	一三〇、六五〇	一七七、七七五	一四〇、一	一〇、四六五	一〇、四六五	一〇、四六五	七三、五四七	三〇、八〇〇
同 四十一年度	一五八、三〇九	四四七、五八四	一三〇、三	四、二二	一〇、四六五	一〇、四六五	六、一三七五	二六、三七八
同 四十年度	一三九、三三八	四〇三、八九七	一三〇、三	三、一〇八	一〇、四六五	一〇、四六五	六、一三七五	二六、三七八

朝鮮ニ於ケル郵便爲替ノ業務ハ金融機關ノ設備洽カラサルト内地人移住者ノ増加ト朝鮮人商工業ノ發達トニ因リ逐年著シク發展シ來リシモ近來ト増加復舊日ノ如クナラサルハ從來軍隊間ノ經費送金ハ主トシテ郵便爲替ニ依リシモ近來殆ト郵便振替貯金ヲ利用スルニ至リタルト且一般民衆ノ送金モ亦同時金ヲ利用スルモノ増加セルニ外ナラス然レトモ明治四十四年度ノ取扱高ハ之ヲ前年度ニ比スレハ尙一割以上ノ増加ヲ示スヲ以テ朝鮮郵便爲替業務ハ穩健ナル發達狀態ニ在ルヲ認ムヘキナリ今既往ニ於ケル其ノ取扱高ヲ示セハ左ノ如シ

七 郵便爲替取扱數 (各年度中)

明治四十四年度	七五、七四、七三六	二八、〇五六	七六、〇三、七三三	二四、六三六	一〇、三七六、七〇五
同 四十三年度	七五、七四、七三六	二八、〇五六	七六、〇三、七三三	二四、六三六	一〇、三七六、七〇五
同 四十二年度	六五、一〇、六七六	三五、四二四	六五、四六、〇五五	三〇、四〇八	五、九九七、三五四
同 四十一年度	四〇、六七、三五四	二九、三二六	四〇、九六、六七〇	二七、二六四	四、三、四八四



年度	内國		爲替		外國		爲替		合計	
	口數	金額	口數	金額	口數	金額	口數	金額	口數	金額
明治十四年度	1,592,400	1,592,400	1,592,400	1,592,400	1,592,400	1,592,400	1,592,400	1,592,400	1,592,400	1,592,400
明治十五年度	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
明治十六年度	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
明治十七年度	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
明治十八年度	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
明治十九年度	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
明治二十年度	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000

朝鮮ニ於ケル郵便貯金ハ逐年著シク増進シツアルモ其ノ預金ハ主トシテ内地人ニ在リ朝鮮人ノ預入ハ貯金總額五百萬圓ノ内六十三萬圓即チ其ノ八分ノ一ニ過キス是レ朝鮮人經濟能力ノ微弱ナルニ由ルモノナリト雖亦勤儉貯蓄ノ觀念極メテ既シキニ由ラスムハアラス故ニ朝鮮人啓發上貯蓄獎勵ハ當面ノ急務ナルニ依リ統監府設置以來本府選賃局ニ於テハ之カ獎勵ノ策ヲ講シ朝鮮文郵便貯金通帳ヲ發行シ又ハ朝鮮文郵便貯金案内書若クハ朝鮮文貯金勸書等各種ノ冊ヲ配付スルト共ニ一面郵便貯金利子ヲ朝鮮内ニ限リ五歩四ヒニ高メ以テ朝鮮ノ金融状態ニ適切ナラシムル等預入ノ利益ヲ計リ

八 郵便貯金取扱數

(各年度中)

最メテ獎勵ニ從事シツアルノ結果朝鮮人郵便貯金ノ發達頗ル顯著ニシテ明治四十四年度末ニ於ケル貯金ハ之ノ前年度末ニ比スレハ預入員ニ於テ十八割強預金額ニ於テ十四割強ノ増加トナリ將來ノ發達利目ニ値スルモノアルヘシ今既往ニ於ケル年々ノ取扱高ヲ示セハ左ノ如シ

年 度	預入		拂入		戻入		平均一 度ノ金額
	員數	金額	員數	金額	員數	金額	
明治四十四年度	1,133,233	1,133,233	1,133,233	1,133,233	1,133,233	1,133,233	1,133,233
同 四十三年度	637,233	637,233	637,233	637,233	637,233	637,233	637,233
同 四十二年度	637,233	637,233	637,233	637,233	637,233	637,233	637,233
同 四十一年度	637,233	637,233	637,233	637,233	637,233	637,233	637,233
同 四十年度	637,233	637,233	637,233	637,233	637,233	637,233	637,233

九 朝鮮人郵便貯金比較

(各年度末)



年 度	朝鮮人貯金		内地人貯金	
	人 員	一 人 平 均 額	人 員	一 人 平 均 額
大正元年十月末	一六五、九三三	六三九、七六六	一三七、九一〇	四、四七八〇、九四四
明治四十四年度	九九、九五八	四、五九八、二二	一三三、六四一	三、九〇六、一七五
同 四十三年度	三、四九一、三	一、九〇、〇四五	二〇四、〇七三	三、〇一六、四二〇
同 四十二年度	一、九四三、五	一、七三、二七	八七、二〇八	二、二四四、三三四
同 四十一年度	一〇、九九九	七五、八一四	六八、九	一、五九九、八四四

近時振替貯金ヲ利用スル者倍多ク前年度ニ比シ著シク増加セリ蓋シ朝鮮、内地間一般商取引ノ發
展シタルト朝鮮内商工業ノ發達トニ伴ヒ商工業者ノ朝鮮振替貯金口座ニ加入スルモノ増加シタルト
又各地軍隊間ノ經費送金ハ殆ト之ヲ利用スルニ至リシ第ニ因ルモノトス今各局所受拂高及口座受拂
高ノ年取振數ヲ擧ケレハ左ノ如シ

十 郵便振替貯金取扱數

(各年度中)

年 度	拂 込		拂 出	
	度 數	金 額	度 數	金 額
明治四十四年度	二一三、四〇九	四、八三六、一一六	一八、六六八	五、五五〇、〇二二

同 四十三年度	一四四、〇四八	七、一七二、一四九	八、四九五	二、六六〇、九六七
同 四十二年度	七九、〇〇四	四、〇八四、一八七	二、八六〇	三、八二、一三六
同 四十一年度	四八、一一一	一、〇四七、五五五	一、二四六	一、五二、六七八
同 四十年度	二五、一五二	七五、一六四〇	四九六	七、二六四

十一 郵便振替貯金口座受拂

(各年度中)

年 度	受 入		出 入		年 度 末 現 在 人 員 金 額
	口 座 振 替 額	口 座 振 替 人 員 口 數	口 座 振 替 額	口 座 振 替 人 員 口 數	
明治四十四年度	六、六五三、二六四	三、四四四、〇	一、八〇八、三	二、七九六、六	一、三三〇、〇
同 四十三年度	三、三三三、三	一、九一三、三	一、八〇八、三	二、七九六、六	一、三三〇、〇
同 四十二年度	三、三三三、三	一、九一三、三	一、八〇八、三	二、七九六、六	一、三三〇、〇
同 四十一年度	三、三三三、三	一、九一三、三	一、八〇八、三	二、七九六、六	一、三三〇、〇
同 四十年度	三、三三三、三	一、九一三、三	一、八〇八、三	二、七九六、六	一、三三〇、〇

備考 朝鮮ニ於ケル振替貯金口座ハ明治四十三年一月開設ノモノニ付明治四十二年分ハ一月

ヨリ三月ニ至ル三箇月分ヲ計上ス

十二 電報取扱數

(各年度中)

第十七章 通信

四四九

年度	種別		債		著		債		中繼信
	和文	歐文	内國	外國	内國	外國	計		
明治四十四年度	1,995,000	3,150,000	1,549,000	1,641,000	1,641,000	1,641,000	1,641,000	1,641,000	3,282,000
同四十三年度	1,995,000	3,150,000	1,549,000	1,641,000	1,641,000	1,641,000	1,641,000	1,641,000	3,282,000
同四十二年度	1,995,000	3,150,000	1,549,000	1,641,000	1,641,000	1,641,000	1,641,000	1,641,000	3,282,000
同四十一年度	1,995,000	3,150,000	1,549,000	1,641,000	1,641,000	1,641,000	1,641,000	1,641,000	3,282,000
同四十年度	1,995,000	3,150,000	1,549,000	1,641,000	1,641,000	1,641,000	1,641,000	1,641,000	3,282,000

四五〇

十三 電話取扱數

(各年度中)

年度	年度末現在者	一區域内		二區域内		合通	話數	呼出	度出
		電話	數	電話	數				
明治四十四年度	八〇三	二八、三三九	五九四	八〇七、〇八〇	二九一、四六七	二九一、四六七	九三、三一一	九三、三一一	九三、三一一
同四十三年度	六四八	二〇、六八七	四一九	五七三、七六九	二二二、六〇九	二二二、六〇九	四九、九九七	四九、九九七	四九、九九七
同四十二年度	五〇四	一六、三三五	九八六	四五五、一五五	一六、七八一	一六、七八一	三三、一四三	三三、一四三	三三、一四三
同四十一年度	三三〇	一一、三三三	三一六	三〇九、五三三	一一、五六一	一一、五六一	二一、八八三	二一、八八三	二一、八八三
同四十年度	一七六	一、六九九	六九四	二二七、七四六	一、四〇七	一、四〇七	八、七三三	八、七三三	八、七三三

第十九章 交通

一 道路

朝鮮ノ道路ハ從來京城ヲ基點トシテ各道ニ到ルノ施設ヲ爲シ居レリ岐ヲテ之ヲ九街道トス(一)義州街道、(二)慶興街道、(三)平海街道、(四)釜山街道、(五)仁川街道、(六)鎮南街道、(七)羅州街道(八)保寧街道、(九)江華街道即チ是ナリ然レトモ所謂街道ナルモノモ頗ル不完全ニシテ幅員狭ク加フルニ凸凹起伏甚ク運輪ヲ爲スニ人肩馬背ニ倚ル外ナキ狀態ニ在リシカ近年京釜及京義線鐵道ノ全通スルアリ其ノ枝線ノ延長セラルルアリ又湖南及京元線鐵道ノ一部開通セラルルアリテ從來不充分ナリシ交通ハ漸ク便ヲ得ルニ至リシカ半島内陸ノ開發ハ當ニ一部鐵道ノ開通ニ由リテ辨スヘキニ非サレハ明治三十九年以來舊韓國政府ハ努メテ諸道ノ改修ヲ行ヒ要路ニハ地方費ヲ支出シ國庫ヨリ亦之ヲ補助シ以テ其ノ費ニ充テ勉メテ改修ヲ計リツツアリシカ總督府ハ四十三年韓國併合以後新ニ五百有餘里ノ道路改修ヲ企畫シ四十四年度以降五箇年ヲ以テ竣成スヘキ豫定ナリ斯ノ如ク交通

第十九章 交通

四五二

機關ノ整備ヲ計リツツアルヲ以テ近キ將來ニ於テ交通上一段ノ便宜ヲ得ルニ至ルヤ必セリ改正道路ハ地方ニ依リ同シカラスト雖幅員二間半乃至四間トシ尙六間ニ到ルモノアリ近時京城、龍山間ノ道路ヲ十五間幅トシタルカ如キ京城市街ノ凸凹甚シク幅員狹隘ナル部分ヲ漸次改修シタル如キ大邱、仁川新市街ヲ擴張シタルカ如キアリ又京城ニハ軌近市區改正ノ聲漸ク高ク既ニ局部ノ改修の線路修築ノ實施中ニ屬スルモノアリ今ヤ都鄙ヲ通シテ道路ノ改修ニ努メツツアレハ朝鮮各地ノ交通ハ内陸ノ發展ニ伴ヒ漸次普及スヘシ

四五二

改正道路一覽表

(明治四十三年年度前迄ノ起工ニ係ルモノ)

區別	等級	幅員	總距離	功	程
鎮南浦平壤間	一	三・九	一三・〇四	全部竣成	
木浦光州間	一	三・三	二二・〇五	同	
大邱慶州間	二	三・三	一一・二八	同	
群山全州間	二	三・九	一一・三〇	同	



況狀事工修改路道開州會泉金道北會慶

水原利川間	公州小井里間	晉州新馬山間	新安州寧邊間	海南河東間	清津鏡城間	麻田洞新義州間	黃州同停車場間	海州龍塘浦間	大邱新市街線	仁川新市街線	慶州浦項間	天安溫陽間	清州島政院間	鎮南廣梁灣間	永興柳島間	咸興四湖津間
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二

二	二	二	二	二	二	二	二	二	六	三	三	三	二	三	三	三
八	六	八	八	八	八	八	八	八	八	八	〇	〇	〇	〇	〇	〇

二	一	一	四	七	七	八	〇	〇	〇	〇	七	四	三	三	三	三
二	八	八	一	三	三	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
八	九	二	八	五	五	八	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三

正

沙里院	二	三〇〇	四二九	竣	
海河支線	二	二〇〇	〇三二	同	
大邱海谷間	二	四〇〇	一〇四	同	
清津江岸線	二	二八	二二八	同	
全州附線	二	四〇	二二八	同	
順天、成安、成安	二	二五	四〇〇	同	
京城市計	二	四〇一	二〇八〇六	同	

自明治四十四年五箇年繼續治道工事概況
至大正四年

路線名	等級	幅員	總距離	距離	進捗	摘要
清津會寧線	二	四	三二・八	二〇・三	七步二厘	清津方面ヨリ著手清津ヨリ九里二十七町間ハ竣功

平壤、元山線	二	四	五五・〇	一一・〇	九步二厘	平壤、元山兩方面ヨリ著手元山方面二里三十三町間
京城、元山線	二	四	三〇・〇	一一・〇	五步	元山ヨリ淮陽附近ニ至ル局部改修著手
海州、載寧線	二	三	一五・八	一一・三	八步四厘	海州載寧兩方面ヨリ著手載寧方面一里二十七町間
安州、滿浦線	二	三	八〇・八	二四・三	六步一厘	安州方面ヨリ著手
清州、陰城線	二	三	一一・〇	一一・三	六步五厘	清州方面ヨリ著手清州市街五町餘竣功
晉州、尙州線	二	三	四四・〇	三二・五	三步八厘	晉州、尙州兩方面ヨリ著手尙州方面十四町餘同
順天、全州線	二	三	三三・〇	三三・〇	六步七厘	順天、全州兩方面ヨリ著手全州方面二里十八町竣功
利川、長湖院線	二	四	七二・八	七〇・七	三步	利川方面ヨリ著手

交通

利川、江陵線	三	四八・八	一四・四	二步二厘	利川方面ヨリ著手
雄基、慶興線	三	四〇〇〇	一五・三	一步	城津及銅店兩方面ヨリ著手
京城、利川線	四	九〇〇	三・〇	二步五厘	雄基方面ヨリ著手
公州、論山線	四	一〇〇〇	三・九		利川方面ヨリ著手著手後日淺ク 歩通ヲ計上スルニ至ラス
會寧、行營線	四	一〇〇〇			一部土工ニ著手準備中
行營、穩城線	三	六・八			
行營、慶興線	三	六・八			
輪城、茂山線	三	三・〇			
北青、城津線	四	三・〇			
古站、水南線	四	九・〇			
忠州、陰城線	三	六・八			
尙州、忠州線	三	二・八			
河東、院田線	三	七・〇			
寧邊、雲山線	三	六・〇			

四五六

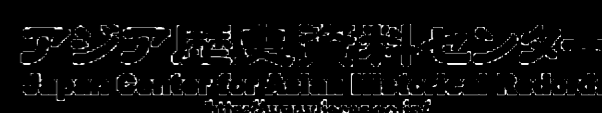
雲山、昌城線	三	一九〇〇			
大邱、尙州線	三	二〇〇〇			
忠州、長湖院線	三	五〇〇			
計		五八七・八	一八八・〇	五步二厘	舊道局部改修 同前
外					
京城市街線	二		二四	四步二厘	(一)黃金町通 (二)青寧橋光 驛門 (三)太平町通
沙里院、載寧線	二		二五	七步	既成道路補修

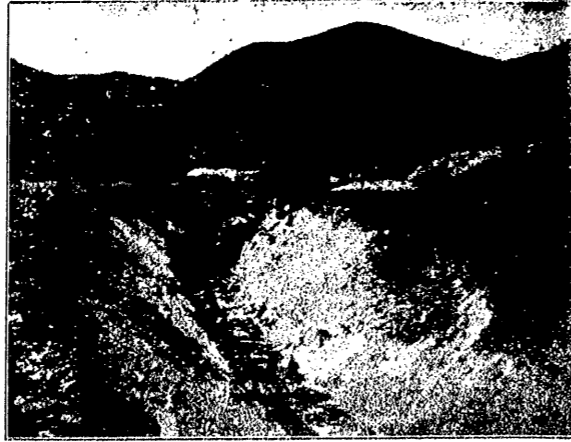
備考

- 一、木表中進工歩通ハ著手距離ニ對スル歩通ヲ示ス
- 二、著手距離記入ナキ路線ハ大正元年度以降ノ所屬トス

二 鐵 道

明治三十四年始メテ京釜鐵道起工サレ同三十九年京義線竣成シ此ノ二大線ハ合シテ一幹線ト成リ半島ヲ縱貫シ南端釜山ヨリ起リ北端新義州ニ到リ鳴鶴江ヲ渡リ清國安東縣ニ達ス全延長五百八十五哩





湖南鐵道第二線嶺道工事ノ光景



京元鐵道線嶺拂浪拱橋工事ノ景

四五八

アリ而シテ支線中永登浦ヨリ岐レテ仁川ニ到ルモノヲ京仁線ト爲シ三浪津ヨリ馬山ニ達スルモノヲ馬山線ト爲シ黃州ヨリ兼二浦ニ入ルモノヲ兼二浦線ト爲シ平壤ヨリ鎮南浦ニ達スルモノヲ平南線ト爲ス孰モ要港ニ出テテ世界的交通ノ便ニ資セリ

目下建設中ノモノ一ヲ湖南線ト爲シ他ヲ京元線ト爲ス湖南線ハ京釜線大田ヨリ起リ江景、羅州ヲ經テ木浦ニ達スル幹線ト之ヨリ分岐シテ群山ニ到ルノ支線ヨリ成リ延長百七十四哩五分ニシテ明治四十三年度ヨリ起工シテ一箇年間ニ完成ノ豫定ニシテ總費額千二百八十二萬四千三百五十四圓外ニ車輛費二百七十五萬五千六百四十六圓ヲ計上シタリシカ朝鮮ノ狀況ハ其ノ速成ノ必要アルニ鑑ミ十一年計費ヲ短縮シテ五年計費ト爲シ(第二十七議會ニ於テ)既ニ大田、非邑間ノ八十一哩九分ハ工事竣成シ營業ヲ開始セリ京元線ハ龍山ヨリ起リ連川、鐵原、平康ヲ經テ元山ニ達スルモノニシテ延長百三十六哩三分ナリ明治四十三年度ヨリ起工シテ一箇年ニ完成ノ豫定ニシテ總費額千四百三十三萬六千九百八十八圓外ニ車輛費二百四萬四千五百圓ヲ計上シタリシカ速成ノ必要上五箇年竣功ノ計費ト爲シ既ニ龍山、鐵原間六十哩八分ハ工事竣功シ營業ヲ開始セリ

今や歐亞連絡ノ第一關門タル鴨綠江ノ架橋工事竣工シ所謂歐州極東間ノ最捷線路ハ開通スルニ至リ日本ヨリ歐州ニ赴クモノ歐洲ヨリ極東ニ來ルモノ至大ノ利便ヲ享ケルニ至レリ京城南大門發ノ列車ハ僅ニ二十時間ニシテ新義州ヲ經、鴨綠江ヲ渡リ安東縣ニ達スヘク尙十六時間ニシテ長春ニ到ルヘシ朝鮮鐵道及滿洲鐵道ハ鮮滿ノ連絡ヲ圖リ且歐亞ノ脈絡ヲ通スル爲ニ南大門ヨリハ每週火木土又長春ヨリハ月水金ニ列車ヲ運轉セシメツツアリ此ノ線路ニ依レハ東京ヨリ長春ニ到ル僅ニ三晝夜ニシテ達スヘシ

朝鮮鐵道ハ幾多ノ變遷ヲ經テ今日ニ至リ今や朝鮮總督府ノ所管ニ係リ本線支線ヲ通シ孰モ四呎半ノ廣軌ヲ敷設シ車輛ハ「ボギー」式ヲ用キ殊ニ客車ハ廣潤ニシテ壯麗ナリ貨車モ亦長大ニシテ一輛克ク二十六噸ヲ搭載シ得ヘク殊ニ鮮滿直通列車ハ歐米ニ讓リサル優良ナル車輛ヲ以テ編成セリ

附 記

鴨綠江ノ架橋ハ總延長三千九十八呎ニシテ朝鮮側ヨリ二百呎八連三百呎六連ノ鋼桁ヲ架シ清國側ニ達スルモノニシテ明治四十二年八月起工シ四十四年五月橋臺橋脚ヲ竣成シ同年十月ニ橋桁工事

ノ建設ヲ終ヘタリ該橋梁ハ朝鮮側ヨリ第九連ノ梁ヲ開閉式ト爲シ船舶ノ航行ニ便ナラシメ又橋梁ノ兩側ニ幅八呎宛ノ歩行道ヲ設ケ通行ノ用ニ供セシム尙各桁ノ最下端ハ平時滿潮水面上二十五呎干潮水面上三十呎ナルヲ以テ普通ノ船舶ハ橋梁ノ下ヲ通過スルヲ得ヘシ橋脚ハ孰レモ河中ニ潛水函ヲ沈下シ遂ニ川底ニ達シ基礎工事ヲ施シタルモノニシテ豫期以上ノ好成績ヲ收メタ

左ニ朝鮮鐵道ノ最近ノ狀況ヲ示サム

朝鮮鐵道線路哩程

大正元年十二月一日現在

線名	區	間	哩程	摘	要
京釜線	本馬	四大門(京城)釜	二七四哩		
		永登浦仁	一八四哩		
京仁線	山	三浪津	二四八哩		
		龍山	三一〇哩		

總計	湖南線	京元線	京義線
兼二浦線 平壤南線 平壤炭鐵線 新義州荷拔所線	本線 山線	兼二浦線 平壤南線 平壤炭鐵線 新義州荷拔所線	兼二浦線 平壤南線 平壤炭鐵線 新義州荷拔所線
里井大鐵龍新平平黃 里邑田原山州義壤州 群木井元鐵州州州州	里邑田原山州	里井大鐵龍新平平黃 里邑田原山州	里井大鐵龍新平平黃 里邑田原山州
山浦邑山原州州州州	山浦邑山原州	山浦邑山原州	山浦邑山原州
八・九 三・四 六・七 一・二	七・七 八・一 七・九 一・四	六・〇 七・三 七・三 一・二	八・九 三・四 六・七 一・二
旅客ノミヲ取扱フ 貨物ノミヲ取扱フ	建設中	建設中	建設中
八三七〇 一五六三			

第一表 自明治四十一年度至大正元年度上半期鐵道營業成績表

年	度	京釜線	京義線	湖南線	京元線	全線合計
一九一一年	度	一、七三三、三三三	五八七、〇三九	一	二	二、三二〇、三七四

第十九章 交通

四十四年度	四十三年度				四十二年度				四十一年度							
	運輸收入	旅客人員	貨物噸數	小手荷物噸數	運輸收入	旅客人員	貨物噸數	小手荷物噸數	運輸收入	旅客人員	貨物噸數	小手荷物噸數	運輸收入	旅客人員	貨物噸數	小手荷物噸數
五五、二四二	八、四六六、三〇四	一、七五七、二九八	四八、九二九	九七、六八八	一、五四三、八六二	一、五四三、八六二	四九、七三六	九七、三六六	三、六二〇、三六三	一、五三三、六九五	四三、八七一	七、五四四、三九九	二、六二〇、三六三	一、五三三、六九五	四三、八七一	七、五四四、三九九
五、四九二、〇三三	一、七五七、二九八	七、七三三、九六五	一、〇八、四九五	一、〇八、四九五	六、三三三、〇五二	六、三三三、〇五二	二、二七、〇八三	二、二七、〇八三	五、四三三、七三一	五、四三三、七三一	二、二七、〇八三	二、二七、〇八三	三、七八二、二三五	三、七八二、二三五	二、二七、〇八三	二、二七、〇八三
八〇、一九〇	一、〇八、四九五	二、五、八六六	一、三三、三〇六	一、三三、三〇六	二、〇二四、四九〇	二、〇二四、四九〇	八、八八、七三三	八、八八、七三三	八、〇四四、八七六	八、〇四四、八七六	七、二二、一三七	二、〇二四、四九〇	三、六六六、八〇五	三、六六六、八〇五	九、〇五七、五九一	九、〇五七、五九一
一八、二一六	一、〇六三、一一一	一、八、八二〇	二、二、二四〇	二、二、二四〇	一、八、八二〇	一、八、八二〇	二、二、二四〇	二、二、二四〇	一、八、八二〇	一、八、八二〇	二、二、二四〇	一、八、八二〇	二、二、二四〇	二、二、二四〇	二、二、二四〇	二、二、二四〇
		一、七、九三五			一、七、九三五	一、七、九三五			一、七、九三五	一、七、九三五		一、七、九三五	一、七、九三五	一、七、九三五	一、七、九三五	一、七、九三五

四六二

大正元年度 上半期	運輸收入		旅客人員		貨物噸數		小手荷物噸數	
	金額	噸數	人員數	噸數	人員數	噸數	人員數	噸數
二、九六五、八一五	一、八八三、六五七	一、六、五〇五	四、九二二、五五〇	一、〇八、四九五	一、三三、三〇六	二、〇二四、四九〇	八、八八、七三三	九、〇五七、五九一
二、二七、〇七	六五、二〇二	一、〇、〇〇六	七、四、三八三	二、〇、五三三	九、九六四	五、八、八九六	五、〇、八六、六一〇	五、二、二、六六七
二、九六五、八一五	一、八八三、六五七	一、六、五〇五	四、九二二、五五〇	一、〇八、四九五	一、三三、三〇六	二、〇二四、四九〇	八、八八、七三三	九、〇五七、五九一

備考

各線ノ人員又ハ噸數ヲ合算シテ全線合計ニ符合セサルハ二線以上ヲ通シテ輸送シタルモノハ各線各別ニ計算セシモ全線合計ニ於テハ重複ニ互レル噸數ヲ控除シタルニ據ル
大正元年度ヨリ運輸收入ノ計算方ヲ改メテ、隨テ對照上本表收入モ此ノ計算方ニ依リタルヲ以テ鐵道局年報ニ掲載セルモノト符合セシ

第三表 其一

自明治四十一年度
至大正元年度上半期 鐵道營業成績表 (一日平均)

四六三

第十九章 交通

年	四十四年度				四十三年度			
	旅客人員	小手荷物斤數	貨物噸數	運輸收入	旅客人員	小手荷物斤數	貨物噸數	運輸收入
京釜線	四、七四九	二〇、六六九	一、〇三三	七、一七九	四、一七一	二〇、七六七	一、三六三	四、一七二
京義線	一、六〇八	四、四三五	一、〇三六	三、三九三	一、四九〇	五、二五四	八〇四	一、八〇一
湖南線								
京元線								
全線合計	五、九五三	二四、六〇一	二、〇六九	一〇、五七二	五、六〇七	二六、〇二一	二、一六七	一三、一四六

四六四

年	四十四年度				大正元年度上半期			
	旅客人員	小手荷物斤數	貨物噸數	運輸收入	旅客人員	小手荷物斤數	貨物噸數	運輸收入
京釜線	四、八〇一	二六、六九二	一、五〇六	八、一〇三	二、七六七	一、四三九	八、六三三	五、四八四
京義線	二、一七二	七、二五一	一、五〇三	五、一五三	七、〇四八	一、二八〇	五、四八四	六、一三三
湖南線	三六二	八一九	六〇六	四二七	一九四三	三八九	六二二	三九二
京元線	一五三	一三八	一〇七	九八	五〇五	二〇三	三四二	一五二
全線合計	七、一五〇	三〇、三九〇	三、一二九	一四、四八七	一四、四六三	二、八三五	二一、九一四	一五、二五四

第二表其二 自明治四十一年度至大正元年度上半期 鐵道營業成績表

(營業一哩平均)

年	度				
	京釜線	京義線	湖南線	京元線	全線合計
旅客人員	一九五、四二〇	八二、九五六			二三八、九三四

第十九章 交通

四六五

第二表其三

自明治四十一年度
至大正元年度上半期
鐵道營業成績表

(營業一哩一日平均)

年 度	四 十 一 年 度			四 十 二 年 度			四 十 三 年 度		
	旅 客 人 員	貨 物 噸 數	運 輸 收 入	旅 客 人 員	貨 物 噸 數	運 輸 收 入	旅 客 人 員	貨 物 噸 數	運 輸 收 入
京 釜 線	五三五	一七五	二二七	三二八	一〇五	一三八	四三六	一五二	二二七
京 義 線	二二七	一〇五	一八八	一〇五	一〇五	一八八	一〇五	一〇五	一八八
湖 南 線									
京 元 線									
全 線 合 計	五三一	二九〇	三二七	四三三	二一〇	三六六	四四一	二五七	四一五

第十九章 交通

四六七

年 度	四 十 一 年 度			四 十 二 年 度			四 十 三 年 度			四 十 四 年 度			大 正 元 年 度 上 半 期		
	旅 客 人 員	貨 物 噸 數	運 輸 收 入	旅 客 人 員	貨 物 噸 數	運 輸 收 入	旅 客 人 員	貨 物 噸 數	運 輸 收 入	旅 客 人 員	貨 物 噸 數	運 輸 收 入	旅 客 人 員	貨 物 噸 數	運 輸 收 入
京 釜 線	九七三	三三〇	六八六	八二〇	二八四	五八〇	七六六	二五七	八五三	九三三	三三〇	四〇七	一八八	二六六	四九六
京 義 線	三八四	一四四	二八四	二四六	一〇七	二二九	二二二	一〇九	二二二	二二二	一〇九	二二二	二二二	一〇九	二二二
湖 南 線															
京 元 線															
全 線 合 計	一,三五六	四七四	九七〇	一,〇六六	三九一	八〇九	九八八	三六六	一,〇七五	一,一五五	四三九	六一四	二〇六	二七五	一,〇〇二

四六六

大正元年度上半期	四十四年度	
	旅客人員	貨物噸數
運客人員	五八五	二六九
運貨噸數	三三三	一七三
旅客人員	三三三	一七三
貨物噸數	一四・二七	九二
運客人員	三三三	一七三
運貨噸數	三三三	一七三
運客人員	三三三	一七三
運貨噸數	三三三	一七三

四六八

三 關釜聯絡概況

從來關釜聯絡航路ニ使用セラルル船舶ハ壹岐丸、對馬丸、さくら丸、薩摩丸、弘濟丸ノ五般ニシテ前二隻ハ孰モ千六百噸以上ヲ有シ殊ニさくら丸ハ三千二百四噸薩摩丸ハ一千九百四十六噸弘濟丸ハ二千六百三十五噸ニシテ日雙方ヨリ定期ニ出航シ一ハ釜山發京城經由ノ急行列車ニ接續セシメ一ハ下關門司ニ於テ新橋、長崎及鹿兒島行ノ列車ニ聯繫直通セシメ以テ内地各所ト朝鮮間交通ノ連續ヲ爲セリ海上百二十二哩、片道十時間ニシテ渡航シ得ヘシ今明治四十四年以降其ノ概況ヲ表示スレハ左ノ如シ

關釜連絡概況

年 度	航路別		航 海		陸 路		客		貨 物		手 荷 物		小 荷 物		郵 便 物	
	内地行	朝鮮行	一等	二等	一等	二等	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計
四十四年度	計	計	一三〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
自四十五年四月	計	計	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
至大正元年十月	計	計	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇

關釜連絡船

- さくら丸 三、一〇四噸
- 壹岐丸 一、六九一噸
- 對馬丸 一、六九一噸
- 薩摩丸 一、九四六噸
- 弘濟丸 二、六三五噸

第十九章 交通

四六九

四海運

四七〇

第一 船舶

半島ニ於ケル沿岸島嶼ノ開發ト總督府命令航路ノ整理統一トハ兩兩相待チテ海運ノ發達ヲ促進シ近來著シク船舶ノ數ヲ増加シタリ蓋シ舊韓國力多年萎靡振ハス文化ノ隣邦ニ一窺ヲ輸シタルハ他ニ幾多ノ原因アルモ交通機關ノ闕如シタルモ亦其一因ニ算ヘサルヘカラス今最近朝鮮ニ現在スル船舶ノ數ヲ示セハ左ノ如シ

種別	船隻		帆		船合		總噸計
	總噸數	艘數	總噸數	艘數	總噸數	艘數	
朝鮮ニ船籍港ヲ有スルモノ	六三	一三八六六	一六九	五〇〇〇	二二三	一八八七六	計
不登簿船	二〇	一九四	一九六	九八七〇	一一六	一〇〇六四	
内地ニ船籍港ヲ有スルモノ	三八	三二九	不詳	不詳	三八	二二二九	計
不登簿船	三三	二八三	五六	七〇七	七八	九九〇	
計	一四三	一六四七二	一四二	一五五八七	一五六四	三二〇五九	

備考 内地ニ船籍港ヲ有シ朝鮮沿岸ノミナ航行スル不登簿船中帆船ハ検査ノ制ナキ爲調査ノ途ナキヲ以テ單ニ朝鮮ニ於テ假船艦札ヲ交付シタルモノノミヲ計上ス

第二 海員

船舶數ノ増加ニ伴ヒ海員ノ數亦著シク増加シ朝鮮ニ於テ検査ヲ受クル船舶乘組ノ海員ハ概數一千八百ヲ算シ内船舶職員トシテ職ヲ執ル者三百五十七人ニ達セリ

船舶職員

大正元年十月末現在

種別	日鮮人別	免狀有無	船長	運轉士等		機關長	機關士等	計
				一	二			
朝鮮ニ船籍港ヲ有スル船舶	日人	無有	七三	一	七	七二	一三	一八五
	鮮人	無有	二四	一	一	二	一	三二
内地ニ船籍港ヲ有スル船舶	日人	無有	五二	三	三	五二	三	一〇七
	鮮人	無有	四	一	一	二	一	二七
計			一三〇	六	一六	一二六	一八	二二七

第十九章 交通

四七一

内地ニ船籍港ヲ有スル船舶	計	
	有	無
朝鮮人	無有	無有
	二二五 三九	三
	三三三 三	一
	一七	一
	二二三 三	一
	一四 三	一
	二九〇 六七	三

四七二

朝鮮ニ於テハ未タ船舶職員試験ノ制度ナキヲ以テ海員ニシテ職員ノ免狀ヲ得ムトスル者ハ勢内地ニ到リ試験ヲ受クルノ外策ナク頗ル不利不愜ノ地位ニ在ルヲ以テ總督府ヨリ遞信省ニ交渉シタル結果同省ハ四十四年十月中特ニ釜山港ニ於テ臨時船舶職員試験ヲ執行シタルニ受験者十七名中十名ノ合格者ヲ出シ茲ニ始メテ在朝鮮海員ニ對シテ一大福音ヲ俾ヘタリ爾來一閱年船舶ノ増加ニ伴ヒ船舶職員ノ缺乏ヲ來シ更ニ試験執行ノ必要ヲ感シタルヲ以テ今次再ヒ右試験執行方遞信省ニ交渉シ同省ハ大正元年十一月二十五日ヨリ仁川港ニ於テ乙種船長以下及機關長以下ノ職員試験ヲ臨時ニ執行スルコトト爲シタルニ志願者六十名ノ多歟ニ達シタリ

第三 定期航路



南浦陸運路建設工事ノ状況

朝鮮沿岸ノ現在航路ハ(一)朝鮮ニ限ルモノ(二)内地ヲ起點トシテ朝鮮ニ到ルモノ(三)内地ヲ起點トシテ朝鮮沿岸ヲ經由シテ外國ニ到ルモノ(四)朝鮮ヲ起點トシテ外國ニ到ルモノ(五)外國ヲ起點トシテ朝鮮ニ到ルモノノ五種ニシテ遞省命令ニ依ルモノハ(一)(二)(三)(四)及(五)種ノ内ニ屬シ朝鮮總督府命令ニ依ルモノハ(一)種ノ内ニ屬ス別ニ陸軍省特種命令ニ依ル(二)種長崎縣命令ニ依ル(三)種、鐵道院ノ經營ニ依ル(四)種及關東都督府命令ニ依ル(五)種ノ各航路アリ又補助命令ニ依ラス自營ヲ以テ定期航海ヲ爲スモノハ(一)種航路ノ小區域ニ多ク他ハ極メテ小數ナリ今此等ノ航路ニ現在セル船舶ノ大勢ヲ示セハ

(一)ニ屬スルモノ	五七艘	六、二四七噸
(二)ニ屬スルモノ	三三艘	三〇、五七二噸
(三)ニ屬スルモノ	六艘	一〇、五三三噸
(四)ニ屬スルモノ	一艘	七七五噸
(五)ニ屬スルモノ	六艘	五、一四二噸

第十九章 交通

ニシテ更ニ政府ノ補助命令ニ依ルモノト自營ノモノトヲ區別スレハ左ノ如シ

命令航路使用船 (官營船ヲ含ム) 四三艘 三九、六九七噸

自營航路使用船 四九艘 一三、五七一噸

前記各航路ノ主ナル經營者ハ大阪商船會社、日本郵船會社、朝鮮郵船會社、鎮南浦汽船會社、尾ヶ崎汽船會社、秋田商會、阿波共同汽船會社、鐵道院等ナリトス

朝鮮沿岸定期航路一覽

大正元年十月末日現在

種別	線路	寄港地	航度	航數	經營者
朝鮮總督府命令	元山雄基線	四湖洋、前津、新浦、新島、瀨湖、獨津、清津、大長化、梨津	月	六	朝鮮郵船株式會社
自營	同	同	同	同	同
同	元山永興(五里浦)線	北久味	同	一八	同

朝鮮總督府命令	釜山雄基線	蔚山(長生浦)、迎日灣(浦項)、元山、竹邊、三陟、江陵、襄陽、杆城、長箭、元山、四湖洋、前津、新浦、新島、瀨湖、獨津、明川、漁大津、獨津、清津、城津	同	三	同
自營	釜山元山線	蔚山(長生浦)、迎日灣(浦項)、元山、竹邊、三陟、江陵、襄陽、杆城、長箭、通川(庫底)	同	三	同
朝鮮總督府命令	迎日灣豐陵島線	竹邊、釜山(二延長)	(命令) 四	同	同
自營	釜山益德線	大邊、蔚山(長生浦)、方魚津、甘浦、九龍浦、迎日灣(浦項)	一〇	同	同
朝鮮總督府命令	釜山方魚津線	蔚山(長生浦)	(命令) 三〇	同	釜山島中吉松
自營	釜山(曳船用)線	同	同	同	同
同	馬山飛鳳里線	齋藤灣	一日數回	同	馬山鎮海汽船組合
同	馬山統營線	馬山、齋藤灣、松茸浦、蜂屋村、河濟面、城浦	日航	同	馬山澤山回漕部

第十九章 交通

四七五

同	白營	釜山統營線	加德、熊川、縣洞、馬山、松真、浦河、清項、蜂庫、城浦	隔日航	朝鮮郵船株式會社
同	同	釜山巨濟府線	熊川、縣洞、馬山、塘洞(固城)	日航	釜山澤山同濟部
朝鮮總督府命令	朝鮮總督府命令	釜山木浦內線 (釜山、鹿島、三干浦、船)	統營、馬山、統營、三干浦、船	同	朝鮮郵船株式會社
白營	白營	釜山(龍橋線) (龍橋、麗水)	順天、麗水	同	同
朝鮮總督府命令	朝鮮總督府命令	釜山木浦外線 (木浦、麗水、同山)	巨濟島(長承浦)、麗水、巨文、地、牛島、濟州島、朝天、同山	八同	同
同	白營	釜山木浦內線 (木浦、麗水、同山)	右水營、釜島、長興、興陽、羅老	一〇同	同
同	白營	木浦濟州島線	右水營、楸子島	七同	同
同	同	木浦靈巖線	隨時寄航	日航	木浦平岡同濟部
同	同	木浦海南線	同	同	木浦栴見同濟部

同	朝鮮總督府命令	木浦榮山浦線	夢灘津、砂浦、中村浦、九津浦	月二回	朝鮮郵船株式會社
朝鮮總督府命令	朝鮮總督府命令	木浦群山線	智島、法聖浦、萬浦	隔日航	同
白營	朝鮮總督府命令	群山萬浦線	窟岩里、旺津、定山	同	江塚松永定次郎
同	同	仁川群山線	靈興島、カロリン、灣、安興、安、眠島、靈川、庇仁、於青島ニ臨時寄港	五	朝鮮郵船株式會社
白營	白營	仁川舊島線		六	仁川合資會社秋田商會
同	同	仁川大湖芝線		六	同
同	同	仁川仙偉線	漢津、富里浦	二同	同
朝鮮總督府命令	朝鮮總督府命令	仁川海州線	江華島、喬桐島	隔日航	朝鮮郵船株式會社
白營	同	同		隔日航	同

自營	仁川、海州線	江華島、喬桐島	隔日航	仁川 含資會社、秋山商會
同	仁川、江華島線		日航	仁川、久保田房次郎
朝鮮總督府命令	仁川、鎮南浦線	海州、龍湖島、瓮津、湖浦、九味 浦、德洞、夢金浦 小青島、臨時寄港	四	朝鮮郵船株式會社
同	鎮南浦、咸寧線	外岩浦、東倉河口、石海、丹 踰、蔚易浦、海昌	一八	鎮南浦汽船合資會社
同	鎮南浦、金山浦線	猪島、今卜、廣梁灣	同	同
自營	鎮南浦、猪島線		一日二回	鎮南浦、岩本直太郎
同	鎮南浦、城山見浦線	今卜	同	鎮南浦汽船合資會社
同	同		同	鎮南浦、李基俊
同	新義州、安東縣線		一日數回	新義州 朝鮮運送株式會社
遞信省命令	神戶、浦羅斯德線	釜山、元山、 清津	年一六	日本郵船株式會社

四七八

陸軍省特種命令	大阪、清津線	釜山、元山、四 津、新浦、城	年一八	大阪商船株式會社
同	同	同	年八	川崎船船部
自營	同	往航 釜山、元山、 復航 元山、釜山、 山、城津	月二	大阪商船株式會社
同	門司、雄基線	釜山、元山、四 湖津、前津、新 浦、新島、湖 端川、大津、明 津、獨	月三	朝鮮郵船株式會社
官營	關釜連絡線		一日二	鐵道院
福岡市命令	博多、釜山線		月六	對馬運輸株式會社
遞信省寄港命令	大阪、仁川線	釜山(命令ニ アラス) 水浦、群山	月四	大阪商船株式會社

四七九

第十九章 交通

第四 朝鮮總督府命令航路
第十九章 交通

遞信省 命令	遞信省 命令	遞信省 命令	遞信省 命令	遞信省 命令
橫濱 北清(牛)	仁川大連線	芝罘仁川線	大連安東縣線	關東都督府命令
往航仁川				
往航名古屋				
年三二				
日本郵船株式會社				

命長崎縣	遞信省 命令	同	白營
長崎大連線	大阪安東縣線	同	大阪仁川線
山津丸 群島 復航	仁川(命令) 鎮南浦	釜山、木浦、 群島	釜山、馬山(往 航ノミ) 木浦、群島
第一線 復航	神戶、門司	神戶、門司	神戶、門司
月四	鎮南浦 安東縣 一八	月八	月四
同	大阪商船株式會社	八尾ヶ崎汽船部	大阪商船株式會社

舊韓國政府ヨリ繼承シタル沿岸航路補助ハ總テ前年度限り滿了シタルヲ以テ之ヲ統一改善シ沿岸河川ノ二種ニ別テ經營セシムルコトトシ四十五年三月二十八日ヲ以テ沿岸航路ニ對シテハ朝鮮郵船株式會社ニ、大同江航路ニ對シテハ鎮南浦汽船會社ニ、錦江航路ニ對シテハ忠清南道江景在佳松永定次郎ニ各三箇年ノ繼續事業トシテ之ヲ命令シタルニ執レモ四月一日ヨリ之ヲ營業ヲ開始シタリ而シテ開始當初ニ於テハ諸般ノ用意未タ整ハス動モスレハ所期ニ副ハサリシ事實ナキニシモアラサリシカ今ヤ配船其ノ他ノ準備著著整頓シ運輸交通上多大ノ效果ヲ收メツツアリ今其ノ業務成績ヲ舉クレハ左ノ如シ

命令航路業務成績 (自明治四十五年四月至大正元年九月)

受 名 者	使用船數	航海度數	延總噸數	延航海數	搭載貨物	乗客人員
朝鮮郵船株式會社	二九	六五六	二八二八五	二〇六〇三	九〇、八八〇	九六、九二八
鎮南浦汽船會社	三	二二〇	七、三三五	一六三〇四	三、一三七	三、四二〇

松 永 定 次 郎	船數	航海度數	延總噸數	延航海數	搭載貨物	乗客人員
計	三三	一三〇	一、五五七	七三七八	二八一	一、五五九
		九九六	一、二七〇七	三、九七一四	九〇、四二九八	一〇一、九〇七

備考 朝鮮郵船株式會社ニ在リテハ命令船十六艘ノ外一時ノ補充船ヲ使用シタルヲ以テ使用船數中ニハ該補充船(使用船ノ故障ニ依ル一時ノ代船ヲ除ク)十三艘ヲモ合算計上ス

第五 水路嚮導
政府施設ニ係ル鴨綠江水路嚮導成績左ノ如シ
鴨綠江水路嚮導成績 (自明治四十四年十一月至大正元年十月)

出 入 別	日 本		支 那		英 國		計	
	船數	總噸數	船數	總噸數	船數	總噸數	船數	總噸數
出	五五	六〇、三三七	三	一、五〇〇	一一	二〇、四九三	七〇	八二、三三〇
入	五四	五三、九〇〇	三	一、五〇〇	一一	二四、三三七	六七	七八、一三七
合 計	一一〇	一一四、二三七	六	三、〇〇〇	二二	四四、七三〇	一三七	一六〇、三六七

五 航路標識



朝鮮ニ於ケル航路標識ハ第一期計畫及第二期計畫ニ別チ去ル明治三十九年以降繼續事業トシテ漸次建設シタリ今最近現在ノ航路標識ヲ舉クレハ左ノ如シ

朝鮮沿岸航路標識

(大正元年十月末現在)

名	四海岸	南海岸	東海岸	計
燈	二五	一〇	一〇	四五
燈	一	一	一	三
導	一	一	一	三
導	一	一	一	三
立	一	一	一	三
立	一	一	一	三
浮	一	一	一	三
浮	一	一	一	三
標	一	一	一	三
標	一	一	一	三
標	一	一	一	三
標	一	一	一	三
水	二二	三	二	二七
量	二	一	一	四
計	二二	三	二	二七

六江連

霧	計	砲	鐘	筒
霧	一五	二	二	六
計	三〇	一	三	四
砲	三	一	一	五
鐘	二	一	一	四
筒	二	一	一	四
計	二	二	五	五

所謂五大江ト稱セラルル漢江、洛東江、大同江、豆滿江、鴨綠江ハ孰モ舟楫ノ便ヲ有セサル無ク其ノ他錦江、臨津江亦交通ニ便セサル無シ然レトモ朝鮮人ハ從來造船ノ術ニ拙劣ニシテ構造粗笨加フルニ鐵釘ヲ用ヒサルヲ以テ頗ル脆弱ヲ免レス殊ニ操縱遲鈍ニシテ水運ヲ利スルノ技ニ長セザリシカハ江河ノ便モ空シク天成ニ放棄シテ有爲的ニ利用セラレタルコト歎ク漸ク小舟筏ニ據リテ運輸ニ資セラレタルニ過キザリキ左ニ主要ナル江河ノ概況ヲ述フヘシ

- 一 漢江 黄海ニ注ク一大河ナリ源チ江原咸鏡兩道ノ境ナル鐵嶺ニ發スル北江及江原、忠北兩道ノ境上小白山脈ニ發スル南江ハ河口ヲ去ル三十里ナル高安附近ニ於テ相合シ一大江流ヲ成シ河口ニ到

第十九章 交通

リテ又臨津江、禮成江ト相合ス流勢概ニ緩慢ニシテ水深ク且流シ流域各地ニ形勝ノ地多ク又都邑少カラス瀋陽ヨリ龍山ニ到ル十七里ノ間克ク小蒸汽船ヲ航行スヘシ龍山ヨリ上流南江ノ沿岸北倉ニ至ル三十八里ノ間五六十石ノ河舟ヲ通スヘク北倉ヨリ上流水春ニ到ル十六里ノ間及南北兩江ノ合流點ヨリ北江ノ上流春川ニ到ル間ハ尙小舟ヲ溯航セシムヘシ沿岸ノ都邑狼川、春川、高安(以上北江)永春、丹陽、北倉、白岩、驪州(以上南江)、遼島、龍山、麻浦、楊花津等ハ貨物ノ運搬頗繁ナリ殊ニ龍山ハ京城ニ近ク四方約一里ノ地ニ在リ古來雞林八道貢米ノ集散地トシテ知ラレ漢江上流ノ木材ノ舟筏ニヨリテ陸揚セラルルモノ毎年少數萬圓ニ及ヘリ冬時結氷期ニ際シテハ江流梗塞シテ舟筏ヲ遣ルニ由ナク氷河途ヲナシ人馬ノ往來スルヲ見ル

二 臨津江 河口ニ於テ漢江ト合シテ黃海ニ注ク江流大ナラサルガ故ニ水運ノ利少ナキモ湖沙ヲ利川セハ克ク十四五里ヲ溯航シ得ヘシ沿岸都邑ノ主ナルモノヲ汶山浦(河口ヨリ八里ノ上流ニ在リ)高浪津、砂浪里、朔寧、伊川等トス就中汶山浦ハ京畿道北部ニ於ケル著名ノ貨物集散地ニシテ高浪津ハ大豆ノ産出ヲ以テ名アリ

- 三 錦江 亦黃海ニ注ク大河ニシテ源ヲ全羅、慶尙兩道ノ境ナル六十嶺ニ發シ流域七十里ニ及フ河口群山浦附近ハ幅員十二町餘ヲ有シ數百噸ノ汽船ヲ碇泊セシムヘシ群山ヨリ上流江景ニ到ル十里間ハ小蒸汽船ヲ航行セシムヘク江景ヨリ茨江ニ到ル約十八里間ハ克ク小舟ヲ通セシムヘシ沿岸都邑ニ富ミ貨物ヲ吞吐スル所多シ就中主ナルモノヲ茨江、公州、龜岩、江景、群山等トナス殊ニ江城ノ兩岸ハ沃野相連リ米、大豆、麥、棉花等農産物ニ富ムヲ以テ舟楫ノ往來頗繁ナリ
- 四 洛東江 半島ノ南岸朝鮮海峽ニ注ク朝鮮唯一ノ大江ニシテ源ヲ太白山脈ニ發シ有直嶺、蔚時嶺等ヨリ發スル諸水ヲ集メ安東郡ニ出テ大邱ノ西ヲ走リ三浪津ヲ經テ河口數脈ニ岐レ釜山ニ近ク多太浦ノ西ニ注ク流域百十里江口ヨリ洛東津ニ到ル六十里ノ間ハ舟楫ノ便アリテ數十石ノ帆船ヲ通スヘク尙順潮ニ際シテハ上流安東ニ到ル途小舟ヲ溯航セシムヘシ本江ハ所謂大邱ノ平原ヲ貫流シ灌漑ノ便アルニ加ヘテ江岸各所ニ貨物ノ集散ニ適セル都邑多キヲ以テ釜山ヨリスル物貨ノ吞吐頗繁ナリ都邑ノ主ナルモノヲ安東、尙州、倭館、星州、密陽、洛東、三浪浦、龜浦、金海等トス
- 五 大同江 西海岸ノ黃海ニ注ク大江ニシテ源ヲ平安、咸鏡ノ境ナル狼林山脈ニ發シ所謂妙香山脈



ノ南麓ヲ西南ニ流レ陽徳山ノ二支流ヲ合セ平壤、兼二浦等ヲ經テ鐵島ニ到リ更ニ載寧江ト合シテ一大流域ヲ成シ幅員著シク湖大ト爲リ約四町ニ及ヒ是ヨリ西流シテ鎮南浦ニ滑リ流隱洞ニ到リテ河幅一里餘ノ大江ト爲ル鐵島附近ニ在リテハ水深約二十尋ニ達シ億ニ數千噸ノ汽船ヲ碇泊セシムヘク鐵島ノ上流平壤ヲ下ルコト約二里半萬景岱附近ニ到ル間ハ水深四尋乃至六尋ニ及ヒ亦數百噸ノ汽船ヲ航行セシムヘシ萬景岱、平壤間ニハ三箇所ノ淺瀬アルヲ以テ高潮ノ時ト雖吃水五尺ノ船船ハ航行セ難ク荷客ハ之ヲ小艇ニ移シテ平壤ニ送ルヘシ而シテ其ノ河口鎮南浦附近ハ幅員水深共ニ増加シ滲漉トシテ海洋ヲ望ムカ如ク數千噸ノ大船巨船ハ鎮南浦ノ埠頭ヲ去ルコト僅ニ三十米突入所ニ碇泊シ得ヘシ

大同江下流ニ於ケル潮流干満ノ差ハ二十八呎ニシテ平壤ニ到リテハ約十尺ニ減スト雖潮流ノ速力ハ常ニ四節半ノ勢ヲ以テ干満ニ應シ上下スルヲ以テ帆船ノ如キモ其ノ風位ニ拘ハラス潮流ヲ利用シテ滿潮ニ上リ干潮ニ下ル故ニ舟楫ノ便甚タ可ナリ殊ニ本江ハ半島有數ノ農産地タル平壤及載寧ノ大沃野ニ連ナリ沿岸ニハ平壤、鐵島、鎮南浦、流隱洞、ノ如キ商業地アルヲ以テ運搬交通ニ資スル所大ナリ

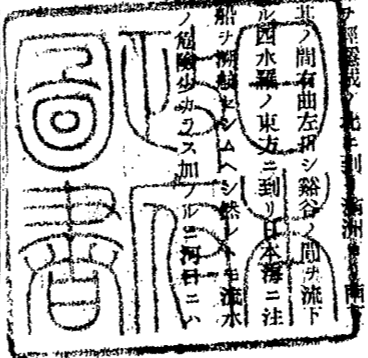
又上流一帯ノ地ヨリ後ニ依リ伐材ノ平壤ニ下ルモノ夥カラズ然レトモ本江上流ハ冬期約三箇月(十二月、一月、二月)ノ間結氷シ鐵島ヨリ下流ナル三角江ハ幸ニ結氷セサルモ流水ノ爲舟楫杜絶スルニ至ル六、鴨綠江、朝鮮五大江中ノ最大江ニシテ清鮮ノ國境ヲ劃スルモノナリ源ヲ白頭山ノ西麓ニ發シ成鏡南道ノ惠山鎮ニ於テ南方ヨリ來ル肅川江ヲ合セ白頭山脈ノ諸谿谷ヨリ發スル數多ノ小流ヲ集メテ西北流シ楚山ニ到リテ滿洲ヨリ南下スル珣河ト合シ更ニ義州ノ上流ニ於テ滿洲ノ雲河ヲ容レ河流ハ九里島、於赤島、騎同島、中江臺等ノ沙洲ニ依リテ三分シ下リテ沙河鎮ニ至リ三江再ヒ合シテ一江ト成リ更ニ威化島ヲ堆成シテ湖大ナル三角江ヲ爲シ黃海ニ入ル其ノ流域百四十里ニ及フト雖河床ノ傾斜急ニシテ岩礁多ク激流奔湍ノ箇所少カラサルヲ以テ航運河トシテ價値ハ大ナラズ河川龍岩浦ニ於テハ大船巨船自由ニ碇泊スルコトヲ得レトモ河口ヲ溯ルコト十五哩ナル安東縣ニ到リテハ漸クニシテ淺吃水ノ小蒸汽船ヲ通スルニ足ルノミ唯「シヤンク」ハ辛ウシテ河口ヲ去ル百餘哩ノ帽兒山附近ニ航行シ得ヘシ故ニ沿岸一帯ノ地ニハ貨物ノ集散地少カラズト雖南港トシテ數フルニ足ルモノ唯安東縣及龍岩浦アルノミ然レトモ江ノ上流ニハ有名ナル鴨綠江ノ大森林アリテ巨樹大木鬱生シ其



ノ富源無盡蔵ト稱セラレ近年其ノ伐材ノ復ニヨリ流下セラルルモノ年々數百萬ニ及リ清國人カ鴨綠江流域ノ富源ニ著目シタルハ僅ニ三十餘年以前ノコトニシテ其ノ富源開發ト共ニ新ニ勃興シタルモノ安東縣、大東滿等トス其ノ沿岸ニハ、シヤンク、龍巖、材復連互ス

七 豆滿江 東岸日本海ニ注ク大河ナリ源ヲ白頭山ノ東南麓ニ發シ白頭、江南、妙香ノ諸山脈ヨリ發スル諸流ヲ合セ茂山郡ニ到リテ稍大流ト成リ會寧、鐘城ノ諸郡ヲ經テ北東、南滿洲ニ注グ其ノ間有曲左折シ餘谷ノ風流下セル布爾哈圖河ト合シ更ニ慶源ニ於テ耶春河ト會シ水景益増大シ其ノ間有曲左折シ餘谷ノ風流下ス下流ハ露領ト境界ヲ爲シ遼山灣ト露領ガトシエツト灣トノ間ニル西水羅ノ東方ニ到リ日本海ニ注ク流域全長九十里ニ互リ河口ヨリ慶源ニ到ルノ間ハ百噸内外ノ汽船ヲ航スルモノトシ然レモ流水トニ急奔ニシテ降雨ニ際シテハ河水氾濫シ濁流沿岸ヲ覆ヒ舟楫ノ危險少カラス加フルニ河村ニハ土砂ノ堆積シテ洲ヲ爲ス所多キヲ以テ航行ノ便宜シカラス

版五第 最近朝鮮事情要覽 終



大正二年三月二十六日印刷

大正二年三月三十日發行

朝鮮總督府編纂

朝鮮總督官房總務局印刷所印刷

情要覽



